

Syllabus シラバス

2016
(平成28年度)

**Nagasaki
University
School
of
Dentistry**

長崎大学歯学部

歯学部の授業内容は歯科大学学長・歯学部長会議で定めた「歯科医学教授要綱」にそって行われており、さらに授業方法は担当教員一人ひとりの創意、工夫に委ねられている。したがって、それぞれの科目の授業の特色を知って出席することが、授業をより多いものにするのに欠かせない。

「シラバス」syllabus（授業計画書）とは、学生諸君が初めて出会う授業に戸惑わないよう、その内容や方法をあらかじめ伝え、一方通行ではない、大学らしい授業を行うために各担当者により執筆されたガイドブックである。

ここに盛り込まれているのは、授業の概要及び位置づけ、授業の到達目標、授業の方法、教科書と参考書、成績評価の方法、注意事項、それに順を追った授業計画である。「シラバス」に目を通すことによって、担当教員がこの授業によって何を伝えようとしているのか、どういう進め方をするのか、学生に何を準備して授業に参加してほしいと期待しているかがわかるはずである。授業を受ける前に熟読すれば、効果的な予習の役に立ち、また復習や試験勉強の格好のガイドにもなる。教員の要求する準備をして授業に臨めば、共通のベースに立脚した質疑応答が活発に行われ、双方向的な授業の展開が可能になるだろう。

さらに、全学的な授業評価アンケートも実施しているので、学生側からの意思表示もより明確にできると考える。

なお、臨床実習を開始するに十分な知識の有無を問う共用試験（CBT・OSCE）は、教育ガイドラインである歯学教育モデル・コア・カリキュラムに対応し実施されている。

臨床実習に関しては、別に用意した詳細な「臨床開始前実習の手引」及び「臨床実習の手引」が「シラバス」に相当するので、本冊子には含まれていない。

授業を受けるにあたって、該当科目の「シラバス」を十分に活用し、下記の歯学部の理念を念頭に、教育目標を達成してほしい。

歯学部の理念

基本的教養と幅広い歯科口腔医学専門知識を習得し、今後の歯科口腔医学、歯科口腔医療を切り拓く国民の目線に立った歯科医師及び研究者を養成する。

歯学部の教育目標

- (1) 責任感、社会性を持ち、歯科医師としての倫理観と豊かな人間性を身につけている。
- (2) コミュニケーション能力と協調性を身につけている。
- (3) 生命科学へのリサーチマインドを身につけている。
- (4) 離島等の地域歯科医療について、保健・医療・福祉の側面から総合的に考えることができる。
- (5) 先進的な歯科口腔医療に対応できる幅広い知識と基本的技能を身につけている。

アクセシビリティ

長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、各授業の担当教員または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談ください。

アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先

(TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp

平成28年度歯学部行事予定表

— 前 期 —

学年開始	4月 1日 (金)
入学式	4月 4日 (月)
新入生学部オリエンテーション	4月 5日 (火)
授業開始 (1年)	4月11日 (月)
授業開始 (2～6年)	4月 1日 (金)
新入生合宿研修	4月 9日 (土) ～10日 (日)
臨床開始前実習 (5年)	6月 1日 (水) ～ 9月30日 (金)
C B T (5年)	6月 3日 (金)
定期試験時間割発表	7月 5日 (火)
授業終了 (1年)	7月26日 (火)
授業終了 (2～4年)	7月21日 (木)
授業終了 (5年)	7月15日 (金)
定期試験期間 (1年)	8月 1日 (月) ～2日 (火)
定期試験期間 (2～4年)	7月27日 (水) ～8月 2日 (火)
定期試験期間 (5年)	7月19日 (火) ～25日 (月)
全日本歯科学学生体育大会	7月29日 (金) ～8月11日 (木)
夏季休業 (1～4年)	8月 3日 (水) ～9月29日 (木)
夏季休業 (5年)	7月26日 (火) ～8月15日 (月) 9月 4日 (日) ～22日 (木)
追試験願提出締切 (1～4年)	8月 3日 (水)
追試験願提出締切 (5年)	7月25日 (月)
追試験時間割発表 (1～4年)	8月 5日 (金)
追試験時間割発表 (5年)	7月26日 (火)
追試験期間 (1～4年)	8月18日 (木) ～19日 (金)
追試験期間 (5年)	7月28日 (木) ～29日 (金)
再試験期間 (1年)	8月22日 (月) ～23日 (火)
再試験期間 (2～4年)	8月22日 (月) ～24日 (水)
再試験期間 (5年)	科目ごとに調整の上、実施する。
O S C E (5年)	9月 3日 (土)
前期成績発表	10月上旬の指定する日

— 後 期 —

授業開始	9月30日(金)
臨床実習(5年)	10月 3日(月)～翌年度9月末
卒業試験(本試験)	10月13日(木)、14日(金)
解剖体慰霊祭	11月 9日(水)
卒業試験(再試験)	11月10日(木)、11日(金)
歯学部祭	11月19日(土)～20日(日)
冬季休業(1年)	12月28日(水)～1月 3日(火)
冬季休業(2～4年)	12月29日(木)～1月 3日(火)
定期試験時間割発表	1月19日(木)
授業終了(1年)	1月24日(火)
授業終了(2～4年)	1月27日(金)
定期試験期間(1年)	1月30日(月)～31日(火)
定期試験期間(2～4年)	2月 1日(水)～7日(火)
追試験願提出締切(1年)	2月 1日(水)
追試験願提出締切(2～4年)	2月 8日(水)
追試験時間割発表(1年)	2月 2日(木)
追試験時間割発表(2～4年)	2月 9日(水)
追試験期間(1年)	2月 6日(月)～7日(火)
追試験期間(2～4年)	2月13日(月)～14日(火)
再試験期間(1年)	2月13日(月)～14日(火)
再試験期間(2～4年)	2月17日(金)～21日(火)
卒業式	3月24日(金)
学年終了	3月31日(木)
後期成績発表	翌年度4月上旬の指定する日

平成28年度歯学部カレンダー(1年次)

前期: 4月11日(月)～8月2日(火)

	日	月	火	水	木	金	土
28年 4月						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
5月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31	1	2	3	4
6月	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	1	2
7月	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
8月	31	1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
9月	28	29	30	31	1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	1
回数	-	15	15				-

後期: 10月3日(月)～1月31日(火)

	日	月	火	水	木	金	土
9月	25	26	27	28	29	30	1
10月	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
11月	30	31	1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	1	2	3
12月	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31
29年 1月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	月24	25	26	27	28
	29	30	31	1	2	3	4
2月	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	1	2	3	4
3月	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	1
回数		14	16				

注: 1月24日(火)は月曜日の15回目の授業とする。

	授業日
	定期試験日
	追試験日
	再試験日
	入学式、教養教育オリエンテーション
	学部オリエンテーション
	新入生合宿研修

注: 1年次授業は月～火曜日が専門教育、水～金曜日は教養教育である。
1年次の授業開始は専門教育の授業開始日の4月11日(月)から。

平成28年度歯学部カレンダー(2~4年次)

前期:4月1日(金)~8月2日(火)

	日	月	火	水	木	金	土
28年 4月						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
5月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31	1	2	3	4
6月	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	1	2
7月	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
8月	31	1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31	1	2	3
9月	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	後期30	1
回数	-	15	15	15	15	15	-

後期:9月30日(金)~2月7日(火)

	日	月	火	水	木	金	土
9月	25	26	27	28	29	30	1
10月	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31	1	2	3	4	5
11月	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	1	2	3
	12月	4	5	6	7	8	9
11		12	13	14	15	16	17
18		19	20	21	22	23	24
25		26	27	28	29	30	31
29年 1月		1	2	3	4	5	6
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	月24	木25	26	27	28
	29	30	31	1	2	3	4
2月	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	1	2	3	4
	3月	5	6	7	8	9	10
12		13	14	15	16	17	18
19		20	21	22	23	24	25
26		27	28	29	30	31	1
回数			14	16	16	14	15

注:9月30日(金)は後期の授業開始日

注:1月24日(火)は月曜日の15回目の授業とする。

注:1月25日(水)は木曜日の14回目の授業とする。



授業日



補講日(補講を実施しない場合は定期試験日として利用可能)



定期試験日



追試験日



再試験日



付き数字

休業日等(1/19 AO入試準備、1/20 AO入試当日)







平成28年度歯学部カレンダー(5年次)

前期:4月1日(金)~9月29日(木)

	日	月	火	水	木	金	土
28年 4月						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
5月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31	1	2	3	4
6月	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	1	2
7月	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
8月	31	1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
9月	28	29	30	31	1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	後期30	1

後期:9月30日(金)~3月31日(木)

	日	月	火	水	木	金	土
9月	25	26	27	28	29	30	1
10月	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31	1	2	3	4	5
11月	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
12月	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31
	1	2	3	4	5	6	7
29年 1月	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31	1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
2月	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
3月	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	1

-  授業日
-  定期試験日
-  追試験日
-  CBT試験日(前日の6月2日(木)午後はCBT体験テスト)
-  CBT再試験日
-  OSCE試験日

※ 再試験については科目ごとに調整の上、実施する。

(平成28年度)歯学部授業時間割
(前期)

曜日	校時 年次	I	II	III	IV	V			
		8:50	10:20	10:30	12:00	13:00	14:30	14:40	16:10
月	1	歯学展望(講2)	細胞生物学入門 I (講2)	骨学及び同実習(歯解実・医2講・医1実)		初年次セミナー(文教・坂本)			
	2	教養教育		教養教育(全学モジュールⅡ)		教養教育			
	3	口腔解剖学及び同実習(歯解実)	微生物学(講6A)	薬理学及び同実習(講6A・実5C)					
	4	歯科矯正学及び同実習(講1・臨4B)		予防歯科学及び同実習(講1・臨4B)					
	5	統合科目(講6B)							
	6	臨床実習					基礎歯学輪講(講6A)		
火	1	学内・学外早期体験実習(講2)		細胞生物学プラクシス(講2)		初年次セミナー(文教・坂本)			
	2	教養教育		教養教育(全学モジュールⅡ)		教養教育			
	3	薬理学及び同実習(講6A・実5C)	微生物学(講6A)／ 病理学総論及び同実習(講6A・実5B)	病理学総論及び同実習(講6A・実5B)					
	4	歯科矯正学及び同実習(講1)	保存修復学(講1)	保存修復学実習(臨4B)					
	5	統合科目(講6B)					歯学研究		
	6	臨床実習					臨床歯学セミナー(講2)		
水	1	教養教育							
	2	生理学(講2)		歯科学のための物理科学(講2)					
	3		歯科理工学Ⅲ(講6A)	口腔組織学及び同実習(講6A・実5B)					
	4	歯周病学(講1)		歯周病学実習(臨4B)		基礎歯学研究			
	5	統合科目(講6B)							
	6	臨床実習					基礎歯学輪講(講6A)／ 歯学研究		
木	1	教養教育							
	2			生化学実験(実5A)					
	3	内科学総論(講1)	歯科東洋医学(講1)／Scientific and Practical English(講1)						
	4		冠橋義歯学及び同実習(講6A・臨4B)						
	5	統合科目(講6B)							
	6	臨床実習					基礎歯学輪講/歯科医療管 理学(講6A)		
金	1	教養教育							
	2	生化学(講2)		生理学実験(実5C)					
	3	外科学総論(講1)	コミュニティー教育・実習(講1)／ 教養・Advanced English I (講1)	教養・Advanced English I (講1)／ コミュニティー教育・実習(講1)	基礎歯学研究概論(講2)／基礎歯学研究				
	4	歯科麻酔学及び同実習(講6A)		有床義歯補綴学及び同実習(講6A・臨4B)					
	5	統合科目(講6B)							
	6	臨床実習					基礎歯学輪講/歯科医療管 理学(講6A)		

※ 教室名と略語の対応は以下のとおり。

講1・・・第1講義室(C棟7階)
講2・・・第2講義室(C棟6階)
講6A・・・講義室6A(C棟6階)
講6B・・・講義室6B(C棟6階)

実5A・・・実習室5A(C棟5階)
実5B・・・実習室5B(C棟5階)
実5C・・・実習室5C(C棟5階)
歯解実・・・歯学部解剖実習室(A棟7階)

臨4B・・・臨床実習室4B(C棟4階)
医2講・・・医学部第2講義室
医1実・・・医学部第1実習室

(平成28年度)歯学部授業時間割
(後期)

曜日	校時 年次	I	II	III	IV	V			
		8:50	10:20	10:30	12:00	13:00	14:30	14:40	16:10
月	1	細胞生物学入門Ⅱ(講2)	歯学展望(講2)						
	2	教養教育		教養教育(全学モジュールⅡ)		教養教育			
	3	内科学各論(講1)	微生物学・口腔微生物学(講1)	外科学各論(講1)	隣接医学Ⅱ・Ⅲ(講1)	Scientific and Practical English(講1)			
	4	統合科目<臨床解剖学>(講6A・歯解実・医解実)		歯内治療学実習(臨4B)					
	5	臨床実習							
	6	臨床実習							
火	1	学内・学外早期体験実習(講1)							
	2	教養教育		教養教育(全学モジュールⅡ)		教養教育			
	3	医学統計学(講6A)	口腔病理学及び同実習(講6A・実5B)						
	4	歯科放射線学及び同実習(講2)		口腔外科学Ⅰ及び同実習(講2・臨4B)		実践臨床歯科英会話(講2)			
	5	臨床実習				臨床歯学セミナー(講6A)			
	6	臨床実習							
水	1	教養教育							
	2	解剖学及び同実習(講6A・歯解実・医解実)							
	3	隣接医学Ⅰ(講1)	口腔生化学(講1)	歯科理工学実験(講1・実5C)／隣接医学Ⅱ(講1)					
	4	歯内治療学(講2)	小児歯科学及び同実習(講2・臨4B)			臨床歯学研究概論(講2)			
	5	臨床実習				歯学研究			
	6	臨床実習							
木	1	教養教育(全学モジュールⅠ)		教養教育					
	2	発生学(講6A)	解剖学及び同実習(講6A・歯解実・医解実)						
	3	隣接医学Ⅱ・Ⅲ(講1)	口腔微生物学実習(講1・実5A)／衛生学及び同実習(講1・実5A)		隣接医学Ⅰ(講1)				
	4	統合科目<齶蝕・歯周病学>(講2)		冠橋義歯学及び同実習(講2・臨4B)					
	5	臨床実習							
	6	臨床実習							
金	1	教養教育(全学モジュールⅠ)		教養教育					
	2	歯科理工学Ⅰ／歯科理工学Ⅱ(講1)		組織学及び同実習(講1・実5B)					
	3	歯科薬理学(講6A)	口腔生理学(講6A)	教養・Advanced EnglishⅡ(講6A)	基礎歯学研究				
	4	口腔外科学Ⅱ及び同実習(講2・臨4B)		有床義歯補綴学及び同実習(講2・臨4B)		基礎歯学研究			
	5	臨床実習		臨床実習／医哲学・医療倫理(医講4)					
	6	臨床実習							

※ 教室名と略語の対応は以下のとおり。

講1・・・第1講義室(C棟7階)
講2・・・第2講義室(C棟6階)
講6A・・・講義室6A(C棟6階)
講6B・・・講義室6B(C棟6階)

実5A・・・実習室5A(C棟5階)
実5B・・・実習室5B(C棟5階)
実5C・・・実習室5C(C棟5階)
歯解実・・・歯学部解剖実習室(A棟7階)

臨4B・・・臨床実習室4B(C棟4階)
医解実・・・医学部解剖実習室
医講4・・・医学部第4講義室(病院2階)

平成28年度歯学部

前期:4月1日(金)~7月15日(金)

	月							火											
	日	月	火	水	木	金	土	日	I	II	III	IV	V						
4月						1	2	春季休業							春季休業				
	3	4	5	6	7	8	9	4	統合科目オリエンテーション②					5	臨器薬1 (講6B)	臨器薬2 (講6B)	高齢者1 (講6B)	高齢者2 (講6B)	
	10	11	12	13	14	15	16	11	硬PBLシナリオ1	自習	レポート作成	12	臨器薬3 (講6B)	臨器薬4 (講6B)	顔面疼痛1 (講6B)	接着1 (講6B)			
	17	18	19	20	21	22	23	18	硬PBLシナリオ1	硬PBLシナリオ2	レポート作成	19	高齢者5 (講6B)	高齢者6 (講6B)	学生健康診断				
	24	25	26	27	28	29	30	25	硬PBLシナリオ2	自習	レポート作成	まとめ評価	26	接着3 (講6B)	接着4 (講6B)	接着5 (講6B)	接着6 (講6B)		
5月	1	2	3	4	5	6	7	2	硬1 (講6B)	硬2 (講6B)	硬3 (講6B)	硬4 (講6B)	睡眠1 (講6B)	3	祝祭日				
	8	9	10	11	12	13	14	9	接着7 (臨4B)	接着8 (臨4B)	成育1 (講6B)			10	感染・免疫PBL ケース1	自習	自習		
	15	16	17	18	19	20	21	16	臨検PBLケース1	自習	自習	自習	17	感染・免疫 PBLケース1 セッション	感染・免疫 自己相互 評価	感染・ 免疫1 (講6B)	感染・ 免疫2 (講6B)		
	22	23	24	25	26	27	28	23	離島2 (講6B)	接着PBLケース1	自習	自習	24	臨器薬5 (講6B)	成育2 (講6B)	高齢者 11 (講6B)	成育3 (講6B)		
	29	30	31	1	2	3	4	30	臨検PBL ケース1 セッション	臨検自己 相互評価	インプ1 (講6B)	インプ2 (講6B)	インプ3 (講6B)	31	臨器薬7 (講6B)	感染・ 免疫3 (講6B)	感染・ 免疫4 (講6B)	インプ4 (講6B)	
6月	5	6	7	8	9	10	11	6	インプ5 (講6B)	インプ6 (講6B)	開始前実習第1期	睡眠6 (講6B)	7	臨器薬8 (講6B)	感染・ 免疫5 (講6B)	開始前実習第1期			
	12	13	14	15	16	17	18	13	インプ8 (講6B)	インプ9 (講6B)	開始前実習第1期	インプ10 (講6B)	14	臨器薬9 (講6B)	感染・ 免疫6 (講6B)	開始前実習第1期			
	19	20	21	22	23	24	25	20	高齢者13 (講6B)	臨器薬10 (講6B)	開始前実習第1期	インプ11 (講6B)	21	インプ12 (臨4B)	感染・ 免疫7 (講6B)	開始前実習第1期			
	26	27	28	29	30	1	2	27	臨器薬11 (講6B)	臨器薬12 (講6B)	開始前実習第1期	高齢者14 (講6B)	28	インプ13 (臨4B)	インプ14 (臨4B)	開始前実習第1期			
7月	3	4	5	6	7	8	9	4	臨器薬13 (講6B)	臨器薬14 (講6B)	開始前実習第1期		5	インプ15 (臨4B)	インプ16 (臨4B)	開始前実習第1期			
	10	11	12	13	14	15	16	11	臨器薬15 (講6B)	臨器薬16 (講6B)	開始前実習第1期		12	臨器薬17 (講6B)	感染・ 免疫8 (講6B)	感染・ 免疫9 (講6B)			
	17	18	19	20	21	22	23	18	祝祭日					19	定期試験日				
	24	25	26	27	28	29	30	25	定期試験日					26	夏季休業				
8月	31	1	2	3	4	5	6	1	夏季休業					2	夏季休業				
	7	8	9	10	11	12	13	8	夏季休業					9	夏季休業				
	14	15	16	17	18	19	20	15	夏季休業					16	開始前実習第2期				
	21	22	23	24	25	26	27	22	開始前実習第2期					23	開始前実習第2期				
	28	29	30	31	1	2	3	29	開始前実習第2期					30	開始前実習第2期				
9月	4	5	6	7	8	9	10	5	夏季休業					6	夏季休業				
	11	12	13	14	15	16	17	12	夏季休業					13	夏季休業				
	18	19	20	21	22	23	24	19	祝祭日					20	夏季休業				
	25	26	27	28	29	30		26	開始前実習第3期					27	開始前実習第3期				

統合科目略語

- 1 臨床歯科器材・薬剤学(臨器薬)
- 2 接着歯学(接着)
- 3 顎口腔機能・解析学(顎口腔)
- 4 口腔腫瘍学(腫瘍)
- 5 口腔感染症及び免疫学(感染・免疫)
- 6 硬組織科学(硬)
- 7 成育歯学(成育)
- 8 臨床薬理学(臨薬)
- 9 口腔顔面疼痛学(顔面疼痛)
- 10 臨床検査学(臨検)

統合科目時間割(5年次)前期

水					木					金					土				
日	I	II	III	IV	V	日	I	II	III	IV	V	日	I	II	III	IV	V	土	
春季休業					春季休業					1	統合科目オリエンテーション①								
6	臨床PBLケース1	自習	自習	自習		7	高齢者3(講6B)	高齢者4(講6B)	摂食嚥下1(講6B)	摂食嚥下2(講6B)	摂食嚥下3(講6B)	8	臨床PBLケース1セッション	臨床自己相互評価	臨床1(講6B)				
13	成育PBLケース1	自習	自習	自習		14	腫瘍PBLケース1	自習	自習	自習		15	学生健康診断			顔面疼痛2(講6B)	接着2(講6B)		
20	睡眠PBLケース1	自習	自習	自習		21	高齢者7(講6B)	高齢者8(講6B)	東洋1(講6B)	東洋2(講6B)	摂食嚥下4(講6B)	22	睡眠PBLケース1セッション	睡眠自己相互評価	顔面疼痛3(講6B)		東洋3(講6B)		
27	成育PBLケース1セッション	成育PBLケース2	自習	自習	自習	28	腫瘍PBLケース1セッション	腫瘍PBLケース2	自習	自習	自習	29	祝祭日						
4	祝祭日					5	祝祭日					6	顔面疼痛PBLケース1	自習	自習	自習			
11	顎口腔1(講6B)	顎口腔2(講6B)	障害者1(講6B)	障害者2(講6B)	障害者3(講6B)	12	顔面疼痛4(講6B)	東洋4(講6B)	摂食嚥下5(講6B)	摂食嚥下6(講6B)	睡眠2(講6B)	13	顔面疼痛PBLケース1セッション	顔面疼痛自己相互評価	接着9(講6B)	接着10(講6B)	接着11(講6B)		
18	成育PBLケース2セッション	成育自己相互評価	自習	発表	発表	19	腫瘍PBLケース2セッション	腫瘍自己相互評価	自習	発表	発表	20	高齢者9(講6B)	高齢者10(講6B)	離島1(講6B)	東洋5(講6B)	腫瘍1(講6B)		
25	接着PBLケース1セッション	接着自己相互評価	障害者4(講6B)	障害者5(講6B)	障害者6(講6B)	26	高齢者12(講6B)	顔面疼痛5(講6B)	摂食嚥下7(講6B)	摂食嚥下8(講6B)	接着12(講6B)	27	睡眠3(講6B)	睡眠4(講6B)	臨床薬6(講6B)				
1	顎口腔3(臨4B)	顎口腔4(臨4B)	開始前実習オリエンテーション		障害者7(講6B)	2	腫瘍2(講6B)	腫瘍3(講6B)	CBT体験テスト			3	CBT本試験						
8	顎口腔5(臨4B)	顎口腔6(臨4B)	開始前実習第1期		障害者8(講6B)	9	開始前実習第1期		インプ7(講6B)	摂食嚥下9(講6B)	医療面接1(講6B)	10	睡眠5(講6B)	睡眠6(講6B)	医療面接2(講6B)	医療面接3(講6B)	離島3(講6B)		
15	顎口腔7(臨4B)	顎口腔8(臨4B)	開始前実習第1期		障害者9(講6B)	16	開始前実習第1期		東洋6(講6B)	摂食嚥下10(講6B)	医療面接4(講6B)	17	開始前実習第1期		医療面接5(講6B)	医療面接6(講6B)	離島4(講6B)		
22	開始前実習第1期		顎口腔9(臨4B)	顎口腔10(臨4B)	障害者10(講6B)	23	開始前実習第1期		東洋7(講6B)	摂食嚥下11(講6B)	腫瘍2(講6B)	24	開始前実習第1期		医療面接7(講6B)	医療面接8(講6B)	離島5(講6B)		
29	開始前実習第1期		顎口腔11(臨4B)	顎口腔12(臨4B)	障害者11(講6B)	30	開始前実習第1期		腫瘍3(講6B)	摂食嚥下12(講6B)	医療面接9(講6B)	1	開始前実習第1期		医療面接10(6教室)	医療面接11(6教室)	東洋8(講6B)		
6	開始前実習第1期		障害者12(講6B)	障害者13(講6B)	成育4(講6B)	7	開始前実習第1期		医療面接12.13(実習)		成育5(講6B)	8	開始前実習第1期		離島6(講6B)	離島7(講6B)			
13	顎口腔13(講6B)	顎口腔14(講6B)	顎口腔15(講6B)	腫瘍4(講6B)		14	腫瘍5(講6B)	摂食嚥下13(講6B)	摂食嚥下14(講6B)	摂食嚥下15(講6B)		15	開始前実習第1期		医療面接14.15(実習)		医療面接16(講6B)		
20	定期試験日					21	定期試験日					22	定期試験日						
27	夏季休業					28	追試験日					29	追試験日						
3	夏季休業					4	夏季休業					5	夏季休業						
10	夏季休業					11	夏季休業					12	夏季休業						
17	開始前実習第2期					18	開始前実習第2期					19	CBT再試験						
24	開始前実習第2期					25	開始前実習第2期					26	開始前実習第2期						
31	開始前実習第2期					1	開始前実習第2期					2	開始前実習第2期					3 OSCE	
7	夏季休業					8	夏季休業					9	夏季休業						
14	夏季休業					15	夏季休業					16	夏季休業						
21	夏季休業					22	祝祭日					23	開始前実習第3期						
28	開始前実習第3期					29	開始前実習第3期					30	開始前実習第3期						

- 11 医療面接(医療面接)
- 12 歯科臨床東洋医学(臨東医)
- 13 摂食嚥下リハビリテーション学(摂食嚥下)
- 14 口腔インプラント学(インプ)
- 15 睡眠障害と疾患(睡眠)
- 16 高齢者歯科学(高齢者)
- 17 障害者歯科学(障害者)
- 18 離島歯科医学(離島)

目 次

1. 教養教育科目/学部モジュール科目 (1年次生、2年次生)

(1) 細胞生物学プラクシス	(1年)	1
(2) 細胞生物学入門 I	(1年)	3
(3) 細胞生物学入門 II	(1年)	5
(4) 歯科学のための物理科学	(2年)	7

2. 総合科目(1年次生、3年次生)

(1) 学内・学外早期体験実習	(1年)	9
(2) 学内・学外早期体験実習	(1年)	11
(3) 歯学展望	(1年)	13
(4) コミュニティー教育・実習	(3年)	16
(5) 歯科東洋医学	(3年)	18
(6) Scientific and Practical English	(3年)	20

3. 口腔生命科学総論(1年次生、2年次生、3年次生)

(1) 骨学及び同実習	(1年)	23
(2) 解剖学及び同実習	(2年)	25
(3) 発生学	(2年)	32
(4) 組織学及び同実習	(2年)	34
(5) 生理学	(2年)	36
(6) 生理学実験	(2年)	38
(7) 生化学	(2年)	40
(8) 生化学実験	(2年)	42
(9) 歯科理工学 I	(2年)	44
(10) 歯科理工学 II	(2年)	46
(11) 歯科理工学 III	(3年)	48
(12) 病理学総論及び同実習	(3年)	50
(13) 微生物学・口腔微生物学	(3年)	53
(14) 薬理学及び同実習	(3年)	57

4. 口腔生命科学各論 I (3年次生)

(1) 口腔解剖学及び同実習	61
(2) 口腔組織学及び同実習	63
(3) 口腔生理学	65
(4) 口腔生化学	67
(5) 歯科理工学実験	69
(6) 口腔病理学及び同実習	71
(7) 口腔微生物学実習	75
(8) 歯科薬理学	77
(9) 医学統計学	79

5. 口腔生命科学各論Ⅱ(3年次生、4年次生)

(1) 衛生学及び同実習	(3年)	81
(2) 予防歯科学及び同実習	(4年)	83
(3) 歯科矯正学及び同実習	(4年)	86
(4) 小児歯科学及び同実習	(4年)	89
(5) 保存修復学	(4年)	92
(6) 保存修復学実習	(4年)	94
(7) 歯内治療学	(4年)	96
(8) 歯内治療学実習	(4年)	98
(9) 歯周病学	(4年)	100
(10) 歯周病学実習	(4年)	102
(11) 冠橋義歯学及び同実習	(4年)	104
(12) 有床義歯補綴学及び同実習	(4年)	107
(13) 口腔外科学Ⅰ及び同実習	(4年)	110
(14) 口腔外科学Ⅱ及び同実習	(4年)	112
(15) 歯科放射線学及び同実習	(4年)	114
(16) 歯科麻酔学及び同実習	(4年)	116

6. 関連臨床医学(3年次生)

(1) 内科学総論(薬学部共修)	119	
(2) 外科学総論(薬学部共修)	121	
(3) 内科学各論	内科学1	123
(薬学部共修)	内科学3	125
	血液学	127
	感染症学	129
(4) 外科学各論	外科学1	131
	外科学2	133
(5) 隣接医学Ⅰ	皮膚科学	135
(薬学部共修)	眼科学	137
	耳鼻咽喉科学	139
	整形外科学	141
	形成外科学	143
(6) 隣接医学Ⅱ	小児科学	145
(薬学部共修)	産科婦人科学	147
	泌尿器科学	149
	精神神経科学	151
	脳神経外科学	153
(7) 隣接医学Ⅲ	人類遺伝学	155
	法医学	157

7. 統合科目(4年次生、5年次生)

(1) 臨床解剖学	(4年)	159
(2) 臨床歯科器材・薬剤学	(5年)	161
(3) 齲蝕・歯周病学	(4年)	163
(4) 接着歯学	(5年)	165
(5) 顎口腔機能・解析学	(5年)	167
(6) 口腔腫瘍学	(5年)	169
(7) 口腔感染症及び免疫学	(5年)	171
(8) 硬組織科学	(5年)	173
(9) 成育歯学	(5年)	175
(10) 臨床薬理学	(5年)	177
(11) 口腔顔面疼痛学	(5年)	179
(12) 臨床検査学	(5年)	181
(13) 医療面接	(5年)	183
(14) 歯科臨床東洋医学	(5年)	185
(15) 摂食嚥下リハビリテーション学	(5年)	187
(16) 口腔インプラント学	(5年)	189
(17) 睡眠障害と疾患	(5年)	191
(18) 高齢者歯科学	(5年)	193
(19) 障害者歯科学	(5年)	195
(20) 離島歯科医学	(5年)	197

8. 特別科目(6年次生)

歯科医療管理学	199
基礎歯学輪講	201

9. 専門教養科目(4年次生)

実践臨床歯科英会話	203
-----------	-------	-----

10. 研究科目(3年次生、4年次生、5年次生、6年次生) ※ 歯学研究コース履修者対象

基礎歯学研究概論	(3年)	205
基礎歯学研究	(3・4年)	207
臨床歯学研究概論	(4年)	209
歯学研究	(5・6年)	211

教養教育科目／学部モジュール科目（1年次生、2年次生）

(1) 細胞生物学プラクシス	(1年)	1
(2) 細胞生物学入門Ⅰ	(1年)	3
(3) 細胞生物学入門Ⅱ	(1年)	5
(4) 歯科学のための物理科学	(2年)	7

年度 2016 学期 前期	曜日・校時 火・Ⅲ～Ⅳ	必修選択 必修	単位数 4
科目番号	25064404		
科目ナンバリング・コード	DNMC11011098		
授業科目名/(英語名)	細胞生物学プラクシス/(Praxis of Cell Biology)		
対象年次 1年次	講義形態 講義・発表形式	教室 第2講義室	
対象学生(クラス等)	科目分類	学部モジュール科目	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 伊藤 公成/itok@nagasaki-u.ac.jp/A棟7階707号室/095-819-7487(内7487)/12:00～13:00			
担当教員(オムニバス科目等)	真鍋義孝/manabe@、池田通/tohrupth@、西下一久/kazu@、根本孝幸/tnemoto@、内藤真理子/mnaito@、岡田幸雄/okada@、伊藤公成/itok@		
授業の概要及び位置づけ 基礎歯科医学を学ぶ上で基本となる細胞生物学について演習形式で学習し、理解を深める。			
授業到達目標 細胞の営みの概略を理解し、説明できる。			
授業方法(学習指導法) 細胞生物学に関するテーマについて、小グループで自学自習し、その結果を発表し討論する。			
授業内容 1.2回目 顎顔面解剖学:歯の系統発生学、歯の比較解剖学;講義と発表 3.4回目 口腔病理学:細胞の情報伝達、細胞分裂;発表(2回) 5.6回目 歯科薬理学:細胞内オルガネラとその機能;発表(2回) 7.8回目 口腔分子生化学:生化学に関連した時事問題、社会問題を取り上げる;発表(2回) 9.10回目 口腔病原微生物学:DNA、DNAからタンパク質へ;演習と発表 11.12回目 生体情報科学:膜の構造、膜を通した輸送;発表(2回) 13.14.15回目 分子硬組織生物学:正常細胞とがん細胞;講義(1回)と発表(2回)			
キーワード	細胞生物学、分子生物学、生化学、分子遺伝学		
教科書・教材・参考書	Essential 細胞生物学、中村桂子、松原謙一 監訳(南江堂)		
成績評価の方法・基準等	授業への積極的な参加状況、成果発表の良否及びレポートを総合的に判断し評価する。		
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセージ)	図書館を利用し、関連図書や引用文献を読み、理解を深めること。 発表や討論には積極的に参加すること。 質問等は講義終了後あるいは直接担当教員を訪ねてください。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	12	火	Ⅲ～Ⅳ	歯の系統発生学, 歯の比較解剖学／講義	真鍋義孝	第2講義室
2回	4	19	火	Ⅲ～Ⅳ	歯の系統発生学, 歯の比較解剖学／発表	真鍋義孝	第2講義室
3回	4	26	火	Ⅰ～Ⅱ	細胞の情報伝達, 細胞分裂／発表	池田通	第2講義室
4回	5	10	火	Ⅰ～Ⅱ	細胞の情報伝達, 細胞分裂／発表	池田通	第2講義室
5回	5	17	火	Ⅲ～Ⅳ	細胞内オルガネラとその機能／発表	西下一久	第2講義室
6回	5	24	火	Ⅲ～Ⅳ	細胞内オルガネラとその機能／発表	西下一久	第2講義室
7回	5	31	火	Ⅲ～Ⅳ	生化学に関連した時事問題, 社会問題を取り上げる／グループによる発表と質疑応答 課題内容と担当班はあらかじめ細胞生物学入門講義時に決定する。	根本孝幸 他	第2講義室
8回	6	7	火	Ⅲ～Ⅳ	生化学に関連した時事問題, 社会問題を取り上げる／グループによる発表と質疑応答 課題内容と担当班はあらかじめ細胞生物学入門講義時に決定する。	根本孝幸 他	第2講義室
9回	6	14	火	Ⅲ～Ⅳ	DNA, DNA からタンパク質へ／演習	内藤真理子	第2講義室
10回	6	21	火	Ⅲ～Ⅳ	DNA, DNA からタンパク質へ／発表	内藤真理子	第2講義室
11回	6	28	火	Ⅲ～Ⅳ	膜の構造および膜を通した輸送に関連した課題／発表	岡田幸雄	第2講義室
12回	7	5	火	Ⅲ～Ⅳ	膜の構造および膜を通した輸送に関連した課題／発表	岡田幸雄	第2講義室
13回	7	12	火	Ⅲ～Ⅳ	正常細胞とがん細胞／講義	伊藤公成	第2講義室
14回	7	19	火	Ⅲ～Ⅳ	正常細胞とがん細胞／発表	伊藤公成	第2講義室
15回	7	26	火	Ⅲ～Ⅳ	正常細胞とがん細胞／発表	伊藤公成	第2講義室

年度 2016 学期 前期	曜日・校時 月・II	必修選択 必修	単位数 2
科目番号	25064406		
科目ナンバリング・コード	DNMC11021098		
授業科目名/(英語名)	細胞生物学入門 I / (Essential Cell I Biology I)		
対象年次 1 年次	講義形態	講義形式	教室 第 2 講義室
対象学生(クラス等)	科目分類 学部モジュール科目		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 増山 律子/ritsuko@nagasaki-u.ac.jp/分子硬組織生物学分野/095-819-7754(内 7755)/16:30~18:30			
担当教員(オムニバス科目等)	根本孝幸/tnemoto@、根本優子/ynemoto@、増山律子/ritsuko@、内藤真理子/mnaito@、伊藤公成/itok@		
授業の概要及び位置づけ			
歯科医学を学ぶ上で基本となる細胞生物学について理解する。			
授業到達目標			
細胞の営みの概略を理解し、説明できる。			
授業方法(学習指導法)			
液晶プロジェクター及び板書を中心とし、教科書に沿って單元ごとに講義を行う。教科書を用いるので、該当する項目に関して予習をしてきてください。			
授業内容			
1.2 回目 細胞の化学成分:生命体はすべて化学と物理学の法則に従う。細胞を構成する分子の化学とそれらの相互作用の基礎を学ぶ(2 章)			
3.4 回目 エネルギー、触媒作用、生合成:生物におけるエネルギー変換に必須である酵素の触媒作用について学ぶ(3 章)			
5.6 回目 タンパク質の構造と機能:タンパク質の構造はアミノ酸配列によって決まることを理解し、個々のタンパク質の機能構造と密接に関連することを学ぶ。(4 章)			
7.8 回目 細胞とは:原核細胞と真核生物(原生生物界・菌界・植物界・動物界)の細胞、単細胞生物と多細胞生物とは何か、細胞の構成要素の概要を学ぶ。細胞生物学研究法について学ぶ。(1 章)			
9.10 回目 DNA と染色体、DNA の複製、修復、組み換え (5.6 章)			
11.12 回目 DNA からタンパク質へ (7 章)			
13.14 回目 遺伝子発現の調節機構における転写因子の重要性について学ぶ。(8 章)			
15 回目 遺伝子とゲノムの進化のしくみを学ぶ。(9 章)			
キーワード	細胞、遺伝子		
教科書・教材・参考書	Essential 細胞生物学 原書第 3 版、中村桂子、松原謙一 監訳(南江堂)		
成績評価の方法・基準等	定期試験期間中に行う筆記試験の得点により評価する。		
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセージ)	教科書に沿って進められるので、必ず予習しておくこと。また、質問等は講義終了後あるいは直接担当教員の部屋を訪ねてください。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	11	月	II	細胞の化学成分: 生命体はすべて化学と物理学の法則に従う。細胞を構成する分子の化学とそれらの相互作用の基礎を学ぶ。(2章)	根本孝幸	第2講義室
2回	4	18	月	II			第2講義室
3回	4	25	月	II	エネルギー, 触媒作用, 生合成: 生物におけるエネルギー変換に必須である酵素の触媒作用について学ぶ。(3章)	根本優子	第2講義室
4回	5	2	月	II			第2講義室
5回	5	9	月	II	タンパク質の構造と機能: タンパク質の構造はアミノ酸配列によって決まることを理解し, 個々のタンパク質の機能は構造と密接に関連することを学ぶ。(4章)	根本孝幸	第2講義室
6回	5	16	月	II			第2講義室
7回	5	23	月	II	細胞とは: 原核細胞と真核生物(原生生物界・菌界・植物界・動物界)の細胞, 単細胞生物と多細胞生物とは何か, また細胞の構成要素の概要を学ぶ。細胞生物学研究法について学ぶ。(1章)	増山律子	第2講義室
8回	5	30	月	II			第2講義室
9回	6	6	月	II	DNAと染色体, DNAの複製, 修復, 組替え: DNAと染色体の構造を理解する。またDNAの複製, 修復, 組換え機構を学ぶ。(5,6章)	内藤真理子	第2講義室
10回	6	13	月	II			第2講義室
11回	6	20	月	II	DNAからタンパク質へ: DNAからタンパク質が作られる仕組みと遺伝情報の流れを理解する。(7章)	内藤真理子	第2講義室
12回	6	27	月	II			第2講義室
13回	7	4	月	II	遺伝子発現の調節機構における転写因子の重要性について学ぶ。(8章)	伊藤公成	第2講義室
14回	7	11	月	II			第2講義室
15回	7	25	月	II	遺伝子とゲノムの進化のしくみを学ぶ。(9章)	増山律子	第2講義室

年度 2016 学期 後期	曜日・校時 月・I	必修選択 必修	単位数 2
科目番号	25064407		
科目ナンバリング・コード	DNMC11031098		
授業科目名/(英語名)	細胞生物学入門Ⅱ/(Essential Cell l Biology Ⅱ)		
対象年次 1年次	講義形態 講義形式	教室 第2講義室	
対象学生(クラス等)	科目分類	学部モジュール科目	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 増山 律子/ritsuko@nagasaki-u.ac.jp/分子硬組織生物学分野/095-819-7754(内 7755)/16:30~18:30			
担当教員(オムニバス科目等)	岡田幸雄/okada@、増山律子/ritsuko@、岡元邦彰/k-oka@、池田 通/tohrupth@、伊藤公成/itok@		
授業の概要及び位置づけ 歯科医学を学ぶ上で基本となる細胞生物学について理解する。			
授業到達目標 細胞の営みの概略を理解し、説明できる。			
授業方法(学習指導法) 液晶プロジェクター及び板書を中心とし、教科書に沿って單元ごとに講義を行う。教科書を用いるので、該当する項目に関して予習をしてきてください。			
授業内容 1.2 回目 膜の構造 (11 章) 3.4 回目 膜輸送 (12 章) 5.6 回目 細胞が食物からエネルギーを得るしくみ:生物におけるエネルギー獲得経路とは何か、またそれらは整然と制御されていることを学ぶ。(13 章) 7 回目 ミトコンドリアにおけるエネルギー生産:生物はどのようにしてエネルギー変換機構を獲得したのか。そのエネルギー獲得における膜の役割について学ぶ (14 章) 8.9 回目 細胞内区画と細胞内輸送:細胞器官の機能とそれぞれの器官にタンパク質が輸送されていくしくみを学ぶ。(15 章) 10.11 回目 細胞の情報伝達、細胞骨格 (16.17 章) 12.13 回目 細胞周期と細胞分裂 (18 章) 14.15 回目 がん化のメカニズムとがん遺伝子・がん抑制遺伝子について学ぶ。(20 章)			
キーワード	細胞、遺伝子		
教科書・教材・参考書	Essential 細胞生物学 原書第3版、中村桂子、松原謙一 監訳(南江堂)		
成績評価の方法・基準等	定期試験期間中に行う筆記試験の得点により評価する。		
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセージ)	教科書に沿って進められるので、必ず予習をしておくこと。また、質問等は講義終了後あるいは直接担当教員の部屋を訪ねてください。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	3	月	I	膜の構造: 脂質二重層, 膜タンパク質(11章)	岡田幸雄	第2講義室
2回	10	17	月	I			第2講義室
3回	10	24	月	I	膜輸送: 搬体タンパク質とその機能, イオンチャンネルと膜電位, 神経細胞のイオンチャンネルとシグナル伝達(12章)	岡田幸雄	第2講義室
4回	10	31	月	I			第2講義室
5回	1	7	月	I	細胞が食物からエネルギーを得るしくみ: 生物におけるエネルギー獲得経路とは何か, またそれらは整然と制御されていることを学ぶ。(13章)	増山律子	第2講義室
6回	11	14	月	I			第2講義室
7回	11	21	月	I	ミトコンドリアと葉緑体におけるエネルギー生産: 生物はどのようにしてエネルギー変換機構を獲得したのか。そのエネルギー獲得における膜の役割について学ぶ。(14章)	増山律子	第2講義室
8回	11	28	月	I	細胞内区画と細胞内輸送: 細胞器官の機能とそれぞれの器官にタンパク質が輸送されていくしくみを学ぶ。(15章)	岡元邦彰	第2講義室
9回	12	5	月	I			第2講義室
10回	12	12	月	I	細胞の情報伝達, 細胞骨格(16,17章)	池田 通	第2講義室
11回	12	19	月	I			第2講義室
12回	12	26	月	I	細胞周期と細胞分裂(18章)	伊藤公成	第2講義室
13回	1	16	月	I			第2講義室
14回	1	23	月	I	がん化のメカニズムとがん遺伝子・がん抑制遺伝子について学ぶ。(20章)	伊藤公成	第2講義室
15回	1	24	火	I			第2講義室

年度 2016 学期 前期	曜日・校時 水・Ⅲ	必修選択 必修	単位数 2
科目番号	25064416		
科目ナンバリング・コード	DNMC22011098		
授業科目名/(英語名)	歯科学のための物理科学/(Physical Science for Dentistry)		
対象年次 2 年次	講義形態	講義形式	教室 第2 講義室
対象学生(クラス等)	歯学部	科目分類	学部モジュール科目
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 白石 孝信/siraisi@nagasaki-u.ac.jp/生体材料学分野准教授室/095-819-7659(内 7659)/水曜V校時			
担当教員(オムニバス科目等)	古賀義之、白石孝信、角 美佐、田代茂樹、村田比呂司 (50 音順)		
<p>授業の概要及び位置づけ</p> <p>(1) 歯科材料の性質を理解するために必要な材料科学の基礎を学ぶ。</p> <p>(2) 力学の基礎と歯科学への応用を学ぶ。</p> <p>(3) 歯科学, 生物学研究に必要な基礎的な物理科学を学ぶ。</p> <p>(4) レオロジーの基礎を学ぶ。</p> <p>(5) 磁気共鳴画像法(MRI)の原理を学ぶ。</p>			
<p>授業到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 種々の歯科材料の性質を, 構造, 組成, 成形法と関連付けて説明できる。 ○ 力学の基礎と歯科学への応用を説明できる。 ○ 基礎放射線学や生物物理科学の基礎を説明できる。 ○ レオロジーの基礎を説明できる。 ○ 磁気共鳴画像法(MRI)の原理を説明できる。 			
<p>授業方法(学習指導法)</p> <p>液晶プロジェクター、パソコン(LACS)、プリント類の配付、板書などにより授業を進める。また、理解度を測るため、小テストを実施したり、課題レポートの提出を求めることがある。</p>			
<p>授業内容</p> <p>(概要)</p> <p>本授業は次の5部から構成されている。</p> <p>第1部(第 1, 2, 3 回): 歯科材料の性質を理解するために必要な材料科学の基礎を解説する。</p> <p>第2部(第 4, 5, 6 回): 力学の基礎と歯科学への応用について解説する。</p> <p>第3部(第 7, 8, 11 回): 歯科学, 生物学研究に必要な基礎的な物理科学について解説する。</p> <p>第4部(第 9, 10, 12 回): 歯科材料の物性評価に必要なレオロジーについて解説する。</p> <p>第5部(第 13, 14, 15 回): 磁気共鳴画像法(MRI)の原理について解説する。</p> <p>(内容)</p> <p>1 回目: 歯科材料の性質を理解するために必要な材料科学の基礎(1) 講義</p> <p>2 回目: 歯科材料の性質を理解するために必要な材料科学の基礎(2) 講義, 筆記試験</p> <p>3 回目: 歯科材料の性質を理解するために必要な材料科学の基礎(3) 講義, 筆記試験, レポート提出</p> <p>4 回目: 力学の基礎に関する講義(1)</p> <p>5 回目: 力学の基礎に関する講義(2)</p> <p>6 回目: 力学の歯科学への応用に関する講義</p> <p>7 回目: 歯科学, 生物学研究に必要な基礎的な物理科学に関する講義と筆記試験(1)</p> <p>8 回目: 歯科学, 生物学研究に必要な基礎的な物理科学に関する講義と筆記試験(2)</p> <p>9 回目: レオロジーの基礎(1) 講義</p> <p>10 回目: レオロジーの基礎(2) 講義</p> <p>11 回目: 歯科学, 生物学研究に必要な基礎的な物理科学に関する講義と筆記試験(3), レポート提出</p> <p>12 回目: レオロジーの基礎(3) 講義, レポート提出</p> <p>13 回目: 磁気共鳴画像法(MRI)の原理(1) 講義</p> <p>14 回目: 磁気共鳴画像法(MRI)の原理(2) 講義と筆記試験</p> <p>15 回目: 磁気共鳴画像法(MRI)の原理(3) 講義と筆記試験</p>			
キーワード	歯科材料、力学、基礎放射線学、生物物理科学、レオロジー、磁気共鳴画像法		
教科書・教材・参考書	教材としてプリント等を配付することがある。		
成績評価の方法・基準等	5名の担当教員がそれぞれ 20 点満点で評価し、その合計点(100 点満点)を成績とする。評価方法は、授業中に実施する筆記試験や課題レポート等で総合評価する。		
受講要件(履修条件)	毎回出席すること		
備考(学生へのメッセージ)	教材として配付されたプリント等がある場合は確実に予習・復習して授業と小テストに臨むこと。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	6	水	Ⅲ	歯科材料学の基礎(1) 歯科材料の性質を理解するために必要な材料科学の基礎を講義する。	白石	第2講義室
2回	4	13	水	Ⅲ	歯科材料学の基礎(2) 歯科材料の性質を理解するために必要な材料科学の基礎を講義する。 理解度を確認するための小テストを行う。	白石	第2講義室
3回	4	20	水	Ⅲ	歯科材料学の基礎(3) 歯科材料の性質を理解するために必要な材料科学の基礎を講義する。 理解度を確認するための小テストを行う。さらにレポートを提出させる。	白石	第2講義室
4回	4	27	水	Ⅲ	力学の基礎(1) 静力学について	古賀	第2講義室
5回	5	11	水	Ⅲ	力学の基礎(2) 運動力学について	古賀	第2講義室
6回	5	18	水	Ⅲ	力学の応用	古賀	第2講義室
7回	5	25	水	Ⅲ	基礎放射線学, 生物物理学を中心とした講義, 演習(1) 歯科学, 生物学研究に必要な基礎的な物理学についてLACSを用いて講義し, 理解度を確認するための小テストを行う。	田代	第2講義室
8回	6	1	水	Ⅲ	基礎放射線学, 生物物理学を中心とした講義, 演習(2) 歯科学, 生物学研究に必要な基礎的な物理学についてLACSを用いて講義し, 理解度を確認するための計算問題テストを行う。レポート課題の提示も行う。	田代	第2講義室
9回	6	8	水	Ⅲ	レオロジーの基礎(1) 弾性, 粘性について	村田	第2講義室
10回	6	15	水	Ⅲ	レオロジーの基礎(2) 静的粘弾性について	村田	第2講義室
11回	6	22	水	Ⅲ	基礎放射線学, 生物物理学を中心とした講義, 演習(3) 歯科学, 生物学研究に必要な基礎的な物理学についてLACSを用いて講義し, 理解度を確認するための疑似国試問題テストを行う。レポートも提出。	田代	第2講義室
12回	6	29	水	Ⅲ	レオロジーの基礎(3) 動的粘弾性について レポート提出を課す	村田	第2講義室
13回	7	6	水	Ⅲ	磁気共鳴画像法(MRI)の原理(1) MRIの原理について講義する。	角	第2講義室
14回	7	13	水	Ⅲ	磁気共鳴画像法(MRI)の原理(2) MRIの原理について講義するとともに, 理解度を確認するための小テストを 行う。	角	第2講義室
15回	7	20	水	Ⅲ	磁気共鳴画像法(MRI)の原理(3) MRIの原理について講義するとともに, 理解度を確認するための小テストを 行う。	角	第2講義室

総合科目（1年次生、3年次生）

（1）学内・学外早期体験実習	（1年）	・・・・・・・・・・・・・・・・	9
（2）学内・学外早期体験実習	（1年）	・・・・・・・・・・・・・・・・	11
（3）歯学展望	（1年）	・・・・・・・・・・・・・・・・	13
（4）コミュニティー教育・実習	（3年）	・・・・・・・・・・・・・・・・	16
（5）歯科東洋医学	（3年）	・・・・・・・・・・・・・・・・	18
（6）Scientific and Practical English	（3年）	・・・・・・・・・・・・・・・・	20

年度 2016 学期 前期	曜日・校時 火・I～II(一部III～IV)	必修選択 必修	単位数 (6)
科目番号	25064401		
科目ナンバリング・コード	DNGD11011098		
授業科目名/(英語名)	学内・学外早期体験実習/(Early Exposure)		
対象年次 1年次	講義形態 講義・実習形式	教室 第2講義室	
対象学生(クラス等)	科目分類	総合科目	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 藤原 卓(教務委員長)/takufuji@nagasaki-u.ac.jp/小児歯科学分野教授室/095-819-7672(内 7672)/当日に各担当者へ直接尋ねること。			
担当教員(オムニバス科目等)	渡邊郁哉、齋藤俊行、吉田教明、藤原 卓、林 善彦、原 宜興、澤瀬 隆、村田比呂司、梅田正博、朝比奈泉、中村 卓、鮎瀬卓郎、角 忠輝		
授業の概要及び位置づけ 歯学部臨床分野の様子を早期に見学し、今後の講義・実習への学習意欲を高める。			
授業到達目標 大学病院の歯科臨床(歯科診療部門)の実情を理解する。			
授業方法(学習指導法) 臨床歯学分野を1日ずつ、見学を中心にローテートする。それぞれの診療科の5つ位のセクションを10名ずつで移動していく。			
授業内容 1回目 総合歯科臨床教育(口腔検診) 2回目 旧第1保存科 3回目 旧第2保存科 4回目 旧歯科麻酔科 5回目 旧歯科放射線科 6回目 旧矯正歯科 7回目 旧第1補綴科 8回目 旧小児歯科 9回目 旧第2口腔外科 10回目 旧第1口腔外科 11回目 旧第2補綴科 12回目 旧予防歯科 13回目 旧歯科理工 14回目 旧歯科理工 15回目 まとめ			
キーワード			
教科書・教材・参考書	なし		
成績評価の方法・基準等	レポートにより評価する。 また、授業への貢献度も評価の対象とする。		
受講要件(履修条件)	全体を通じて総授業数の3/4以上の出席が求められる。		
備考(学生へのメッセージ)	第1回目は、説明と患者体験実習として6年生による口腔検診を受ける。 13・14回は生体材料に関する講義・演習を行う。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	12	火	I～II	総合歯科臨床教育(口腔検診)	角 忠輝	第2講義室
2回	4	19	火	I～II	旧第1保存科 外来見学、実習室見学、講義見学	林 善彦	第2講義室
3回	4	26	火	III～IV	旧歯科放射線科	中村 卓	第2講義室
4回	5	10	火	III～IV	旧歯科麻酔科	鮎瀬卓郎	第2講義室
5回	5	17	火	I～II	旧第2保存科	原 宜興	第2講義室
6回	5	24	火	I～II	旧矯正歯科	吉田教明	第2講義室
7回	5	31	火	I～II	旧第1補綴科	澤瀬 隆	第2講義室
8回	6	7	火	I～II	旧小児歯科	藤原 卓	第2講義室
9回	6	14	火	I～II	旧第2口腔外科	朝比奈泉	第2講義室
10回	6	21	火	I～II	旧第1口腔外科	梅田正博	第2講義室
11回	6	28	火	I～II	旧第2補綴科	村田比呂司	第2講義室
12回	7	5	火	I～II	旧予防歯科	齋藤俊行	第2講義室
13回	7	12	火	I～II	旧歯科理工	渡邊郁哉	第2講義室
14回	7	19	火	I～II	旧歯科理工	渡邊郁哉	第2講義室
15回	7	26	火	I～II	まとめ	教務委員長	第2講義室

年度 2016 学期 後期	曜日・校時 火・I～IV	必修選択 必修	単位数 (6)
科目番号	25064401		
科目ナンバリング・コード	DNGD11011098		
授業科目名/(英語名)	学内・学外早期体験実習/(Early Exposure)		
対象年次 1年次	講義形態 講義・実習形式	教室 第1講義室	
対象学生(クラス等)	科目分類	総合科目	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 藤原 卓(教務委員長)/takufuji@nagasaki-u.ac.jp/小児歯科学分野教授室/095-819-7672(内7672)/学生12～13名に1名の教員をチューターとして配属しているため、実習期間中は連絡を密にとること。			
担当教員(オムニバス科目等)	木村泰男 他		
授業の概要及び位置づけ 専門的知識の乏しい1年次に地域歯科医療の最前線である開業歯科医院および病院歯科等へ出向き、先入観のない視点から歯科医療を見つめ、今後の専門教育への動機付けとする。 また歯科と連携を図らなければならない多職種(看護師、栄養士、作業療法士など)の業務を体験、理解する。			
授業到達目標 各自の将来の歯科医師像を見つけるきっかけとするとともに、患者中心の多職種連携を体感する。			
授業方法(学習指導法) 受け入れ歯科医院へ学生が出向き、指定の時間を診療室での見学を行い、診療設備、歯科医師-患者-スタッフ間でのコミュニケーションの重要性を観察する。また、長崎市の歯科医療の実態や歯科以外のコメディカル・コデンタルの業務を見聞する。			
授業内容 1回目 オリエンテーション1 2回目 オリエンテーション2 3回目 オリエンテーション3 4回目 学外実習1 5回目 学外実習2 6回目 学外実習3 7回目 グループ討論と発表会 8回目 学外実習4 9回目 学外実習5 10回目 学外実習6 11回目 グループ討論と発表会 12回目 総合実習① 13回目 総合実習② 14回目 本実習に関する感想を全員が発表する。 15回目 まとめ			
キーワード	臨床現場、多職種連携、歯科医師像		
教科書・教材・参考書	なし		
成績評価の方法・基準等	事前・事後レポート、最後の発表会も内容及び最終報告レポートを加味して評価する。 また、授業への貢献度も評価の対象とする。		
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセージ)	学生保険に必ず加入すること。(生協、民間を問わない。) 長崎県歯科医師会の全面的な後援のもとに実施可能となっているため、配属先の歯科医院および病院に失礼のないように十分注意する。(挨拶、態度、時間厳守)		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	4	火	I～IV	オリエンテーション1	教務委員長、 木村	第1講義室
2回	10	11	火	I～IV	オリエンテーション2	木村、 非常勤講師	第1講義室
3回	10	18	火	I～IV	オリエンテーション3	木村、 非常勤講師、 各チューター	第1講義室
4回	10	25	火	I～IV	学外実習1	木村	各実習先
5回	11	1	火	I～IV	学外実習2	木村	各実習先
6回	11	8	火	I～IV	学外実習3	木村	各実習先
7回	11	15	火	I～IV	グループ討論と発表会	木村	第1講義室
8回	11	22	火	I～IV	学外実習4	木村	各実習先
9回	11	29	火	I～IV	学外実習5	木村	各実習先
10回	12	6	火	I～IV	学外実習6	木村	各実習先
11回	12	13	火	I～IV	グループ討論と発表会	木村	第1講義室
12回	12	20	火	I～IV	総合実習①	未定	第1講義室
13回	12	27	火	I～IV	総合実習②	未定	第1講義室
14回	1	10	火	I～IV	本実習に関する感想を全員が発表する。	木村、 各チューター	第1講義室
15回	1	17	火	I～IV	まとめ	教務委員長	第1講義室

※ 内容の詳細はシラバス作成時には未確定であるため、確定後に改めて掲示にて周知します。

年度 2016 学期 通年	曜日・校時 前期:月・I 後期:月・II (一部火・II)	必修選択 必修	単位数 2		
科目番号	25064403				
科目ナンバリング・コード	DNGD11021098				
授業科目名/(英語名)	歯学展望/(Dental Outlook)				
対象年次 1年次	講義形態 講義形式	教室 第2講義室			
対象学生(クラス等)	科目分類 総合科目				
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 藤原 卓(教務委員長) / takufuji@nagasaki-u.ac.jp / 小児歯科学分野教授室/095-819-7672(内7672)/当日に各担当者へ直接尋ねること。					
担当教員(オムニバス科目等)	真鍋義孝、小守壽文、岡田幸雄、根本孝幸、池田通、内藤真理子、筑波隆幸、白石孝信、伊藤公成、中留真人、齋藤俊行、吉田教明、藤原卓、林善彦、吉村篤利、澤瀬隆、村田比呂司、鳴瀬智史、朝比奈泉、中村 卓、鮎瀬卓郎、久松徳子、鮎瀬てるみ、小山善哉、河野哲也(学内非常勤講師)、若菜啓孝(学内非常勤講師)、永田康浩(学内非常勤講師)、夏目長門(学外非常勤講師)				
授業の概要及び位置づけ 歯科医師になるため、これから6年間学ぶ歯学教育・研究の専門的内容を分かりやすく説明し、歯学生としての自覚を養う。					
授業到達目標 ・歯学教育・研究の基本的な概要を理解する。 ・基礎及び臨床科目の基本的な内容を説明できる。					
授業方法(学習指導法) 歯学教育・研究・臨床に関する主要テーマについて、主に歯学部の教員によるオムニバス方式の講義を行う。					
授業内容 <table border="0" style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%; vertical-align:top;"> (前期) 1回目 総合科目「歯学展望」について 2回目 タバコ学事始め 3回目 学生ポートフォリオ① 4回目 学生ポートフォリオ② 5回目 小児の歯科診療 6回目 解剖学と人類学 7回目 骨格形成 8回目 イオンチャネル 9回目 タンパク質の一生 10回目 病理学研究の歴史 11回目 口腔細菌の意義 12回目 歯科薬理 13回目 生体材料と歯科材料 14回目 「がん」をどのように研究するか 15回目 歯科法医学の世界 </td> <td style="width:50%; vertical-align:top;"> (後期) 1回目 予防歯科と全身の健康 2回目 矯正歯科の未来 3回目 齲蝕治療-歯質保存 4回目 歯周疾患と治療 5回目 人工物で作る歯 6回目 歯科補綴学と健康長寿 7回目 再生歯科医療 8回目 骨の「きず」の治療 9回目 X線診断 10回目 海外医療援助 11回目 歯科医療と全身管理 12回目 摂食嚥下リハビリテーション 13回目 地域連携医療の中で歯科に求められること 14回目 障害者の歯科診療 15回目 福島県相双地域における医療協力活動 </td> </tr> </table>				(前期) 1回目 総合科目「歯学展望」について 2回目 タバコ学事始め 3回目 学生ポートフォリオ① 4回目 学生ポートフォリオ② 5回目 小児の歯科診療 6回目 解剖学と人類学 7回目 骨格形成 8回目 イオンチャネル 9回目 タンパク質の一生 10回目 病理学研究の歴史 11回目 口腔細菌の意義 12回目 歯科薬理 13回目 生体材料と歯科材料 14回目 「がん」をどのように研究するか 15回目 歯科法医学の世界	(後期) 1回目 予防歯科と全身の健康 2回目 矯正歯科の未来 3回目 齲蝕治療-歯質保存 4回目 歯周疾患と治療 5回目 人工物で作る歯 6回目 歯科補綴学と健康長寿 7回目 再生歯科医療 8回目 骨の「きず」の治療 9回目 X線診断 10回目 海外医療援助 11回目 歯科医療と全身管理 12回目 摂食嚥下リハビリテーション 13回目 地域連携医療の中で歯科に求められること 14回目 障害者の歯科診療 15回目 福島県相双地域における医療協力活動
(前期) 1回目 総合科目「歯学展望」について 2回目 タバコ学事始め 3回目 学生ポートフォリオ① 4回目 学生ポートフォリオ② 5回目 小児の歯科診療 6回目 解剖学と人類学 7回目 骨格形成 8回目 イオンチャネル 9回目 タンパク質の一生 10回目 病理学研究の歴史 11回目 口腔細菌の意義 12回目 歯科薬理 13回目 生体材料と歯科材料 14回目 「がん」をどのように研究するか 15回目 歯科法医学の世界	(後期) 1回目 予防歯科と全身の健康 2回目 矯正歯科の未来 3回目 齲蝕治療-歯質保存 4回目 歯周疾患と治療 5回目 人工物で作る歯 6回目 歯科補綴学と健康長寿 7回目 再生歯科医療 8回目 骨の「きず」の治療 9回目 X線診断 10回目 海外医療援助 11回目 歯科医療と全身管理 12回目 摂食嚥下リハビリテーション 13回目 地域連携医療の中で歯科に求められること 14回目 障害者の歯科診療 15回目 福島県相双地域における医療協力活動				
キーワード					
教科書・教材・参考書	なし				
成績評価の方法・基準等	前期・後期の定期試験期間中に求める講義内容に関するレポートで評価する。 また、授業への貢献度も評価の対象とする。				
受講要件(履修条件)	全体を通じて総授業数の2/3以上の出席が求められる。				
備考(学生へのメッセージ)	歯学部に入学した、将来歯科医師になる歯学生としての自覚を養ってほしい。 卒業後、国民に有益・有用な歯科医師となるよう入学時から真摯な態度で学習してほしい。				

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	11	月	I	総合科目「歯学展望」について	澤瀬 隆	第2講義室
2回	4	18	月	I	タバコ学事始め	河野哲也 (学内非常勤講師)	第2講義室
3回	4	25	月	I	学生ポートフォリオ① 概要説明	若菜啓孝 (学内非常勤講師)	第2講義室
4回	5	2	月	I	学生ポートフォリオ② 操作説明及び入力	藤原 卓	第2講義室
5回	5	9	月	I	小児の歯科診療 小児と成人の違い、小児歯科とは	藤原 卓	第2講義室
6回	5	16	月	I	解剖学と人類学 人体解剖学と形質人類学	真鍋義孝	第2講義室
7回	5	23	月	I	骨格形成 骨格形成の分子機構を骨芽細胞と軟骨細胞の分化機構より概説する。	小守壽文	第2講義室
8回	5	30	月	I	単離細胞の電気生理学 破骨細胞、副甲状腺細胞、味細胞、嗅細胞のイオンチャネル	岡田幸雄	第2講義室
9回	6	6	月	I	タンパク質の一生 「タンパク質の高次構造はその一次構造で決まる。」アンフィゼンは、この発見で1972年のノーベル化学賞を受賞した。しかし、今日話はそう単純ではない。タンパク質が生まれてから消失するまでを俯瞰する。	根本孝幸	第2講義室
10回	6	13	月	I	病理学研究の歴史	池田 通	第2講義室
11回	6	20	月	I	口腔細菌の意義 口腔常在菌の役割、口腔細菌と疾患	内藤真理子	第2講義室
12回	6	27	月	I	歯科薬理 薬理学とはどのような学問か	筑波隆幸	第2講義室
13回	7	4	月	I	生体材料と歯科材料 歯科医療に果たす歯科材料の役割	白石孝信	第2講義室
14回	7	11	月	I	「がん」をどのように研究するか 「がん遺伝子」「がん抑制遺伝子」の機能解析について	伊藤公成	第2講義室
15回	7	25	月	I	歯科法医学の世界 身元確認に携わる警察歯科活動の実際	中留真人	第2講義室

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	3	月	II	予防歯科と全身の健康 全身の健康につながる歯科保健、う蝕と歯周病の予防	齋藤俊行	第2講義室
2回	10	17	月	II	矯正歯科の未来 美と機能のトータルなハーモニーを生み出す矯正治療	吉田教明	第2講義室
3回	10	24	月	II	齶蝕治療－歯質保存 虫歯治療の歴史、削らずに治す	林 善彦	第2講義室
4回	10	31	月	II	歯周疾患と治療 歯周疾患とは？現状と未来	吉村篤利	第2講義室
5回	11	7	月	II	人工物で作る歯 人工物による歯質・歯牙欠損の修復・回復	澤瀬 隆	第2講義室
6回	11	14	月	II	歯科補綴学と健康長寿 有床義歯の役割	村田比呂司	第2講義室
7回	11	21	月	II	再生歯科医療 歯科における再生医療の現状と未来	朝比奈泉	第2講義室
8回	11	28	月	II	骨の「きず」の治り 様々な病気と治療、骨の治療	鳴瀬智史	第2講義室
9回	12	5	月	II	X線診断 顎顔面領域の画像診断	中村 卓	第2講義室
10回	12	12	月	II	海外医療援助～ベトナム・ラオス・モンゴルなど～	夏目長門 (学外非常勤 講師)	第2講義室
11回	12	19	月	II	歯科医療と全身管理 高齢化社会と全身疾患、歯科治療	鮎瀬卓郎	第2講義室
12回	12	26	月	II	摂食嚥下リハビリテーション	久松徳子	第2講義室
13回	1	16	月	II	地域連携医療の中で歯科に求められること	永田康浩 (学内非常勤 講師)	第2講義室
14回	1	23	月	II	障害者/有病者の口腔ケアと問題点 障害者の歯科診療	鮎瀬てるみ	第2講義室
15回	1	24	火	II	福島県相双地域における医療協力活動	小山善哉	第2講義室

年度 2016 学期 前期	曜日・校時 金・Ⅱ(またはⅡ～Ⅲ)	必修選択 必修	単位数 0.5
科目番号	25064408		
科目ナンバリング・コード	DNGD11041098		
授業科目名/(英語名)	コミュニティー教育・実習/(Community education・practice)		
対象年次 3年次	講義形態 講義形式	教室 第1講義室	
対象学生(クラス等)	科目分類 総合科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィシアワー 藤原 卓(教務委員長)/takufuji@nagasaki-u.ac.jp/小児歯科学分野教授室/095-819-7672(内 7672)/当日に各担当者へ直接尋ねること。			
担当教員(オムニバス科目等)	非常勤講師(岡 幸江、長野真基子、山口和浩、片山健太、片山薫子)		
授業の概要及び位置づけ			
本授業が提案するのは現代において分断された仕事と価値意識を「つなぐ」知であり、それによる「全体的視野の獲得」です。それを通して、医師中心のしごと観を患者や社会にとって意味あるしごと観へ転換していく一助となればと願っています。			
授業到達目標			
「コミュニティー」をキーワードとする本講義が目的とするのは、こうした「相対化のための知」に出会うこと、あるいはそれを自分なりの文脈において獲得することです。そのことを通して、将来歯科医師・歯科研究者あるいは一市民として「生きていく」「実践していく」にあたって力になる「知との向き合い方」を全体的に学んでいただけたらと思っています。そのためにその先にあなた自身の「歯科医師として生きる」ビジョンを構築していただけたらと思います。			
授業方法(学習指導法)			
本講義では、みなさん自身の日々の生活のなかから「暮らしのまなざし」や暮らしをなりたせる「関わり方のまなざし」をほりおこしていくことからスタートします。そのうえで、実社会において困難をかかえる人・困難をかかえる地域とむきあうとくみ、こうした「実践」の底に流れる「もうひとつの知」について提示しつつ、私たちはいま何をみつめるべきなのか、そしてその延長上で一緒にこの社会におけるしごとのありかたを考えてみましょう。			
授業内容			
第1回目 5月13日 2時限目:オリエンテーション 一人・地域に向き合うということ(担当:岡 幸江・長野真基子)			
第2回目 5月13日 3時限目:暮らしと関わりへのまなざしをめぐって(担当:岡、長野)			
第3回目 5月20日 2時限目:生と死にむきあう (担当:山口和浩(NPO 法人自死遺族支援ネットワーク Re 代表 /長野 co.)			
第4回目 5月27日 2時限目:対人援助とコミュニケーション(担当:長野)			
第5回目 6月 3日 2時限目:地域に新たな共同を築く(担当:岡)			
第6回目 6月 3日 3時限目:ボランティアからしごとと新たな公共の創造へ(担当:岡)			
第7回目 6月10日 2時限目:自然と暮らしから生き抜くための学びを創造する (担当:片山健太、薫子(自然と暮らしの学校「手つなぐ」) /岡 co.)			
第8回目 6月10日 3時限目:個々の暮らしとしごとを「つなぐ」知をめざして(担当:岡)			
キーワード	実践における「もうひとつの知」		
教科書・教材・参考書	教科書 なし		
成績評価の方法・基準等	出席、レポートで評価する。(レポートの評価は保存1・林教授が行う。)		
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセージ)			

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	5	13	金	II	オリエンテーション 一人・地域に向き合うということ	岡 長野	第1講義室
2回	5	13	金	III	暮らしと関わりへのまなざしをめぐって	岡 長野	第1講義室
3回	5	20	金	II	生と死にむきあう	山口 (長野 Co.)	第1講義室
4回	5	27	金	II	対人援助とコミュニケーション	長野	第1講義室
5回	6	3	金	II	地域に新たな共同を築く	岡	第1講義室
6回	6	3	金	III	ボランティアからしごとと新たな公共の創造へ	岡	第1講義室
7回	6	10	金	II	自然と暮らしから生き抜くための学びを創造する	片山(健) 片山(薫) (岡 Co.)	第1講義室
8回	6	10	金	III	個々の暮らしとしごとを「つなぐ」知をめざして	岡	第1講義室

年度 2016 学期 前期	曜日・校時 木・Ⅱ～Ⅴ	必修選択 必修	単位数 1
科目番号	25064409		
科目ナンバリング・コード	DNGD11051941		
授業科目名/(英語名)	歯科東洋医学/(Oriental Dental Medicine)		
対象年次 3年次	講義形態 講義形式	教室 第1講義室	
対象学生(クラス等)	科目分類	総合科目	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィシアワー 鮎瀬 卓郎/ ayuse@nagasaki-u.ac.jp /歯科麻酔学分野教授室/095-819-7714(内 7713)/月～金曜日 17:00～18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	藤山理恵、岡元邦彰 (非常勤講師) 亀山敦史、戸田一雄、津谷喜一郎		
授業の概要及び位置づけ			
東洋医学の知識は歯科領域において今後発展性の期待できる分野である。この講義では、東洋医学の基礎理論から臨床応用まで幅広く学習する。			
授業到達目標			
東洋医学の基礎知識と歯科臨床への応用を修得する。以下の点を重視する。 1.東洋医学体系の基礎理論を説明できる。 2.鍼のメカニズムと臨床応用を説明できる。 3.漢方薬の基礎知識と処方を説明できる。 4.代替医学の応用を実践できる。			
授業方法(学習指導法)			
輪講形式。スライド、ビデオ等を用いて講義する。必要に応じて実地学習を取り入れる。プリント等は必要な時に配布する。経路、経穴名、それらの機能等の記憶項目に関しては小テスト等を行い、学習効果を向上させる。			
授業内容			
1回目 東洋医学総論、陰陽五行 2回目 欧米、WHO における東洋医学 3回目 歯科鍼灸 4回目 歯科刺鍼法 5回目 アロマセラピー 6回目 歯科灸法 7回目 脈診 8回目 耳鍼法 9回目 漢方薬理、本草 10回目 歯科漢方処方 11回目 ユーナーニー医学 12回目 鍼鎮痛の機序-末梢 13回目 鍼鎮痛の機序-中枢 14回目 補完代替医学 15回目 東洋医学とEBM(全学公開講座)			
キーワード	東洋医学、伝統医学、代替医学、鍼、灸、漢方薬、食養、アロマセラピー、EBM		
教科書・教材・参考書	教科書:入門歯科東洋医学、口腔保健協会、日本歯科東洋医学会編 参考書:中国医学はいかにつくられたか 岩波新書 山田慶児著 世界伝統医学大全 平凡社 津谷喜一郎著 鍼のエビデンス 医道の日本社 津谷喜一郎著 東洋医学を学ぶひとのために、医学書院、山村秀夫他 著 臨床経穴図 医道の日本社 木下晴都著		
成績評価の方法・基準等	筆記試験により評価する。定期考査 100%		
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセージ)	Ⅱ-Ⅴの連続講義もあり。東洋医学関係の一般書に目を通しておくことが望ましい。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	21	木	II	東洋医学総論、陰陽五行	戸田	第1講義室
2回	4	21	木	V	欧米、WHOにおける東洋医学	戸田	第1講義室
3回	4	28	木	III	歯科鍼灸	田頭	第1講義室
4回	4	28	木	IV	歯科刺鍼法	田頭	第1講義室
5回	5	12	木	II	アロマセラピー	戸田 藤山	第1講義室
6回	5	12	木	III	歯科灸法	戸田	第1講義室
7回	5	12	木	IV	脈診	戸田	第1講義室
8回	5	12	木	V	耳鍼法	戸田	第1講義室
9回	5	19	木	III	漢方薬理、本草	岡元	第1講義室
10回	5	19	木	IV	歯科漢方処方	岡元	第1講義室
11回	6	9	木	II	ユーナーニー医学	戸田	第1講義室
12回	6	9	木	III	鍼鎮痛の機序-末梢	戸田	第1講義室
13回	6	9	木	IV	鍼鎮痛の機序-中枢	戸田	第1講義室
14回	6	16	木	III	補完代替医学	亀山	第1講義室
15回	6	16	木	IV	東洋医学とEBM(全学公開講座)	津谷	第1講義室

年度 2016 学期 通年	曜日・校時 前期:木・Ⅱ～Ⅲ 後期:月・Ⅴ(一部火・Ⅴ)	必修選択 必修	単位数 2
科目番号	25064417		
科目ナンバリング・コード	DNGD11031098		
授業科目名/(英語名)	Scientific and Practical English		
対象年次 3年次	講義形態 講義形式	教室 第1講義室	
対象学生(クラス等)	科目分類 総合科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 渡邊郁哉/ikuyaw@nagasaki-u.ac.jp /生体材料学分野教授室/095-819-7656(内7656)/授業後に当日の担当者に質問すること。			
担当教員(オムニバス科目等)	渡邊郁哉、藤原 卓、岡田幸雄、内藤真理子、渡邊悦子(非常勤講師)		
授業の概要及び位置づけ			
<p>本科目で学ぶのは、文学や単なるコミュニケーションとしての英語ではなく、英語(論文作成・投稿)のリテラシーである。専門知識を学習するうえで不可欠な基礎的語学力を自己点検する。その上で、科学的な英語のリテラシー(文章力、発表、論文報告、論文検索)を学ぶ。</p>			
授業到達目標			
<p>国際化に対応した歯科医師養成を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.論理的で明快な英語文章を書くことができる。 2.基本的な科学的英語表記法が説明できる。 3.基本的な英語論文検索法を使いこなすことができる。 4.英語論文の基本的な構成と展開を説明できる。 			
授業方法(学習指導法)			
<p>前期は科学英語リテラシーを学ぶ。授業資料、参考資料を提示する。進行に合わせて学生掲示板(歯学部2階学務係前)にレポート課題が出るので見逃さないように注意すること。 後期は3年次に再受験が必須のTOEIC試験について、試験内容の概要説明や試験対策(Listening and Reading)を行う。</p>			
授業内容			
(前期)		(後期)	
1回目	科学英語論文の構成	1回目	TOEIC試験内容の概要
2回目	どうして科学英語論文が必要か	2回目	TOEIC対策①
3回目	科学英語論文の書き方入門	3回目	TOEIC対策②
4回目	科学英語論文の検索法	4回目	TOEIC対策③
5回目	英語論文表記法Ⅰ	5回目	TOEIC対策④
6回目	英語論文表記法Ⅱ	6回目	TOEIC対策⑤
7回目	英語論文表記法Ⅲ	7回目	TOEIC対策⑥
8回目	英語論文表記法Ⅳ	8回目	TOEIC対策⑦
9回目	英語論文表記法Ⅴ	9回目	TOEIC対策⑧
10回目	英語論文表記法Ⅵ	10回目	TOEIC模擬試験
11回目	基礎論文の抄読Ⅰ	11回目	TOEIC対策⑨
12回目	基礎論文の抄読Ⅱ	12回目	TOEIC対策⑩
13回目	臨床論文の抄読Ⅰ	13回目	TOEIC対策⑪
14回目	臨床論文の抄読Ⅱ	14回目	TOEIC対策⑫
15回目	まとめ(授業アンケートなど)	15回目	TOEIC模擬試験
キーワード	科学英語、実践英語		
教科書・教材・参考書	前期は授業資料配布、後期はTOEIC関連配布資料、CALL Systemの活用		
成績評価の方法・基準等	レポート、クイズ、模擬試験にて評価する。定期試験を行うこともある。		
受講要件(履修条件)	2/3以上の出席を受験資格とする。		
備考(学生へのメッセージ)	後期のTOEIC対策はWeb Classと併用したハイブリッド型クラスとする。各自課題など期限までにOn-lineで提出を済ませること。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	7	木	II	科学英語論文の構成	渡邊郁哉	第1講義室
2回	4	14	木	II	どうして科学英語論文が必要か	藤原 卓	第1講義室
3回	4	21	木	III	科学英語論文の書き方入門	藤原 卓	第1講義室
4回	4	28	木	II	科学英語論文の検索法	岡田幸雄	第1講義室
5回	5	19	木	II	英語論文表記法 I	渡邊郁哉	第1講義室
6回	5	26	木	II	英語論文表記法 II	渡邊郁哉	第1講義室
7回	5	26	木	III	英語論文表記法 III	渡邊郁哉	第1講義室
8回	6	2	木	II	英語論文表記法 IV	渡邊郁哉	第1講義室
9回	6	2	木	III	英語論文表記法 V	渡邊郁哉	第1講義室
10回	6	16	木	II	英語論文表記法 VI	渡邊郁哉	第1講義室
11回	6	30	木	II	歯科基礎論文の抄読 I	内藤真理子	第1講義室
12回	6	30	木	III	歯科基礎論文の抄読 II	内藤真理子	第1講義室
13回	7	7	木	II	歯科臨床論文の抄読 I	渡邊郁哉	第1講義室
14回	7	14	木	II	歯科臨床論文の抄読 II	渡邊郁哉	第1講義室
15回	7	21	木	II	まとめ(授業アンケートなど)	渡邊郁哉	第1講義室

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	3	月	V	TOEIC試験内容の概要 TOEIC試験内容の概要について解説する。	渡邊悦子	第1講義室
2回	10	17	月	V	TOEIC対策①	渡邊悦子	第1講義室
3回	10	24	月	V	TOEIC対策②	渡邊悦子	第1講義室
4回	10	31	月	V	TOEIC対策③	渡邊悦子	第1講義室
5回	11	7	月	V	TOEIC対策④	渡邊悦子	第1講義室
6回	11	14	月	V	TOEIC対策⑤	渡邊悦子	第1講義室
7回	11	21	月	V	TOEIC対策⑥	渡邊悦子	第1講義室
8回	11	28	月	V	TOEIC対策⑦	渡邊悦子	第1講義室
9回	12	5	月	V	TOEIC対策⑧	渡邊悦子	第1講義室
10回	12	12	月	V	TOEIC模擬試験	渡邊悦子	第1講義室
11回	12	19	月	V	TOEIC対策⑨	渡邊悦子	第1講義室
12回	12	26	月	V	TOEIC対策⑩	渡邊悦子	第1講義室
13回	1	16	月	V	TOEIC対策⑪	渡邊悦子	第1講義室
14回	1	23	月	V	TOEIC対策⑫	渡邊悦子	第1講義室
15回	1	24	火	V	TOEIC模擬試験 模擬試験	渡邊悦子	第1講義室

口腔生命科学総論（1年次生、2年次生、3年次生）

(1) 骨学及び同実習	(1年)	23
(2) 解剖学及び同実習	(2年)	25
(3) 発生学	(2年)	32
(4) 組織学及び同実習	(2年)	34
(5) 生理学	(2年)	36
(6) 生理学実験	(2年)	38
(7) 生化学	(2年)	40
(8) 生化学実験	(2年)	42
(9) 歯科理工学Ⅰ	(2年)	44
(10) 歯科理工学Ⅱ	(2年)	46
(11) 歯科理工学Ⅲ	(3年)	48
(12) 病理学総論及び同実習	(3年)	50
(13) 微生物学・口腔微生物学	(3年)	53
(14) 薬理学及び同実習	(3年)	57

年度 2016 学期 前期	曜日・校時 月・Ⅲ～Ⅳ	必修選択 必修	単位数 0.5
科目番号	25014119		
科目ナンバリング・コード	DNGD22011901		
授業科目名/(英語名)	骨学及び同実習/(Osteology and Practice)		
対象年次 1年次	講義形態 講義・実習形式	教室 歯学部解剖実習室、 医学部第2講義室、医学部第1実習室	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学総論		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 真鍋義孝/manabe@nagasaki-u.ac.jp /顎顔面解剖学分野教授室/095-819-7627(内 7625)/月、火、金 16:30～18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	歯学部:真鍋義孝、北川賀一、小山田常一 医学部:弦本敏行、岡本圭史、佐伯和信		
授業の概要及び位置づけ			
<p>系統解剖学の基礎である骨格系について理解する。骨格系の構成とその機能について把握した上で、各骨の詳細な形態・構造について理解する。靭帯・関節・筋・脈管・神経・体腔などとの関係を考慮に入れて、骨の形態・構造を理解していくことが重要である。特に受動的運動器官として、靭帯・関節・筋との機能的関係について、運動学の立場から理解を深めることが不可欠である。</p>			
授業到達目標			
<p>(1)骨格系の構成を説明できる。 (2)各骨の形態と構造を機能的観点から説明できる。 (3)各骨の連結様式について説明できる。 (4)関節の構造と運動様式について説明できる。 (5)筋の起始・停止について説明できる。 (6)脳・脳神経・視覚器・聴覚器・鼻腔・口腔・咽頭と頭蓋骨との形態学的関係について3次的に説明できる。</p>			
授業方法(学習指導法)			
<p>医学部にて、医学部1年生との共修を行う。講義で理解した内容を、人体骨格標本を用いた骨学実習で視察・触察し、3次的構造を理解する。プリント、スライド、標本等を使用する。</p>			
授業内容			
<p>1回目 骨学1(講義):骨学総論 2回目 骨学実習1:全身骨格の概観、配置 3回目 骨学2(講義):上肢の骨・脊椎 4回目 骨学実習2:上肢の骨・脊椎 5回目 骨学3(講義):下肢の骨・胸郭 6回目 骨学実習3:下肢の骨・胸郭 7回目 骨学4(講義):頭蓋① 8回目 骨学実習4:頭蓋① 9回目 骨学5(講義):頭蓋② 10回目 骨学実習5:頭蓋② 11回目 骨学6(講義):まとめ 12回目 骨学実習6:まとめ</p>			
キーワード	骨学、骨格、関節、運動器		
教科書・教材・参考書	教科書:グレイ解剖学(学生版) 塩田浩平他訳 エルゼビアジャパン 参考書:分担解剖学(森於兎ら著、金原出版)、骨学実習の手引き(寺田春水ら著、南山堂)等 ※実習内容は、教科書の内容に限定されることはないものとする。		
成績評価の方法・基準等	筆記試験を行い、総合評価が100点満点で60点以上の者を合格とする。なお、総合評価は筆記試験に提出物の評価を加味して総合的に判定する。また必要に応じて、追加の試験を行う。 ※試験内容は、教科書の内容に限定されることはないものとする。		
受講要件(履修条件)	講義・実習には毎回出席し、ノートを取る。質問は随時受け付けるが、オフィスアワーでも受け付ける。面談の際はあらかじめメールで時間調整を行うこと。		
備考(学生へのメッセージ)	参考書などで十分に予習を行っておくこと。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	11	月	Ⅲ	骨学 1 (講義) : 骨学総論	真鍋義孝	解剖実習室(歯)
2回	4	11	月	Ⅳ	骨学実習 1 : 全身骨格の概観、配置	真鍋義孝、北川賀一、小山田常一	解剖実習室(歯)
3回	4	18	月	Ⅲ	骨学 2 (講義) : 上肢の骨・脊椎 (60分) (医学部1年生との共修)	弦本敏行	第2講義室(医)・ 第1実習室(医)
4回	4	18	月	Ⅳ	骨学実習 2 : 上肢の骨・脊椎 (120分) (医学部1年生との共修)	真鍋義孝、北川賀一、小山田常一、 (医学部)弦本敏行、岡本圭史、佐伯和信	第2講義室(医)・ 第1実習室(医)
5回	4	25	月	Ⅲ	骨学 3 (講義) : 下肢の骨・胸郭 (60分) (医学部1年生との共修)	弦本敏行	第2講義室(医)・ 第1実習室(医)
6回	4	25	月	Ⅳ	骨学実習 3 : 下肢の骨・胸郭 (120分) (医学部1年生との共修)	真鍋義孝、北川賀一、小山田常一、 (医学部)弦本敏行、岡本圭史、佐伯和信	第2講義室(医)・ 第1実習室(医)
7回	5	2	月	Ⅲ	骨学 4 (講義) : 頭蓋① (60分) (医学部1年生との共修)	真鍋義孝	第2講義室(医)・ 第1実習室(医)
8回	5	2	月	Ⅳ	骨学実習 4 : 頭蓋① (120分) (医学部1年生との共修)	真鍋義孝、北川賀一、小山田常一、 (医学部)弦本敏行、岡本圭史、佐伯和信	第2講義室(医)・ 第1実習室(医)
9回	5	9	月	Ⅲ	骨学 5 (講義) : 頭蓋② (60分) (医学部1年生との共修)	真鍋義孝	第2講義室(医)・ 第1実習室(医)
10回	5	9	月	Ⅳ	骨学実習 5 : 頭蓋② (120分) (医学部1年生との共修)	真鍋義孝、北川賀一、小山田常一、 (医学部)弦本敏行、岡本圭史、佐伯和信	第2講義室(医)・ 第1実習室(医)
11回	5	16	月	Ⅲ	骨学 6 (講義) : まとめ (60分)	真鍋義孝	解剖実習室(歯)
12回	5	16	月	Ⅳ	骨学実習のまとめ及び筆記試験 (120分)	真鍋義孝、北川賀一、小山田常一	解剖実習室(歯)

年度 2016 学期 後期	曜日・校時 水・Ⅰ～Ⅴ, 木・Ⅱ～Ⅴ	必修選択 必修	単位数 7
科目番号	25014101		
科目ナンバリング・コード	DNGD22021901		
授業科目名/(英語名)	解剖学及び同実習/(Human Anatomy and Dissection Practice)		
対象年次 2 年次	講義形態 講義・実習形式	教室 歯学部解剖実習室、医学部解剖実習室、講義室 6A	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学総論		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 真鍋義孝/manabe@nagasaki-u.ac.jp /顎顔面解剖学分野教授室/095-819-7627(内 7625)/月、火、金 16:30～18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	真鍋義孝 manabe@、北川賀一 kitagawa@、小山田常一 oyamada@		
授業の概要及び位置づけ			
骨格、筋、血管、神経より構成される運動器の構造と機能を理解する。また、胸部内臓、腹部内臓、骨盤内臓の外景、相互の立体的位置関係さらに血管及び神経の分布を明らかにし、人体構造の理解への基礎を作る。			
授業到達目標			
<p>(1)人体構造を表現する解剖学一般用語、人体の各部と体位を示す用語を理解する。</p> <p>(2)骨の形態学的分類及び関節の種類を列記できる。頭頸部、体肢、体幹の骨格の形態学的特徴と連結を理解し、説明できる。</p> <p>(3)頭頸部、体幹、体肢の筋の形態学的特徴を観察し、筋の起始、停止、支配神経、作用を説明できる。</p> <p>(4)頭頸部、体幹、体肢の動静脈系を観察し、それらの名称、走行、分布が正確に説明できる。</p> <p>(5)脳神経、脊髄神経の走行と分布を観察し、それらの走行、分布、機能を説明できる。自律神経の分布を観察し、機能が理解できる。</p> <p>(6)頸部、胸部、腹部、骨盤内臓の位置、相互関係、外景、内景を観察し、その構造及び機能の概略を説明できる。</p>			
授業方法(学習指導法)			
講義によって知識を修得し、実習によって知識の確認を行う。講義及び実習は系統解剖学と局所解剖学を織りまぜながら行う。教室作成の冊子を配付する。適宜、プリント、スライド等を使用する。講義は、原則として標本または模型を提示しながら行う。			
授業内容			
全 129 校時を次の配分で行う。(各授業日時等は日程表を参照)			
解剖学総論に始まり、骨学、循環器系、消化器系、呼吸器系、泌尿生殖器系、内分泌系、感覚器系をそれぞれの総論・各論に関して解説する。非常勤講師の加藤担当(5回)では、骨の連結、筋学の各論に関して、植村担当(6回)では、神経系を2系統に分け、中枢神経(2回)で中枢神経系の総論と内景、末梢神経(4回)で総論と脳脊髄神経系・自律神経系の各論に関して、豊島担当(2回)では、口腔領域の感覚器に関して、小林担当(2回)では、歯の比較解剖学に関してそれぞれの最新の研究成果を含めて解説する。またこれらと並行して、骨学実習(5回)では、人体骨格標本等を通して、骨の形態、体幹構造、位置関係並びに、脈管系・筋系との関連を観察及び描写することで理解を深める。最後に骨学実習テストを行う。系統解剖学実習(90回)では、体表観察に始まり、自らの手で徐々に深部へと解き開いていく事で、三次元的に人体の形態、構造、各器官の位置関係、関連性についての知識修得を目指すと共に、医療に携わることの難しさ、重要性と倫理観について体得する。系統解剖学実習期間中に中間試問、最終試問を行う。			
キーワード	人体解剖、系統解剖学、生命の尊厳		
教科書・教材・参考書	参考書:分担解剖学(森 於兔ら著、金原出版)、グレイ解剖学(学生版) 塩田浩平他訳 エルゼビアジャパン、歯科学生のための解剖学実習(小林茂夫ら著、南江堂)、解剖学実習の手引き(寺田春水ら著、南山堂)、骨学実習の手引き(寺田春水ら著、南山堂)等 実習書:人体を解剖する(教室作成編) ※講義内容は、参考書の内容に限定されることはないものとする。		
成績評価の方法・基準等	各系統の講義について筆記試験を行う。実習への取り組みと理解度について実習試験(骨学実習・中間試問、最終試問等)を行う。筆記試験に実習試験(骨学実習・中間試問・最終試問)及び提出物を加味して総合的に評価を行い、成績が100点満点中60点以上の者を合格とする。また必要に応じて、追加の試験を行う。 ※試験内容は、参考書の内容に限定されることはないものとする。		
受講要件(履修条件)	講義には毎回出席し、ノートを取る。質問は随時受け付けるが、オフィスアワーでも受け付ける。面談の際はあらかじめメールで時間調整を行うこと。		
備考(学生へのメッセージ)	参考書などで十分に予習を行っておくこと。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	5	水	I	解剖学総論 人体の構成、人体の区分、方向用語	真鍋義孝	解剖実習室(歯)
2回	10	5	水	II	解剖学総論 骨学の総論	真鍋義孝	解剖実習室(歯)
3回	10	5	水	III	骨学実習(1) 人体骨格標本等を通して、骨の形態、体幹構造、位置関係並びに、 脈管系・筋系との関連を観察及び描写	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(歯)
4回	10	5	水	IV	骨学実習(2) 人体骨格標本等を通して、骨の形態、体幹構造、位置関係並びに、 脈管系・筋系との関連を観察及び描写	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(歯)
5回	10	6	木	II	循環器系(1) 循環器系の総論、心臓、心膜	真鍋義孝	解剖実習室(歯)
6回	10	6	木	III	比較解剖学 歯の比較解剖学	小林 繁 (九州歯科大学)	講義室6A
7回	10	6	木	IV	比較解剖学 歯の比較解剖学	小林 繁 (九州歯科大学)	講義室6A
8回	10	12	水	I	循環器系(2) 体循環と肺循環及び動脈系の総論、各論	真鍋義孝	解剖実習室(歯)
9回	10	12	水	II	消化器系(1) 消化器系の各論(咽頭、食道)	北川賀一	解剖実習室(歯)
10回	10	12	水	III	骨学実習(3) 人体骨格標本等を通して、骨の形態、体幹構造、位置関係並びに、 脈管系・筋系との関連を観察及び描写	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(歯)
11回	10	12	水	IV	骨学実習(4) 人体骨格標本等を通して、骨の形態、体幹構造、位置関係並びに、 脈管系・筋系との関連を観察及び描写	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(歯)
12回	10	13	木	II	循環器系(3) 体循環と肺循環及び動脈系の総論、各論	真鍋義孝	解剖実習室(歯)
13回	10	13	木	III	関節学(1) 骨の連結の種類と構造	加藤克知 (長崎大学)	解剖実習室(歯)
14回	10	13	木	IV	関節学(2) 顎関節の構造	加藤克知 (長崎大学)	解剖実習室(歯)
15回	10	19	水	I	循環器系(4) 静脈系の総論、各論 胎児循環、 リンパ系(リンパ管、リンパ節、脾臓、分布)	真鍋義孝	解剖実習室(歯)
16回	10	19	水	II	消化器系(2) 消化器系の各論(咽頭、食道)	北川賀一	解剖実習室(歯)
17回	10	19	水	III	骨学実習(5) 人体骨格標本等を通して、骨の形態、体幹構造、位置関係並びに、 脈管系・筋系との関連を観察及び描写	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(歯)
18回	10	19	水	IV	神経系(1) 中枢神経系の総論と内景	植村正憲 (鹿児島大学)	講義室6A
19回	10	20	木	II	循環器系(5) 静脈系の総論、各論 胎児循環、 リンパ系(リンパ管、リンパ節、脾臓、扁桃)	真鍋義孝	解剖実習室(歯)
20回	10	20	木	III	神経系(2) 中枢神経系の総論と内景	植村正憲 (鹿児島大学)	講義室6A
21回	10	20	木	IV	神経系(3) 末梢神経(1)総論	植村正憲 (鹿児島大学)	講義室6A
22回	10	26	水	I	内分泌系 内分泌系の総論、各論(下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体、 副腎 等)	真鍋義孝	解剖実習室(歯)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
23回	10	26	水	II	消化器系(3) 消化器系の各論(胃、肝臓、膵臓、小腸、大腸)	小山田常一	解剖実習室(歯)
24回	10	26	水	III	消化器系(4) 消化器系の各論(胃、肝臓、膵臓、小腸、大腸)	小山田常一	解剖実習室(歯)
25回	10	26	水	IV	神経系(4) 末梢神経(2) 脊髄神経の各論と脳神経	植村正憲 (鹿児島大学)	講義室6A
26回	10	27	木	II	筋系(1) 筋系の総論	加藤克知 (長崎大学)	解剖実習室(歯)
27回	10	27	木	III	神経系(5) 末梢神経(2) 脊髄神経の各論と脳神経	植村正憲 (鹿児島大学)	講義室6A
28回	10	27	木	IV	神経系(6) 自律神経の各論	植村正憲 (鹿児島大学)	講義室6A
29回	11	2	水	I	感覚器系(1) 視覚器	真鍋義孝	解剖実習室(歯)
30回	11	2	水	II	呼吸器系(1) 呼吸器系の総論、各論(鼻腔、喉頭、気管、気管支、肺、胸膜、縦隔)	北川賀一	解剖実習室(歯)
31回	11	2	水	III	感覚器系(1) 口腔領域の感覚器	豊島邦昭 (九州歯科大学)	講義室6A
32回	11	2	水	IV	感覚器系(2) 口腔領域の感覚器	豊島邦昭 (九州歯科大学)	講義室6A
33回	11	2	水	V	呼吸器系(2) 呼吸器系の総論、各論(鼻腔、喉頭、気管、気管支、肺、胸膜、縦隔)	北川賀一	解剖実習室(歯)
34回	11	9	水	I	感覚器系(2) 平衡聴覚器	真鍋義孝	解剖実習室(歯)
35回	11	9	水	II	泌尿生殖器系(1) 泌尿器	小山田常一	解剖実習室(歯)
36回	11	9	水	V	泌尿生殖器系(2) 生殖器	小山田常一	解剖実習室(歯)
37回	11	10	木	II	系統解剖学実習総論 系統解剖学実習の心得と準備	真鍋義孝	解剖実習室(歯)
38回	11	10	木	III	筋系(2) 筋系の各論(体幹の筋1)	加藤克知 (長崎大学)	解剖実習室(歯)
39回	11	10	木	IV	筋系(3) 筋系の各論(体幹の筋2)	加藤克知 (長崎大学)	解剖実習室(歯)
40回	11	16	水	I	系統解剖学実習(1) 系統解剖の心得、注意事項の説明、体表観察、体区分の確認、 前面の皮切・皮剥の確認	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
41回	11	16	水	II	系統解剖学実習(1) 系統解剖の心得、注意事項の説明、体表観察、体区分の確認、 前面の皮切・皮剥の確認	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
42回	11	16	水	III	系統解剖学実習(2) 前面の皮切・皮剥、皮下結合組織の除去、皮神経・皮静脈・ 浅筋膜の剖出	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
43回	11	16	水	IV	系統解剖学実習(2) 前面の皮切・皮剥、皮下結合組織の除去、皮神経・皮静脈・ 浅筋膜の剖出	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
44回	11	16	水	V	系統解剖学実習(2) 前面の皮切・皮剥、皮下結合組織の除去、皮神経・皮静脈・ 浅筋膜の剖出	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
45回	11	17	木	II	系統解剖学実習(3) 前面の皮切・皮剥、皮下結合組織の除去、皮神経・皮静脈・ 浅筋膜の剖出	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
46回	11	17	木	III	系統解剖学実習(3) 前面の皮切・皮剥、皮下結合組織の除去、皮神経・皮静脈・ 浅筋膜の剖出	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
47回	11	17	木	IV	系統解剖学実習(3) 前面の皮切・皮剥、皮下結合組織の除去、皮神経・皮静脈・ 浅筋膜の剖出	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
48回	11	17	木	V	系統解剖学実習(3) 前面の皮切・皮剥、皮下結合組織の除去、皮神経・皮静脈・ 浅筋膜の剖出	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
49回	11	24	木	II	系統解剖学実習(4) 前面浅層(表情筋、耳下腺神経叢、頸神経叢、腋窩、上肢屈側、 下肢伸側 等)剖出	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
50回	11	24	木	III	系統解剖学実習(4) 前面浅層(表情筋、耳下腺神経叢、頸神経叢、腋窩、上肢屈側、 下肢伸側 等)剖出	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
51回	11	24	木	IV	系統解剖学実習(4) 前面浅層(表情筋、耳下腺神経叢、頸神経叢、腋窩、上肢屈側、 下肢伸側 等)剖出	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
52回	11	24	木	V	系統解剖学実習(4) 前面浅層(表情筋、耳下腺神経叢、頸神経叢、腋窩、上肢屈側、 下肢伸側 等)剖出	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
53回	11	30	水	I	系統解剖学実習(5) (筆記試験1を含む) 前面浅層(表情筋、耳下腺神経叢、頸神経叢、腋窩、上肢屈側、 下肢伸側 等)剖出	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	講義室6A
54回	11	30	水	II	系統解剖学実習(5) 前面浅層(表情筋、耳下腺神経叢、頸神経叢、腋窩、上肢屈側、 下肢伸側 等)剖出	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
55回	11	30	水	III	系統解剖学実習(6) 前面浅層(表情筋、耳下腺神経叢、頸神経叢、腋窩、上肢屈側、 下肢伸側 等)剖出	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
56回	11	30	水	IV	系統解剖学実習(6) 前面浅層(表情筋、耳下腺神経叢、頸神経叢、腋窩、上肢屈側、 下肢伸側 等)剖出	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
57回	11	30	水	V	系統解剖学実習(6) 前面浅層(表情筋、耳下腺神経叢、頸神経叢、腋窩、上肢屈側、 下肢伸側 等)剖出	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
58回	12	1	木	II	系統解剖学実習(7) 背面の皮切・皮剥、皮下結合組織除去、皮神経・皮静脈・ 浅筋膜の剖出、浅層の剖査	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
59回	12	1	木	III	系統解剖学実習(7) 背面の皮切・皮剥、皮下結合組織除去、皮神経・皮静脈・ 浅筋膜の剖出、浅層の剖査	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
60回	12	1	木	IV	系統解剖学実習(7) 背面の皮切・皮剥、皮下結合組織除去、皮神経・皮静脈・ 浅筋膜の剖出、浅層の剖査	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
61回	12	1	木	V	系統解剖学実習(7) 背面の皮切・皮剥、皮下結合組織除去、皮神経・皮静脈・ 浅筋膜の剖出、浅層の剖査	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
62回	12	7	水	I	系統解剖学実習(8) 背面の皮切・皮剥、皮下結合組織除去、皮神経・皮静脈・ 浅筋膜の剖出、浅層の剖査	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
63回	12	7	水	II	系統解剖学実習(8) 背面の皮切・皮剥、皮下結合組織除去、皮神経・皮静脈・ 浅筋膜の剖出、浅層の剖査	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
64回	12	7	水	III	系統解剖学実習(9) 胸壁、腹壁の披開、各部の剖査	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
65回	12	7	水	IV	系統解剖学実習(9) 胸壁、腹壁の披開、各部の剖査	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
66回	12	7	水	V	系統解剖学実習(9) 胸壁、腹壁の披開、各部の剖査	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
67回	12	8	木	II	系統解剖学実習(10) 胸部内臓の摘出・剖査、腹部内臓の摘出・剖査、上肢屈側、 下肢伸側の剖査	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
68回	12	8	木	III	系統解剖学実習(10) 胸部内臓の摘出・剖査、腹部内臓の摘出・剖査、上肢屈側、 下肢伸側の剖査	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
69回	12	8	木	IV	系統解剖学実習(10) 胸部内臓の摘出・剖査、腹部内臓の摘出・剖査、上肢屈側、 下肢伸側の剖査	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
70回	12	8	木	V	系統解剖学実習(10) 胸部内臓の摘出・剖査、腹部内臓の摘出・剖査、上肢屈側、 下肢伸側の剖査	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
71回	12	14	水	I	系統解剖学実習(11) (筆記試験2を含む) 胸部内臓の摘出・剖査、腹部内臓の摘出・剖査、上肢屈側、 下肢伸側の剖査	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	講義室6A
72回	12	14	水	II	系統解剖学実習(11) 胸部内臓の摘出・剖査、腹部内臓の摘出・剖査、上肢屈側、 下肢伸側の剖査	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
73回	12	14	水	III	系統解剖学実習(12) 胸部内臓の摘出・剖査、腹部内臓の摘出・剖査、上肢屈側、 下肢伸側の剖査	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
74回	12	14	水	IV	系統解剖学実習(12) 胸部内臓の摘出・剖査、腹部内臓の摘出・剖査、上肢屈側、 下肢伸側の剖査	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
75回	12	14	水	V	系統解剖学実習(12) 胸部内臓の摘出・剖査、腹部内臓の摘出・剖査、上肢屈側、 下肢伸側の剖査	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
76回	12	15	木	II	系統解剖学実習(13) 胸部内臓の摘出・剖査、腹部内臓の摘出・剖査、上肢屈側、 下肢伸側の剖査	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
77回	12	15	木	III	系統解剖学実習(13) 胸部内臓の摘出・剖査、腹部内臓の摘出・剖査、上肢屈側、 下肢伸側の剖査	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
78回	12	15	木	IV	系統解剖学実習(13) 胸部内臓の摘出・剖査、腹部内臓の摘出・剖査、上肢屈側、 下肢伸側の剖査	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
79回	12	15	木	V	系統解剖学実習(13) 胸部内臓の摘出・剖査、腹部内臓の摘出・剖査、上肢屈側、 下肢伸側の剖査	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
80回	12	21	水	I	系統解剖学実習(14) 中間口頭試問	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
81回	12	21	水	II	系統解剖学実習(14) 中間口頭試問	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
82回	12	21	水	III	系統解剖学実習(15) 背面の剖査、頭蓋腔内面の観察、固有背筋群の剖査、 会陰部の皮剥、肛門部の剖査 等	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
83回	12	21	水	IV	系統解剖学実習(15) 背面の剖査、頭蓋腔内面の観察、固有背筋群の剖査、 会陰部の皮剥、肛門部の剖査 等	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
84回	12	21	水	V	系統解剖学実習(15) 背面の剖査、頭蓋腔内面の観察、固有背筋群の剖査、 会陰部の皮剥、肛門部の剖査 等	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
85回	12	22	木	II	系統解剖学実習(16) 背面の剖査、頭蓋腔内面の観察、固有背筋群の剖査、 会陰部の皮剥、肛門部の剖査 等	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
86回	12	22	木	III	系統解剖学実習(16) 背面の剖査、頭蓋腔内面の観察、固有背筋群の剖査、 会陰部の皮剥、肛門部の剖査 等	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
87回	12	22	木	IV	系統解剖学実習(16) 背面の剖査、頭蓋腔内面の観察、固有背筋群の剖査、 会陰部の皮剥、肛門部の剖査 等	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
88回	12	22	木	V	系統解剖学実習(16) 背面の剖査、頭蓋腔内面の観察、固有背筋群の剖査、 会陰部の皮剥、肛門部の剖査 等	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
89回	12	28	水	I	系統解剖学実習(17) (筆記試験3を含む) 前面の剖査、頭部離断、頭部切半、縦隔の剖査、 骨盤内部の剖査、上肢離断、上肢・下肢の剖査 等	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	講義室6A
90回	12	28	水	II	系統解剖学実習(17) 前面の剖査、頭部離断、頭部切半、縦隔の剖査、 骨盤内部の剖査、上肢離断、上肢・下肢の剖査 等	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
91回	12	28	水	III	系統解剖学実習(18) 脊髓の摘出、頭頸部の剖査、骨盤の切半、骨盤内臓の剖査、 下肢離断、上肢・下肢の剖査 等	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
92回	12	28	水	IV	系統解剖学実習(18) 脊髓の摘出、頭頸部の剖査、骨盤の切半、骨盤内臓の剖査、 下肢離断、上肢・下肢の剖査 等	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
93回	12	28	水	V	系統解剖学実習(18) 脊髓の摘出、頭頸部の剖査、骨盤の切半、骨盤内臓の剖査、 下肢離断、上肢・下肢の剖査 等	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
94回	1	4	水	I	系統解剖学実習(19) 頭頸部(咽頭・鼻腔・口腔・喉頭)の剖査、骨盤内臓の剖査、 上肢・下肢の剖査 等	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
95回	1	4	水	II	系統解剖学実習(19) 頭頸部(咽頭・鼻腔・口腔・喉頭)の剖査、骨盤内臓の剖査、 上肢・下肢の剖査 等	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
96回	1	4	水	III	系統解剖学実習(20) 頭頸部(咽頭・鼻腔・口腔・喉頭)の剖査、骨盤内臓の剖査、 上肢・下肢の剖査 等	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
97回	1	4	水	IV	系統解剖学実習(20) 頭頸部(咽頭・鼻腔・口腔・喉頭)の剖査、骨盤内臓の剖査、 上肢・下肢の剖査 等	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
98回	1	4	水	V	系統解剖学実習(20) 頭頸部(咽頭・鼻腔・口腔・喉頭)の剖査、骨盤内臓の剖査、 上肢・下肢の剖査 等	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
99回	1	5	木	II	系統解剖学実習(21) 頭頸部(咀嚼筋・側頭下窩・顎関節・副鼻腔・翼口蓋窩)の剖査、 骨盤内臓の剖査、上肢・下肢の剖査 等	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
100回	1	5	木	III	系統解剖学実習(21) 頭頸部(咀嚼筋・側頭下窩・顎関節・副鼻腔・翼口蓋窩)の剖査、 骨盤内臓の剖査、上肢・下肢の剖査 等	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
101回	1	5	木	IV	系統解剖学実習(21) 頭頸部(咀嚼筋・側頭下窩・顎関節・副鼻腔・翼口蓋窩)の剖査、 骨盤内臓の剖査、上肢・下肢の剖査 等	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
102回	1	5	木	V	系統解剖学実習(21) 頭頸部(咀嚼筋・側頭下窩・顎関節・副鼻腔・翼口蓋窩)の剖査、 骨盤内臓の剖査、上肢・下肢の剖査 等	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
103回	1	11	水	I	系統解剖学実習(22) 頭頸部(咀嚼筋・側頭下窩・顎関節・副鼻腔・翼口蓋窩)の剖査、 骨盤内臓の剖査、上肢・下肢の剖査 等	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
104回	1	11	水	II	系統解剖学実習(22) 頭頸部(咀嚼筋・側頭下窩・顎関節・副鼻腔・翼口蓋窩)の剖査、 骨盤内臓の剖査、上肢・下肢の剖査 等	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
105回	1	11	水	III	系統解剖学実習(23) 眼瞼・結膜・涙嚢・涙腺の剖査、眼窩の剖査、 外耳・中耳・内耳の剖査、各部の細部の剖査 等	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
106回	1	11	水	IV	系統解剖学実習(23) 眼瞼・結膜・涙嚢・涙腺の剖査、眼窩の剖査、 外耳・中耳・内耳の剖査、各部の細部の剖査 等	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
107回	1	11	水	V	系統解剖学実習(23) 眼瞼・結膜・涙嚢・涙腺の剖査、眼窩の剖査、 外耳・中耳・内耳の剖査、各部の細部の剖査 等	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
108回	1	12	木	II	系統解剖学実習(24) 眼瞼・結膜・涙嚢・涙腺の剖査、眼窩の剖査、 外耳・中耳・内耳の剖査、各部の細部の剖査 等	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
109回	1	12	木	III	系統解剖学実習(24) 眼瞼・結膜・涙嚢・涙腺の剖査、眼窩の剖査、 外耳・中耳・内耳の剖査、各部の細部の剖査 等	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
110回	1	12	木	IV	系統解剖学実習(24) 眼瞼・結膜・涙嚢・涙腺の剖査、眼窩の剖査、 外耳・中耳・内耳の剖査、各部の細部の剖査 等	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
111回	1	12	木	V	系統解剖学実習(24) 眼瞼・結膜・涙嚢・涙腺の剖査、眼窩の剖査、 外耳・中耳・内耳の剖査、各部の細部の剖査 等	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
112回	1	18	水	I	系統解剖学実習(25) 眼瞼・結膜・涙嚢・涙腺の剖査、眼窩の剖査、 外耳・中耳・内耳の剖査、各部の細部の剖査 等	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
113回	1	18	水	II	系統解剖学実習(25) 眼瞼・結膜・涙嚢・涙腺の剖査、眼窩の剖査、 外耳・中耳・内耳の剖査、各部の細部の剖査 等	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
114回	1	18	水	III	系統解剖学実習(26) 全身細部の剖査及び総括(最終試問を含む)	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
115回	1	18	水	IV	系統解剖学実習(26) 全身細部の剖査及び総括(最終試問を含む)	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
116回	1	18	水	V	系統解剖学実習(26) 全身細部の剖査及び総括(最終試問を含む)	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
117回	1	19	木	II	系統解剖学実習(27) 全身細部の剖査及び総括(最終試問を含む)	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
118回	1	19	木	III	系統解剖学実習(27) 全身細部の剖査及び総括(最終試問を含む)	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
119回	1	19	木	IV	系統解剖学実習(27) 全身細部の剖査及び総括(最終試問を含む)	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
120回	1	19	木	V	系統解剖学実習(27) 全身細部の剖査及び総括(最終試問を含む)	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
121回	1	25	水	I	系統解剖学実習(28) 総括的な剖査、関節の剖査	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
122回	1	25	水	II	系統解剖学実習(28) 総括的な剖査、関節の剖査	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
123回	1	25	水	III	系統解剖学実習(29) 総括的な剖査、関節の剖査	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
124回	1	25	水	IV	系統解剖学実習(29) 総括的な剖査、関節の剖査	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
125回	1	25	水	V	系統解剖学実習(29) 総括的な剖査、関節の剖査	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
126回	1	26	木	II	系統解剖学実習(30) 納棺式	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
127回	1	26	木	III	系統解剖学実習(30) 納棺式	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
128回	1	26	木	IV	系統解剖学実習(30) 納棺式	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
129回	1	26	木	V	系統解剖学実習(30) 納棺式	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)

年度 2016 学期 後期	曜日・校時 木・I	必修選択 必修	単位数 1
科目番号	25014102		
科目ナンバリング・コード	DNGD22031901		
授業科目名/(英語名)	発生学/(Embryology)		
対象年次 2年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 6A	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学総論		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 小守壽文/komorit@nagasaki-u.ac.jp /細胞生物学分野教授室/095-819-7630(内 7630)/16:30~18:30			
担当教員(オムニバス科目等)	小守壽文、井上靖久(非常勤講師)、飯村忠浩(非常勤講師)		
授業の概要及び位置づけ			
人体の肉眼解剖での身体の構造の知識・理解の上に、受精卵から諸器官形成について“成り立ちの過程”または“成り立ちの原因”について基礎的知識を納め、さらなる理解度を深めることを目的とする。			
授業到達目標			
発生学については新発見や新技術によって次々と内容に変革がもたらされている。人体の構造における肉眼解剖学的・顕微解剖学的な諸器官形態についての基本的な形態形成過程を系統発生また個体発生学的に説明できるとともに、その分子的制御機構およびその異常に起因する様々な発生異常や疾患の発症メカニズムを理解することを目標とする。			
授業方法(学習指導法)			
毎回授業の始めに前もって出された“テーマ”または“宿題”についての発表を、パワーポイントを用い、質疑応答を含め 1 グループ20分で行う。1時限で 3 グループの発表を行う。学生同士で質疑応答をさせる。			
授業内容			
<p>1 回目 生殖形成。卵子、精子の形成と始原生殖細胞の出現・性の決定機構・染色体異常による先天異常・ゲノムのすり込みなどについて理解する。</p> <p>2 回目 発生第 1 週。排卵・受精・分割・胚盤胞・着床の現象を理解すると共に卵巣、子宮の組織変化をも理解する。</p> <p>3 回目 発生第 2 週、第 3 週。発生第 2 週におこる二層性胚盤の形成、発生第 3 週におこる三層性胚盤の形成および栄養膜の発達について理解する。</p> <p>4 回目 胚子期。外胚葉(神経管)、中胚葉(体節分節・体節)、内胚葉及び神経堤細胞からの組織、器官形成について理解する。</p> <p>5 回目 胎児期、先天異常と出生前診断。胎児の発育、胎盤の変化、先天異常の原因、出生前診断の種々の方法、胎児治療について理解する。</p> <p>6 回目 発生初期から胎児期までを整理し、統合的に理解を深める。</p> <p>7 回目 骨格系。骨・軟骨の形成機構、頭蓋・四肢・脊柱の形成について理解する。</p> <p>8 回目 四肢発生の分子的制御について理解する。</p> <p>9 回目 筋系と体腔。筋板からの筋パターン形成・上分節、下分節、及び頭部、顔面の筋形成についてと体腔形成に関連する漿膜、胸心膜、横隔膜の形成について理解する。</p> <p>10 回目 心臓・脈管。心臓ループの形成から心房・心室・心球(心円錐、動脈幹)への分化、心房・心室の中隔形成などについて理解する、また、胎児循環について理解する。</p> <p>11 回目 頭・頸部 1。鰓弓由来の各骨格要素、筋要素、血管要素、神経要素を理解する。鰓弓・鰓溝・咽頭嚢由来の諸器官(外耳道、時間、扁桃、内分泌器官など)の形成について理解する。</p> <p>12 回目 頭・頸部 2。顔面(上唇、下唇、鼻部、口蓋)・舌・上顎骨・下顎骨の形成発育および歯の発生について理解する。</p> <p>13 回目 中枢神経系。脊髄の形成、神経細胞の分化、髄脳(延髄)、後脳(小脳、橋)、中脳、前脳(間脳、終脳)の形成、脳神経、自律神経の発生について理解する。</p> <p>14 回目 平衡聴覚器、視覚器、外皮。内耳、中耳、外耳の形成、網膜、虹彩、毛様体、水晶体、脈絡膜、強膜、角膜、硝子体の形成、表皮、真皮、毛、汗腺、乳腺の発生について理解する。</p> <p>15 回目 復習・総括。発生学全般の復習。これまでに学んだ発生学の知識を整理し、理解を深めるために、グループディスカッションを行う。まとめ</p>			
キーワード	生殖系発生、細胞分化、組織発生、器官形成、胎盤形成、発生の分子的制御、発生異常		
教科書・教材・参考書	教科書： ラングマン人体発生学 訳/安田・沢野 メディカル・サイエンス・インターナショナル		
成績評価の方法・基準等	定期試験 50% 授業における発表 50%		
受講要件(履修条件)	なし		
備考(学生へのメッセージ)	課題発表(パワーポイントで発表)の準備を行う。聞いている人にわかりやすいパワーポイントを作製すること。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	6	木	I	生殖細胞形成 卵子、精子の形成と始原生殖細胞の出現・性の決定機構・染色体異常による先天異常・ゲノムのすり込みなどについて理解する。	井上	講義室6A
2回	10	13	木	I	発生第1週 排卵・受精・分割・胚盤胞・着床の現象を理解すると共に卵巣、子宮の組織変化も理解する。	井上	講義室6A
3回	10	20	木	I	発生第2週、第3週 発生第2週におこる二層性胚盤の形成、発生第3週におこる三層性胚盤の形成および栄養膜の発達について理解する。	井上	講義室6A
4回	10	27	木	I	胚子期 外胚葉(神経管)、中胚葉(体節分節・体節)、内胚葉及び神経堤細胞からの組織、器官形成について理解する。	井上	講義室6A
5回	11	10	木	I	胎児期、先天異常と出生前診断 胎児の発育、胎盤の変化、先天異常の原因、出生前診断の種々の方法、胎児治療について理解する。	小守	講義室6A
6回	11	17	木	I	発生初期から胎児期までのまとめ 発生初期から胎児期までを整理し、統合的に理解を深める。	飯村	講義室6A
7回	11	24	木	I	骨格系 骨・軟骨の形成機構、頭蓋・四肢・脊柱の形成について理解する。	小守	講義室6A
8回	12	1	木	I	四肢発生 四肢発生の分子的制御について理解する。	小守	講義室6A
9回	12	8	木	I	筋系と体腔 筋板からの筋パターン形成・上分節、下分節、及び頭部、顔面の筋形成についてと体腔形成に関連する漿膜、胸心膜、横隔膜の形成について理解する。	小守	講義室6A
10回	12	15	木	I	心臓・脈管 心臓ループの形成から心房・心室・心球(心円錐、動脈幹)への分化、心房・心室の中隔形成などについて理解する、また、胎児循環について理解する。	小守	講義室6A
11回	12	22	木	I	頭・頸部1。鰓弓由来の各骨格要素、筋要素、血管要素、神経要素を理解する。鰓弓・鰓溝・咽頭嚢由来の諸器官(外耳道、耳管、扁桃、胸腺、内分泌器官など)の形成について理解する。	小守	講義室6A
12回	1	5	木	I	頭・頸部2 顔面(上唇、下唇、鼻部、口蓋)・舌・上顎骨・下顎骨の形成発育および歯の発生について理解する。	小守	講義室6A
13回	1	12	木	I	中枢神経系 脊髄の形成、神経細胞の分化、髄脳(延髄)、後脳(小脳、橋)、中脳、前脳(間脳、終脳)の形成、脳神経、自律神経の発生について理解する。	小守	講義室6A
14回	1	19	木	I	平衡聴覚器、視覚器、外皮 内耳、中耳、外耳の形成、網膜、虹彩、毛様体、水晶体、脈絡膜、強膜、角膜、硝子体の形成、表皮、真皮、毛、汗腺、乳腺の発生について理解する。	小守	講義室6A
15回	1	26	木	I	復習、総括 発生学全般の復習。これまでに学んだ発生学の知識を整理し、理解を深めるために、グループディスカッションを行う。	小守	講義室6A

年度 2016 学期 後期	曜日・校時 金・Ⅲ～Ⅳ	必修選択 必修	単位数 2
科目番号	25014103		
科目ナンバリング・コード	DNGD22041901		
授業科目名/(英語名)	組織学及び同実習/(Histology and Practice)		
対象年次 2 年次	講義形態 講義・実習形式	教室 第1 講義室、実習室 5B	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学総論		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 小守壽文/komorit@nagasaki-u.ac.jp /細胞生物学分野教授室/095-819-7630(内 7630)/16:30～18:30			
担当教員(オムニバス科目等)	講義:宮崎敏博 実習:宮崎敏博、森石武史		
授業の概要及び位置づけ			
<p>組織学は、顕微鏡を用いて正常組織の構造と機能を解析する学問で、将来歯科医として病理変化を正確に判断することができるように、正常な細胞組織の構造や形態を顕微鏡下で見る知識を習得させる。</p>			
授業到達目標			
<p>細胞や組織の名称を覚える。形態と機能の関係を説明できる。顕微鏡で標本を観察したときに、細胞や組織を判別できる。人体を構成する組織の基本的特徴と、各種臓器の組織構築と機能について理解させる。各種組織の基本構造と機能、および各種臓器の基本構造と機能を説明できる。また、実習では、各種細胞、組織、構造名を日本語と英語で覚える。</p>			
授業方法(学習指導法)			
<p>講義室での講義(3 時限目)と実習室での顕微鏡を用いた実習(4 時限目以降)を行う。講義は、パワーポイントとプリントを用いて行い、実習では、各種の人体や動物の組織プレパラートを用いて顕微鏡観察、スケッチを行う。</p>			
授業内容			
<p>1 回目:組織学とは・組織標本の作り方と顕微鏡 2 回目:上皮組織 3 回目:支持組織 (結合組織) 4 回目:支持組織 (軟骨・骨) 5 回目:筋組織 6 回目:神経組織 7 回目:循環器系 (血液・リンパ液・血管) 8 回目:総論のまとめ 9 回目:リンパ性器官 (リンパ節・胸腺・脾臓) 10 回目:消化器系付属器官 (肝臓・胆嚢・膵臓) 11 回目:呼吸器系 (喉頭・気管・肺) 12 回目:泌尿器系 (腎臓・尿管) 13 回目:生殖器系 (精巣・卵巣) 14 回目:内分泌系 (下垂体・甲状腺・副腎) 15 回目:感覚器系 (手掌・眼球)</p>			
キーワード	細胞、組織、器官、顕微鏡		
教科書・教材・参考書	<p>教科書: 入門組織学(牛木辰男著、南江堂) 参考書: 標準組織学総論・各論(藤田恒夫、藤田尚男著、医学書院) di Fiore 人体組織図譜(Victor P. Eroschenko 著、藤田恒夫訳、南江堂) 教材:プレゼンテーションの一部をプリント配布、ヒトおよび各種動物の組織標本</p>		
成績評価の方法・基準等	<p>パワーポイントを用いて筆記試験と実習試験をあわせた出題形式で行う。中間(35%)・定期(65%)の2度に分けて行い、総合的に評価する。</p>		
受講要件(履修条件)	なし		
備考(学生へのメッセージ)	<p>前回は渡すプリントを用いて、各回の授業内容を予習しておく。 教科書・図譜の写真や図だけを見て覚えるのではなく、顕微鏡を用いて、自分の目で細胞・組織の種類や構造を識別できるようになって下さい。</p>		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	9	30	金	Ⅲ～Ⅳ	組織学総論:組織学とは・組織標本の作り方と顕微鏡 組織学とは何かを概説し、光学顕微鏡・電子顕微鏡観察のための標本の作り方と顕微鏡について説明する。実習では顕微鏡の使い方を学ぶ。	宮崎	第1講義室・実習室5B
2回	10	7	金	Ⅲ～Ⅳ	組織学総論:上皮組織 上皮組織を分類し、構成する細胞の形態的および機能的特徴について講義する。また、上皮組織の顕微鏡観察を行う。	宮崎	第1講義室・実習室5B
3回	10	14	金	Ⅲ～Ⅳ	組織学総論:支持組織(結合組織) 結合組織の種類を分類し、それを構成する成分および機能について講義する。また、結合組織の顕微鏡観察を行う。	宮崎	第1講義室・実習室5B
4回	10	21	金	Ⅲ～Ⅳ	組織学総論:支持組織(軟骨・骨) 軟骨の種類とその構成成分の特徴、骨組織の特徴、および軟骨と骨の形成過程について講義する。また、軟骨・骨組織の顕微鏡観察を行う。	宮崎	第1講義室・実習室5B
5回	10	28	金	Ⅲ～Ⅳ	組織学総論:筋組織 筋組織を分類し、その組織学的な特徴と機能について講義する。 また、筋組織の顕微鏡観察を行う。	宮崎	第1講義室・実習室5B
6回	11	4	金	Ⅲ～Ⅳ	組織学総論:神経組織 神経組織について、神経細胞体と神経線維、および膠細胞の組織学的特徴と機能について講義する。また、神経組織の顕微鏡観察を行う。	宮崎	第1講義室・実習室5B
7回	11	11	金	Ⅲ～Ⅳ	組織学総論:循環器系(血液・リンパ・血管) 血液細胞を分類し、その形態学的特徴と機能について講義する。また、血管およびリンパ管の組織学的特徴について解説する。血球の顕微鏡観察を行う。	宮崎	第1講義室・実習室5B
8回	11	18	金	Ⅲ～Ⅳ	組織学総論のまとめの講義を行う	宮崎	第1講義室・実習室5B
9回	11	25	金	Ⅲ～Ⅳ	組織学各論:リンパ性器官 リンパ性器官の組織学的特徴と機能について講義する。 リンパ節、胸腺、脾臓の顕微鏡観察を行う。	宮崎	第1講義室・実習室5B
10回	12	2	金	Ⅲ～Ⅳ	組織学各論:消化器系付属器官 肝臓、胆嚢、膵臓の組織学的特徴と機能について講義し、それらの顕微鏡観察を行う。	宮崎	第1講義室・実習室5B
11回	12	9	金	Ⅲ～Ⅳ	組織学各論:呼吸器系 気道を構成する呼吸器系の組織学的特徴について講義する。 喉頭、気管、肺の顕微鏡観察を行う。	宮崎	第1講義室・実習室5B
12回	12	16	金	Ⅲ～Ⅳ	組織学各論:泌尿器系 泌尿器の組織学的特徴と機能について講義する。 腎臓と尿管の顕微鏡観察を行う。	宮崎	第1講義室・実習室5B
13回	1	6	金	Ⅲ～Ⅳ	組織学各論:生殖器系 精巣と卵巣の組織学的特徴と機能について講義し、それらの顕微鏡観察を行う。	宮崎	第1講義室・実習室5B
14回	1	13	金	Ⅲ～Ⅳ	組織学各論:内分泌系 内分泌器官の組織学的特徴と機能について講義する。 下垂体、甲状腺、副腎の顕微鏡観察を行う。	宮崎	第1講義室・実習室5B
15回	1	27	金	Ⅲ～Ⅳ	組織学各論:感覚器系(手掌・眼球)。 感覚器系の組織学的特徴について講義する。 手掌に含まれる感覚装置、および眼球の顕微鏡観察を行う。	宮崎	第1講義室・実習室5B

年度 2016 学期 前期	曜日・校時 水・I～II	必修選択 必修	単位数 1.5
科目番号	25014104		
科目ナンバリング・コード	DNGD22051902		
授業科目名/(英語名)	生理学/(Physiology)		
対象年次 2年次	講義形態 講義形式	教室 第2講義室	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学総論		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 岡田幸雄/okada@nagasaki-u.ac.jp /生体情報科学分野准教授室/095-819-7637(内 7637)/水曜日 17:00-18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	岡田幸雄、藤山理恵		
授業の概要及び位置づけ			
身体を構成する組織と器官の機能を理解し、これらの個体への統合をめざす。			
授業到達目標			
神経系の機能を説明できる。運動系の機能を説明できる。感覚系の機能を説明できる。循環器系の機能を説明できる。呼吸器系の機能を説明できる。泌尿器系の機能を説明できる。内分泌系の機能を説明できる。			
授業方法(学習指導法)			
液晶プロジェクターや板書で授業を進め、必要に応じてプリントを配布する。			
授業内容			
1回目	生理学序説	4月 6日(水)	岡田 幸雄
2回目	細胞機能の基礎	4月 6日(水)	岡田 幸雄
3回目	細胞の興奮 I	4月13日(水)	藤山 理恵
4回目	細胞の興奮 II	4月13日(水)	藤山 理恵
5回目	シナプス伝達 I	4月20日(水)	岡田 幸雄
6回目	シナプス伝達 II	4月20日(水)	岡田 幸雄
7回目	自律神経	4月27日(水)	岡田 幸雄
8回目	内分泌	4月27日(水)	岡田 幸雄
9回目	生殖・排泄	5月11日(水)	岡田 幸雄
10回目	血液	5月11日(水)	岡田 幸雄
11回目	心臓	5月18日(水)	藤山 理恵
12回目	循環	5月18日(水)	藤山 理恵
13回目	呼吸	5月25日(水)	岡田 幸雄
14回目	骨格筋の収縮	5月25日(水)	岡田 幸雄
15回目	運動系 I	6月 1日(水)	岡田 幸雄
16回目	運動系 II	6月 1日(水)	岡田 幸雄
17回目	感覚総論・体性感覚	6月15日(水)	岡田 幸雄
18回目	聴覚・平衡感覚	6月15日(水)	岡田 幸雄
19回目	視覚	6月22日(水)	藤山 理恵
20回目	脳の統合機能 I	6月22日(水)	岡田 幸雄
21回目	脳の統合機能 II	6月29日(水)	岡田 幸雄
22回目	まとめ	6月29日(水)	岡田 幸雄
23回目	定期考査		
キーワード	ホメオスタシス, 神経, 興奮, 反射, 感覚, 運動, 脳, 心臓, 血管, 肺, 腎臓, ホルモン		
教科書・教材・参考書	教科書は用いない。 参考書1: 生理学テキスト 第7版, 大地陸男著, 文光堂 参考書2: 基礎歯科生理学 第6版, 森本・山田・二ノ宮・岩田編, 医歯薬出版 参考書3: 標準生理学 第8版, 小澤澗司ら編集, 医学書院 参考書4: ギャノン生理学 原書24版, 岡田泰伸ら訳, 丸善		
成績評価の方法・基準等	期末試験の成績により評価する。		
受講要件(履修条件)	なし		
備考(学生へのメッセージ)	細胞生物学を復習しておくこと。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	6	水	I	生理学の位置づけ, ホメオスタシス, 細胞膜での物質輸送について学習する。	岡田幸雄	第2講義室
2回	4	6	水	II	細胞間のシグナル伝達, 受容体, Gタンパク質, 二次メッセンジャー, 細胞内Ca ²⁺ ホメオスタシスについて学習する。	岡田幸雄	第2講義室
3回	4	13	水	I	刺激と興奮, 静止電位, 活動電位, 興奮発生の機序について理解する。	藤山理恵	第2講義室
4回	4	13	水	II	興奮伝導のメカニズム, 興奮伝導の三原則, 跳躍伝導, 神経幹の活動電位, 伝導速度, 神経線維の分類について理解する	藤山理恵	第2講義室
5回	4	20	水	I	シナプスの構造, 神経筋接合部での情報伝達機序, 興奮性シナプス後電位(EPSF), 抑制性シナプス後電位(IPSP), シナプス前抑制について学習する。	岡田幸雄	第2講義室
6回	4	20	水	II	神経伝達物質の種類, 伝達物質の放出機序と受容機序, シナプス伝達の統合, シナプス伝達の増強について学習する。	岡田幸雄	第2講義室
7回	4	27	水	I	自律神経系の構成, 二重支配, 拮抗支配, 自律神経系での伝達物質とその受容体について学習する。	岡田幸雄	第2講義室
8回	4	27	水	II	内分泌系のカスケードについて理解する。自律神経系の制御と内分泌系の制御機構について説明できるようになる。	岡田幸雄	第2講義室
9回	5	11	水	I	性の分化と発達, 生殖生理, 糸球体ろ過, 尿管における再吸収と分泌, 尿の濃縮と希釈について学習する。	岡田幸雄	第2講義室
10回	5	11	水	II	血液成分, 赤血球の働き, 白血球の働き, 血液型, 血液凝固機序について学習する。	岡田幸雄	第2講義室
11回	5	18	水	I	心臓の構造, 心臓内興奮伝搬と自動性, 心臓の支配神経, 心電図, 心臓の収縮について理解する。	藤山理恵	第2講義室
12回	5	18	水	II	全身各部の血流量, 血管系の機能的区分, 血行力学, 動脈血圧, 微小循環, 循環調節, 特殊部位の循環について理解する。	藤山理恵	第2講義室
13回	5	25	水	I	肺の構造, 肺でのガス交換, 血液中のガス運搬, 呼吸運動の調節機序, 呼吸力学, 酸塩基平衡について学習する。	岡田幸雄	第2講義室
14回	5	25	水	II	筋収縮の機序, 滑走説, 運動単位, 力の調節, 筋細胞のATP分解過程について学習する。	岡田幸雄	第2講義室
15回	6	1	水	I	運動系の基本となる単シナプス反射, 多シナプス反射のメカニズムについて説明する。脊髄における反射経路を説明できるようになる。	岡田幸雄	第2講義室
16回	6	1	水	II	上位運動ニューロンによる運動制御, 基底核と小脳による運動調節について学習する。	岡田幸雄	第2講義室
17回	6	15	水	I	感覚と知覚の機能について解説する。体性感覚の種類と特性について解説する。精神物理学的法則を理解する。	岡田幸雄	第2講義室
18回	6	15	水	II	聴覚器の構造, 音の受容機序, 聴覚系神経経路, 聴覚の遠心性調節, 前庭器官の構造について学習する。	岡田幸雄	第2講義室
19回	6	22	水	I	眼球の構造, 眼球の光学系, 網膜での光受容と視覚情報処理, 感覚としての視覚について理解する。	藤山理恵	第2講義室
20回	6	22	水	II	大脳皮質, 特に連合野の働き, 視床下部の働きについて学習する。	岡田幸雄	第2講義室
21回	6	29	水	I	学習の分類と機序, 記憶の分類, 記憶障害, 覚醒と睡眠の調節, 睡眠の段階, 脳波について学習する。	岡田幸雄	第2講義室
22回	6	29	水	II	まとめ	岡田幸雄	第2講義室

年度 2016 学期 前期	曜日・校時 金・Ⅲ～Ⅳ(13:00～16:30)	必修選択 必修	単位数 1.5
科目番号	25014105		
科目ナンバリング・コード	DNGD22061902		
授業科目名/(英語名)	生理学実験/(Laboratory in Physiology)		
対象年次 2年次	講義形態 実習形式	教室 実習室 5C	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学総論		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスパワー 藤山理恵/rierika@nagasaki-u.ac.jp /A棟4階406号室/095-819-7638(内7638)/金曜 17:00～18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	藤山理恵、岡田幸雄		
授業の概要及び位置づけ			
生体および動物を用いた実験により生理学を学ぶ。生きた組織や器官を扱う機会は非常に少ないので、生理学実験を体験することで、教科書で理解不十分どころがわかるようになる。			
授業到達目標			
項目終了後の試問を容易に回答でき、教科書では理解しにくかったことが説明できる。各項目の実験目的と方法が説明できる。各項目の実験を行う上での注意点が述べられる。			
授業方法(学習指導法)			
実習は14項目あり、各人が全ての項目を行う。各実習終了後に試問を行い、実習結果をレポートにまとめさせる。			
授業内容			
1回目	オリエンテーション	担当:藤山理恵	
2回目	味覚修飾物質による味覚実験	担当:藤山理恵	
3回目	テーストディスク法および電気味覚計を用いた味覚検査	担当:藤山理恵	
4回目	滴下法およびPROPによる味覚検査	担当:藤山理恵	
5回目	PTC味盲検査	担当:藤山理恵	
6回目	感覚点と二点弁別閾	担当:藤山理恵	
7回目	心臓収縮曲線と期外収縮・代償性休止	担当:岡田幸雄	
8回目	心臓に対する薬物の作用	担当:岡田幸雄	
9回目	筋電図	担当:藤山理恵	
10回目	咀嚼・嚥下	担当:藤山理恵	
11回目	除脳(1)	担当:藤山理恵	
12回目	除脳(2)	担当:藤山理恵	
13回目	ヒト味覚器とネズミ嗅覚器の応答(1)	担当:岡田幸雄	
14回目	ヒト味覚器とネズミ嗅覚器の応答(2)	担当:岡田幸雄	
15回目	生理学実験総括	担当:藤山理恵・岡田幸雄	
キーワード	味覚, 口腔内感覚, 皮膚感覚, 心機能, 筋電図		
教科書・教材・参考書	教科書 教科書は用いない。 参考書 1 解剖生理学実験テキスト 生理学編、木本・戸田著、おうふう出版 2 基礎歯科生理学、第6版、森本・山田・二ノ宮・岩田編、医歯薬出版 3 ギャング生理学、原著第24版、岡田ら訳、丸善 4 標準生理学、第8版、小澤ら編集、医学書院		
成績評価の方法・基準等	レポート・実習に臨む姿勢(特に遅刻および無断欠席は減点の対象とする)と定期試験の成績により評価する。		
受講要件(履修条件)	なし		
備考(学生へのメッセージ)	1) 項目3から項目10は班ごとに行い、全員が終了するまで実習を行う。そのため終了時間が講義時間を越えて延長することもある。 2) 事前に実験項目を参考書等で予習し、実験の目的・方法を理解しておくこと。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	1	金	III	オリエンテーション 生理学実験の内容および手順を解説する。 実験を行う際の注意事項について説明する。またパンフレットを配付する。	藤山理恵	実習室5C
2回	4	1	金	IV	味覚修飾物質についての解説および実験 味覚修飾物質について学び、それを用いた実験を行う。 全員が味覚障害を体験する。	藤山理恵	実習室5C
3回	4	8	金	III	テーストディスク法および電気味覚計を用いた味覚検査 ヒトの基本味の閾値(舌および軟口蓋における部位差)を測定する。 電気味覚計を用いて味覚検査を行う。	藤山理恵	実習室5C
4回	4	8	金	IV	滴下法およびPROPによる味覚検査 全口腔法による基本味の閾値を測定する。6-Propyl-2-thiouracil (PROP)の 感受性を調べる。	藤山理恵	実習室5C
5回	4	15	金	III	PTC味覚検査 フェニールチオカルバミド(PTC)の感受性を調べる。	藤山理恵	実習室5C
6回	4	15	金	IV	感覚点と二点弁別閾 皮膚の感覚点(痛点・圧点・温点・冷点)を測定する。 皮膚及び口腔粘膜の2点弁別閾を求める。	藤山理恵	実習室5C
7回	4	22	金	III	心臓収縮曲線と期外収縮・代償性休止 カエルの心臓収縮曲線について実験する。 カエルの心臓を用いて期外収縮と代償性休止について実験する。	岡田幸雄	実習室5C
8回	4	22	金	IV	心臓に対する薬物の効果 カエルの心臓収縮曲線に対する薬物アセチルコリンとアトロピンの作用 について実験する。	岡田幸雄	実習室5C
9回	5	13	金	III	筋電図 咀嚼筋から下顎張反射の筋活動を記録する。	藤山理恵	実習室5C
10回	5	13	金	IV	咀嚼・嚥下 咀嚼・嚥下時の咀嚼筋活動を記録する。	藤山理恵	実習室5C
11回	5	20	金	III	除脳(1) ネコの除脳の方法とその効果に関するビデオ映像を視聴しながら、 脳の働きを理解する。	藤山理恵	実習室5C
12回	5	20	金	IV	除脳(2) 除脳について学んだことをレポートにまとめる。	藤山理恵	実習室5C
13回	5	27	金	III	ヒト味覚器とネズミ嗅覚器の応答(1) ヒトの味細胞とネズミ嗅細胞を単離し生理的応答を記録するビデオを視聴 しながら、そのような研究の有用性を理解する。	岡田幸雄	実習室5C
14回	5	27	金	IV	ヒト味覚器とネズミ嗅覚器の応答(2) ヒト味覚器とネズミ嗅覚器の研究法をレポートにまとめる。	岡田幸雄	実習室5C
15回	6	3	金	III～IV	生理学実験総括 各項目で作成したレポートをまとめる。	藤山理恵 岡田幸雄	実習室5C

年度 2016 学期 前期	曜日・校時 金・I～II	必修選択 必修	単位数 1.5
科目番号	25014106		
科目ナンバリング・コード	DNGD22071905		
授業科目名/(英語名)	生化学/(Biochemistry)		
対象年次 2年次	講義形態 講義・演習形式	教室 第2講義室	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学総論		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィシアワー 根本孝幸/tnemoto@nagasaki-u.ac.jp /A棟2階口腔分子生化学分野教授室/095-819-7640(内7640)/月,金曜 13:00～18:30			
担当教員(オムニバス科目等)	根本孝幸,根本優子,馬場友巳		
授業の概要及び位置づけ			
生命現象の基本となる生体分子の構造と機能,及び生化学反応の原理や代謝反応を学び,生命活動を分子レベルの現象として理解する。			
授業到達目標			
(1) アミノ酸,単糖,脂肪酸,ヌクレオチドの構造や代謝系を説明できる。 (2) それらの重合体である生体高分子の構造と機能,及びその代謝系を説明できる。 (3) 基礎的な化学平衡,化学反応速度論,熱力学を説明できる。 (4) 遺伝情報の流れを説明できる。 (5) 細胞内微小構造とその間での物質やエネルギーの移動を説明できる。			
授業方法(学習指導法)			
教科書の内容を中心にプロジェクターを用いた講義と演習問題を解くことによって進行する。特に1年次細胞生物学入門で既習の章は演習問題が中心となる。プレ・ポストテスト,質疑応答により理解度を確認し,科学的思考力の涵養を図る。			
授業内容			
	1回目	2章 細胞の化学成分	4/1 (I) 根本 孝幸
	2回目	2章 細胞の化学成分 演習	4/1 (II) 根本 孝幸
	3回目	3章 エネルギー,触媒作用,生合成	4/8 (I) 根本 孝幸
	4回目	3章 エネルギー,触媒作用,生合成 演習	4/8 (II) 根本 孝幸
	5回目	4章 タンパク質の構造と機能	4/15 (I) 根本 孝幸
	6回目	4章 タンパク質の構造と機能 演習	4/15 (II) 根本 孝幸
	7回目	5章 DNAと染色体	4/22 (II) 馬場 友巳
	8回目	6章 DNAの複製,修復,組換え	5/13 (I) 馬場 友巳
	9回目	6章 DNAの複製,修復,組換え 演習	5/13 (II) 馬場 友巳
	10回目	7章 DNAからタンパク質へ	5/20 (I) 根本 優子
	11回目	7章 DNAからタンパク質へ 演習	5/20 (II) 根本 優子
	12回目	8章 遺伝子発現の調節	5/27 (I) 馬場 友巳
	13回目	8章 遺伝子発現の調節 演習	5/27 (II) 馬場 友巳
	14回目	9章 遺伝子とゲノムの進化	6/3 (II) 根本 優子
	15回目	13章 細胞が食物からエネルギーを得るしくみ	6/10 (I) 根本 優子
	16回目	14章 ミトコンドリアにおけるエネルギー生産	6/10 (II) 根本 優子
	17回目	10章 遺伝子とゲノムの解析	6/17 (I) 根本 孝幸
	18回目	10章 遺伝子とゲノムの解析 演習	6/17 (II) 根本 孝幸
	19回目	15章 細胞内区画と細胞内輸送	6/24 (II) 根本 孝幸
	20回目	分子シャペロンと細胞のQOL	7/1 (II) 根本 孝幸
	21回目	19章 性と遺伝学	7/8 (II) 根本 優子
	22回目	細菌の病原性とペプチダーゼ(教室の研究紹介)	7/15 (II) 根本 孝幸
キーワード	生体高分子,遺伝子,酵素,核酸,タンパク質,糖質,脂質,シグナル伝達		
教科書・教材・参考書	教科書: Essential 細胞生物学 原著第3版(南江堂) 参考書: Dr. 根来&ヴィージェイの明快バイオケミストリー(NTS)		
成績評価の方法・基準等	定期試験 90%。レポート(LACS問題を含む) 5%。 その他:「Qカード」の質問内容によっては加点することがある(<5%)。		
受講要件(履修条件)	なし		
備考(学生へのメッセージ)	教科書,LACSでの予習復習が必須。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	1	金	I	2章 細胞の化学成分	根本 孝幸	第2講義室
2回	4	1	金	II	2章 細胞の化学成分 演習	根本 孝幸	第2講義室
3回	4	8	金	I	3章 エネルギー, 触媒作用, 生合成	根本 孝幸	第2講義室
4回	4	8	金	II	3章 エネルギー, 触媒作用, 生合成, 演習	根本 孝幸	第2講義室
5回	4	15	金	I	4章 タンパク質の構造と機能	根本 孝幸	第2講義室
6回	4	15	金	II	4章 タンパク質の構造と機能 演習	根本 孝幸	第2講義室
7回	4	22	金	II	5章 DNAと染色体	馬場 友巳	第2講義室
8回	5	13	金	I	6章 DNAの複製, 修復, 組換え	馬場 友巳	第2講義室
9回	5	13	金	II	6章 DNAの複製, 修復, 組換え, 演習	馬場 友巳	第2講義室
10回	5	20	金	I	7章 DNAからタンパク質へ	根本 優子	第2講義室
11回	5	20	金	II	7章 DNAからタンパク質へ 演習	根本 優子	第2講義室
12回	5	27	金	I	8章 遺伝子発現の調節	馬場 友巳	第2講義室
13回	5	27	金	II	8章 遺伝子発現の調節 演習	馬場 友巳	第2講義室
14回	6	3	金	II	9章 遺伝子とゲノムの進化	根本 優子	第2講義室
15回	6	10	金	I	13章 細胞が食物からエネルギーを得るしくみ エネルギー生産 演習	根本 優子	第2講義室
16回	6	10	金	II	14章 ミトコンドリアにおけるエネルギー生産	根本 優子	第2講義室
17回	6	17	金	I	10章 遺伝子とゲノムの解析	根本 孝幸	第2講義室
18回	6	17	金	II	10章 遺伝子とゲノムの解析 演習	根本 孝幸	第2講義室
19回	6	24	金	II	15章 細胞内区画と細胞内輸送 演習	根本 孝幸	第2講義室
20回	7	1	金	II	分子シャペロンと細胞のQOL	根本 孝幸	第2講義室
21回	7	8	金	II	19章 性と遺伝学	根本 優子	第2講義室
22回	7	15	金	II	細菌の病原性とペプチダーゼ(教室の研究紹介)	根本 孝幸	第2講義室

年度 2016 学期 前期	曜日・校時 木・Ⅲ～Ⅳ	必修選択 必修	単位数 1
科目番号	25014107		
科目ナンバリング・コード	DNGD22081905		
授業科目名/(英語名)	生化学実験/(Practice of Biochemistry)		
対象年次 2年次	講義形態 実習形式	教室 実習室 5A	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学総論		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 馬場友巳/baba@nagasaki-u.ac.jp /A棟 2階口腔分子生化学分野/095-819-7641(内 7641)/木曜 12:00～12:30、16:30～18:30			
担当教員(オムニバス科目等)	馬場友巳,根本孝幸,根本優子,小早川健,立川絵里,大坪嘉昭(非常勤講師)		
授業の概要及び位置づけ			
<p>タンパク質などの定量実験,遺伝子増幅法,酵素反応解析法などを実施し,その技術を身につけるとともに,これまでにどのような実験や観察によって科学的な知見が得られてきたかを理解する。課題レポート及び実習レポートの作成を通じて,論理性を身につけることを目的とする。生化学実験と生化学講義は車の両輪である。生化学講義で学んだ事実は過去の数多くの生化学実験結果に基づいていることを理解する。</p>			
授業到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1.各実習内容を説明できる。 2.生化学の基礎的技術を用いて実験が遂行できる。 3.実験結果をまとめ,レポートや口頭で発表できる。 			
授業方法(学習指導法)			
2～5人のグループによる実習を行う。実験内容を理解するため,指定期日までに課題に解答する。実習指定期日までにレポートを提出する。質疑応答及びディベート形式の口頭試問を通して理解を深める。			
授業内容			
<ol style="list-style-type: none"> 1回目 オリエンテーション・分光測光法:実習に関するガイダンスを行い,引き続き分光光度計の使用法を学び,分光測光法の原理を理解する。 2回目 タンパク質の定量:呈色反応について概説し,タンパク質の定量をローリー法で行う。 3回目 DNAの精製:頬粘膜上皮細胞からDNAを精製し,定量する。 4回目 PCR法:ALDH2遺伝子をPCRにより増幅する。 5回目 制限酵素反応:PCR産物を制限酵素で切断し,アガロースゲル電気泳動で分離する。泳動結果から遺伝子型を判別する。 6回目 SDS電気泳動法によるタンパク質分子量の決定:SDS電気泳動の理論とその手技を学ぶ。分子量に依存してタンパク質が泳動すること,また還元されることにより移動度が変化することを観察する。 7回目 酵素反応:酵素反応の理論と実際を学ぶ。ミカエリス定数(K_m)と最大反応速度(V_{max})を算出する。 8回目 ゲルクロマトグラフィー:生体高分子を分子量で分画するゲルクロマトグラフィー(ゲルろ過)法を学ぶ。タンパク質及びDNAの電気泳動の違いを理解する。 9回目 血糖,尿糖の分析:尿や血液中の糖の分析を行い,得られた値とその意味を理解する。 10回目 ディベート形式口頭試問, 討論, まとめ 			
キーワード	定量実験, PCR, クロマトグラフィー, 分光光度計		
教科書・教材・参考書	教科書:口腔分子生化学教室編集の生化学実験テキスト(LACSにも掲載)を配布 参考書:Essential細胞生物学第3版(生化学教科書)		
成績評価の方法・基準等	定期試験時に筆記試験を実施する。受験資格, 追試験, 再試験は学部規則に沿って行う。 ただし, レポート提出まで完了して出席とみなすため, 未提出者は受験資格を失う可能性がある ので注意。期末定期試験 63%;実習レポート 30%;課題 2%;口頭試問 5%		
受講要件(履修条件)	なし		
備考(学生へのメッセージ)	実習書を読み, 実習の意味と流れをつかむ。実習手順のプロトコールを作成し, 実習に臨むこと。 LACSに課題を出題するので解答すること。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	7	木	Ⅲ～Ⅳ	(全員)オリエンテーション・分光測光法 実習器具や装置の取り扱い方、及びレポートの書き方等のガイダンスを行う。 溶液の希釈法や分光光度計の使用法を学び、測定法の原理を理解する。	馬場 小早川 立川	実習室5A
2回	4	14	木	Ⅲ～Ⅳ	(前半グループ)タンパク質の定量 血清アルブミン等をローリー法で定量し、各々の呈色性を比較する。 (後半グループ)DNAと遺伝子変異1 細胞からDNAを精製し、PCRにより遺伝子を増幅する。	小早川 根本Y 立川	実習室5A
3回	4	21	木	Ⅲ～Ⅳ	(前半グループ)ゲルクロマトグラフィー ブルーデキストラン、チトクロム、 <i>p</i> -ニトロフェノールの混合物を分離する。 (後半グループ)DNAと遺伝子変異2 制限酵素処理及びアガロースゲル電気泳動を行い、遺伝子型を判定する。	小早川 根本Y 立川	実習室5A
4回	4	28	木	Ⅲ～Ⅳ	(前半グループ)DNAと遺伝子変異1 細胞からDNAを精製し、PCRにより遺伝子を増幅する。 (後半グループ)タンパク質の定量 血清アルブミン等をローリー法で定量し、各々の呈色性を比較する。	根本Y 立川 小早川	実習室5A
5回	5	12	木	Ⅲ～Ⅳ	(前半グループ)DNAと遺伝子変異2 制限酵素処理及びアガロースゲル電気泳動を行い、遺伝子型を判定する。 (後半グループ)ゲルクロマトグラフィー ブルーデキストラン、チトクロム、 <i>p</i> -ニトロフェノールの混合物を分離する。	根本Y 立川 小早川	実習室5A
6回	5	19	木	Ⅲ～Ⅳ	(前半グループ)酵素反応 アルカリホスファターゼの K_m と V_{max} を求める。 (後半グループ)SDS電気泳動 還元及び非還元状態で電気泳動を行う。	根本T 立川 馬場	実習室5A
7回	5	26	木	Ⅲ～Ⅳ	(前半グループ)SDS電気泳動 還元及び非還元状態で電気泳動を行う。 (後半グループ)酵素反応 アルカリホスファターゼの K_m と V_{max} を求める。	馬場 根本T 立川	実習室5A
8回	6	2	木	Ⅲ～Ⅳ	(全員)血糖、尿糖の分析および片付け 試験紙法及び古典的なベネディクト法により糖の測定を行う。	大坪他 全員	実習室5A
9回	6	9	木	Ⅲ～Ⅳ	(全員)ディベート形式口頭試問(前半) 到達目標に基づき、学生同士、個人単位で質疑応答を行う。	根本T 根本Y	別途指示
10回	6	16	木	Ⅲ～Ⅳ	(全員)ディベート形式口頭試問(後半) 到達目標に基づき、学生同士、個人単位で質疑応答を行う。	馬場 小早川	別途指示

年度 2016 学期 後期	曜日・校時 金・I	必修選択 必修	単位数 1
科目番号	25014108		
科目ナンバリング・コード	DNGD22091985		
授業科目名/(英語名)	歯科理工学 I / (Dental Materials Science and Engineering I)		
対象年次 2 年次	講義形態 講義形式	教室 第1 講義室	
対象学生(クラス等)	科目分類	口腔生命科学総論	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスパワー 渡邊郁哉/ikuyaw@nagasaki-u.ac.jp / 歯学部 5 階生体材料学分野教授室/095-819-7656(内 7656)/金曜 15:00~17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	渡邊郁哉、白石孝信		
授業の概要及び位置づけ			
<p>種々の歯科材料の機械的, 物理的, 化学的性質を正しく理解するために必要な基礎的知識を身につける。また, 歯科精密鑄造法と鑄造関連諸材料の特性を理解する。</p> <p>口腔内や口腔外で使用される種々の歯科材料の性質を正しく理解し, 優れた性質を引き出すために必要な基礎知識を習得する。/種々の歯科材料や生体材料の組成, 構造, 性質を説明できる。</p>			
授業到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ○ 金属材料, セラミック材料, 高分子材料, 複合材料の構造と特徴を説明できる。 ○ 歯科生体材料の所要性質を説明できる。 ○ 各種歯科材料の物理的性質, 化学的性質, 機械的性質を説明できる。 ○ 歯科用陶材の組成, 物性, 成形技術を説明できる。 ○ 骨補填材料の種類と所要性質を説明できる。 ○ 歯科精密鑄造法の原理と特徴, 鑄造欠陥の防止法を説明できる。 			
授業方法(学習指導法)			
授業中に配付するプリントに基づいて講義する。理解を深めるため, OHP や液晶プロジェクターなどを適宜利用する。授業中に質問したり, 課題を与えてレポート提出を求める場合がある。			
授業内容			
<ol style="list-style-type: none"> 1 回目: 歯科材料と生体材料について概説し, 歯科材料の所要性質を解説する。 2 回目: 歯科材料の物理的性質について説明する。 3 回目: 歯科材料の機械的性質について説明する。① 4 回目: 歯科材料の機械的性質について説明する。② 5 回目: 歯科精密鑄造の工程と種々の鑄造法について説明する。 6 回目: 歯科材料の化学的性質について説明する。 7 回目: 合金の融解方法と鑄造収縮の要因を説明するとともに, 鑄造収縮を補償するための具体的方法を解説する。 8 回目: 鑄造欠陥の種類, 成因, およびその防止策を解説する。 9 回目: 歯科用合金の性質を考察する上で重要な二元合金の状態図を解説する。 10 回目: 予防歯科材料の概要, 種類, 所要性質, 取扱い方法を説明する。 11 回目: 人工歯根, 骨補填材料の種類と所要性質について説明する。 12 回目: 金属の成形加工に関連する諸現象について説明する。 13 回目: 接着の機構, 接着強さの測定法, および接着部材の破壊様式を解説する。 14 回目: 歯科用陶材の分類, 組成, 物性, 成形技術を解説する。① 15 回目: 歯科用陶材の分類, 組成, 物性, 成形技術を解説する。② 			
キーワード	歯科材料, 生体材料, 接着, 陶材, 骨補填材料, 歯科精密鑄造		
教科書・教材・参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1.スタンダード歯科理工学, 学建書院 2.歯科材料学事典, 山根正次監修, 学建書院 3.スキンナー歯科材料学(上, 中, 下), 医歯薬出版 4.歯科鑄造の話, 井田一夫著, クインテッセンス出版 5.続・歯科鑄造の話, 井田一夫著, クインテッセンス出版 <p>※教材として授業中にプリントを配付する。</p>		
成績評価の方法・基準等	筆記試験(90%)と課題レポート等(10%)で評価する。定期試験のみでは範囲が広がるため, 途中で範囲を限定して中間試験を実施することがある。追試験(特別な理由がある場合のみ1回)と再試験を実施する。再試験の評価は本試験の結果を考慮する。		
受講要件(履修条件)	2/3 以上の出席を受験資格とする。		
備考(学生へのメッセージ)	予習と復習を確実に実行すること。授業中に配布するプリントを中心に授業を進めるが, 理解を深めるために各自で教科書や参考書を準備すること。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	9	30	金	I	歯科材料概論 歯科材料と生体材料について概説し、歯科材料の所要性質を解説する。	渡邊	第1講義室
2回	10	7	金	I	歯科材料の一般的性質① 歯科材料の物理的性質について説明する。	白石	第1講義室
3回	10	14	金	I	歯科材料の一般的性質② 歯科材料の機械的性質について説明する。①	白石	第1講義室
4回	10	21	金	I	歯科材料の一般的性質③ 歯科材料の機械的性質について説明する。②	白石	第1講義室
5回	10	28	金	I	歯科精密鑄造法 歯科精密鑄造の工程と種々の鑄造法について説明する。	渡邊	第1講義室
6回	11	4	金	I	歯科材料の一般的性質④ 歯科材料の化学的性質について説明する。	白石	第1講義室
7回	11	11	金	I	合金の融解・鑄造収縮 合金の融解方法と鑄造法について説明する。鑄造収縮の要因を説明するとともに、鑄造収縮を補償するための具体的方法を解説する。	渡邊	第1講義室
8回	11	18	金	I	鑄造欠陥 鑄造欠陥の種類、成因、およびその防止策を解説する。	渡邊	第1講義室
9回	11	25	金	I	合金の状態図 歯科用合金の性質を考察する上で重要な二元合金の状態図を解説する。	白石	第1講義室
10回	12	2	金	I	予防歯科材料 予防歯科材料の概要、種類、所要性質について説明する。	渡邊	第1講義室
11回	12	9	金	I	人工歯根と骨補填材料 人工歯根、骨補填材料の種類と所要性質について説明する。	渡邊	第1講義室
12回	12	16	金	I	金属の成形加工 金属の成形加工に関連する諸現象について説明する。	白石	第1講義室
13回	1	6	金	I	材料の接着 接着の機構、接着強さの測定法、および接着部材の破壊様式を解説する。	白石	第1講義室
14回	1	13	金	I	歯科用陶材① 歯科用陶材の分類、組成、物性、成形技術を解説する。①	白石	第1講義室
15回	1	27	金	I	歯科用陶材② 歯科用陶材の分類、組成、物性、成形技術を解説する。②	白石	第1講義室

年度 2016 学期 後期	曜日・校時 金・II	必修選択 必修	単位数 1
科目番号	25014109		
科目ナンバリング・コード	DNGD22101985		
授業科目名/(英語名)	歯科理工学 II / (Dental Materials Science and Engineering II)		
対象年次 2 年次	講義形態 講義形式	教室 第1 講義室	
対象学生(クラス等)	科目分類	口腔生命科学総論	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 渡邊郁哉/ikuyaw@nagasaki-u.ac.jp / 歯学部 5 階生体材料学分野教授室/095-819-7656(内 7656)/金曜 15:00~17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	渡邊郁哉、白石孝信、バラネザハド		
授業の概要及び位置づけ			
<p>高分子材料とセラミック材料について、物理的ならびに化学的意味を現象論的に説明し、歯科材料への適用の意義を理解させる。歯科材料の特性、組成、構造を通して材料の選択基準を理解させるとともに、その材料ならびに機械・器具に対する適切な取り扱い方法を実行できる知識を身につけさせる。このことにより、臨床家としての材料の選択や使用方法に関する価値判断ができるものであり、患者ならびに医療スタッフへの説得ある説明が可能になる。</p> <p>様々な修復物の作製工程で必要になる種々の歯科材料、機械・器具類に関する基本的知識を習得する科目である。歯科材料の性質をよく理解し、その特性を活かした使用が出来るようになるための基礎知識を身につける。</p>			
授業到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ○ 各種歯科材料の種類とその性質を説明できる。 ○ 技工技術の特徴を使用機器と関連づけて説明できる。 			
授業方法(学習指導法)			
授業中に配布するプリントと教科書を中心に講義を進める。課題を与えてレポートを提出させることがある。			
授業内容			
<p>1 回目: 模型用材料の種類, 所要性質, 硬化機構, 性質を説明する。①</p> <p>2 回目: 印象材の種類, 組成, 硬化機構, 性質, 取扱方法を説明する。①</p> <p>3 回目: 印象材の種類, 組成, 硬化機構, 性質, 取扱方法を説明する。②</p> <p>4 回目: 歯科用ワックスの種類, 所要性質, 取扱方法を説明する。</p> <p>5 回目: 模型用材料の種類, 所要性質, 硬化機構, 性質を説明する。②</p> <p>6 回目: 成形修復材料の種類, 組成, 硬化機構, 性質, 取扱方法を説明する。①</p> <p>7 回目: 歯科用埋没材の種類, 所要性質, 組成, 硬化機構, 取扱方法を説明する。①</p> <p>8 回目: 歯科用埋没材の種類, 所要性質, 組成, 硬化機構, 取扱方法を説明する。②</p> <p>9 回目: 成形修復材料の種類, 組成, 硬化機構, 性質, 取扱方法を説明する。②</p> <p>10 回目: 特殊な歯科用材料について解説する。</p> <p>11 回目: 歯冠補綴用レジンの種類, 所要性質, 硬化機構, 取扱方法を説明する。</p> <p>12 回目: 合着・接着用材料(歯科用セメント)の種類と用途, 所要性質を説明する。①</p> <p>13 回目: 合着・接着用材料(歯科用セメント)の種類と用途, 所要性質を説明する。②</p> <p>14 回目: 義歯用材料の概要, 種類, 所要性質, 取扱方法について解説する。①</p> <p>15 回目: 義歯用材料の概要, 種類, 所要性質, 取扱方法について解説する。②</p>			
キーワード	印象材, 石膏, ワックス, 埋没材, レジン, 予防歯科材料, 歯科用セメント		
教科書・教材・参考書	<ul style="list-style-type: none"> ○スタンダード歯科理工学, 学建書院 ○R.W. Phillips, Skinner's Science of Dental Materials, W.B. Saunders Company ○Craig's Restorative Dental Materials, Mosby Elsevier ○歯科材料学事典, 学建書院 ○コア歯科理工学, 医歯薬出版 ○歯科理工学教育用語集, 医歯薬出版 		
成績評価の方法・基準等	筆記試験(90%)と宿題・講義中の質問(10%)で評価する。定期試験のみでは範囲が広がるため、途中で範囲を限定して中間試験を実施することがある。追試験(特別な理由がある場合のみ1回)と再試験を実施する。再試験の評価は本試験の結果を考慮する。		
受講要件(履修条件)	2/3 以上の出席を受験資格とする。		
備考(学生へのメッセージ)	予習と復習を確実に実行すること。授業中に配布するプリントを中心に授業を進めるが、理解を深めるために各自で教科書や参考書を準備すること。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	9	30	金	II	模型用材料① 模型用材料の種類, 所要性質, 硬化機構, 性質を説明する。	白石	第1講義室
2回	10	7	金	II	印象材① 印象材の種類, 組成, 硬化機構, 性質, 取扱方法を説明する。	渡邊	第1講義室
3回	10	14	金	II	印象材② 印象材の種類, 組成, 硬化機構, 性質, 取扱方法を説明する。	渡邊	第1講義室
4回	10	21	金	II	歯科用ワックス 歯科用ワックスの種類, 所要性質, 取扱方法を説明する。	渡邊	第1講義室
5回	10	28	金	II	模型用材料② 模型用材料の種類, 所要性質, 硬化機構, 性質を説明する。	白石	第1講義室
6回	11	4	金	II	成形修復材料① 成形修復材料の種類, 組成, 硬化機構, 性質, 取扱方法を説明する。	渡邊	第1講義室
7回	11	11	金	II	埋没材① 歯科用埋没材の種類, 所要性質, 組成, 硬化機構, 取扱方法を説明する。	白石	第1講義室
8回	11	18	金	II	埋没材② 歯科用埋没材の種類, 所要性質, 組成, 硬化機構, 取扱方法を説明する。	白石	第1講義室
9回	11	25	金	II	成形修復材料② 成形修復材料の種類, 組成, 硬化機構, 性質, 取扱方法を説明する。	渡邊	第1講義室
10回	12	2	金	II	特殊な歯科用材料 特殊な歯科用材料について解説する。	バラネザハド	第1講義室
11回	12	9	金	II	歯冠補綴用レジン 歯科用レジンの種類, 所要性質, 硬化機構, 取扱方法を説明する。	渡邊	第1講義室
12回	12	16	金	II	合着・接着用材料・歯科用セメント① 合着・接着用材料(歯科用セメント)の種類と用途, 所要性質を説明する。	渡邊	第1講義室
13回	1	6	金	II	合着・接着用材料・歯科用セメント② 合着・接着用材料(歯科用セメント)の種類と用途, 所要性質を説明する。	渡邊	第1講義室
14回	1	13	金	II	義歯用材料① 義歯用材料の概要, 種類, 所要性質, 取扱方法について解説する。	渡邊	第1講義室
15回	1	27	金	II	義歯用材料② 義歯用材料の概要, 種類, 所要性質, 取扱方法について解説する。	渡邊	第1講義室

年度 2016 学期 前期	曜日・校時 水・II	必修選択 必修	単位数 1
科目番号	25014110		
科目ナンバリング・コード	DNGD22111985		
授業科目名/(英語名)	歯科理工学Ⅲ/ (Dental Materials Science and Engineering Ⅲ)		
対象年次 3年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 6A	
対象学生(クラス等)	科目分類	口腔生命科学総論	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 渡邊郁哉/ikuyaw@nagasaki-u.ac.jp / 歯学部 5階生体材料科学分野教授室/095-819-7656(内 7656)/金曜 15:00~17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	渡邊郁哉、白石孝信		
授業の概要及び位置づけ			
<p>日進月歩する歯科材料、機械・器具ならびに技工技術について、科学的な判断力と応用能力を高めることを目標とする。金合金、金銀パラジウム合金、チタンなどの各種修復用合金の諸性質と、優れた性能を引き出すための正しい取り扱い方について学ぶ。さらに、技工技術の点で重要なろう付けや研磨方法を理解するための基礎知識を身につける。／各種歯科用合金の組成、性質、用途、利点・欠点、熱処理法等が説明できる。ろう付けや研磨作業を行う上で注意すべき点を説明できる。</p>			
授業到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ○歯科用金属材料の種類と性質、ならびに適切な取り扱い方を説明できる。 ○切削、研磨、摩耗の理論を説明できる。 ○歯科用金属材料の接合方法を説明できる。 			
授業方法(学習指導法)			
授業中に配布するプリントと教科書を中心に講義を進める。課題を与えてレポートを提出させることがある。			
授業内容			
<ol style="list-style-type: none"> 1 回目: 金属の接合方法の種類とそれぞれの原理、特徴を説明する。① 2 回目: 金属の接合方法の種類とそれぞれの原理、特徴を説明する。② 3 回目: 切削と研磨の理論を説明し、研磨材の種類と補綴物の研磨法を説明する。 4 回目: 鑄造用金合金の分類、性質、用途を説明するとともに、各種添加元素の効果を説明する。 5 回目: 鑄造用金合金の熱処理法と、熱処理に伴う機械的性質の変化を説明する。 6 回目: 歯科用金属材料としての銀の特徴を説明するとともに、耐硫化性の改善法を説明する。 7 回目: 金銀パラジウム合金と低融銀合金の種類と性質、取り扱い上の注意点を説明する。 8 回目: 陶材焼付用合金の分類、所要性質、陶材／合金間の接合機構を説明する。 9 回目: 歯科用純チタンとチタン合金の用途、特徴、性質を説明する。 10 回目: 歯科用非貴金属合金の分類、用途、組成、性質などを説明する。① 11 回目: 歯科用磁性材料の分類、用途、特徴、性質を説明する。 12 回目: 歯科用非貴金属合金の分類、用途、組成、性質などを説明する。② 13 回目: 歯内療法関連材料の種類、所要性質、取り扱い方法を説明する。 14 回目: 歯科矯正用材料の種類、所要性質、取り扱い方法を説明する。 15 回目: 歯科用器械の種類、所要性質、取り扱い方法を説明する。 			
キーワード	金属材料, ろう付け, 研磨, 摩耗		
教科書・教材・参考書	<ul style="list-style-type: none"> ○スタンダード歯科理工学, 学建書院 ○R.W. Phillips, Skinner's Science of Dental Materials, W.B. Saunders Company ○Craig's Restorative Dental Materials, Mosby Elsevier ○歯科材料学事典, 学建書院 ○歯科理工学教育用語集, 医歯薬出版 ○授業用プリント 		
成績評価の方法・基準等	筆記試験(90%)と宿題・講義中の質問(10%)で評価する。定期試験のみでは範囲が広がるため、途中で範囲を限定して中間試験を実施することがある。追試験(特別な理由がある場合のみ1回)と再試験を実施する。再試験の評価は本試験の結果を考慮する。		
受講要件(履修条件)	2/3以上の出席を受験資格とする。		
備考(学生へのメッセージ)	予習と復習を確実に実行すること。授業中に配布するプリントを中心に授業を進めるが、理解を深めるために各自で教科書や参考書を準備すること。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	6	水	II	金属の接合① 金属の接合方法を説明する。	渡邊	講義室6A
2回	4	13	水	II	金属の接合② 金属の接合方法を説明する。	渡邊	講義室6A
3回	4	20	水	II	切削と研磨 切削と研磨の理論を説明し、研磨材の種類と補綴物の研磨法を説明する。	渡邊	講義室6A
4回	4	27	水	II	金合金① 鑄造用金合金の分類、性質、用途を説明するとともに、各種添加元素の効果を説明する。	白石	講義室6A
5回	5	11	水	II	金合金② 鑄造用金合金の熱処理法と、熱処理に伴う機械的性質の変化を説明する。	白石	講義室6A
6回	5	18	水	II	銀合金 歯科用金属材料としての銀の特徴を説明するとともに、耐硫化性の改善法を説明する。	白石	講義室6A
7回	5	25	水	II	金銀パラジウム合金と低融銀合金 金銀パラジウム合金と低融銀合金の種類と性質、取り扱い上の注意点を説明する。	白石	講義室6A
8回	6	1	水	II	陶材焼付用合金 陶材焼付用合金の分類、所要性質、陶材／合金間の接合機構を説明する。	白石	講義室6A
9回	6	8	水	II	チタンとチタン合金 歯科用純チタンとチタン合金の用途、特徴、性質を説明する。	渡邊	講義室6A
10回	6	15	水	II	非貴金属合金① 歯科用非貴金属合金の分類、用途、組成、性質などを説明する。	白石	講義室6A
11回	6	22	水	II	歯科用磁性材料 歯科用磁性材料の分類、用途、特徴、性質を説明する。	渡邊	講義室6A
12回	6	29	水	II	非貴金属合金② 歯科用非貴金属合金の分類、用途、組成、性質などを説明する。	白石	講義室6A
13回	7	6	水	II	歯内療法関連材料 歯内療法関連材料の種類、所要性質、取り扱い方法を説明する。	渡邊	講義室6A
14回	7	13	水	II	歯科矯正用材料 歯科矯正用材料の種類、所要性質、取り扱い方法を説明する。	渡邊	講義室6A
15回	7	20	水	II	歯科用器械 歯科用器械の種類、所要性質、取り扱い方法を説明する。	渡邊	講義室6A

年度 2016 学期 前期	曜日・校時 火・II.III.IVまたはV	必修選択 必修	単位数 2.5
科目番号	25014117		
科目ナンバリング・コード	DNGD22121909		
授業科目名/(英語名)	病理学総論及び同実習/(General Pathology Lecture and Practice)		
対象年次 3年次	講義形態 講義・実習形式	教室 講義室 6A、実習室 5B	
対象学生(クラス等)	科目分類	口腔生命科学総論	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 池田 通/tohrupth@nagasaki-u.ac.jp /歯学部 A 棟 1 階口腔病理学分野教授室/095-819-7644(内 7644)/17:00~18:30			
担当教員(オムニバス科目等)	池田 通、藤田修一 非常勤講師:江石義信、中島正洋、福岡順也、安部邦子		
授業の概要及び位置づけ 歯科医師になるために必要な一般病理学の知識及び種々の口腔疾患に対して適切な臨床診断や治療を行っていくために必要な病理学的知識を理解させる。さらに、講義した種々の疾患の病理組織標本の顕微鏡像観察を通して、組織・細胞レベルでその成り立ちを理解する。従って、病理学総論の講義の進行にあわせて、関連病変の病理組織標本を観察する。単に病理診断名をつけることではなく、講義内容を実際の標本で確かめ、理解を深めることを目的とする。この授業は全身疾患の医学的理解の基礎知識を与え、基礎歯科医学と臨床歯科医学の橋渡しになると位置づけられる。			
授業到達目標 1.疾患を病理学的に分類できる。 2.代表的疾患を病理学的に解釈できる。 3.代表的疾患の形態学的な所見を説明できる。 4.病理学用語の意味を説明できる。			
授業方法(学習指導法) 病理学総論として、各種疾患の原因・成り立ち・病態を解説するとともに、適宜学生の理解に役立つと思われる最新の情報を紹介する。さらに、実習標本の顕微鏡観察を通して疾患の成り立ちや臨床病態などについて総合的に考えさせる。これにより、学生が授業で得た知識をさらに深めることができるように指導する。プリント、液晶プロジェクター、板書を併用し、口頭で授業を進める。プリントは簡潔なものなので、講義内容は各自筆記する。また、病変の肉眼的・組織学的視覚素材を液晶プロジェクターで供覧する。			
授業内容 講義の内容のサブテーマ、実習標本は次ページからの日程別シラバスを参照(L: 講義(講義室6A) P: 実習室5B) 1. L1 回目 序論/細胞・組織障害:病理学とは何か L2 回目 細胞・組織障害: 可逆変化 2. L3 回目細胞・組織障害: 不可逆変化 L4 回目 炎症: 炎症の原因および分類 3. L5 回目 炎症: 炎症性疾患の病理組織変化 L6 回目 組織修復: 創傷治癒、組織修復の細胞生物学 4. L7 回目 循環障害: 充血、うっ血、出血 L8 回目 循環障害: 血栓症、塞栓症、梗塞 5. P1,2 回目 細胞・組織障害: 黄疸、アミロイドーシス、異所性石灰化 6. P3,4 回目 細胞・組織障害: 心萎縮、異物肉芽腫、胃潰瘍、扁平上皮化生 7. L9,10 回目 特別講義: 免疫病理学 免疫反応と組織変化、自己免疫疾患の病理 8. L11 回目 循環障害: 浮腫、ショック P5,6 回目 炎症: 皮膚膿瘍、巨細胞封入体症、真菌感染症、歯肉炎、サルコイドーシス 9. L12 回目 腫瘍: 腫瘍の基本概念、発生機序 P7,8 回目 炎症・循環障害: 肺結核、肝炎、肝硬変 肺うっ血及び水腫、気管支肺炎 10. L13 回目 腫瘍: 腫瘍の発生機序、分類 P9,10 回目 炎症・循環障害: 肝うっ血、静脈瘤、腎梗塞、 血栓症、動脈粥状硬化症 11. L14 回目 腫瘍: 腫瘍の病理組織像 P11,12 回目 循環障害・腫瘍: 急性心筋梗塞、陳旧性心筋梗塞、 大腸腺腫、大腸癌、 12. L15 回目 特別講義: 放射線被ばくの病理 P13,14 回目 腫瘍: 基底細胞癌、神経鞘腫、肺扁平上皮癌、 食道癌 13. L16 回目 先天異常: 分類、成立時期、発生機序 L17,18 回目: 特別講義: 口腔以外の消化管の病理学 14. L19 回目 肺の病理学 肺の疾患と病理組織型 P15,16 回目 腫瘍: 胃癌、肝細胞癌、腺癌肝転移、 甲状腺癌リンパ節転移 P17,18,19 回目 腫瘍: 悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、平滑筋腫、平滑筋肉腫、骨肉腫、色素性母斑、悪性黒色腫			
キーワード	病因、細胞・組織傷害、炎症、免疫、循環障害、先天異常、腫瘍		
教科書・教材・参考書	1. ROBBINS Basic Pathology 9th ed. (Saunders) 2. ルービン 病理学 (西村書店) 3. 標準病理学 改訂第 3 版(医学書院) 4. 組織病理アトラス(文光堂) 等一般的な病理組織学アトラス		
成績評価の方法・基準等	定期試験(筆記試験)の得点(100%)		
受講要件(履修条件)	定期試験の受験資格:授業回数 3/4 以上の出席		
備考(学生へのメッセージ)	病理学を理解する上で、解剖学の基礎知識が必要となります。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	5	火	Ⅲ	細胞・組織傷害 序論・病理学とは何か	池田	講義室6A
2回	4	5	火	Ⅳ	細胞・組織傷害 細胞・組織の可逆変化	池田	講義室6A
3回	4	12	火	Ⅲ	細胞・組織傷害 細胞・組織の不可逆変化、細胞死	池田	講義室6A
4回	4	12	火	Ⅳ	炎症 炎症の原因及び分類	池田	講義室6A
5回	4	19	火	Ⅲ	炎症 炎症疾患の病理組織変化	池田	講義室6A
6回	4	19	火	Ⅳ	組織修復 創傷治癒、組織修復の細胞生物学	池田	講義室6A
7回	4	26	火	Ⅲ	循環障害 充血、うっ血、出血	池田	講義室6A
8回	4	26	火	Ⅳ	循環障害 血栓症、塞栓症、梗塞	池田	講義室6A
9回	5	24	火	Ⅲ	免疫病理学（特別講義） 免疫反応と組織変化	江石	講義室6A
10回	5	24	火	Ⅳ	免疫病理学（特別講義） 免疫反応と組織変化	江石	講義室6A
11回	5	31	火	Ⅱ	循環障害 浮腫、ショック	池田	講義室6A
12回	6	7	火	Ⅱ	腫瘍 腫瘍の基本概念、発生機序	池田	講義室6A
13回	6	14	火	Ⅱ	腫瘍 腫瘍の発生機序、分類	池田	講義室6A
14回	6	21	火	Ⅱ	腫瘍 腫瘍の病理組織像	池田	講義室6A
15回	6	28	火	Ⅱ	放射線被ばくの病理（特別講義） 放射線被ばくの人体への影響口腔以外の消化管疾患概論	中島	講義室6A
16回	7	5	火	Ⅱ	先天異常 先天異常の分類、成立時期、発生機序	安倍	講義室6A
17回	7	5	火	Ⅲ	口腔以外の消化管の病理学（特別講義） 食道、胃、腸管の病理組織学	安倍	講義室6A
18回	7	5	火	Ⅳ	口腔以外の消化管の病理学（特別講義） 食道、胃、腸管の病理組織学	池田	講義室6A
19回	7	12	火	Ⅱ	肺の病理学 肺の疾患と病理組織像	福岡	講義室6A

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1,2回	5	10	火	Ⅲ～Ⅳ	病理学実習説明、細胞・組織傷害 黄疸、アミロイドーシス、異所性石灰化	池田 藤田	実習室5B
3,4回	5	17	火	Ⅲ～Ⅳ	細胞・組織傷害 心萎縮、異物肉芽腫、胃潰瘍、扁平上皮化生	池田 藤田	実習室5B
5,6回	5	31	火	Ⅲ～Ⅳ	炎症 皮膚膿瘍、巨細胞封入体症、真菌感染症、歯肉炎、サルコイドーシス	池田 藤田	実習室5B
7,8回	6	7	火	Ⅲ～Ⅳ	炎症・循環障害 肺結核、肝炎、肝硬変、肺うっ血及び水腫、気管支肺炎	池田 藤田	実習室5B
9,10回	6	14	火	Ⅲ～Ⅳ	炎症・循環障害 肝うっ血、静脈瘤、腎梗塞、血栓症、動脈粥状硬化症	池田 藤田	実習室5B
11,12 回	6	21	火	Ⅲ～Ⅳ	循環障害／腫瘍 急性心筋梗塞、陳旧性心筋梗塞、大腸腺腫、大腸癌	池田 藤田	実習室5B
13,14 回	6	28	火	Ⅲ～Ⅳ	腫瘍 基底細胞癌、神経鞘腫肺扁平上皮癌、食道癌	池田 藤田	実習室5B
15,16 回	7	12	火	Ⅲ～Ⅳ	腫瘍 胃癌、肝細胞癌、腺癌肝転移、甲状腺癌リンパ節転移	池田 藤田	実習室5B
17,18, 19回	7	19	火	Ⅲ～Ⅴ	腫瘍 悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、平滑筋腫、骨肉腫、色素性母斑、悪性黒色腫	池田 藤田	実習室5B

年度 2016 学期 通年(前期)	曜日・校時 月・II 火・II	必修選択 必修	単位数 2.5(通年)
科目番号	25014116		
科目ナンバリング・コード	DNGD22131981		
授業科目名/(英語名)	微生物学・口腔微生物学/ (Microbiology・Oral Microbiology)		
対象年次 3年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 6A	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学総論		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 中山浩次/knak@nagasaki-u.ac.jp /歯学部 5階口腔病原微生物学分野教授室/095-819-7648(内 7648)/17:00~18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	中山浩次、菅井基行(非常勤講師)		
授業の概要及び位置づけ 1)微生物の種類と特性を理解する。2)寄生・感染と生体の防御機構を理解する。3)防御の補助手段としての滅菌、消毒及び化学療法を理解する。			
授業到達目標 (感染)1.細菌、真菌、ウイルス及び寄生虫の形態学的特徴と生理学的性状を説明できる。 2.細菌、真菌、ウイルス及び寄生虫のヒトに対する感染成立の機序と感染微生物の病原性を説明出来る。 3.清潔と不潔の区別及び滅菌と消毒の意義、原理及び代表的な方法を説明できる。 4.化学療法の目的、原理及び作用機序を説明できる。 (免疫)1.自然免疫と獲得免疫の異同を説明できる。 2.細胞性免疫と体液性免疫の異同を説明できる。 3.免疫担当細胞の種類と働きを説明できる。 4.免疫寛容を説明できる。 5.アレルギーの分類を説明できる。 6.免疫・アレルギー疾患の種類と発症を説明できる。 7.ワクチンの意義と問題点を説明できる。			
授業方法(学習指導法) 5~6人のチームで課題について自主学習し、30分程度でスライドを用いて発表し、他の学生に質問を受ける。 ほぼ毎回、プリントを配布し、要点整理を行う。			
授業内容 1回目 微生物の分類および細菌の分類法について説明する。 2回目 細菌の基本構造について説明する。 3回目 細菌の化学組成および物質代謝について説明する。 4回目 細菌の遺伝現象として、形質転換、接合伝達、形質導入について説明する。プラスミドおよびトランスポゾンについて説明する。 5回目 感染のメカニズム(感染の成立から発症までの経過)について説明する。 6回目 感染成立における病原体側因子(定着因子、増殖因子、エスケープ機構、細胞内侵入と増殖、毒素と酵素)について説明する。 7回目 免疫系の全体像について概説する。 8回目 免疫担当細胞、抗原および抗体について説明する。 9回目 補体系の説明と生体防御における役割を説明する。また、サイトカインの種類や産生細胞、およびそれらの特性について説明する。 10回目 液性免疫と細胞性免疫についてそれぞれの機構の特徴および関連性について説明する。 11回目 アレルギーについて説明する。 12回目 免疫疾患について説明する。 13回目 生体防御機構における食細胞の役割について説明する。 14回目 多形核白血球(好中球)とマクロファージについて類似点と相違点について説明する。 15回目 エンテリキア属、赤痢菌属、サルモネラ属に含まれる病原細菌の特徴および感染病態について説明する。 16回目 エルシニア属、クレブシエラ属、プロテウス属、サイトバクター属、セラチア属に含まれる病原細菌について説明する。 17回目 ビブリオ科に含まれる病原細菌、とくにコレラ菌、腸炎ビブリオおよび <i>Vibrio vulnificus</i> について説明する。 18回目 滅菌と消毒について説明する。滅菌法について説明する。消毒薬の種類と効力について説明する。 19回目 化学療法について説明する。化学療法剤の種類と作用機構について説明する。 20回目 化学療法剤に対する耐性化について説明する。 21回目 ブドウ球菌属に含まれる病原細菌とその感染症について説明する。 22回目 レンサ球菌属に含まれる病原細菌とその感染症について説明する。			
キーワード	感染・微生物・免疫		
教科書・教材・参考書	戸田新細菌学、口腔微生物学・免疫学		
成績評価の方法・基準等	微生物学・口腔微生物学・免疫学についての試験、同実習におけるレポート、課題研究発表等の評価を総合して評価する。		
受講要件(履修条件)	なし		
備考(学生へのメッセージ)	歯科口腔疾患の中で齲蝕、歯周病などの感染症は大きな位置を占めている。その原因となる微生物についてしっかりと学修して頂きたい。		

年度 2016 学期 通年(後期)	曜日・校時 月・II	必修選択 必修	単位数 2.5(通年)
科目番号	25014116		
科目ナンバリング・コード	DNGD22131981		
授業科目名/(英語名)	微生物学・口腔微生物学/ (Microbiology・Oral Microbiology)		
対象年次 3年次	講義形態 講義形式	教室 第1講義室	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学総論		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 中山浩次/knak@nagasaki-u.ac.jp /歯学部 5階口腔病原微生物学分野教授室/095-819-7648(内 7648)/17:00~18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	中山浩次、内藤真理子、庄子幹郎、石原和幸(非常勤講師)		
授業の概要及び位置づけ 1)微生物の種類と特性を理解する。2)寄生・感染と生体の防御機構を理解する。3)防御の補助手段としての滅菌、消毒及び化学療法を理解する。			
授業到達目標 (感染) 1.細菌、真菌、ウイルス及び寄生虫の形態学的特徴と生理学的性状を説明できる。 2.細菌、真菌、ウイルス及び寄生虫のヒトに対する感染成立の機序と感染微生物がヒトに対して示す病原性を説明出来る。 3.清潔と不潔の区別及び滅菌と消毒の意義、原理及び代表的な方法を説明できる。 4.化学療法の目的、原理及び作用機序を説明できる。 (免疫) 1.自然免疫と獲得免疫の異同を説明できる。 2.細胞性免疫と体液性免疫の異同を説明できる。 3.免疫担当細胞の種類と働きを説明できる。 4.免疫寛容を説明できる。 5.アレルギーの分類を説明できる。 6.免疫・アレルギー疾患の種類と発症を説明できる。 7.ワクチンの意義と問題点を説明できる。			
授業方法(学習指導法) 5~6人のチームで課題について自主学習し、30分程度でスライドを用いて発表し、他の学生に質問を受ける。 ほぼ毎回、プリントを配布し、要点整理を行う。			
授業内容 23回目 有芽胞細菌とその感染症について説明する。とくに破傷風菌とボツリヌス菌についてはその産生毒素の作用機構について説明する。 24回目 性感染症を引き起こす細菌についてその病態を含めて説明する。とくに、梅毒スピロヘータ、淋菌、軟性下疳菌について説明する。 25回目 抗酸菌の特徴とその感染症について、とくに結核菌とらい菌について説明する。 26回目 ウイルスの特性、構造、分類について説明する。 27回目 ウイルスの増殖機構、抗ウイルス剤、インターフェロンについて説明する。 28回目 ヘルペスウイルス科、ピコルナウイルス科、オルトミクソウイルス科、パラミクソウイルス科、レオウイルス科に含まれるウイルスについて説明する。 29回目 カリシウイルス科に含まれるウイルスおよび肝炎ウイルスについて説明する。 30回目 がんウイルスについて、とくにパピローマウイルス科、レトロウイルス科に含まれるウイルスについて説明する。 31回目 口腔の常在微生物叢について説明する。 32回目 う蝕における微生物の役割について説明する。とくにミュータンスレンサ球菌のう蝕原性について説明する。 33回目 歯周病における微生物の役割について説明する。 34回目 歯周病の免疫学的側面について説明する。 35回目 歯周病関連細菌について、とくに <i>P. gingivalis</i> , <i>A. actinomycetemcomitans</i> , <i>T. forsythia</i> について説明する。 36回目 真菌の形態、構造、分類について説明する。病原真菌、とくにカンジダ・アルビカンズとその感染症について説明する。 37回目 口腔スピロヘータと歯周病との関連について説明する。			
キーワード	感染・微生物・免疫		
教科書・教材・参考書	戸田新細菌学、口腔微生物学・免疫学		
成績評価の方法・基準等	微生物学・口腔微生物学・免疫学についての試験、同実習におけるレポート、課題研究発表等の評価を総合して評価する。		
受講要件(履修条件)	なし		
備考(学生へのメッセージ)	歯科口腔疾患の中で齲蝕、歯周病などの感染症は大きな位置を占めている。その原因となる微生物についてしっかりと学修して頂きたい。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	4	月	II	微生物の分類および細菌の分類法について説明する。	中山	講義室6A
2回	4	5	火	II	細菌の基本構造について説明する。	中山	講義室6A
3回	4	11	月	II	細菌の化学組成および物質代謝について説明する。	中山	講義室6A
4回	4	12	火	II	細菌の遺伝現象として、形質転換、接合伝達、形質導入について説明する。 プラスミドおよびトランスポゾンについて説明する。	中山	講義室6A
5回	4	18	月	II	感染のメカニズム(感染の成立から発症までの経過)について説明する。	中山	講義室6A
6回	4	19	火	II	感染成立における病原体側因子(定着因子、増殖因子、エスケープ機構、 細胞内侵入と増殖、毒素と酵素)について説明する。	中山	講義室6A
7回	4	25	月	II	免疫系の全体像について概説する。	中山	講義室6A
8回	4	26	火	II	免疫担当細胞、抗原および抗体について説明する。	中山	講義室6A
9回	5	2	月	II	補体系の説明と生体防御における役割を説明する。また、サイトカインの種類 や産生細胞、およびそれらの特性について説明する。	中山	講義室6A
10回	5	9	月	II	液性免疫と細胞性免疫についてそれぞれの機構の特徴および関連性につい て説明する。	中山	講義室6A
11回	5	10	火	II	アレルギーについて説明する。	中山	講義室6A
12回	5	16	月	II	免疫疾患について説明する。	中山	講義室6A
13回	5	17	火	II	生体防御機構における食細胞の役割について説明する。	中山	講義室6A
14回	5	23	月	II	多形核白血球(好中球)とマクロファージについて類似点と相違点について説 明する。	中山	講義室6A
15回	5	24	火	II	エシェリキア属、赤痢菌属、サルモネラ属に含まれる病原細菌の特徴および 感染病態について説明する。	中山	講義室6A
16回	5	30	月	II	エルシニア属、クレブシエラ属、プロテウス属、サイトバクター属、セラチア属に 含まれる病原細菌について説明する。	中山	講義室6A
17回	6	6	月	II	ビブリオ科に含まれる病原細菌、とくにコレラ菌、腸炎ビブリオおよび <i>Vibrio</i> <i>vulnificus</i> について説明する。	中山	講義室6A
18回	6	13	月	II	滅菌と消毒について説明する。滅菌法について説明する。消毒薬の種類と効 力について説明する。	中山	講義室6A
19回	6	20	月	II	化学療法について説明する。化学療法剤の種類と作用機構について説明す る。	中山	講義室6A
20回	6	27	月	II	化学療法剤に対する耐性化について説明する。	中山	講義室6A
21回	7	4	月	II	ブドウ球菌属に含まれる病原細菌とその感染症について説明する。	菅井	講義室6A
22回	7	11	月	II	レンサ球菌属に含まれる病原細菌とその感染症について説明する。	中山	講義室6A

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
23回	10	3	月	II	有芽胞細菌とその感染症について説明する。とくに破傷風菌とボツリヌス菌についてはその産生毒素の作用機構について説明する。	中山	第1講義室
24回	10	17	月	II	性感染症を引き起こす細菌についてその病態を含めて説明する。とくに、梅毒スピロヘータ、淋菌、軟性下疳菌について。	中山	第1講義室
25回	10	24	月	II	抗酸菌の特徴とその感染症について、とくに結核菌とらい菌について説明する。	内藤	第1講義室
26回	10	31	月	II	ウイルスの特性、構造、分類について説明する。	中山	第1講義室
27回	11	7	月	II	ウイルスの増殖機構、抗ウイルス剤、インターフェロンについて説明する。	中山	第1講義室
28回	11	14	月	II	ヘルペスウイルス科、ピコルナウイルス科、オルトミクソウイルス科、パラミクソウイルス科、レオウイルス科に含まれるウイルスについて説明する。	中山	第1講義室
29回	11	21	月	II	カリシウイルス科に含まれるウイルスおよび肝炎ウイルスについて説明する。	中山	第1講義室
30回	11	28	月	II	がんウイルスについてとくにパピローマウイルス科、レトロウイルス科に含まれるウイルスについて説明する。	中山	第1講義室
31回	12	5	月	II	口腔の常在微生物叢について説明する。	中山	第1講義室
32回	12	12	月	II	う蝕における微生物の役割について説明する。とくにミュータンスレンサ球菌のう蝕原性について説明する。	中山	第1講義室
33回	12	19	月	II	歯周病における微生物の役割について説明する。	中山	第1講義室
34回	12	26	月	II	歯周病の免疫学的側面について説明する。	中山	第1講義室
35回	1	16	月	II	歯周病関連細菌について、とくに <i>P. gingivalis</i> , <i>A. actinomycetemcomitans</i> , <i>T. forsythia</i> について説明する。	庄子	第1講義室
36回	1	23	月	II	真菌の形態、構造、分類について説明する。病原真菌、とくにカンジダ・アルビカンスとその感染症について説明する。	中山	第1講義室
37回	1	24	火	II	口腔スピロヘータと歯周病との関連について説明する。	石原	第1講義室

年度 2016 学期 前期	曜日・校時 月・Ⅲ～Ⅳ 火・Ⅰ	必修選択 必修	単位数 3
科目番号	25014118		
科目ナンバリング・コード	DNGD22141904		
授業科目名/(英語名)	薬理学及び同実習/ (Pharmacology and it's experiments)		
対象年次 3年次	講義形態 講義・実習形式	教室 講義室 6A、実習室 5C	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学総論		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 筑波隆幸/tsuta@nagasaki-u.ac.jp / 歯学部 A 棟 5 階歯科薬理学分野教授室/095-819-7652(内 7652)/17:00～18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	筑波隆幸、岡元邦彰、西下一久、坂井詠子、佐々木均(長崎大学病院 薬剤部・部長)、佐藤友昭(鹿児島大学教授)、胡錦萍(長崎大学・客員研究員)、河野哲也(長崎大学病院 喫煙問題対策センター・副センター長)		
授業の概要及び位置づけ 薬物を生体に投与した時の生体の反応、すなわち薬理作用を学び、その作用の発現や機序を論理的に理解することを目標とする。これらの知識は将来、医療における薬物治療の基盤となる。			
授業到達目標 1. 医薬品の分類ならびに薬物と医薬品との関係を理解し説明できる。 2. 薬物の作用に関する基本的事項を理解し説明できる。 3. 種々の方法で適用された薬物の生体内運命を理解し説明できる。 4. 薬物の副作用・有害作用の種類とその予防対策に関する基本事項を理解し説明できる。 5. 小児、妊婦、高齢者への薬物適用上の注意を説明できる。			
授業方法(学習指導法) 液晶プロジェクターおよび板書を中心とした講義を行なう。教科書を用いるので、該当する項目に関して予習をしてもらいたい。古くなった記載は講義時間内に修正し、プリントを配布して、新しく確実になった情報の追加を行う。			
授業内容 (講義) (実習) 1 回目 薬理学序論 16 回目 中枢神経系薬理(1) 22 回目 生物学的検定法(1) 2 回目 薬理作用の機序 17 回目 中枢神経系薬理(2) 23 回目 生物学的検定法(2) 3 回目 用量と薬理作用 18 回目 中枢神経系薬理(3) 25 回目 中枢神経興奮薬・抑制薬(1) 4 回目 薬物受容体と細胞内情報伝達 19 回目 中枢神経系薬理(4) 26 回目 中枢神経興奮薬・抑制薬(2) 5 回目 薬物動態(1) 20 回目 局所麻酔薬 28 回目 神経筋接合部の薬物(1) 6 回目 薬物動態(2) 21 回目 循環器系薬理 29 回目 神経筋接合部の薬物(2) 7 回目 薬物の作用因子 24 回目 オータコイド(1) 31 回目 自律神経薬理(1) 8 回目 薬物の連用と併用、相互作用 27 回目 オータコイド(2) 32 回目 自律神経薬理(2) 9 回目 副作用と有害作用 30 回目 平滑筋薬理 34 回目 薬物による疼痛除去(1) 10 回目 佐々木均 先生 特別講義(1) 33 回目 ビタミン 35 回目 薬物による疼痛除去(2) 11 回目 佐々木均 先生 特別講義(2) 36 回目 内分泌系薬理 37 回目 防腐薬・腐食薬(1) 12 回目 薬物と医薬品 42 回目 消化器系薬理 38 回目 防腐薬・腐食薬(2) 13 回目 末梢神経薬理(1) 43 回目 腎臓・泌尿系薬理 39 回目 実習発表会の準備・注意点 14 回目 末梢神経薬理(2) 44 回目 救急薬理 40 回目 実習発表会(1) 15 回目 末梢神経薬理(3) 45 回目 喫煙と薬物 41 回目 実習発表会(2)			
キーワード	薬物, 薬理作用, 作用機序		
教科書・教材・参考書	教科書:現代歯科薬理学(第5版):医歯薬出版 参考書:1.講義に際して示すが,なるべく出版年度の新しい各種参考書を利用の事。 2.図書館にも関連参考書を所蔵している。 3.薬理学講座にも所蔵しているので,利用を申し出てください。 プリント:毎回プリントを配布するので,講義ノートに利用してください。		
成績評価の方法・基準等	3年前期末の定期試験で,筆記試験を行ない,60点以上得点すれば合格である。本科目は,3年後期中に合格する必要がある。再試験は1回行う。本試験の満点は100点,再試験以降の満点は60点とする。講義と実習の総合評価とします。		
受講要件(履修条件)	講義は2/3以上の出席が必要。実習は特別な理由がない限り,欠席をしないこと		
備考(学生へのメッセージ)	授業は原則的にシラバスに沿って行う。講義で受けた知識を、薬理学実験において、君たちの手で確認する。講義の邪魔になると判断したときには、厳格に対応します。お互い気持ちの良い講義・実習になるように、協力をお願いします。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	4	月	Ⅲ	薬理学序論 薬理学の歴史、薬理学の概念、薬理学はどういう学問であるのか	筑波	講義室6A
2回	4	4	月	Ⅳ	薬理作用の機序 薬理作用の様式、薬理作用の分類について	筑波	講義室6A
3回	4	5	火	Ⅰ	用量と薬理作用 用量—反応曲線、有効量、中毒量、致死量、ED50、LD50、治療係数	筑波	講義室6A
4回	4	11	月	Ⅲ	薬物受容体と細胞内情報伝達 薬物と受容体の概念および情報伝達の原理について	筑波	講義室6A
5回	4	11	月	Ⅳ	薬物動態(1) 薬物動態学の概念、生体膜通過機構、薬物トランスポーター、 薬物の適用について	筑波	講義室6A
6回	4	12	火	Ⅰ	薬物動態(2) 体内における薬物の動きを吸収、分布、代謝、排泄の各段階について	筑波	講義室6A
7回	4	18	月	Ⅲ	薬物の作用因子 薬物耐性、脱感作、薬物依存、薬物の蓄積について	筑波	講義室6A
8回	4	18	月	Ⅳ	薬物の連用と併用、相互作用 協力作用、拮抗作用、薬物の相互作用、薬力学的相互作用、 薬物動態学的相互作用について	筑波	講義室6A
9回	4	19	火	Ⅰ	副作用と有害作用 一般的有害作用、歯科領域における副作用と有害作用、 副作用の予知と回避	筑波	講義室6A
10回	4	25	月	Ⅲ	特別講義 薬物製剤と薬物動態について	佐々木	講義室6A
11回	4	25	月	Ⅳ	特別講義 薬物動態を予測する理論と方法	佐々木	講義室6A
12回	4	26	火	Ⅰ	薬物と医薬品 医薬品の適応、開発および薬害について	坂井	講義室6A
13回	5	2	月	Ⅲ	末梢神経系薬理(1) 末梢神経系の分類、神経節、神経筋接合部に作用する薬物について	筑波	講義室6A
14回	5	2	月	Ⅳ	末梢神経系薬理(2) コリン作動性神経、コリン作動性薬物、コリン作動性効果遮断薬について	筑波	講義室6A
15回	5	9	月	Ⅲ	末梢神経系薬理(3) アドレナリン作動性神経、アドレナリン作動性薬物、 アドレナリン作動性効果遮断薬について	筑波	講義室6A

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
16回	5	9	月	IV	中枢神経系薬理(1) 全身麻酔薬、アルコール、催眠薬および鎮静薬について	筑波	講義室6A
17回	5	10	火	I	中枢神経系薬理(2) 麻薬性鎮痛薬、向精神薬について	筑波	講義室6A
18回	5	16	月	III	中枢神経系薬理(3) 中枢神経興奮薬、パーキンソン病治療薬について	筑波	講義室6A
19回	5	16	月	IV	中枢神経系薬理(4) 脳循環代謝改善薬、抗痴呆薬について	筑波	講義室6A
20回	5	17	火	I	局所麻酔薬・実習の注意点 局所麻酔薬の作用機序と臨床応用、使用時の注意点について	岡元	講義室6A
21回	5	23	月	III	生物学的検定法(1) 全身麻酔薬投与によるアップアンドダウン法の実験 ED50、LD50の計算、副作用の予知と回避	全教員	実習室5C
22回	5	23	月	IV	生物学的検定法(2) 薬物の併用効果、相乗作用、相加作用についての実験	全教員	実習室5C
23回	5	24	火	I	循環系薬理 心不全治療薬、不整脈治療薬、狭心症治療薬、高血圧薬治療薬について	岡元	講義室6A
24回	5	30	月	III	中枢神経興奮薬・抑制薬(1) 中枢神経興奮薬(カフェイン)の効果を測定する	全教員	実習室5C
25回	5	30	月	IV	中枢神経興奮薬・抑制薬(2) 中枢神経抑制薬(全身麻酔薬)を作用させた時の効果を観察する	全教員	実習室5C
26回	5	31	火	I	オータコイド(1) オータコイドとは何か、化学反応、生合成、生体内の役割について	西下	講義室6A
27回	6	6	月	III	神経筋接合部の薬物(1) 骨格筋を用いて、アセチルコリンによる収縮作用を観察する。	全教員	実習室5C
28回	6	6	月	IV	神経筋接合部の薬物(2) 骨格筋を用いて、アセチルコリン阻害薬による抑制効果を観察する。	全教員	実習室5C
29回	6	7	火	I	オータコイド(2) 生体アミン、エイコサノイド、ポリペプチド類について	西下	講義室6A
30回	6	13	月	III	自律神経薬理(1) マグヌス法を用いて、平滑筋に自律神経系に作用する 平滑筋収縮作用を観察する	全教員	実習室5C

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
31回	6	13	月	IV	自律神経薬理(2) マグヌス法を用いて、平滑筋に自律神経系に作用する平滑筋弛緩作用を観察する	全教員	実習室5C
32回	6	14	火	I	平滑筋・呼吸筋薬理 平滑筋に作用する生理活性物質と薬理、呼吸興奮薬、呼吸鎮静薬について	西下	講義室6A
33回	6	20	月	III	薬物による疼痛除去(1) 動物を用いて、麻薬性鎮痛薬、解熱性鎮痛薬の違いを観察する	全教員	実習室5C
34回	6	20	月	IV	薬物による疼痛除去(2) 動物を用いて、局所麻酔薬とその相乗作用を観察する	全教員	実習室5C
35回	6	21	火	I	ビタミン ビタミンの概説、脂溶性ビタミン、水溶性ビタミンについて	岡元	講義室6A
36回	6	27	月	III	防腐薬・腐食薬(1) 酸、アルカリ、重金属、フェノール類、アルデヒド類、ハロゲン等の消毒薬の粘膜に対する作用を観察する	全教員	実習室5C
37回	6	27	月	IV	防腐薬・腐食薬(2) 大腿骨からのカルシウム溶出とフッ化物による抑制を観察する	全教員	実習室5C
38回	6	28	火	I	実習発表会の準備と注意点・グループ分け 進行係、発表の順番等をきめる。	全教員	実習室5C
39回	7	4	月	III	実習発表会(1) 生物学的検定法、中枢神経興奮薬、抑制薬に関する発表と質疑応答	全教員	実習室5C
40回	7	4	月	IV	実習発表会(2) 自律神経薬理、薬物による疼痛除去、防腐薬および腐食薬に関する発表と質疑応答	全教員	実習室5C
41回	7	5	火	I	内分泌系薬理 代表的なホルモンと、それらの過剰症および欠乏症、ホルモン製剤について	岡元	講義室6A
42回	7	11	月	III	消化器系薬理 消化ホルモン、健胃薬、消化薬、潰瘍治療薬、下痢薬	筑波	講義室6A
43回	7	11	月	IV	腎臓・泌尿系薬理 腎臓、体液に関する薬理、泌尿器系で使用する薬物について	筑波	講義室6A
44回	7	12	火	I	救急薬理 救急時に使用する薬物、救急用薬物と適応症	筑波	講義室6A
45回	7	19	火	I	喫煙と薬物	河野	講義室6A

口腔生命科学各論 I (3 年次生)

(1) 口腔解剖学及び同実習	61
(2) 口腔組織学及び同実習	63
(3) 口腔生理学	65
(4) 口腔生化学	67
(5) 歯科理工学実験	69
(6) 口腔病理学及び同実習	71
(7) 口腔微生物学実習	75
(8) 歯科薬理学	77
(9) 医学統計学	79

年度 2016 学期 前期	曜日・校時 月・I (一部木・III~IV)	必修選択 必修	単位数 1
科目番号	25024201		
科目ナンバリング・コード	DNGD22151981		
授業科目名/(英語名)	口腔解剖学及び同実習/ (Oral Anatomy and Practice)		
対象年次 3年次	講義形態 講義・実習形式	教室 歯学部 解剖実習室	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学各論 I		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 真鍋義孝/manabe@nagasaki-u.ac.jp/A棟6階顎顔面解剖学分野教授室/095-819-7627(内7625)/ 月、火、金 16:30~18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	真鍋義孝 manabe@、北川賀一 kitagawa@、小山田常一 oyamada@		
授業の概要及び位置づけ			
<p>口腔領域の基本構造並びに諸器官の相互位置関係を解剖学的に学習する。あわせて、病態や機能と関連付けて思考することができる応用力を養う。また、天然歯の鑑別を通して歯の形態や咬合などの理解を深める。ヒトの歯の一般的な形態を理解し、各歯種の特徴、各歯種間の相違点及び歯種内で各歯を識別する能力を養う。</p>			
授業到達目標			
<p>(1) 歯の構造と機能を説明できる。 (2) 各歯の特徴を説明できる。 (3) 歯種を鑑別できる。 (4) 歯と顎骨の進化について説明できる。 (5) 乳歯と永久歯の違いを説明できる。 (6) 咬合の定義を説明できる。 (7) 歯の退化について説明できる。</p>			
授業方法(学習指導法)			
講義及び歯の鑑別を行う。適宜、プリント、模型、スライド等を使用する。講義は、原則として標本または模型を提示しながら行う。			
授業内容			
<p>1 回目 歯の解剖学総論 (1) 2 回目 歯の解剖学総論 (2) 3 回目 永久歯(切歯)の形態 4 回目 永久歯(犬歯)の形態 5 回目 永久歯(小白歯)の形態 (1) 6 回目 永久歯(小白歯)の形態 (2) 7 回目 永久歯(大白歯)の形態 (1) 8 回目 永久歯(大白歯)の形態 (2) 9 回目 乳歯の形態 (1) 10 回目 乳歯の形態 (2) 11 回目 歯の配列と咬合 12 回目 歯の異常と歯の年齢的变化 13 回目 天然歯の観察と歯種の鑑別実習 (1) 14 回目 天然歯の観察と歯種の鑑別実習 (2) 15 回目 天然歯の観察と歯種の鑑別実習 (3) 16 回目 口腔解剖学のまとめ及び筆記・鑑別試験</p>			
キーワード	歯の進化、歯の形質、咬合、歯の鑑別		
教科書・教材・参考書	歯の解剖学(藤田恒太郎著、金原出版)、歯の解剖学入門(赤井三千男ら著、医歯薬出版)		
成績評価の方法・基準等	3年次前期試験期間中に筆記試験、歯の鑑別試験を行い、成績が100点満点で60点以上の者を合格とする。		
受講要件(履修条件)	講義には毎回出席し、ノートを取ること。質問は随時受け付けるが、オフィスアワーでも受け付ける。面談の際はあらかじめメールで時間調整を行うこと。		
備考(学生へのメッセージ)	教科書、参考書などで充分予習を行っておくこと。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	4	月	I	歯の解剖学総論(1) 歯とは何か、歯の保持、歯の機能、外形、内部構造、歯周組織など	真鍋義孝	解剖実習室(歯)
2回	4	11	月	I	歯の解剖学総論(2) 歯の種類と名称、歯の記号、歯式、方向用語、各部の名称、歯に共通する特徴など	真鍋義孝	解剖実習室(歯)
3回	4	18	月	I	永久歯(切歯)の形態	小山田常一	解剖実習室(歯)
4回	4	25	月	I	永久歯(犬歯)の形態	小山田常一	解剖実習室(歯)
5回	5	2	月	I	永久歯(小臼歯)の形態(1)	真鍋義孝	解剖実習室(歯)
6回	5	9	月	I	永久歯(小臼歯)の形態(2)	真鍋義孝	解剖実習室(歯)
7回	5	16	月	I	永久歯(大臼歯)の形態(1)	真鍋義孝	解剖実習室(歯)
8回	5	23	月	I	永久歯(大臼歯)の形態(2)	真鍋義孝	解剖実習室(歯)
9回	5	30	月	I	乳歯の形態(1)	北川賀一	解剖実習室(歯)
10回	6	6	月	I	乳歯の形態(2)	北川賀一	解剖実習室(歯)
11回	6	13	月	I	歯の配列と咬合	北川賀一	解剖実習室(歯)
12回	6	20	月	I	歯の異常と歯の年齢的变化	小山田常一	解剖実習室(歯)
13回	6	27	月	I	天然歯の観察と歯種の鑑別実習(1)	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(歯)
14回	7	4	月	I	天然歯の観察と歯種の鑑別実習(2)	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(歯)
15回	7	11	月	I	天然歯の観察と歯種の鑑別実習(3)	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(歯)
16回	7	21	木	III,IV	口腔解剖学のまとめ及び筆記・鑑別試験	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(歯)

年度 2016 学期 前期	曜日・校時 水・Ⅲ～Ⅳ	必修選択 必修	単位数 2
科目番号	25024202		
科目ナンバリング・コード	DNGD22161981		
授業科目名/(英語名)	口腔組織学及び同実習/ (Oral Histology and Practice)		
対象年次 3年次	講義形態 講義・実習形式	教室 講義室 6A、実習室 5B	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学各論 I		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスパワー 小守壽文/komorit@nagasaki-u.ac.jp /細胞生物学分野教授室/095-819-7630(内 7630)/16:30～18:30			
担当教員(オム ニバス科目等)	講義:宮崎敏博 実習:宮崎敏博、森石武史		
授業の概要及び位置づけ 組織学は、顕微鏡を用いて正常組織の構造と機能を解析する学問である。その中で、口腔組織学は歯科診療に必要な口腔内組織の構造と機能について詳細に学習する。			
授業到達目標 1.顕微鏡下で正常組織の構造を判別でき、病的変化を診断できる知識を習得させる。 2.歯科医師にとって重要な口腔領域の各種臓器について組織構造と機能を理解させる。 3.口腔の軟組織(口唇・頬・舌・口蓋)の構造と機能について説明が出来る。 4.唾液腺の基本構造、および、各種唾液腺の機能と構造との関連について説明が出来る。 5.歯牙の発生過程における、歯胚の構造、象牙質・エナメル質の形成、歯根形成、歯周組織の発生について説明できる。 6.エナメル質・象牙質・歯髄・セメント質・歯根膜・歯肉・歯槽骨の構造と機能について説明が出来る。			
授業方法(学習指導法) パワーポイントとプリントを用いた講義、および顕微鏡標本の観察とスケッチを行う。			
授業内容 1 回目 食道・胃。消化管の基本構造について解説し、口腔を経て食道から胃までの消化管の構造的、機能的特徴について解説する。実習では、ヒトの食道・噴門・胃底・幽門の標本を顕微鏡観察する。 実習では、ヒト大唾液腺(耳下腺・顎下腺・舌下腺)の標本を顕微鏡観察する。 2 回目 小腸・大腸。小腸と大腸の構造的、機能的特徴について解説する。実習では、ヒトの十二指腸・空腸・回腸・虫垂・結腸の標本を用いて顕微鏡観察する。 3 回目 口唇・頬・口蓋・舌。口腔粘膜、扁桃および味蕾の構造的、機能的特徴について講義する。 実習では、ヒトの口唇、頬、舌、モルモットの舌の顕微鏡観察を行う。 4 回目 消化管の総括。消化管についてまとめの学習を行う。 5 回目 唾液腺。唾液腺の基本構造を解説し、大唾液腺と小唾液腺の形態的、機能的相違点について講義する。 6 回目 口腔軟組織の総括。口腔軟組織についてまとめの学習を行う。 7 回目 歯の発生1。歯の発生の概観、歯牙組織の起源、歯胚の発生段階による分類、歯胚発生における上皮と間葉の相互作用および分子調節について講義する。実習では、ヒト8週胎児の歯胚およびマウスの歯胚の顕微鏡観察を行う。 8 回目 歯の発生2。歯冠形成過程における、象牙質・エナメル質の形成過程について詳細に講義する。実習では、ヒト4ヶ月と6ヶ月胎児の歯胚の脱灰標本を用いて顕微鏡観察を行う。 9 回目 歯の発生3。歯根と歯周組織の発生について解説する。歯根・歯周組織形成におけるヘルトヴィッヒの上皮鞘と歯小囊の役割について講義する。実習では、ヒト6ヶ月胎児およびマウスの歯胚の脱灰標本を用いて顕微鏡観察を行う。 10 回目 エナメル質。エナメル質の基本単位であるエナメル小柱の組織学的特徴、エナメル紡錘・エナメル叢等のエナメル質に特異な構造、横紋などの成長線について解説する。実習では、ヒト歯牙の研磨標本を用いて顕微鏡観察を行う。 11 回目 象牙質・歯髄。象牙質細管と基質からなる象牙質の基本構造、場所による象牙質の分類、石灰化に起因する構造、成長線について解説する。また、歯髄を象牙質形成層と固有歯髄に分けて、その組織学的特徴について講義する。 12 回目 象牙質・歯髄の実習。ヒト歯牙の研磨および脱灰標本の顕微鏡観察を行う。 13 回目 歯周組織(セメント質・歯根膜・歯槽骨・歯肉)。歯牙の支持組織であるセメント質・歯根膜・歯槽骨および歯肉の組織学的特徴について解説し、歯と歯槽骨が歯根膜を介していかにかに結合しているかを構造的に理解させる。 14 回目 歯周組織の実習。ヒト歯牙の脱灰標本の顕微鏡観察を行う。 15 回目 歯牙組織の総括。歯牙組織についてまとめの学習を行う。			
キーワード	口腔軟組織、消化管、歯胚、歯牙組織、顕微鏡		
教科書・教材・参考書	教科書: カラーエッセンシャル口腔組織・発生学(ジェームズ K.エイヴリー著、西村書店) 参考書: 口腔組織・発生学(脇田稔他著、医歯薬出版) di Fiore's 人体組織図譜(藤田恒夫訳、南江堂) 教材: プレゼンテーションの一部をプリント配布; ヒトおよび各種動物の組織標本		
成績評価の方法・基準等	筆記試験と実習試験を行う。それぞれ中間試験と定期試験に分けて行い、総合的に評価する。詳細は講義開始時、および LACS で提示する。実習試験はパワーポイントによる出題形式で行う。		
受講要件(履修条件)	なし		
備考(学生へのメッセージ)	2年次の組織学をよく復習しておくこと。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	6	水	Ⅲ～Ⅳ	食道・胃 消化管の基本構造と食道および胃の構造的、機能的特徴について解説する。 実習は、ヒトの食道・噴門・胃底・幽門の標本を顕微鏡観察する。	宮崎	講義室6A・ 実習室5B
2回	4	13	水	Ⅲ～Ⅳ	小腸・大腸 小腸と大腸の構造的、機能的特徴について解説する。 実習は、ヒト十二指腸・回腸・空腸・虫垂・結腸の標本を顕微鏡観察する。	宮崎	講義室6A・ 実習室5B
3回	4	20	水	Ⅲ～Ⅳ	口唇・頬・口蓋・舌 口腔粘膜、扁桃および味蕾の構造的、機能的特徴について講義する。 実習は、ヒトの口唇、頬、舌、モルモットの舌の顕微鏡観察を行う。	宮崎	講義室6A・ 実習室5B
4回	4	27	水	Ⅲ～Ⅳ	消化管の総括 消化管(食道・胃・小腸・大腸)についてのまとめを行う。	宮崎	講義室6A・ 実習室5B
5回	5	11	水	Ⅲ～Ⅳ	唾液腺 唾液腺の基本構造と大唾液腺と小唾液腺の組織学的特徴について講義する。 実習は、ヒトの大唾液腺(耳下腺・顎下腺・舌下腺)の顕微鏡観察を行う。	宮崎	講義室6A・ 実習室5B
6回	5	18	水	Ⅲ～Ⅳ	口腔軟組織の総括 口腔軟組織(口唇・頬・口蓋・舌・唾液腺)についてのまとめを行う。	宮崎	講義室6A・ 実習室5B
7回	5	25	水	Ⅲ～Ⅳ	歯の発生1 歯の発生の概観、歯牙組織の起源、歯胚の初期発生について講義する。 実習では、ヒト8週胎児の歯胚、およびマウスの歯胚の顕微鏡観察を行う。	宮崎	講義室6A・ 実習室5B
8回	6	1	水	Ⅲ～Ⅳ	歯の発生2 歯冠形成過程について講義する。 実習では、ヒト4ヶ月と6ヶ月胎児の歯胚脱灰標本を用いて顕微鏡観察を行う。	宮崎	講義室6A・ 実習室5B
9回	6	8	水	Ⅲ～Ⅳ	歯の発生3 歯根形成過程について講義する。 実習は、ヒト6ヶ月胎児とマウスの歯胚脱灰標本を用いて観察を行う。	宮崎	講義室6A・ 実習室5B
10回	6	15	水	Ⅲ～Ⅳ	エナメル質 エナメル質の組織学的特徴について講義する。 実習は、ヒト歯牙の研磨標本を用いる。	宮崎	講義室6A・ 実習室5B
11回	6	22	水	Ⅲ～Ⅳ	象牙質・歯髄 象牙質と歯髄の組織学的特徴について講義する。	宮崎	講義室6A・ 実習室5B
12回	6	29	水	Ⅲ～Ⅳ	象牙質・歯髄の実習 ヒト歯牙の研磨および脱灰標本を用いて、象牙質と歯髄の顕微鏡観察を行う	宮崎	講義室6A・ 実習室5B
13回	7	6	水	Ⅲ～Ⅳ	歯周組織(セメント質・歯根膜・歯槽骨・歯肉) 歯牙の支持組織としてのセメント質・歯根膜・歯槽骨および歯肉の組織学的特徴について講義する。	宮崎	講義室6A・ 実習室5B
14回	7	13	水	Ⅲ～Ⅳ	歯周組織の実習 ヒト歯牙の脱灰標本を用いて、歯周組織の顕微鏡観察を行う。	宮崎	講義室6A・ 実習室5B
15回	7	20	水	Ⅲ～Ⅳ	歯牙組織の総括 歯牙組織(発生・エナメル質・象牙質・歯髄・歯周組織)についてのまとめを行う。	宮崎	講義室6A・ 実習室5B

年度 2016 学期 後期	曜日・校時 金・Ⅱ	必修選択 必修	単位数 1
科目番号	25024203		
科目ナンバリング・コード	DNGD22171982		
授業科目名/(英語名)	口腔生理学/ (Oral physiology)		
対象年次 3年次	講義形態 講義・実習形式	教室 講義室 6A	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学各論 I		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 岡田幸雄/okada@nagasaki-u.ac.jp /生体情報科学分野准教授室/095-819-7637(内 7637)/水曜日 17:00-18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	岡田幸雄、藤山理恵		
授業の概要及び位置づけ 口腔顔面部位の組織と器官の正常な機能を理解し、これらの個体への統合をめざす。			
授業到達目標 1.消化器系の機能を説明できる。 2.嗅覚器と味覚器の機能を説明できる。 3.頭頸部の機能を説明できる。 4.口腔の機能を説明できる。 5.歯痛の機序を説明できる。			
授業方法(学習指導法) 液晶プロジェクターや板書で授業を進め、必要に応じてプリントを配布する。			
授業内容 1 回目 嚥下・嘔吐 9月30日(金) 藤山 理恵 2 回目 唾液腺 10月 7日(金) 岡田 幸雄 3 回目 消化・吸収 I 10月14日(金) 岡田 幸雄 4 回目 消化・吸収 II 10月21日(金) 岡田 幸雄 5 回目 消化・吸収 III 10月28日(金) 岡田 幸雄 6 回目 嗅覚 11月 4日(金) 岡田 幸雄 7 回目 味覚 I 11月11日(金) 藤山 理恵 8 回目 味覚 II 11月18日(金) 藤山 理恵 9 回目 口腔内感覚 I 11月25日(金) 岡田 幸雄 10 回目 口腔内感覚 II 12月 2日(金) 岡田 幸雄 11 回目 顎運動 12月 9日(金) 岡田 幸雄 12 回目 咀嚼 12月16日(金) 岡田 幸雄 13 回目 発声・言語 1月 6日(金) 岡田 幸雄 14 回目 臨床口腔生理学 1月13日(金) 藤山 理恵 15 回目 まとめ 1月27日(金) 岡田 幸雄 16 回目 定期考査			
キーワード	嚥下, 唾液, 消化酵素, 栄養素, 嗅覚, 味覚, 歯痛, 発声, 顎運動		
教科書・教材・参考書	教科書 : 基礎歯科生理学 第6版, 森本・山田・二ノ宮・岩田編, 医歯薬出版 参考書1: 生理学テキスト 第7版, 大地陸男著, 文光堂 参考書2: 標準生理学 第8版, 小澤瀨司ら編集, 医学書院 参考書3: ギャング生理学, 原書24版, 岡田泰伸ら訳, 丸善		
成績評価の方法・基準等	期末試験の成績により評価する。		
受講要件(履修条件)	なし		
備考(学生へのメッセージ)	生理学を復習しておくこと。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	9	30	金	II	嚥下の概念、嚥下運動の特徴、嚥下の神経機構と嘔吐のメカニズムを理解する。	藤山理恵	講義室6A
2回	10	7	金	II	外分泌腺の一般的特徴、唾液分泌の調節、唾液の生理的機能、唾液の分泌機序について学習する。	岡田幸雄	講義室6A
3回	10	14	金	II	消化管の構造、胃の運動、小腸の運動、消化管運動の調節、排便について学習する。	岡田幸雄	講義室6A
4回	10	21	金	II	胃液の分泌とその調節、膵液の分泌とその調節、胆汁の分泌とその調節、消化管ホルモンの働きについて学習する。	岡田幸雄	講義室6A
5回	10	28	金	II	小腸粘膜の構造、3大栄養素(炭水化物、タンパク質、脂質)の消化と吸収、ビタミンとミネラルの吸収について学習する。	岡田幸雄	講義室6A
6回	11	4	金	II	嗅覚器の構造、嗅細胞による匂い受容機序、脳での情報処理、フェロモン受容について学習する。	岡田幸雄	講義室6A
7回	11	11	金	II	味覚の特徴、受容機構、味覚情報の伝達と処理を理解する。	藤山理恵	講義室6A
8回	11	18	金	II	味覚障害、歯科臨床と味覚、加齢と味覚について理解する。	藤山理恵	講義室6A
9回	11	25	金	II	口腔内の体性感覚について理解する。触覚、圧覚、温度覚を説明できる。	岡田幸雄	講義室6A
10回	12	2	金	II	歯痛について解説する。象牙質、歯髄、歯根膜の痛みの差異について理解する。	岡田幸雄	講義室6A
11回	12	9	金	II	顎反射、顎運動の神経・筋機構、舌運動、口唇・頬・顔面運動について理解する。	岡田幸雄	講義室6A
12回	12	16	金	II	咀嚼能力の評価、咀嚼運動の調節について理解する。	岡田幸雄	講義室6A
13回	1	6	金	II	発声の機序、共鳴と構音、大脳皮質言語野と失語症について学習する。	岡田幸雄	講義室6A
14回	1	13	金	II	口腔生理学全般について演習形式を用いて復習する。	藤山理恵	講義室6A
15回	1	27	金	II	まとめ	岡田幸雄	講義室6A

年度 2016 学期 後期	曜日・校時 水・Ⅱ (一部Ⅰ～Ⅱ)	必修選択 必修	単位数 1																																																																											
科目番号	25024204																																																																													
科目ナンバリング・コード	DNGD22181982																																																																													
授業科目名/(英語名)	口腔生化学/(Oral Biochemistry)																																																																													
対象年次 3年次	講義形態 講義形式	教室 第1講義室																																																																												
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学各論Ⅰ																																																																													
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 根本孝幸/tnemoto@nagasaki-u.ac.jp / A棟2階口腔分子生化学分野教授室/095-819-7640(内7640)/月、金曜 13:00～18:30																																																																														
担当教員(オムニバス科目等)	根本 孝幸、根本 優子、馬場 友巳、武田 弘資(非常勤講師/医歯薬(薬)教授)、高橋 信博(非常勤講師/東北大学教授)																																																																													
授業の概要及び位置づけ 細胞生物学入門, 生化学で学んだ知識を元に, 口腔領域, 結合組織, 硬組織に関する生化学を理解する。																																																																														
授業到達目標 1. 結合組織の構造, 機能, 成分, 及びそれらの特徴を説明できる。 2. 硬組織の石灰化と吸収のしくみを説明できる。 3. 血清カルシウムの恒常性とその調節機構を説明できる。 4. 唾液成分及び齶蝕に関する生化学を説明できる。 5. 炎症と免疫及び発がん機構の概要を説明できる。																																																																														
授業方法(学習指導法) 教科書の内容を中心に, プロジェクターを用いた講義を行う。予習, 復習にLACSを活用する予定。理解を確実にするため毎回章末の”チェックポイント”を全員で解答しLACSにUPし, 解答を全員が共有する。																																																																														
授業内容 <table border="1"> <tr> <td>1回目</td> <td>序章</td> <td>口腔機能の分子・細胞生物学的理解のために</td> <td>10/5</td> <td>根本 孝幸</td> </tr> <tr> <td>2回目</td> <td>1章</td> <td>骨と歯の進化と形づくりの分子メカニズム</td> <td>10/12</td> <td>根本 孝幸</td> </tr> <tr> <td>3回目</td> <td>2章</td> <td>結合組織と上皮組織の生化学1</td> <td>10/19</td> <td>馬場 友巳</td> </tr> <tr> <td>4回目</td> <td>2章</td> <td>結合組織と上皮組織の生化学2</td> <td>10/26</td> <td>馬場 友巳</td> </tr> <tr> <td>5回目</td> <td>3章</td> <td>骨, 歯と歯周組織の有機成分とその代謝</td> <td>11/2</td> <td>馬場 友巳</td> </tr> <tr> <td>6回目</td> <td>4章</td> <td>骨と歯の無機成分と石灰化の機構</td> <td>11/9</td> <td>根本 孝幸</td> </tr> <tr> <td>7回目</td> <td>特別講義</td> <td>ミトコンドリアの生化学</td> <td>11/16</td> <td>武田 弘資</td> </tr> <tr> <td>8回目</td> <td>5章</td> <td>硬組織の形成と吸収のしくみ</td> <td>11/30</td> <td>根本 孝幸</td> </tr> <tr> <td>9回目</td> <td>6章</td> <td>血清カルシウムの恒常性とその調節機構1</td> <td>12/7</td> <td>根本 孝幸</td> </tr> <tr> <td>10回目</td> <td>6章</td> <td>血清カルシウムの恒常性とその調節機構2</td> <td>12/14</td> <td>根本 孝幸</td> </tr> <tr> <td>11回目</td> <td>7章</td> <td>唾液の生化学</td> <td>12/21</td> <td>馬場 友巳</td> </tr> <tr> <td>12回目</td> <td>9章</td> <td>齶蝕の生化学</td> <td>12/28</td> <td>根本 優子</td> </tr> <tr> <td>13回目</td> <td>10章</td> <td>炎症と免疫</td> <td>12/28</td> <td>根本 優子</td> </tr> <tr> <td>14回目</td> <td>特別講義</td> <td>口腔バイオフィルムの生化学とメタボローム解析</td> <td>1/11</td> <td>高橋 信博</td> </tr> <tr> <td>15回目</td> <td>12章</td> <td>がんはどうしてできるか</td> <td>1/18</td> <td>根本 孝幸</td> </tr> </table>				1回目	序章	口腔機能の分子・細胞生物学的理解のために	10/5	根本 孝幸	2回目	1章	骨と歯の進化と形づくりの分子メカニズム	10/12	根本 孝幸	3回目	2章	結合組織と上皮組織の生化学1	10/19	馬場 友巳	4回目	2章	結合組織と上皮組織の生化学2	10/26	馬場 友巳	5回目	3章	骨, 歯と歯周組織の有機成分とその代謝	11/2	馬場 友巳	6回目	4章	骨と歯の無機成分と石灰化の機構	11/9	根本 孝幸	7回目	特別講義	ミトコンドリアの生化学	11/16	武田 弘資	8回目	5章	硬組織の形成と吸収のしくみ	11/30	根本 孝幸	9回目	6章	血清カルシウムの恒常性とその調節機構1	12/7	根本 孝幸	10回目	6章	血清カルシウムの恒常性とその調節機構2	12/14	根本 孝幸	11回目	7章	唾液の生化学	12/21	馬場 友巳	12回目	9章	齶蝕の生化学	12/28	根本 優子	13回目	10章	炎症と免疫	12/28	根本 優子	14回目	特別講義	口腔バイオフィルムの生化学とメタボローム解析	1/11	高橋 信博	15回目	12章	がんはどうしてできるか	1/18	根本 孝幸
1回目	序章	口腔機能の分子・細胞生物学的理解のために	10/5	根本 孝幸																																																																										
2回目	1章	骨と歯の進化と形づくりの分子メカニズム	10/12	根本 孝幸																																																																										
3回目	2章	結合組織と上皮組織の生化学1	10/19	馬場 友巳																																																																										
4回目	2章	結合組織と上皮組織の生化学2	10/26	馬場 友巳																																																																										
5回目	3章	骨, 歯と歯周組織の有機成分とその代謝	11/2	馬場 友巳																																																																										
6回目	4章	骨と歯の無機成分と石灰化の機構	11/9	根本 孝幸																																																																										
7回目	特別講義	ミトコンドリアの生化学	11/16	武田 弘資																																																																										
8回目	5章	硬組織の形成と吸収のしくみ	11/30	根本 孝幸																																																																										
9回目	6章	血清カルシウムの恒常性とその調節機構1	12/7	根本 孝幸																																																																										
10回目	6章	血清カルシウムの恒常性とその調節機構2	12/14	根本 孝幸																																																																										
11回目	7章	唾液の生化学	12/21	馬場 友巳																																																																										
12回目	9章	齶蝕の生化学	12/28	根本 優子																																																																										
13回目	10章	炎症と免疫	12/28	根本 優子																																																																										
14回目	特別講義	口腔バイオフィルムの生化学とメタボローム解析	1/11	高橋 信博																																																																										
15回目	12章	がんはどうしてできるか	1/18	根本 孝幸																																																																										
キーワード	結合組織, 硬組織, コラーゲン, カルシウム, ヒドロキシアパタイト, pH, 齶蝕, 免疫, 発がん																																																																													
教科書・教材・参考書	教科書:口腔生化学 第5版 早川太郎他 著 (医歯薬出版) (2011年発行) 参考書:唾液 歯と口腔の健康 (医歯薬出版)																																																																													
成績評価の方法・基準等	定期試験(90点)とレポート加点の合計により評価する。特別講師の研究に関するレポート(4点)。 加点1:「出席カード」で特に優れている記載, 質問の場合(1回につき1点)。 加点2:各章のチェックポイント(4-5回)のレポート(計4-5点)。																																																																													
受講要件(履修条件)	なし																																																																													
備考(学生へのメッセージ)	重要な事項(教科書チェックポイント)および特別講師の講義に関連するレポートを提出する。 教科書, LACSでの予習復習が必須。																																																																													

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	5	水	II	序章 口腔機能の分子・細胞生物学的理解のために	根本 孝幸	第1講義室
2回	10	12	水	II	1章 骨と歯の進化と形づくりの分子メカニズム	根本 孝幸	第1講義室
3回	10	19	水	II	2章(1) 結合組織と上皮組織の生化学1	馬場 友巳	第1講義室
4回	10	26	水	II	2章(2) 結合組織と上皮組織の生化学2	馬場 友巳	第1講義室
5回	11	2	水	II	3章 骨, 歯と歯周組織の有機成分とその代謝	馬場 友巳	第1講義室
6回	11	9	水	II	4章 骨と歯の無機成分と石灰化の機構	根本 孝幸	第1講義室
7回	11	16	水	II	特別講義 ミトコンドリアの生化学	武田 弘資	第1講義室
8回	11	30	水	II	5章 硬組織の形成と吸収のしくみ	根本 孝幸	第1講義室
9回	12	7	水	II	6章(1) 血清カルシウムの恒常性とその調節機構1	根本 孝幸	第1講義室
10回	12	14	水	II	6章(2) 血清カルシウムの恒常性とその調節機構2	根本 孝幸	第1講義室
11回	12	21	水	II	7章 唾液の生化学	馬場 友巳	第1講義室
12回	12	28	水	I	9章 齶蝕の生化学 (授業開始時間に注意)	根本 優子	第1講義室
13回	12	28	水	II	10章 炎症と免疫	根本 優子	第1講義室
14回	1	11	水	I-II	特別講義 口腔バイオフィルムの生化学とメタボローム解析 (授業開始時間に注意)	高橋 信博	第1講義室
15回	1	18	水	II	12章 がんはどうしてできるか	根本 孝幸	第1講義室

年度 2016 学期 後期	曜日・校時 水・Ⅲ～Ⅴ	必修選択 必修	単位数 1
科目番号	25024205		
科目ナンバリング・コード	DNGD22191985		
授業科目名/(英語名)	歯科理工学実験/ (Laboratory Works of Dental Materials Science)		
対象年次 3年次	講義形態 実験形式	教室 実習室 5C・第1講義室	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学各論 I		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 渡邊郁哉/ikuyaw@nagasaki-u.ac.jp /歯学部 5階生体材料学分野教授室/095-819-7656(内 7656)/金曜 15:00～17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	渡邊郁哉、白石孝信、バラネザハド、岩沼健児(非常勤講師)		
授業の概要及び位置づけ			
<p>各種歯科材料の成分、構造、特性、硬化反応などを理解するとともに、材料の適切な選択基準や取り扱い方法を身につける。歯科診療のチームリーダーとしての歯科医師が把握していなければならない種々の歯科材料について実習し、知識を確実に自分のものとするための実験科目である。</p> <p>歯科材料の性質をよく理解し、その特性を活かした使用が出来るようになるための技能を確実に身につける。</p>			
授業到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ○各種の歯科材料の成分、硬化反応、特性などを説明できる。 ○歯科材料の使用上ならびに保管上の注意点を説明できる。 ○修復物作製に必要な器械・器具類を正しく取り扱うことが出来る。 			
授業方法(学習指導法)			
<p>クラス全体を5班に分け、週ごとに実験テーマをローテーションする。担当教員の指導のもとに、主として修復物の作製工程で用いられる種々の歯科材料の硬化過程および加熱過程における物性変化を測定し、各自でレポートを作成する。</p>			
授業内容			
<p>五つの実験テーマを各担当教員が同時に開設しており、各グループは毎週それぞれのテーマの実験を行う。</p> <p>1回目： 歯科理工学実験の内容ならびに実施要領を説明し、実験に対する心構えを喚起する。さらに実験データのまとめ方、ならびにレポートの作成方法について解説する。</p> <p>2回目～7回目：グループ別実験 テーマ①：歯科用レジンの餅状化時間と重合反応 テーマ②：アルジネート印象材のゲル化時間、弾性印象材の弾性比較と硬化挙動 テーマ③：歯科用石膏の硬化時間 テーマ④：歯科用石膏系埋没材の硬化膨張、吸水膨張、歯科用石膏の水和反応の観察 テーマ⑤：歯科用埋没材の熱膨張</p> <p>8回目： グループごとに選択した実験テーマについて、得られた実験結果や考察等をクラス全体に対して液晶プロジェクターなどを用いて発表し、質疑応答する。</p>			
キーワード	歯科材料、石膏、埋没材、歯科用セメント、印象材、レジン、陶材、ワックス		
教科書・教材・参考書	<ul style="list-style-type: none"> ○歯科理工学実験書、長崎大学・生体材料学分野 ○スタンダード歯科理工学、学建書院 ○Craig's Restorative Dental Materials, Mosby Elsevier ○歯科材料学事典、学建書院 ○歯科理工学教育用語集、医歯薬出版 		
成績評価の方法・基準等	<p>それぞれの実験テーマに対してレポートを提出させ、採点評価する(90%)。また、グループ別発表会を別個に評価する(10%)。レポートは実験内容の理解度ならびに測定データが十分に議論されているかなどを中心に評価する。</p>		
受講要件(履修条件)	<p>実験を実施しなければレポートを作成できないため、必ず出席すること。正当な理由がある場合は、再実験を認める。</p>		
備考(学生へのメッセージ)	<p>配布する歯科理工学実験書を必ず予習しておくことが重要である。</p>		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	5	水	Ⅲ	オリエンテーション 歯科理工学実験の内容ならびに実施要領を説明し、実験への心構えを喚起する。実験データのまとめ方ならびにレポートの作成方法について解説する。	渡邊・白石 バラ・岩沼	実習室5C
2回	10	12	水	Ⅲ～Ⅴ	歯科材料の性質① 五つの実験テーマを同時開設しており、5班に分けた各班が週ごとに実験テーマを順番に回り、消化する。テーマ①: 歯科用レジンの餅状化時間と重合反応	渡邊・白石 バラ・岩沼	実習室5C
3回	10	19	水	Ⅲ～Ⅴ	歯科材料の性質② テーマ②: アルジネート印象材のゲル化時間、弾性印象材の弾性比較と硬化挙動	渡邊・白石 バラ・岩沼	実習室5C
4回	10	26	水	Ⅲ～Ⅴ	歯科材料の性質③ テーマ③: 歯科用石膏の硬化時間	渡邊・白石 バラ・岩沼	実習室5C
5回	11	2	水	Ⅲ～Ⅴ	歯科材料の性質④ テーマ④: 歯科用石膏系埋没材の硬化膨張, 吸水膨張, 歯科用石膏の水和反応の観察	渡邊・白石 バラ・岩沼	実習室5C
6回	11	16	水	Ⅲ～Ⅴ	歯科材料の性質⑤ テーマ⑤: 歯科用埋没材の熱膨張	渡邊・白石 バラ・岩沼	実習室5C
7回	11	30	水	Ⅲ～Ⅴ	歯科材料の性質①～⑤ まとめ	渡邊・白石 バラ・岩沼	実習室5C
8回	12	7	水	Ⅲ～Ⅴ	歯科材料の性質①～⑤ 実験結果と考察について各グループで液晶プロジェクターを用いてプレゼンテーションする。	渡邊・白石 バラ・岩沼	第1講義室

年度 2016 学期 後期	曜日・校時 火・Ⅱ～Ⅳ	必修選択 必修	単位数 3
科目番号	25024212		
科目ナンバリング・コード	DNGD22201981		
授業科目名/(英語名)	口腔病理学及び同実習/ (Oral Pathology and Practice)		
対象年次 3年次	講義形態 講義・実習形式	教室 講義室 6A、実習室 5B	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学各論 I		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 池田通/tohrupth@nagasaki-u.ac.jp /歯学部 A 棟 1 階口腔病理学分野教授室/095-819-7644(内 7644)/17:00～18:30			
担当教員(オムニバス科目等)	池田通、藤田修一		
授業の概要及び位置づけ			
<p>本授業は基礎科目の1つであるが、歯科医師にとって必須な口腔領域の各種疾患を対象とした授業であり、将来の臨床科目に直接関係している。これらの疾患の基礎的知識を学生に身につけさせることを目的とする。講義の進行にあわせて実習を行うが、病理診断をつけるのではなく、講義内容を実際の標本で確かめ、理解を深める。各種疾患についての基礎的事項を解説するため、基礎歯科医学と臨床歯科医学の橋渡しと位置づけられる。</p>			
授業到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 口腔領域の各種疾患を列挙できる。 2. 口腔領域の各種疾患の原因を説明できる。 3. 口腔領域の各種疾患の成り立ち・病態・病理組織学的特徴を説明できる。 4. 口腔領域の各種疾患の時間的変遷・続発症を説明できる。 			
授業方法(学習指導法)			
<p>講義ではプリント、液晶プロジェクター、板書を併用し、口頭で授業を進める。プリントは簡潔なものなので、講義内容は各自筆記する。また、病変の肉眼的・組織学的視覚素材を液晶プロジェクターで供覧する。実習ではバーチャルスライド画像または配布された病変について顕微鏡観察をして所見をとる。顕微鏡実習時は授業開始までに各自、顕微鏡の準備・標本の受け取りを終え、終了後には顕微鏡・標本の片付けを行う。スタッフは実習に先立ちその日の実習標本の解説をするとともに、実習中随時学生の質問に対応する。</p>			
授業内容			
<p>講義の内容のサブテーマ、実習標本は次ページからの日程別シラバスを参照。L: 講義(講義室 6A) P: 実習(実習室 5B)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. L1 回目 序論、唾液腺疾患 I L2 回目 唾液腺疾患 II L3 回目 唾液腺疾患 III 2. L4 回目 唾液腺疾患 IV P1, 2 回目 非腫瘍性唾液腺疾患、唾液腺腫瘍 I 3. L5 回目 口腔粘膜疾患 I P3, 4 回目 唾液腺腫瘍 II 4. L6 回目 口腔粘膜疾患 II P5, 6 回目 口腔粘膜疾患 5. L7 回目 歯の発育異常 L8 回目 歯の機械的、化学的損傷 L9 回目 歯の沈着物と着色、抜歯窩の治癒 6. L10 回目 齲蝕 I L11 回目 齲蝕 II、象牙質とセメント質の増生、歯の移動の病理 L12 回目 歯髄の病変 7. L13 回目 根尖性歯周炎 P7, 8 回目 齲蝕、歯髄炎、象牙質・セメント質の増生 8. L14 回目 全身疾患と口腔病変 P9, 10 回目 根尖性歯周炎 9. L15 回目 辺縁性歯周炎 I L16 回目 辺縁性歯周炎 II L17 回目 辺縁性歯周炎 III、エプーリス、歯肉増殖症 10. L18 回目 顎骨の病変、口腔領域の奇形 P11, 12 回目 辺縁性歯周炎、エプーリス、歯肉増殖病変 11. P13 回目 顎骨の病変 L19 回目 口腔領域の嚢胞 I L20 回目 口腔領域の嚢胞 II 12. L21 回目 歯原性腫瘍 I P14, 15 回目 歯原性嚢胞、非歯原性嚢胞 13. L22 回目 歯原性腫瘍 II P16, 17 回目 歯原性腫瘍 14. L23 回目 非歯原性腫瘍 I P18, 19 回目 歯原性腫瘍・非歯原性腫瘍 15. L24 回目 非歯原性腫瘍 II P20, 21 回目 非歯原性腫瘍 			
キーワード	齲蝕、歯髄炎、根尖性歯周炎、辺縁性歯周炎、顎骨疾患、粘膜疾患、唾液腺疾患、嚢胞、腫瘍		
教科書・教材・参考書	<p>参考書 1. 新口腔病理学 下野正基、高田隆編 (医歯薬出版)</p> <p>2. Oral and Maxillofacial Pathology. 3rd ed. Neville BW, et al., ed. Saunders, Elsevier</p> <p>3. 口腔病理アトラス 第2版 高木實 編(医歯薬出版)</p> <p>4. 口腔病理カラーアトラス 第2版 石川梧郎 編(文光堂)</p> <p>授業で配布するプリント及び実習標本画像とその解説は事前に LACS に公開するため、予習・復習に適宜利用することが可能</p>		
成績評価の方法・基準等	定期試験(筆記試験)の得点(100%)		
受講要件(履修条件)	定期試験の受験資格:授業回数の3/4以上の出席		
備考(学生へのメッセージ)	病理学総論の授業内容を理解しておくこと。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	4	火	II	序論、唾液腺疾患 口腔病理学の概念と学習方法、病理診断業務、唾液腺の正常構造	藤田	講義室6A
2回	10	4	火	III	唾液腺疾患 唾液腺の非腫瘍性疾患	藤田	講義室6A
3回	10	4	火	IV	唾液腺疾患 唾液腺良性腫瘍	藤田	講義室6A
4回	10	11	火	II	唾液腺疾患 唾液腺悪性腫瘍	藤田	講義室6A
5回	10	18	火	II	口腔粘膜疾患 色素沈着、感染症、アフタ性口内炎、角化性病変、皮膚科的疾患	藤田	講義室6A
6回	10	25	火	II	口腔粘膜疾患 歯科治療に関連した口内炎、肉芽腫性病変、舌の病変、移植片対宿主病	藤田	講義室6A
7回	11	1	火	II	歯の発育異常 大きさ、形、構造、数、萌出、位置、咬合の異常	藤田	講義室6A
8回	11	1	火	III	歯の機械的、化学的損傷 咬耗、摩耗、歯折、侵蝕症	藤田	講義室6A
9回	11	1	火	IV	歯の沈着物と着色、抜歯窩の治癒 ペリクル、プラーク、歯石、着色、抜歯創の治癒	藤田	講義室6A
10回	11	8	火	II	齶触 病因、誘因、分類、エナメル質齶触、象牙質齶触	藤田	講義室6A
11回	11	8	火	III	齶触、象牙質とセメント質の増生、歯の移動 セメント質齶触、第二象牙質、象牙質粒、セメント質粒、歯の移動の病理	藤田	講義室6A
12回	11	8	火	IV	歯髄の病変 原因、退行性病変、歯髄充血、歯髄炎、歯髄壊疽	藤田	講義室6A
13回	11	15	火	II	根尖性歯周炎 原因、急性根尖性歯周炎、慢性根尖性歯周炎（歯根肉芽腫、歯根嚢胞）	藤田	講義室6A
14回	11	22	火	II	全身疾患と口腔病変 口腔症状を示す全身疾患 口腔病変を起因とする他臓器疾患（歯性病巣感染）	藤田	講義室6A
15回	11	29	火	II	辺縁性歯周炎 歯周組織の構造、歯肉炎、成人性歯周炎	池田	講義室6A
16回	11	29	火	III	辺縁性歯周炎 炎症の原因と進行過程	池田	講義室6A
17回	11	29	火	IV	辺縁性歯周炎、エプーリス、歯肉増殖症 特殊な歯周疾患、エプーリス、薬物誘導性歯肉増殖症	池田	講義室6A

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
18回	12	6	火	Ⅱ	顎骨の病変、口腔の奇形・発育異常 骨髄炎、線維性異形成症、放射線骨壊死 口唇裂、口蓋裂、フォーダイス顆粒、正中菱形舌炎	池田	講義室6A
19回	12	13	火	Ⅲ	口腔領域の嚢胞 分類、歯源性嚢胞	池田	講義室6A
20回	12	13	火	Ⅳ	口腔領域の嚢胞 非歯源性嚢胞	池田	講義室6A
21回	12	20	火	Ⅱ	歯源性腫瘍 分類、良性腫瘍	藤田	講義室6A
22回	12	27	火	Ⅱ	歯源性腫瘍 悪性腫瘍、骨関連病変	藤田	講義室6A
23回	1	10	火	Ⅱ	非歯源性腫瘍 分類、良性腫瘍、腫瘍様病変	藤田	講義室6A
24回	1	17	火	Ⅱ	非歯源性腫瘍 良性腫瘍、前癌病変、悪性腫瘍	藤田	講義室6A

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1,2回	10	11	火	III・IV	非腫瘍性唾液腺疾患、唾液腺腫瘍 慢性顎下腺炎、唾石症、粘液溢出現象(粘液嚢胞)	藤田 池田	実習室 5 B
3,4回	10	18	火	III・IV	唾液腺腫瘍 多形腺腫、ワルチン腫瘍、基底細胞腺腫、オンコサイト腫瘍、腺房細胞癌、 粘表皮癌、腺様嚢胞癌	藤田 池田	実習室 5 B
5,6回	10	25	火	III・IV	口腔粘膜病変 扁平苔癬、天疱瘡、類天疱瘡、カンジダ症、褥瘡性潰瘍	藤田 池田	実習室 5 B
7,8回	11	15	火	III・IV	齶蝕、歯髄炎、象牙質・セメント質の増生 齶蝕、急性化膿性歯髄炎、セメント質増生、象牙粒、びまん性石灰化、 セメント粒	藤田 池田	実習室 5 B
9,10回	11	22	火	III・IV	根尖性歯周炎 慢性根尖性化膿性歯周炎、歯肉膿瘍、歯根肉芽腫、歯根嚢胞	藤田 池田	実習室 5 B
11,12回	12	6	火	III・IV	辺縁性歯周炎、エプーリス、歯肉増殖症 辺縁性歯周炎、肉芽腫性エプーリス、骨形成性エプーリス、 フェニトイン歯肉増殖症	池田 藤田	実習室 5 B
13回	12	13	火	II	顎骨の病変 骨髄炎、線維性異形成症、外骨症(骨腫)	池田 藤田	実習室 5 B
14,15 回	12	20	火	III・IV	口腔領域の嚢胞 含歯性嚢胞、類皮嚢胞、甲状舌管嚢胞、鰓嚢胞(リンパ上皮性嚢胞)、 鼻口蓋管嚢胞、鼻齒槽嚢胞、術後性上顎嚢胞	池田 藤田	実習室 5 B
16,17 回	12	27	火	III・IV	歯原性腫瘍 エナメル上皮腫、エナメル上皮線維象牙質腫、腺様歯原性腫瘍、 角化嚢胞性歯原性腫瘍、歯牙腫(複雑型・集合型)	藤田 池田	実習室 5 B
18,19 回	1	10	火	III・IV	歯原性腫瘍、非歯原性腫瘍 石灰化嚢胞性歯原性腫瘍、セメント芽細胞腫、歯原性粘液腫、 扁平上皮乳頭腫、疣贅型黄色腫、骨形成(化骨性)線維腫	藤田 池田	実習室 5 B
20,21 回	1	17	火	III・IV	非歯原性腫瘍 血管腫、顆粒細胞腫、神経線維腫、上皮性異形成、 扁平上皮癌、扁平上皮癌リンパ節転移	藤田 池田	実習室 5 B

年度 2016 学期 後期	曜日・校時 木・Ⅱ～Ⅳ	必修選択 必修	単位数 1
科目番号	25024209		
科目ナンバリング・コード	DNGD22211981		
授業科目名/(英語名)	口腔微生物学実習/ (Oral Pathology and Practice)		
対象年次 3年次	講義形態 実習形式	教室 実習室 5A	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学各論 I		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 中山浩次/knak@nagasaki-u.ac.jp/C棟5階口腔病原微生物学教授室/095-819-7648(内 7648)/17:00～18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	内藤真理子、庄司幹郎、佐藤啓子		
授業の概要及び位置づけ			
<p>1.微生物の種類と特性を理解する。</p> <p>2.寄生・感染と生体の防御機構を理解する。</p> <p>3.防御の補助手段としての滅菌、消毒及び化学療法を理解する。</p>			
授業到達目標			
<p>(感染)</p> <p>1.細菌、真菌、ウイルス及び寄生虫の形態学的特徴と生理学的性状を説明できる。</p> <p>2.細菌、真菌、ウイルス及び寄生虫のヒトに対する感染成立の機序と感染微生物がヒトに対して示す病原性を説明出来る。</p> <p>3.清潔と不潔の区別及び滅菌と消毒の意義、原理及び代表的な方法を説明できる。</p> <p>4.化学療法の目的、原理及び作用機序を説明できる。</p> <p>(免疫)</p> <p>1.自然免疫と獲得免疫の異同を説明できる。</p> <p>2.細胞性免疫と体液性免疫の異同を説明できる。</p> <p>3.免疫担当細胞の種類と働きを説明できる。</p> <p>4.免疫寛容を説明できる。</p> <p>5.アレルギーの分類を説明できる。</p> <p>6.免疫・アレルギー疾患の種類と発症を説明できる。</p> <p>7.ワクチンの意義と問題点を説明できる。</p>			
授業方法(学習指導法)			
教員の指導のもとで、実際に微生物(病原微生物を含む)を培養したり、各種の検査を実施したり、顕微鏡を用いた形態観察などの実習を行う。			
授業内容			
<p>1 回目 細菌の染色法(1): <i>Staphylococcus aureus</i> (グラム陽性菌)と <i>Escherichia coli</i>(グラム陰性菌)を材料として使用し、細菌染色の基本となるグラム染色を行う。また墨汁による歯垢の陰影染色を行い各自の歯垢の構成細菌を観察する。</p> <p>2 回目 細菌の染色法(2): 枯草菌で芽胞染色、BCG 菌で抗酸染色を行う。歯垢細菌を陰性染色にて観察する。 菌数測定法: 唾液を用いて段階希釈を行い、培養後にコロニー数をカウントすることで生菌数を測定する。 手洗い実習: 医療従事者として必修の手洗いの方法を習得させる。蛍光クリームを用いて、各自手洗い後の洗い残しを観察、各自の問題点を認識させる。そのうえで正しい手洗い方法を習得させる。</p> <p>3 回目 鼻腔からのブドウ球菌分離: 鼻腔からのサンプルをブドウ球菌選択培地に塗抹し、ブドウ球菌を選択培養する。オキサシリンディスクを使用し、MRSAかどうかを鑑別する。</p> <p>4 回目 口腔レンサ球菌分離同定: 口腔からの歯垢等のサンプルを Mitis-Salivarius 培地に塗抹し、口腔レンサ球菌を分離し、生化学的性状から菌種を同定する。</p> <p>5 回目 歯周病原菌の培養: 口腔内の歯周病原菌として特に重要な <i>P. gingivalis</i>, <i>A. actinomycetemcomitans</i>, <i>F. nucleatum</i> を用い血液寒天培地での嫌気培養を行う。グラム染色で菌の形態を観察する。</p> <p>6 回目 真菌の培養: 口腔内の真菌としてとくに重要な <i>C. albicans</i> について口腔からのサンプルをカンジダ GE 培地に塗抹し、分離する。コーンミール培地を用いて培養し、厚膜胞子を観察する。</p> <p>7 回目 総合討論</p>			
キーワード	感染・微生物・免疫		
教科書・教材・参考書	実習書を配布する。		
成績評価の方法・基準等	微生物学・口腔微生物学・免疫学についての試験、同実習におけるレポート、課題研究発表等の評価を総合して評価する。		
受講要件(履修条件)	白衣を各自で準備すること。		
備考(学生へのメッセージ)	歯科口腔疾患のなかでう蝕、歯周病などの感染症は大きな位置を占めている。その原因となる微生物についてしっかりと学修していただきたい。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	6	木	Ⅱ～Ⅳ	細菌の染色法(1): Staphylococcus aureus (グラム陽性菌)とEscherichia coli (グラム陰性菌)を材料として使用し、細菌染色の基本となるグラム染色を行う。また墨汁による菌垢の陰影染色を行い各自の菌垢の構成細菌を観察する。	内藤・庄子・佐藤	実習室5A
2回	10	13	木	Ⅱ～Ⅳ	細菌の染色法(2): 枯草菌で芽胞染色、BCG菌で抗酸染色を行う。菌垢細菌陰性染色にて観察する。菌数測定法: 唾液を用いて段階希釈を行い、培養後にコロニー数をカウントすることで生菌数を測定する。	内藤・庄子・佐藤	実習室5A
3回	10	20	木	Ⅱ～Ⅳ	鼻腔からのブドウ球菌分離: 鼻腔からのサンプルをブドウ球菌選択培地に塗抹し、ブドウ球菌を選択培養する。オキサシリンディスクを使用し、MRSAかどうかを鑑別する。	内藤・庄子・佐藤	実習室5A
4回	10	27	木	Ⅱ～Ⅳ	口腔レンサ球菌分離同定: 口腔からの菌垢等のサンプルをMitis-Salivarius培地に塗抹し、口腔レンサ球菌を分離し、生化学的性状から菌種を同定する。	内藤・庄子・佐藤	実習室5A
5回	11	10	木	Ⅱ～Ⅳ	歯周病原菌の培養: 口腔内の歯周病原菌として特に重要なP. gingivalis, A. actinomycetemcomitans, F. nucleatumを用い血液寒天培地での嫌気培養を行う。グラム染色で菌の形態を観察する。	内藤・庄子・佐藤	実習室5A
6回	11	17	木	Ⅱ～Ⅳ	真菌の培養: 口腔内の真菌としてとくに重要なC. albicansについて口腔からのサンプルをカンジダGE培地に塗抹し、分離する。コーンミール培地を用いて培養し、厚膜胞子を観察する。	内藤・庄子・佐藤	実習室5A
7回	11	24	木	Ⅱ～Ⅳ	総合討論	内藤・庄子・佐藤	実習室5A

年度 2016 学期 後期	曜日・校時 金・I	必修選択 必修	単位数 1
科目番号	25024210		
科目ナンバリング・コード	DNGD22221982		
授業科目名/(英語名)	歯科薬理学/ (Dental Pharmacology)		
対象年次 3年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 6A	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学各論 I		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィシアワー 筑波隆幸/tsuta@nagasaki-u.ac.jp/A 棟5階歯科薬理学分野教授室/095-819-7652(内 7652)/17:00~18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	岡元 邦彰、西下 一久、坂井 詠子、兼松 隆(非常勤講師)		
授業の概要及び位置づけ			
薬理学の講義と連続性を持つが、痛みを止める薬物、抗感染症薬、止血薬、各種消毒薬、歯科専用薬物などを臨床との関連性を持たせながら講義する。登院前教育の一環として重視し、歯科臨床において使用頻度の高い薬物について、薬理作用と作用機序を論理的に理解することをねらいとする。			
授業到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1.化学療法の目的, 原理および作用機序を理解し説明できる。 2.血液の凝固機序および止血薬について理解し説明できる。 3.滅菌と消毒の意義, 原理および代表的な薬物を理解し説明できる。 4.歯科治療時に留意すべき服用薬物を説明できる。 5.歯内療法, 歯周治療および、う蝕予防に用いる薬物を説明できる。 			
授業方法(学習指導法)			
液晶プロジェクターおよび板書を中心とした講義を行う。教科書を用いるので、該当する項目に関して予習をしてもらいたい。古くなった記載は講義時間内に修正し、プリントを配布して、新しく確実にした情報の追加を行う。			
授業内容			
<ol style="list-style-type: none"> 1 回目 化学療法薬(1):総論、作用機序、副作用と副現象 2 回目 化学療法薬(2):抗感染症薬、抗結核薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬 3 回目 化学療法薬(3):抗悪性腫瘍薬 4 回目 炎症総論、ステロイド性抗炎症薬、非ステロイド性抗炎症薬、消炎酵素剤 5 回目 免疫機能に影響する薬物、免疫抑制薬 6 回目 血液凝固:血液凝固機構概論、血栓症とその治療法 7 回目 止血薬と抗凝薬:止血法および全身性止血薬と局所性止血薬 8 回目 特別講義 兼松 隆 先生 (広島大学・教授) 9 回目 硬組織の薬理:歯と骨の病態薬理学, Ca ホメオスタシス, Ca 摂取と骨吸収, 骨粗鬆症の予防と治療 10 回目 消毒薬:フェノール類, アルコール類, アルデヒド類, ハロゲン, 及びハロゲン含有化合物, 酸化剤 11 回目 腐食薬、収斂薬、重金属化合物、金属拮抗薬、界面活性剤、植物性揮発油類 12 回目 口腔粘膜および唾液腺に作用する薬物 13 回目 歯内療法の薬物 14 回目 歯周疾患の薬物、抗う蝕薬、口腔用特殊薬物 15 回目 まとめ 			
キーワード	薬物, 薬理作用, 作用機序		
教科書・教材・参考書	教科書:現代歯科薬理学(第5版):医歯薬出版 参考書:1.講義に際して示すが、なるべく出版年度の新しい各種参考書を利用の事。 2.図書館にも関連参考書を所蔵している。 3.薬理学講座にも所蔵しているので、利用を申し出てください。 プリント:毎回プリントを配布するので、講義ノートに利用してください。		
成績評価の方法・基準等	3年前期末の定期試験で、筆記試験を行い、60点以上得点すれば合格である。本科目は、3年後期中に合格する事が必要である。再試験は1回行う。本試験の満点は100点、再試験以降の満点は60点とする。		
受講要件(履修条件)	講義は2/3以上の出席が必要。		
備考(学生へのメッセージ)	液晶プロジェクターおよび板書を中心とした講義を行う。教科書を用いるので、該当する項目に関して予習をしてもらいたい。古くなった記載は講義時間内に修正し、プリントを配布して、新しく確実にした情報の追加を行う。授業はシラバスに沿って行うが、毎年若干の変更を余儀なくされる。講義の邪魔になると判断したときには、厳格に対応します。気持ちの良い講義になるように、協力をお願いします。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	9	30	金	I	化学療法薬(1) 総論、作用機序、副作用と副現象、各種抗生物質について	筑波	講義室6A
2回	10	7	金	I	化学療法薬(2) 抗感染症薬、ニューキノロン薬、抗結核薬、抗真菌薬、 抗ウイルス薬について	筑波	講義室6A
3回	10	14	金	I	化学療法薬(3) 抗悪性腫瘍薬について	筑波	講義室6A
4回	10	21	金	I	抗炎症薬 ステロイド性抗炎症薬、非ステロイド性抗炎症薬、消炎酵素剤、	筑波	講義室6A
5回	10	28	金	I	免疫機能に関する薬物 免疫抑制薬、免疫機能活性化薬	筑波	講義室6A
6回	11	4	金	I	血液凝固 血液凝固機構概論、血栓症とその治療法 (血液が血管内で凝固しないのはなぜか。血管外ではなぜ凝固するのか。)	岡元	講義室6A
7回	11	11	金	I	止血薬と抗凝血薬 止血法および全身性止血薬と局所性止血薬 (抜歯後の止血をどう考えるのか。薬物はどのように止血に関与するか。)	岡元	講義室6A
8回	11	18	金	I	特別講義 細胞内情報伝達と薬理作用	兼松	講義室6A
9回	11	25	金	I	硬組織の薬理 歯と骨の病態薬理学、Caホメオスタシス、Ca摂取と骨吸収、 骨粗鬆症の予防と治療	坂井	講義室6A
10回	12	2	金	I	消毒薬 消毒薬総論、消毒効果を左右する因子、消毒力の評価	西下	講義室6A
11回	12	9	金	I	腐食薬、収斂薬 消毒薬各論:フェノール類、アルコール類、アルデヒド類、ハロゲン類 酸化剤、重金属化合物、界面活性剤、植物性揮発油類	西下	講義室6A
12回	12	16	金	I	口腔粘膜治療薬、唾液腺作用薬 口腔粘膜疾患に用いられる薬物および唾液腺に作用する薬物	西下	講義室6A
13回	1	6	金	I	歯科専用薬物(1) 歯内療法に使用する薬物について	岡元	講義室6A
14回	1	13	金	I	歯科専用薬物(2) 歯周疾患に用いる薬物、う蝕の予防に用いる薬物、口腔用特殊薬物	岡元	講義室6A
15回	1	27	金	I	歯科薬理学まとめ 総復習と問題演習	筑波	講義室6A

年度 2016 学期 後期	曜日・校時 火・I	必修選択 必修	単位数 0.5
科目番号	25024211		
科目ナンバリング・コード	DNGD22231098		
授業科目名/(英語名)	医学統計学/ (Statistics in Medicine)		
対象年次 3年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 6A	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学各論 I		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 福田英輝/fhideki@nagasaki-u.ac.jp/口腔保健学分野准教授室/095-819-7664(内 7664)/火曜 16:30～			
担当教員(オムニバス科目等)	福田英輝、北村雅保、川崎浩二(非常勤講師)		
授業の概要及び位置づけ			
<p>医学論文の多くは研究対象標本から得られた事実(データ)に基づいて報告される。履修によってデータの成り立ち・見かたができるようになる。それによって、科学論文への理解が深まる。医学的問題を対象とした統計学と疫学の基礎を学ぶことにより、統計学的思考力や判断力、および疫学研究手法の習得を意図する。</p>			
授業到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1.データの種類とその要約について説明できる。推定と検定を説明できる。 2.パラメトリック検定・ノンパラメトリック検定を説明できる。相関と回帰分析を説明できる。 3.母集団と標本との関係が説明できる。疫学研究の手法について説明できる。 			
授業方法(学習指導法)			
<p>スライドを用いた授業形式。併せて資料を補足するが教科書も必携。理解度の確認のため学生への質問、ならびに定期考査を実施する。</p>			
授業内容			
<ol style="list-style-type: none"> 1 回目 データの種類、記述統計量 2 回目 検定と推定 3 回目 相関と回帰、多変量解析 4 回目 平均値と比率の検定 5 回目 生存分析 6 回目 疫学の方法論 7 回目 サンプリング、バイアス、スクリーニング 8 回目 疫学研究の倫理 			
キーワード	統計的推定・検定、因果関係、EBM、母集団と標本抽出、疫学研究		
教科書・教材・参考書	論文を正しく読み書くためのやさしい統計学改訂第2版 中村好一編著、診断と治療社 はじめて学ぶやさしい疫学 疫学への招待改訂第2版 日本疫学会監修、南江堂		
成績評価の方法・基準等	試験期間に行う定期考査によって総合評価する。全授業を出題範囲とする。		
受講要件(履修条件)	講義は2/3以上の出席が必要。		
備考(学生へのメッセージ)	回数が少ないので出席には要注意		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	4	火	I	データの種類、記述統計量：データの分布および要約の考え方を学ぶ。	北村	講義室6A
2回	10	11	火	I	検定と推定：点推定と95%信頼区間、有意水準、帰無仮説と対立仮説の関係を学ぶ。	北村	講義室6A
3回	10	18	火	I	相関と回帰、多変量解析：散布図、相関の評価、回帰分析および多変量解析の考え方、ならびに相関関係と因果関係について解説する。	北村	講義室6A
4回	10	25	火	I	平均値と比率の検定、パラメトリック検定とノンパラメトリック検定：平均値に関する推測では2群の平均値の差の検定(対応のない場合とある場合)について解説する。比率、割合の定義、2×2分割表への要約法と検定法について解説する。検定の使い分け、パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の相互の関連について解説する。	川崎	講義室6A
5回	11	1	火	I	生存分析：カプラン・マイヤー法、ログランク検定、コックス回帰分析について解説する。	川崎	講義室6A
6回	11	8	火	I	疫学の方法論：疫学研究の種類とその特徴について説明する。	福田	講義室6A
7回	11	15	火	I	サンプリング、バイアス、スクリーニング：母集団から標本を抽出する方法と、その際に生じる偏りについて説明する。またスクリーニングの妥当性について説明する。	福田	講義室6A
8回	11	22	火	I	疫学研究の倫理：人を対象とした疫学研究において遵守すべき項目について説明する。	福田	講義室6A
9回					定期考査で疫学・統計学の基本的な考え方が理解できたかを評価する。	福田	

口腔生命科学各論Ⅱ（3年次生、4年次生）

(1) 衛生学及び同実習	(3年)	81
(2) 予防歯科学及び同実習	(4年)	83
(3) 歯科矯正学及び同実習	(4年)	86
(4) 小児歯科学及び同実習	(4年)	89
(5) 保存修復学	(4年)	92
(6) 保存修復学実習	(4年)	94
(7) 歯内治療学	(4年)	96
(8) 歯内治療学実習	(4年)	98
(9) 歯周病学	(4年)	100
(10) 歯周病学実習	(4年)	102
(11) 冠橋義歯学及び同実習	(4年)	104
(12) 有床義歯補綴学及び同実習	(4年)	107
(13) 口腔外科学Ⅰ及び同実習	(4年)	110
(14) 口腔外科学Ⅱ及び同実習	(4年)	112
(15) 歯科放射線学及び同実習	(4年)	114
(16) 歯科麻酔学及び同実習	(4年)	116

年度 2016 学期 後期	曜日・校時 木・Ⅱ.Ⅲ.Ⅳ	必修選択 必修	単位数 1
科目番号	25034301		
科目ナンバリング・コード	DNGD33011990		
授業科目名/(英語名)	衛生学及び同実習/(Hygieneology & Public Health)		
対象年次 3年次	講義形態 講義・実習形式	教室 第1講義室、実習室 5A	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学各論Ⅱ		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 齋藤俊行/syto@nagasaki-u.ac.jp/口腔保健学分野教授室/095-819-7662(内7662)/火曜 16:30～			
担当教員(オムニバス科目等)	齋藤俊行、福田英輝、古堅麗子、北村雅保、小山善哉 非常勤講師:濱田尚武、本多雅幸(長崎県環境部)、川崎浩二(長崎大学病院)、堀口逸子(長崎大学東京事務所)		
<p>授業の概要及び位置づけ</p> <p>環境衛生学、公衆衛生学、口腔衛生学、社会歯科学、予防医学など「疾患の予防」に基づく幅広い分野を学ぶ。個人並びに集団の健康を守り、疾病の予防をはかる知識を理解、習得させ且つ問題解決に必要な態度と能力を養う。健康、疾患と社会の関連、予防医学の重要性を理解する。</p>			
<p>授業到達目標</p> <p>1. 疾病予防と健康増進の考え方を説明できる。 2. 衛生学の基本的知識、生活環境と健康、廃棄物とその処理、環境保全と環境対策を説明できる。 3. 人口問題と疾病統計、高齢者の現状を説明できる。 4. 医師・歯科医師の責務と医療倫理について説明できる。 5. 感染症の疫学と感染予防を説明できる。 6. 環境保健について説明できる</p>			
<p>授業方法(学習指導法)</p> <p>講義及び実習</p>			
<p>授業内容</p> <p>1, 2 回目: 衛生学、社会歯科学概論 1、2: 衛生学、社会歯科学と健康増進の考え方(齋藤) 3, 4 回目: 食品衛生・食品安全(堀口逸子) 5, 6 回目: 労働条件、労働環境、職業病、こころの健康、精神保健対策、労災法と労災の疫学(福田) 7 回目: エビデンスに基づく医療(川崎浩二) 8 回目: 医療倫理(齋藤) 9 回目: 感染症の予防(福田) 10 回目: 国際保健(福田) 11, 12 回目: 衛生学特別講義-環境保健 1、2: 長崎県環境部の講師による特別講義(濱田尚武、本多雅幸) 13, 14 回目: 衛生学実習: 学生を小グループに分け、水質測定を行う(古堅、北村、小山) 15 回目: 歯科関連の法律、衛生学、社会歯科学 まとめ(齋藤)</p>			
キーワード	衛生、健康、疾患、予防、栄養、疫学、感染、環境、社会		
教科書・教材・参考書	教科書 衛生学・公衆衛生学(医歯薬出版) 新口腔保健学(医歯薬出版) 新予防歯科学 第4版(医歯薬出版) 国民衛生の動向(厚生労働省ホームページ)		
成績評価の方法・基準等	筆記試験。口答試問、レポートを課す場合がある。 実習を含む全授業を出題範囲とする。 実習は必ず出席することとする。欠席した学生は必ず連絡を取ること。		
受講要件(履修条件)	なし		
備考(学生へのメッセージ)	非常勤講師による特別講義は礼節をわきまえること。また出席を重視する。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	12	1	木	II	衛生学、社会歯科学概論1 社会歯科学、衛生学、口腔衛生学、公衆衛生学、予防医学はいずれも疾病の予防のための学問である。その考え方について理解する。	齋藤	第1講義室
2回	12	1	木	III	衛生学、社会歯科学概論2 人口高齢化問題、健康づくり、歯科疾患の疫学について理解する。	齋藤	第1講義室
3回	12	1	木	IV	産業衛生と精神保健1 産業衛生(労働条件、労働環境、職業病)、精神保健(こころの健康、精神保健対策)、労災法と労災の疫学について理解する。	福田	第1講義室
4回	12	8	木	II	産業衛生と精神保健2 産業衛生(労働条件、労働環境、職業病)、精神保健(こころの健康、精神保健対策)、労災法と労災の疫学について理解する。	福田	第1講義室
5回	12	8	木	III	食品安全・食品衛生1 リスクの考え方について食品安全・衛生から学び、医療安全、医療面接に関連するリスクマネジメント・リスクコミュニケーションについて理解する。	堀口 (非常勤)	第1講義室
6回	12	8	木	IV	食品安全・食品衛生2 リスクの考え方について食品安全・衛生から学び、医療安全、医療面接に関連するリスクマネジメント・リスクコミュニケーションについて理解する。	堀口 (非常勤)	第1講義室
7回	12	15	木	II	エビデンスに基づく医療 システムティックレビュー、コクランライブラリー、EBM (Evidence-Based Medicine) の概念と実際、EBM診療ガイドライン等について理解する。	川崎 (非常勤)	第1講義室
8回	12	15	木	III	医療倫理 医療倫理に関する宣言と我が国における法律との関連性を理解する。歯科医師の責務、歯科医師が医療行為をなす基本的責任と義務について学ぶ。	齋藤	第1講義室
9回	12	22	木	II	感染症の予防 感染とその概念と予防。CDC(米国疾病予防管理センター)のガイダンスから感染予防を学ぶ。	福田	第1講義室
10回	12	22	木	III	国際保健 国際協力の仕組みについて理解する。国際比較を通じて口腔保健の状況を理解する。	福田	第1講義室
11回	1	5	木	III	衛生学特別講義-環境保健1	長崎県 環境部 (非常勤)	第1講義室
12回	1	5	木	IV	衛生学特別講義-環境保健2	長崎県 環境部 (非常勤)	第1講義室
13回	1	12	木	III	衛生学実習 水質測定(フッ化物イオン濃度、硬度等)を行う。	古堅 北村 小山	実習室5A
14回	1	12	木	IV	衛生学実習 水質測定(フッ化物イオン濃度、硬度等)を行う。	古堅 北村 小山	実習室5A
15回	1	26	木	II	歯科口腔保健の推進に関する法律、衛生学、社会歯科学 まとめ	齋藤	第1講義室

年度 2016 学期 後期	曜日・校時 月・Ⅲ～Ⅳ	必修選択 必修	単位数 2
科目番号	25034302		
科目ナンバリング・コード	DNGD33021990		
授業科目名/(英語名)	予防歯科学及び同実習/ (Preventive Dentistry)		
対象年次 4年次	講義形態 講義・実習形式	教室 第1講義室、臨床実習室 4B	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学各論Ⅱ		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 齋藤俊行/syto@nagasaki-u.ac.jp/口腔保健学分野教授室/095-819-7662(内7662)/火曜 16:30～			
担当教員(オムニバス科目等)	齋藤俊行、福田英輝、古堅麗子、北村雅保、小山善哉 非常勤講師:花田信弘(鶴見大学)、西村英紀(九州大学)、草野洋介(長崎女子短期大学)、川崎浩二、林田秀明(長崎大学病院)		
授業の概要及び位置づけ 予防は医学の原点である。特に口腔疾患の予防については効率が高いことが分かってきた。口腔疾患の予防について個人的アプローチと社会的アプローチを理解し、口腔の健康を保持・増進するために必要な知識、態度、能力を養う。			
授業到達目標 1.主な口腔疾患(う蝕、歯周疾患)の予防を説明できる。 2.口腔疾患の疫学と指標について説明できる。 3.う蝕予防におけるフッ化物について説明できる。 4.個人および集団レベルでの予防と健康管理を説明できる。 5.地域歯科保健、母子歯科保健、学校歯科保健、成人歯科保健、老人歯科保健、産業歯科保健を説明できる。 6.健康づくりと食生活、栄養、口腔疾患と全身の健康について説明できる。			
授業方法(学習指導法) 講義及び実習			
授業内容 1回目:予防歯科学概論(齋藤) 2回目:う蝕と歯周病の病因論1(個体要因、病原要因、環境要因)とリスク評価(林田秀明) 3回目:う蝕と歯周病の病因論2(個体要因、病原要因、環境要因)とリスク評価(林田秀明) 4回目:口腔疾患の疫学1:口腔疾患の指標(齋藤) 5回目:フッ素と歯科保健1:フッ素の基礎と歴史(齋藤) 6回目:フッ素と歯科保健2:フッ化物の吸収と排泄、許容量、歯のフッ素症、安全性(北村) 7回目:栄養学1:「日本人の食事摂取基準」(草野洋介) 8回目:フッ素と歯科保健3:フッ化物の応用によるう蝕予防(小山) 9回目:栄養学2:「国民健康・栄養調査」「長崎県健康・栄養調査」(草野洋介) 10回目:フッ素と歯科保健4:フッ化物と再石灰化(小山) 11回目:プラークコントロール:プラークコントロールの概念と実際(齋藤) 12回目:地域歯科保健1:成人歯科保健、老人歯科保健、産業歯科保健(福田) 13回目:地域歯科保健2:歯科保健と社会との関わり(福田) 14回目:栄養学3:肥満、メタボリックシンドロームと口腔保健(齋藤) 15, 16回目:予防歯科学実習1:口腔診査法 17回目:栄養学4:国民栄養の現状・食事摂取基準と咀嚼、食品保健制度(北村) 18回目:栄養学5:砂糖・代用甘味料とう蝕、歯の酸蝕症(北村) 19, 20回目:予防歯科学実習2:う蝕リスク検査・保健指導 21, 22回目:予防歯科学実習3:予防填塞法 23, 24回目:特別講義1:健康増進のための歯科医学、糖尿病や全身疾患との関連(西村英紀) 25, 26回目:特別講義2:う蝕の科学と予防の最先端、バイオフィルム(花田信弘) 27回目:地域歯科保健3:地域医療・福祉と医療計画(川崎浩二) 28回目:地域歯科保健4:母子歯科保健、学校歯科保健(川崎浩二) 29回目:口腔疾患の疫学2:歯科疾患と肥満や全身疾患との関連(齋藤) 30回目:まとめ(齋藤)			
キーワード	う蝕、歯周疾患、予防、フッ化物、保健、プラークコントロール、地域		
教科書・教材・参考書	新予防歯科学 第4版(医歯薬出版)、新口腔保健学(医歯薬出版)、 予防歯科学実践ハンドブック(医歯薬出版)		
成績評価の方法・基準等	筆記試験。口答試験、レポートを課す場合もある。 実習を含む全授業を出題範囲とする。 実習は必ず出席すること。欠席した学生は必ず連絡を取ること。		
受講要件(履修条件)	なし		
備考(学生へのメッセージ)	非常勤講師による特別講義は礼節をわきまえること。また出席を重視する。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	4	月	Ⅲ	予防歯科学概論 予防歯科学は個人を対象とした分野と集団や社会を対象とした分野に大別され、衛生学、社会歯科学、口腔衛生学、公衆衛生学、予防医学など幅広い分野と重なる。	齋藤	第1講義室
2回	4	4	月	Ⅳ	う蝕と歯周病の病因1 う蝕および歯周病の発病、進行に関わる個体要因、病原要因、環境要因について講義する。臨床および地域歯科保健現場で利用されているリスク評価の特徴についても解説する。	林田	第1講義室
3回	4	11	月	Ⅲ	う蝕と歯周病の病因2 う蝕および歯周病の発病、進行に関わる個体要因、病原要因、環境要因について講義する。臨床および地域歯科保健現場で利用されているリスク評価の特徴についても解説する。	林田	第1講義室
4回	4	11	月	Ⅳ	口腔疾患の疫学1 歯は年齢とともに増減する。そのため口腔疾患や口腔衛生の状態を示す指標(index)はたいへん複雑であり、数多く提案されている。	齋藤	第1講義室
5回	4	18	月	Ⅲ	フッ素と歯科保健1:フッ素の基礎と歴史 自然界の環境中に存在する必須微量元素であるフッ素について、またその吸収と排泄、許容濃度、歯のフッ素症、歯科分野での応用の歴史について概説する。	齋藤	第1講義室
6回	4	18	月	Ⅳ	フッ素と歯科保健2:フッ化物の安全性 自然界の環境中に存在するフッ素について、その吸収と排泄、許容量、歯のフッ素症、う蝕予防における安全性の確保を概説する。	北村	第1講義室
7回	4	25	月	Ⅲ	栄養学1 「日本人の食事摂取基準」からみたエネルギーおよび各栄養素の摂取量の基準、栄養欠乏と過剰症について学習する。	草野 (学外非常勤)	第1講義室
8回	4	25	月	Ⅳ	フッ素と歯科保健3:フッ化物によるう蝕予防 フッ化物はう蝕予防手段として個人対象から集団まで利用される。歯科との関わり、生体に対する作用とフッ化物濃度と作用機序との関連を学ぶ。	小山	第1講義室
9回	5	9	月	Ⅲ	栄養学2 「国民健康・栄養調査」「長崎県健康・栄養調査」からみた国民・長崎県民の健康と栄養の現状を理解する。	草野 (学外非常勤)	第1講義室
10回	5	9	月	Ⅳ	フッ素と歯科保健4:フッ化物と再石灰化 フッ化物は再石灰化を促進する。臨床、家庭、公衆衛生的にも利用されるフッ化物がどのように再石灰化を促進するか、そのメカニズムを考える。	小山	第1講義室
11回	5	16	月	Ⅲ	ブラークコントロール ブラークコントロールはう蝕と歯周病の最も基本的な予防法であるが、単に歯磨きを示すものではない。ブラークコントロールの概念と実際の手法、生活習慣への組み込み方や指導方について講義する。	齋藤	第1講義室
12回	5	16	月	Ⅳ	地域歯科保健1 (成人・老人・産業歯科保健) 成人を対象とした地域歯科保健事業と産業歯科保健事業について講義する。高齢者を取り巻く社会環境の変化を追いながら、高齢者を対象とした歯科保健事業の変遷について講義する。	福田	第1講義室
13回	5	23	月	Ⅲ	地域歯科保健2 (歯科保健と社会との関わり) 社会環境の変化を追いながら、地域歯科保健事業の変遷と現状について講義する。	福田	第1講義室
14回	5	23	月	Ⅳ	栄養学3 肥満とメタボリックシンドロームについて基本的な知識を学び、口腔保健との関連性について理解する。	齋藤	第1講義室
15回	5	30	月	Ⅲ	予防歯科学実習1 口腔診査法(う蝕、歯周病、その他)	古堅 北村 小山	臨床実習室4B

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
16回	5	30	月	IV	予防歯科学実習1 口腔診査法(う蝕、歯周病、その他)	古堅 北村 小山	臨床実習室4B
17回	6	6	月	III	栄養学4 健康増進の観点から国民栄養の現状と食事摂取基準と咀嚼の関わりについて概説し、食品保健制度に関する理解を深める。	北村	第1講義室
18回	6	6	月	IV	栄養学5 歯の酸蝕症とう蝕の特異的予防として砂糖および代用甘味料の利用に関して理解を深める。	北村	第1講義室
19回	6	13	月	III	予防歯科学実習2 う蝕リスク検査・保健指導	古堅 北村 小山	臨床実習室4B
20回	6	13	月	IV	予防歯科学実習2 う蝕リスク検査・保健指導	古堅 北村 小山	臨床実習室4B
21回	6	20	月	III	予防歯科学実習3 小窩裂溝填塞法	古堅 北村 小山	臨床実習室4B
22回	6	20	月	IV	予防歯科学実習3 小窩裂溝填塞法	古堅 北村 小山	臨床実習室4B
23回	6	27	月	III	特別講義 健康増進のための歯科医学、糖尿病や全身疾患との関連について最新の情報を概説する。	西村 (学外非常勤)	第1講義室
24回	6	27	月	IV	特別講義 健康増進のための歯科医学、糖尿病や全身疾患との関連について最新の情報を概説する。	西村 (学外非常勤)	第1講義室
25回	7	4	月	III	特別講義 う蝕の科学と予防の最先端について、口腔バイオフィルムについて最新の情報を学ぶ。	花田 (学外非常勤)	第1講義室
26回	7	4	月	IV	特別講義 う蝕の科学と予防の最先端について、口腔バイオフィルムについて最新の情報を学ぶ。	花田 (学外非常勤)	第1講義室
27回	7	11	月	III	地域歯科保健3 地域医療計画、地域医療・福祉の現状と地域医療連携の実際について。	川崎 (学内非常勤)	第1講義室
28回	7	11	月	IV	地域歯科保健4 母子歯科保健(1歳6か月児健康診査、3歳児健康診査等)、学校歯科保健(児童の健康管理と保健教育、学校歯科医の職務等)について。	川崎 (学内非常勤)	第1講義室
29回	7	25	月	III	口腔疾患の疫学2: 肥満は多くの疾患の危険因子である。肥満と歯科疾患との関連性や歯周病が全身に及ぼす影響について、最新の知見を概説する。	齋藤	第1講義室
30回	7	25	月	IV	まとめ 予防歯科学まとめ	齋藤	第1講義室

年度 2016 学期 前期	曜日・校時 月・I～II/火・I	必修選択 必修	単位数 3
科目番号	25034323		
科目ナンバリング・コード	DNGD33031988		
授業科目名/(英語名)	歯科矯正学及び同実習/(Orthodontics&Orthodontic Practice)		
対象年次 4年生	講義形態 講義・実習形式	教室 第1講義室, 臨床実習室4B	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学各論II		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 講義: 吉田教明/nori@nagasaki-u.ac.jp/矯正医局/095-819-7667(内 7667)/不在時を除き毎週金曜日 17:00 以降 実習: 丸山陽市/ymaru@nagasaki-u.ac.jp/教員研究室/095-819-7668(内 7668)/水曜日 16:30～18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	吉田教明, 丸山陽市, 古賀義之, 佛坂斉社, 藤村裕治, 富永淳也, 森田幸子, 小野卓史(非常勤講師), 不島健持(非常勤講師), 井口修一郎(非常勤講師)		
授業の概要及び位置づけ 講義では, 口腔・頭蓋・顔面領域における発生および成長発育の基礎知識を学び, 矯正治療の目的, 必要性, 臨床的意義を理解し, 異常に対する検査, 診断, 治療法を理解する。実習では, 矯正臨床に必要な基本的知識, 技術をタイポドント実習によるシミュレーションや模型実習を通して習得する。			
授業到達目標 1) 発生, 成長発育の概念, 正常咬合が説明できる。 2) 不正咬合の種類, 原因, 病態, 予防法が説明できる。 3) 矯正治療の目的と意義を理解し, 矯正診断と治療の流れ, 治療法が説明できる。 4) 関連する力学が説明できる。 5) 装置の種類と使用目的, 構造, 作用機序, 生体反応, 適応症および製作方法が説明できる。 6) 矯正装置を製作できる。 7) 矯正装置に用いる器材の名称と使い方を説明できる。			
授業方法(学習指導法) 講義, 実習, e-Learning 講義では, 授業内容についてのプリントを逐次配布する。学生の理解度を確保するため小テスト(pre, post)を逐次実施する。e-Learning を利用して, 学生の予習・復習による自主的学習意欲を高めるため講義内容および実習資料を公開する。			
授業内容 (概要)はじめに講義にて, 矯正治療の歴史的流れを理解し, 正常咬合とは何か, 顔貌の不正, 顎骨の異常形態および不正咬合の検査法, 診断法を理解する。同時に今後の矯正歯科学の新しい治療法について内容を深める。実習では, 各課題で作成する装置の構造, 機能, 理論, 適応症などについて, 配布した実習書に従って講義と実習を行い, 矯正装置の製作を行う。 (内容) 1 回目:【講義 1】歯科矯正学の歴史, 成長期の矯正治療 2 回目:【講義 2】歯列と咬合と口腔機能の発育 咬合概論・正常咬合 3 回目:【講義 3】成長発育概論 4 回目:【講義 4】不正咬合・不正咬合の分類 5 回目:【講義 5】診断学(1) 6 回目:【講義 6】セファロ分析(1) 7 回目:【講義 7】セファロ分析(2) 8 回目:【講義 8】セファロ分析(3) 9 回目:【講義 9】抜歯の考え方 10 回目:【講義 10】矯正治療における固定の考え方 11 回目:【講義 11】固定式矯正装置 12 回目:【講義 12】診断学(2) 13・14 回目:【実習 1】自在鑲着, 線屈曲 15 回目:【講義 13】不正咬合の原因と予防 16・17 回目:【実習 2】不正咬合作成, 舌側弧線装置(1) 18 回目:【講義 14】矯正力と矯正治療に伴う生体反応 19・20 回目:【実習 3】舌側弧線装置(2) 21 回目:【講義 15】機能的顎矯正装置 22・23 回目:【実習 4】舌側弧線装置(3) 24 回目:【講義 16】矯正治療に必要な力学 25・26 回目:【実習 5】舌側弧線装置(4) 27 回目:【講義 17】不正咬合の治療(1) 28・29 回目:【実習 6】エッジワイズ装置(1) 30 回目:【講義 18】不正咬合の治療(2) 31・32 回目:【実習 7】エッジワイズ装置(2) 33 回目:【講義 19】顎関節症の矯正治療 34・35 回目:【実習 8】エッジワイズ装置(3) 36 回目:【講義 20】口唇・口蓋裂の矯正治療 37・38 回目:【実習 9】エッジワイズ装置(4) 39 回目:【講義 21】インプラント矯正 40・41 回目:【実習 10】機能的矯正装置(1) 42 回目:【講義 22】顎変形症の矯正治療 43 回目:【講義 23】まとめ 44・45 回目:【実習 11】機能的矯正装置(2)			
キーワード	発生, 成長発育, 正常咬合, 不正咬合の種類, 原因, 矯正治療の目的, 矯正装置, 力学, 歯科矯正学 矯正装置 舌側弧線装置 エッジワイズ装置 機能的矯正装置		
教科書・教材・参考書	教科書: 歯科矯正学(第5版), 医歯薬出版, 相馬邦道, 後藤滋巳他編 参考書: 歯科矯正マニュアル, 南山堂, 榎宏太郎他編 プロフィットの現代歯科矯正学, クインテッセンス出版, 歯科矯正学実習書: 鈴木祥井/医歯薬出版 実習書を配布し, e-Learning にて実習書, 講義での画像, 実習デモの動画を提供する。		
成績評価の方法・基準等	講義の評価と実習の評価で行う。いずれも 60 点以上のものを合格とする。講義の評価は, 定期試験時の筆記試験で行い, LACS のテストの成績は講義の成績評価の参考とする。実習の評価は, 各課題の製作物評価(40 点), 定期試験時の筆記試験(50 点), LACS でのオンラインテスト(10 点)により総合評価を行う。		
受講要件(履修条件)	定期試験は, 講義の評価と実習の評価とともに本試験, 再試験とする。出席率は学部規則に従って評価する。3/4 以上の出席で受験資格を得る。追・再試験は学部規則の範囲で行う。		
備考(学生へのメッセージ)	講義の進行と実習内容を同調させるために, 前半において講義を集中的に行うので予習復習が必要。実習では実習書を各自印刷して持参すること。実習内容は前日までに e-learning による予習を行い, LACS で実習デモの動画を必ず閲覧すること。LACS で連絡事項を掲示する。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	4	月	I	【講義1】 講義歯科矯正学の歴史, 成長期の矯正治療 矯正治療の目的, 概念	吉田	第1講義室
2回	4	4	月	II	【講義2】 歯列と咬合と口腔機能の発育 咬合概論・正常咬合	吉田	第1講義室
3回	4	5	火	I	【講義3】 成長発育概論 成長発育のパターン 骨の成長様式 脳頭蓋、上下顎骨の成長発育	藤村	第1講義室
4回	4	11	月	I	【講義4】 不正咬合・不正咬合の分類 個々の歯の位置異常、咬合関係の異常、アングルの分類法	森田	第1講義室
5回	4	11	月	II	【講義5】 診断学 (1) 形態的診断	富永	第1講義室
6回	4	12	火	I	【講義6】 セファロ分析 (1) 頭部X線規格写真分析法	佛坂	第1講義室
7回	4	18	月	I	【講義7】 セファロ分析 (2) 頭部X線規格写真の計測分析	佛坂	臨床実習室4B
8回	4	18	月	II	【講義8】 セファロ分析 (3) 頭部X線規格写真の計測分析	佛坂	臨床実習室4B
9回	4	19	火	I	【講義9】 抜歯の考え方 抜歯の適応症, 抜歯の部位	吉田	第1講義室
10回	4	25	月	I	【講義10】 矯正治療における固定の考え方 固定の定義, 分類	吉田	第1講義室
11回	4	25	月	II	【講義11】 固定式矯正装置 エッジワイズ矯正装置, その他の矯正装置	吉田	第1講義室
12回	4	26	火	I	【講義12】 診断学 (2) 機能的診断	古賀	第1講義室
13回	5	9	月	I	【実習1】 自在鑢着、線屈曲	丸山	臨床実習室4B
14回	5	9	月	II			
15回	5	10	火	I	【講義13】 不正咬合の原因と予防 不正咬合の原因論, 不良習癖	富永	第1講義室
16回	5	16	月	I	【実習2】 不正咬合作成、舌側弧線装置(1)	丸山	臨床実習室4B
17回	5	16	月	II			
18回	5	17	火	I	【講義14】 矯正力と矯正治療に伴う生体反応 矯正力の種類、歯の移動様式、矯正力と歯周組織の組織変化	藤村	第1講義室
19回	5	23	月	I	【実習3】 舌側弧線装置(2)	丸山	臨床実習室4B
20回	5	23	月	II			
21回	5	24	火	I	【講義15】 機能的顎矯正装置 ヨーロッパにおける機能的矯正装置の発達 床矯正装置、拡大装置、保定装置	森田	第1講義室
22回	5	30	月	I	【実習4】 舌側弧線装置(3)	丸山	臨床実習室4B
23回	5	30	月	II			

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
24回	5	31	火	I	【講義16】矯正治療に必要な力学	古賀	第1講義室
25回	6	6	月	I	【実習5】舌側弧線装置(4)	丸山	臨床実習室4B
26回	6	6	月	II			
27回	6	7	火	I	【講義17】不正咬合の治療(1)	吉田	第1講義室
28回	6	13	月	I	【実習6】エッジワイズ装置(1)	丸山	臨床実習室4B
29回	6	13	月	II			
30回	6	14	火	I	【講義18】不正咬合の治療(2)	吉田	第1講義室
31回	6	20	月	I	【実習7】エッジワイズ装置(2)	丸山	臨床実習室4B
32回	6	20	月	II			
33回	6	21	火	I	【講義19】顎関節症の矯正治療	古賀	第1講義室
34回	6	27	月	I	【実習8】エッジワイズ装置(3)	丸山	臨床実習室4B
35回	6	27	月	II			
36回	6	28	火	I	【講義20】口唇・口蓋裂の矯正治療	小野	第1講義室
37回	7	4	月	I	【実習9】エッジワイズ装置(4)	丸山	臨床実習室4B
38回	7	4	月	II			
39回	7	5	火	I	【講義21】インプラント矯正	古賀	第1講義室
40回	7	11	月	I	【実習10】機能的矯正装置(1)	丸山	臨床実習室4B
41回	7	11	月	II			
42回	7	12	火	I	【講義22】顎変形症の矯正治療	不島	第1講義室
43回	7	19	火	I	【講義23】まとめ	吉田	第1講義室
44回	7	25	月	I	【実習11】機能的矯正装置(2)	丸山	臨床実習室4B
45回	7	25	月	II			

年度 2016 学期 後期	曜日・校時 水・II～IV	必修選択 必修	単位数 3
科目番号	25034324		
科目ナンバリング・コード	DNGD33041988		
授業科目名/(英語名)	小児歯科学/(Pediatric Dentistry)		
対象年次 4年次	講義形態 講義・グループワーク	教室 第2講義室	
対象学生(クラス等)	科目分類	口腔生命科学各論II	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 藤原 卓/takufuji@nagasaki-u.ac.jp/小児歯科学教授室/095-819-7672(内 7672)/水曜日 12:00～13:00			
担当教員(オムニバス科目等)	星野倫範, 田上直美, 釜崎陽子, 西口美由季, 佐藤恭子, 日高聖, 近藤好夫, 西俣はるか, 佐々木康成(神奈川県立子ども医療センター歯科), 新谷誠康(東京歯科大学)		
授業の概要及び位置づけ 小児の口腔の健康を維持し, 健全な永久歯列を育成するために必要な知識, 技能, 態度を習得する。小児と成人の相違に重点を置き, 小児の特殊性を理解する。			
授業到達目標 歯学教育コアカリキュラムの関連項目 E-3-1) 歯と歯周組織の発生および構造と機能 *1 歯の発生, 発育および交換の過程を説明できる。【構成成分とその変化および検査法を含む。】 *2 歯種別の形態と特徴を説明できる。 *3 歯(乳歯, 幼若永久歯を含む)の硬組織の構造と機能を説明できる。【構成成分とその特徴を含む。】 E-4-2) 小児の歯科治療 *1 小児の身体発育, 精神発達の特徴と評価法を説明できる。 *2 乳歯と幼若永久歯のう蝕の特徴, う蝕予防を説明できる。 *3 乳歯と幼若永久歯のう蝕の診察, 検査と診断を説明できる。 *4 乳歯と幼若永久歯の歯冠修復の目的と種類, 適応症, 手順と留意事項を説明できる。【小児のラバーダム防湿法を含む。】 *5 乳歯と根未完成永久歯の歯髄炎・根尖歯周組織疾患の診察, 検査と診断を説明できる。 *6 乳歯と根未完成永久歯の歯髄炎・根尖歯周組織疾患の処置法の種類と適応症, 予後および手順と留意点を説明できる。 *7 小児の歯の外傷・粘膜疾患の診察, 検査と診断および処置法と予後を説明できる。 *8 咬合誘導の概念を説明できる。 *9 保険処置の目的と種類, 適応症および留意点を説明できる。 *10 小児患者の対応について説明できる。 11 小児の歯科疾患の簡単な症例を処置できる。 12 小児の虐待の徴候と対応について説明できる。 E-4-6) 歯科医師に必要な医学的知識 *5 小児の代表的な疾患を説明できる。			
授業方法(学習指導法)			
授業内容 1. 小児歯科概論 小児歯科の意義と目的 2. 小児の心身発育 成長概論, 身体発育の特徴, 精神的発育, 口腔機能の発達, 評価法 3. 頭蓋顔面顎の発育と異常 頭蓋の発育, 顎の発育 4. 歯の発育と異常 歯の形成, 歯の形成障害, 歯の異常, 歯の萌出と異常 5. 歯列咬合の発育と異常 発育段階の分類, 歯列および咬合の発育異常 6. 咬合誘導と保険 意義と目的, 診察と診断, 保険, 動的咬合誘導法, 口腔習癖と処置 7. 乳歯, 幼若永久歯の特徴 乳歯の形態と組織, 幼若永久歯の形態と組織 8. 小児の齲蝕と予防 乳歯や幼若永久歯の齲蝕, 心身に及ぼす影響, 口腔衛生指導, 薬物応用法, 裂溝填塞法 9. 小児の歯周疾患 健全な歯周組織, 小児歯周疾患の種類と特徴 10. 口腔管理計画 診察と診断, 診療計画, 患者指導, 定期健診 11. 小児の歯冠修復 乳歯の歯冠修復, 幼若永久歯の歯冠修復 12. 小児の歯内療法 乳歯歯髄炎の診察と診断, 乳歯歯髄炎の処置法, 幼若永久歯の歯内療法 13. 小児の歯の外傷 診察と診断, 外傷の処置法, 外傷の影響, 小児の虐待とその対応 14. 小児の外科処置, 粘膜疾患 抜歯, 顎及び口腔軟組織の異常と疾患の処置, 薬物療法 15. 心身障害児の歯科診療 定義と口腔管理の問題点, 種類と口腔所見, 歯科的対応 16. 小児疾患と歯科診療 各種全身疾患に関するグループ学習 特別講義 新谷誠康(非常勤講師) 歯質の形成障害 特別講義 佐々木康成(非常勤講師) 唇顎口蓋裂児の小児歯科 特別講義 佐々木 洋(学外講師) 口から育つこころと身体 特別講義 嘉ノ海龍三(学外講師) 小児歯科医に必要な歯科矯正学の知識と咬合誘導の実践			
キーワード	小児, 成長発達, 齲蝕, 咬合, 外傷		
教科書・教材・参考書	教科書:新小児歯科学 第4版(高木裕三ほか編) 医歯薬出版 参考書:小児歯科保健新書 (檜垣旺夫, 祖父江鎮雄編) 永末書店, Pediatric Dentistry (Pinkham) 5 th ed, W.B.Saunders company 2013, Pediatric Dentistry 2 nd ed, Wiley-Blackwell 2009		
成績評価の方法・基準等	1.冊子体の教科書のみ持ち込み可の小テストを3-4回行い, 成績に反映させる。 2.授業時に行うプレ, ポストアンケートは成績の評価としては用いない。 3.講義終了後, 筆記試験を行い, 成績評価とする。原則として答えは返却する。 4.授業への積極的な参加, レポートなども全体の20%以内を限度として, 評価対象とする。		
受講要件(履修条件)	特になし。		
備考(学生へのメッセージ)	水曜日II～IV校時に小児歯科学実習と同時に行う。日程表に教科書の対応ページを示したので, 予習しておくこと。講義予定, 担当者は未定なので, 詳細は追って連絡します。		

年度 2016 学期 後期	曜日・校時 水・Ⅱ～Ⅳ	必修選択 必修	単位数 3
科目番号	25034324		
科目ナンバリング・コード	DNGD33041988		
授業科目名/(英語名)	小児歯科学実習/(Pediatric Dentistry Practice)		
対象年次 4年次	講義形態 実習形式	教室 第2講義室, 実習室5B	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学各論Ⅱ		
担当教員(科目責任者)/Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 藤原 卓/takufuji@nagasaki-u.ac.jp/小児歯科学教授室/095-819-7672(内 7672)/水曜日 12:00～13:00			
担当教員(オムニバス科目等)	星野倫範, 田上直美, 釜崎陽子, 西口美由季, *佐藤恭子, 日高聖, 近藤好夫, 西俣はるか, 今村圭吾 (TA)		
授業の概要及び位置づけ / / (500文字)			
マネキン, 模型上で小児の修復物の作成と生活歯髄切断を行い, その基礎技術, 知識を習得する。			
授業到達目標			
一般目標(GIO) 小児歯科診療に必要な基本的技能, 知識, 態度をマネキン, 模型を用いて習得する。			
行動目標(SBOs) 1. マネキン上でラバーダム防湿ができる。 2. 模型上で乳歯の窩洞形成と支台歯形成ができる。 3. 模型上で既製金属冠が作成できる。 4. 模型上で乳歯のフィッシャーシーラントができる。 5. 模型上で乳歯の生活歯髄切断ができる。 6. 乳歯の歯型彫刻ができる。 7. 保隙装置の作成ができる。			
授業方法(学習指導法)			
授業内容			
1. 実習概説	実習の概説		
2. 機材整備	模型や器材の配布, 点検		
3. ラバーダム防湿法	マネキン, 模型上でのラバーダム防湿実習		
4. 窩洞形成	マネキン, 模型上でコンポジットレジンⅠ級窩洞, インレーⅡ級窩洞を形成する		
5. 乳歯既成金属冠	模型上で乳歯既製金属冠の支台歯形成, 適合調整を行う		
6. フィッシャーシーラント	模型上で乳歯のフィッシャーシーラントを行う		
7. 乳歯生活歯髄切断	模型上で乳歯の生活歯髄切断を行う		
8. クラウンループ	模型上でクラウンループの作成を行う		
9. 歯型彫刻	石膏棒を用いて, 乳歯の歯型彫刻を行う		
○後期水曜日Ⅱ～Ⅳ校時に小児歯科学の講義と実習を同時に行います。 ○日程はシラバス作成時時点では未定ですので, 後期授業開始時に追って連絡します。 また実習内容は, OSCE などにより対応するために, シラバス作成後に変更する可能性があります。			
実習日に, その日の実習項目に関する小テストを行うことがある。結果は成績に含めるので実習帳内容等を予習しておくこと。			
キーワード	乳歯, ラバーダム, 乳歯冠, 窩洞形成, 生活歯髄切断, クラウンループ		
教科書・教材・参考書	事前に実習帳を電子データで配布するので, 各人プリントアウトして用意すること。 指定の模型を購入し, 1回目に持参すること		
成績評価の方法・基準等	1. 実習開始前に毎回行う実習帳に関する小テスト結果(30%) 2. ステップ毎の作成物の採点 3. インストラクターの個人評価(最大20%まで)		
受講要件(履修条件)	実習は, 出席重視なので, 原則欠席は不可		
備考(学生へのメッセージ)	器材などは貸与するが, 紛失, 破損のないよう注意すること(責任が明らかな紛失, 破損などに対しては, 実費弁償を求める)。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教科書 ページ	教員名	教室
1回	10	5	水	II～IV	小児歯科概論 小児の心身発育	1-8 11-32	未定	第2講義室・ 臨床実習室4B
2回	10	12	水	II～IV	頭蓋顔面顎の発育と異常 口腔機能の発達	33-43 44-57	未定	第2講義室・ 臨床実習室4B
3回	10	19	水	II～IV	乳歯, 幼若永久歯の特徴 小児の歯冠修復	101-111 178-205	未定	第2講義室・ 臨床実習室4B
4回	10	26	水	II～IV	実習		複数教員	第2講義室・ 臨床実習室4B
5回	11	2	水	II～IV	歯の発育と異常 歯列咬合の発育と異常	58-83 84-100	未定	第2講義室・ 臨床実習室4B
6回	11	9	水	II～IV	咬合誘導と保隙 小児の齲蝕と予防	293-332 153-178	未定	第2講義室・ 臨床実習室4B
7回	11	16	水	II～IV	実習		複数教員	第2講義室・ 臨床実習室4B
8回	11	30	水	II～IV	実習		複数教員	第2講義室・ 臨床実習室4B
9回	12	7	水	II～IV	小児の歯周疾患 小児の外科的処置, 粘膜疾患	231-243 225-230 267-292	未定	第2講義室・ 臨床実習室4B
10回	12	14	水	II～IV	小児の歯内療法 心身障害児の歯科診療	205-224 364-383	未定	第2講義室・ 臨床実習室4B
11回	12	21	水	II～IV	小児の歯の外傷 小児の虐待	244-266 351-357	未定	第2講義室・ 臨床実習室4B
12回	12	28	水	II～IV	実習		複数教員	第2講義室・ 臨床実習室4B
13回	1	4	水	II～IV	口腔管理計画	111-142	未定	第2講義室・ 臨床実習室4B
14回	1	11	水	II～IV	小児疾患と歯科診療	384-403	未定	第2講義室・ 臨床実習室4B
15回	1	18	水	II～IV	実習		複数教員	第2講義室・ 臨床実習室4B

講義, 実習の日程はシラバス作製時には未確定であり, 学外講師の特別講義の日程も含めて後期授業開始時に改めて連絡する。

年度 2016 学期 前期	曜日・校時 火・II	必修選択 必修	単位数 1
科目番号	25034307		
科目ナンバリング・コード	DNGD33051984		
授業科目名/(英語名)	保存修復学/ (Operative Dentistry)		
対象年次 4年次	講義形態 講義形式	教室 第1講義室	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学各論II		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 林 善彦/hayashi@nagasaki-u.ac.jp/齶蝕学分野教授室、准教授、講師室/095-819-7667(内 7667)/月、火、金曜 17:00～18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	林 善彦、山田志津香、久保至誠、横田春日(非常勤講師)		
授業の概要及び位置づけ			
歯の硬組織疾患に対する診査(検査)、診断、治療、予防、管理(維持)の原理、原則を学ぶ。予防、健康増進と関連した早期発見、早期管理およびMI Dentistry の概念を理解する。歯質欠損に対するMI概念を背景とした歯冠修復処置の臨床的意義と方法を理解する。歯冠修復の臨床的意義を説明できる。			
授業到達目標			
1.修復材料と修復法の種類、特徴、適応を説明できる。前処置の目的、意義を説明できる。 2.歯髄保護の種類、特徴を説明できる。			
授業方法(学習指導法)			
教科書を基本に、板書と必要に応じてプリントを配付する。			
授業内容			
1 回目 序論:20 世紀の齶蝕と関連した重要事項、修復学の意義と目的および種類、硬組織疾患の概要 2 回目 検査(診査)、診断、治療計画:歯・歯面表示法、歯式、各種診査法、使用機器・器材、治療方針・計画、患者の利益に基づく治療 3 回目 窩洞の概要(1):名称と分類、形態に関する条件(窩洞外形、保持形態) 4 回目 窩洞の概要(2):形態に関する条件(抵抗形態、便宜形態、窩縁形態)、設備、器材、ホームポジション 5 回目 修復材料の性状、前準備:修復材料の性質、種類、特色、歯髄保護、除痛法、防湿、歯間分離 6 回目 前準備、修復材料の形状:歯肉排除、隔壁、仕上げ/研磨、カリエスリスク、総論まとめ 7 回目 レジン(1):性質、種類、特色、組成、フィラー、硬化反応 8 回目 レジン(2):歯質接着、光重合、操作法、術後経過 9 回目 審美歯科:患者さんの生活の質を高めるため、審美的観点からの歯科的対応も必要 10 回目 鋳造修復(1):性質、特色、間接法、印象採取、模型、埋没 11 回目 鋳造修復(2):鋳造、試適、研磨、合着、適合 12 回目 レジンインレー:性質、特色、間接法、装着 13 回目 セメント(1):種類、特徴、適応、操作法 14 回目 セメント(2):接着性セメント、特徴、適応、操作法 15 回目 総括:カリオロジー、EBM、MI Dentistry、アンケート			
キーワード	硬組織疾患、予防、診査、診断、処置、管理		
教科書・教材・参考書	教科書:保存修復学21(第四版)(永末出版) 参考書:保存修復クリニカルガイド(第二版)(医歯薬出版)		
成績評価の方法・基準等	定期試験時に筆記試験で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。受験資格、受験回数は学部規程に従う(再試までとする)。		
受講要件(履修条件)	口腔生命科学各論(基礎科目)の復習を必要に応じて各自で行う。		
備考(学生へのメッセージ)	歯質欠損に対する歯冠修復の臨床的意義と方法を理解する。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	5	火	II	序論: 20世紀の齶蝕と関連した重要事項、修復学の意義と目的および種類、硬組織疾患の概要	林	第1講義室
2回	4	12	火	II	検査(診査)、診断、治療計画: 歯・歯面表示法、歯式、各種診査法、使用機器・器材、治療方針・計画、患者の利益に基づく治療	林	第1講義室
3回	4	19	火	II	窩洞の概要(1): 名称と分類、形態に関する条件(窩洞外形、保持形態)	林	第1講義室
4回	4	26	火	II	窩洞の概要(2): 形態に関する条件(抵抗形態、便宜形態、窩縁形態)、設備、器材、ホームポジション	林	第1講義室
5回	5	10	火	II	修復材料の性状、前準備: 修復材料の性質、種類、特色、歯髄保護、除痛法、防湿、歯間分離	林	第1講義室
6回	5	17	火	II	前準備、修復材料の形状: 歯肉排除、隔壁、仕上げ/研磨、カリエスリスク、総論まとめ	林	第1講義室
7回	5	24	火	II	レジン(1): 性質、種類、特色、組成、フィラー、硬化反応	久保	第1講義室
8回	5	31	火	II	レジン(2): 歯質接着、光重合、操作法、術後経過	久保	第1講義室
9回	6	7	火	II	審美歯科: 患者さんの生活の質を高めるため、審美的観点からの歯科的対応も必要	横田	第1講義室
10回	6	14	火	II	鑄造修復(1): 性質、特色、間接法、印象採取、模型、埋没	山田	第1講義室
11回	6	21	火	II	鑄造修復(2): 鑄造、試適、研磨、合着、適合	山田	第1講義室
12回	7	5	火	II	レジンインレー 性質、特色、間接法、装着	山田	第1講義室
13回	7	12	火	II	セメント(1): 種類、特徴、適応、操作法	山田	第1講義室
14回	7	19	火	II	セメント(2): 接着性セメント、特徴、適応、操作法	山田	第1講義室
15回	7	26	火	II	総括:6/28休講につき補講日を使用して15回目を実施 カリオロジー、EBM、MI Dentistry、アンケート	林	第1講義室

年度 2016 学期 前期	曜日・校時 火・Ⅲ～Ⅳ	必修選択 必修	単位数 1.5
科目番号	25034308		
科目ナンバリング・コード	DNGD33061984		
授業科目名/(英語名)	保存修復学実習/ (Practice of Operative Dentistry)		
対象年次 4年次	講義形態 実習形式	教室 臨床実習室 4B	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学各論Ⅱ		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 山田志津香(ヘッドインストラクター)/shiduka@nagasaki-u.ac.jp/齶蝕学分野准教授室/095-819-7678(内 7678)/夕方			
担当教員(オムニバス科目等)	山田 志津香、井川 一成、辻本 真規、松裏 貴史、杉本 浩司		
授業の概要及び位置づけ			
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎実習は、講義において説明された学理を理解するために行われる。 ・マネキンを用いるが、実際に患者さんを治療している状態を想定し、正しい治療姿勢ならびに技術の修得を図る。 ・病んでいる患者さんを診るにあたっての心構えなどを身につける。 			
授業到達目標			
講義で得た基本的知識を理解するために、歯科医師としての将来の姿を具体的にイメージしながら保存修復学に関する技能ならびに態度を涵養することを目指す。			
授業方法(学習指導法)			
原則、実習形式で行う。実習前にインストラクターによる各回の実習内容に関する説明を行う。 口頭による説明では理解しにくい手技等については、実習前にインストラクターによるデモを行う。各ステップで受講生の理解度を確認するとともに、実習 15 回目の実技試験により総括的評価を行う。			
授業内容			
<ol style="list-style-type: none"> 1 回目 器具整備、天然歯の選択 2 回目 歯科用ハンドピースの把持法、罹患歯質の除去および覆髄 3 回目 プレパレーションプレートを用いた切削練習ならびにポジショニング 4 回目 窩洞形成(1)Ⅱ級メタルインレー窩洞 5 回目 窩洞形成(2)Ⅱ級コンポジットレジン(セラミック)インレー窩洞 6 回目 窩洞形成(3)窩洞の完成 7 回目 CR 修復・Ⅴ級 8 回目 CR 修復・Ⅰ級、前回の CR 修復の研磨 9 回目 マルチレイヤーテクニックによる CR 修復・Ⅰ級、前回の CR 修復の研磨 10 回目 メタルインレー修復(実習で形成した窩洞の印象採得、模型作成)、前回の CR 修復の研磨 11 回目 CR 修復・Ⅲ級、前々回の CR 修復の研磨 12 回目 CR 修復・Ⅱ級、前回の CR 修復の研磨 13 回目 CR 修復・Ⅳ級、前回の CR 修復の研磨 14 回目 グラスアイオノマーセメント修復・歯頸部修復、前回の CR 修復の研磨 15 回目 前回のグラスアイオノマーセメント修復の研磨、総括(実技試験)、器具の点検・回収 			
キーワード	硬組織疾患修復法、各種修復材料、歯質保存的修復、歯髄保護		
教科書・教材・参考書	教科書:講座で準備した実習帳 参考書:保存修復学21		
成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none"> ・平常時の作品{各作品毎に評価する(AからDまでの4段階、Dは不可)、実習態度、理解度などから判定する。 ・作品の点数のみならず、実習態度、理解しながら行っているかなども重要な判定基準である。 		
受講要件(履修条件)	出席 3/4 以上		
備考(学生へのメッセージ)	<ul style="list-style-type: none"> ・中等度齶蝕を有する天然歯(歯種不問)を数本準備しておく。 ・講義の進行と実習内容が同調しないので、十分な予習が必要である。 ・実習中に無断退室した場合、その回は未受講とする。 ・15 回目に行う実技試験を受けなかった場合、失格とする。 		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	5	火	Ⅲ～Ⅳ	器具整備、天然歯の選択 ・中等度齲蝕を有する天然歯を選択した後、顎模型のチェックを行う。 ・使用器具の名前を覚える。その際、類似の形態の物が多いので注意する。	山田、他	臨床実習室4B
2回	4	12	火	Ⅲ～Ⅳ	歯科用ハンドピースの把持法、罹患歯質の除去および覆髄 ・歯科用ハンドピースや器材の把持法を習得する。 ・齲蝕の進行状態(齲蝕円錐)を考慮しながら罹患歯質の除去を行う。 ・染色液による齲蝕象牙質の判定法を習得する。	山田、他	臨床実習室4B
3回	4	19	火	Ⅲ～Ⅳ	切削練習(プレパレーションプレート)、治療姿勢 ・プレパレーションプレートでタービン、マイクロモーターの操作に慣れる。 ・治療姿勢などを習得する。	山田、他	臨床実習室4B
4回	4	26	火	Ⅲ～Ⅳ	窩洞形成(1) ・技術向上を図るため、スライス式Ⅱ級メタルインレー窩洞の形成を行う。 ・治療姿勢、ポジショニングに注意すること。	山田、他	臨床実習室4B
5回	5	10	火	Ⅲ～Ⅳ	窩洞形成(2) ・Ⅱ級コンポジットレジン(セラミック)インレー窩洞の形成を行う。 ・スライス式Ⅱ級メタルインレー窩洞形成との違いを習得する。	山田、他	臨床実習室4B
6回	5	17	火	Ⅲ～Ⅳ	窩洞形成(3) ・上記2種の窩洞を完成させる。	山田、他	臨床実習室4B
7回	5	24	火	Ⅲ～Ⅳ	CR修復Ⅴ級 ・接着性コンポジットレジン窩洞を形成後、光重合レジンで修復する。 ・接着性の意義、メカニズムを理解し、歯質保存の大切さを習得する。	山田、他	臨床実習室4B
8回	5	31	火	Ⅲ～Ⅳ	CR修復Ⅰ級 ・中心小窩の齲蝕が深部まで進行していると想定し、裏層を行う。 ・前回のCRⅤ級修復の仕上げ研磨を習得する。	山田、他	臨床実習室4B
9回	6	7	火	Ⅲ～Ⅳ	CR修復Ⅰ級(マルチレイヤーテクニック) ・マルチレイヤーテクニックを用いた審美修復法を習得する。 ・前回のCR修復Ⅰ級修復の仕上げ研磨を習得する。	山田、他	臨床実習室4B
10回	6	14	火	Ⅲ～Ⅳ	メタルインレー修復、印象採得、模型作製 ・メタルインレー作製法における各ステップについて解説する。 ・各自が形成したⅡ級メタルインレー窩洞で印象採得、模型作製を行う。	山田、他	臨床実習室4B
11回	6	21	火	Ⅲ～Ⅳ	CR修復Ⅲ級 ・便宜拡大を唇側または口蓋側から行う方法を習得する。 ・前歯隣接面の修復に際し、セルロイド製隔壁を用いる方法を習得する。	山田、他	臨床実習室4B
12回	7	5	火	Ⅲ～Ⅳ	CR修復Ⅱ級 ・臼歯隣接面の修復に際し、マトリクス・リテーナーの使用法を習得する。 ・前回のCRⅢ級修復の隣接面における仕上げ研磨を習得する。	山田、他	臨床実習室4B
13回	7	12	火	Ⅲ～Ⅳ	CR修復Ⅳ級 ・前歯切縁隅角を含んだ窩洞をセルロイド隔壁を用いて修復する。 ・前回のCRⅡ級修復の仕上げ研磨を行う。	山田、他	臨床実習室4B
14回	7	19	火	Ⅲ～Ⅳ	グラスアイオノマーセメント修復 ・レジン添加型グラスアイオノマーセメントを用いて、歯頸部の修復を行う。 ・前回のCRⅣ級修復の仕上げ研磨を行う。	山田、他	臨床実習室4B
15回	7	26	火	Ⅲ～Ⅳ	総括、グラスアイオノマーセメント研磨、器具の点検、回収 ・総括的評価のため、実技試験を行う。 ・前回のグラスアイオノマーセメント修復の研磨を行う。 ・貸与器具であり、次年度の学生も使用するので、きれいに清掃して返却。	山田、他	臨床実習室4B

年度 2016 学期 後期	曜日・校時 水・I	必修選択 必修	単位数 1
科目番号	25034309		
科目ナンバリング・コード	DNGD33071984		
授業科目名/(英語名)	歯内治療学/ (Endodontology)		
対象年次 4年次	講義形態 講義形式	教室 第2講義室	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学各論II		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスパワー 林 善彦/hayashi@nagasaki-u.ac.jp/齶蝕学分野教授室/095-819-7667(内 7667)/月、火、金曜 17:00~18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	林 善彦、大庭 英樹(非常勤講師)		
授業の概要及び位置づけ			
齶蝕等による炎症性病変が歯髄・根尖歯周組織まで波及した場合、歯髄の保存療法、抜髄、感染根管治療等が行われる。これらに関する理論的裏付けと基本的事項を十分把握し、疾病の病態、検査(診査)、診断、処置、経過、管理に関する理解を深める。歯髄と根尖歯周組織に生じる疾患の具体的内容と実際の治療の進め方の基本を学習する。			
授業到達目標			
病因と病態を説明できる。症状、診断及び治療法を説明できる。根管充填の目的、方法を説明できる。救急処置の種類と方法を説明できる。偶発症について種類、処置及び予防法を説明できる。治療後の治癒機転と予後を説明できる。変色歯の原因、処置を説明できる。歯根吸収の原因、症状、診断及び処置を説明できる。			
授業方法(学習指導法)			
教科書を基本的に使用し、必要に応じてプリントを配付する。			
授業内容			
1 回目 序論:歯内治療の歴史的背景・概略を学習 2 回目 対象疾患:歯髄炎・根尖性歯周炎の病理組織学的所見と臨床症状 3 回目 特別講義:歯痛の特徴と電気生理学的背景・意義 4 回目 検査(診査)、診断:各種検査(診査)法、臨床診断名 5 回目 滅菌、消毒:基本的概念、ユニバーサル・スタンダードプレコーション、器材の滅菌、手指・術野の消毒 6 回目 歯髄保存療法:鎮痛消炎療法、間接・直接覆髄法、IPC法、アペキシゲネーシス 7 回目 歯髄除去療法(1):生活歯髄切断法、歯髄創傷治癒過程 8 回目 歯髄除去療法(2):抜髄(1)適応症、髓室開拓、根管長測定 9 回目 歯髄除去療法(3):抜髄(2)根管拡大・形成、根管充填、術後経過 10 回目 感染根管治療(1):適応症、根管内細菌、細菌検査、アペキシフィケーション 11 回目 感染根管治療(2):根管消毒、根管充填、術後経過 12 回目 歯根吸収、漂白:原因、特徴、検査(診査)、外部吸収、内部吸収、処置、漂白法 13 回目 偶発症、応急処置、外傷:原因、検査(診査)、処置・対応 14 回目 外科的歯内治療、歯内一歯周疾患:根尖切除術、歯根分割法など、手術用顕微鏡の利用 15 回目 (特別講義)細菌検査の食品衛生への応用並びに産学連携について(仮題)			
キーワード	歯髄・根尖性歯周疾患、予防、診査、診断、処置、管理		
教科書・教材・参考書	教科書:第三版 エンドドンテイクス21 (永末書店) 教科書:エンドドンテイクス21 歯内療法カラーアトラス(永末書店)		
成績評価の方法・基準等	定期試験時に筆記試験で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。受験資格、受験回数は学部規程に従う(再試までとする)。		
受講要件(履修条件)	口腔生命科学基礎科目の復習を各自行う。		
備考(学生へのメッセージ)	歯髄と根尖歯周組織に生じる疾患の概要と治療の進め方の基本を理解する。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	5	水	I	序論： 歯内治療の歴史的背景・概略を学習	林	第2講義室
2回	10	12	水	I	対象疾患： 歯髄炎・根尖性歯周炎の病理組織学的所見と臨床症状	林	第2講義室
3回	10	19	水	I	特別講義：ビデオ使用予定 歯痛の特徴と電気生理学的背景・意義	林	第2講義室
4回	10	26	水	I	検査(診査)、診断： 各種検査(診査)法、臨床診断名	林	第2講義室
5回	11	2	水	I	滅菌、消毒： 基本的概念、ユニバーサル・スタンダードプレコーション、器材の滅菌、 手指・術野の消毒	林	第2講義室
6回	11	9	水	I	歯髄保存療法： 鎮痛消炎療法、間接・直接覆髄法、IPC法、アペキシゲネーシス	林	第2講義室
7回	11	16	水	I	歯髄除去療法(1)： 生活歯髄切断法、歯髄創傷治療過程	林	第2講義室
8回	11	30	水	I	歯髄除去療法(2)： 抜髄(1)適応症、髓室開拓、根管長測定	林	第2講義室
9回	12	7	水	I	歯髄除去療法(3)： 抜髄(2)根管拡大・形成、根管充填、術後経過	林	第2講義室
10回	12	14	水	I	感染根管治療(1)： 適応症、根管内細菌、細菌検査、アペキシフィケーション	林	第2講義室
11回	12	21	水	I	感染根管治療(2)： 根管消毒、根管充填、術後経過	林	第2講義室
12回	12	28	水	I	歯根吸収、漂白： 原因、特徴、検査(診査)、外部吸収、内部吸収、処置、漂白法	林	第2講義室
13回	1	4	水	I	偶発症、応急処置、外傷： 原因、検査(診査)、処置・対応	林	第2講義室
14回	1	11	水	I	外科的歯内治療、歯内-歯周疾患： 根尖切除術、歯根分割法など、手術用顕微鏡の利用	林	第2講義室
15回	1	18	水	I	特別講義 細菌検査の食品衛生への応用並びに産学連携について(仮題)	大庭	第2講義室

年度 2016 学期 後期	曜日・校時 月・Ⅲ～Ⅳ(一部火・Ⅲ～Ⅳ)	必修選択 必修	単位数 1
科目番号	25034310		
科目ナンバリング・コード	DNGD33081984		
授業科目名/(英語名)	歯内治療学実習/(Endodontics practice)		
対象年次 4年次	講義形態 実習形式	教室 臨床実習室 4B	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学各論Ⅱ		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 柳口嘉治郎/yanagi@nagasaki-u.ac.jp/齶蝕学分野講師室/095-819-7678(内 7678)/実習後または木曜 16:30～17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	柳口嘉治郎 他 4名		
授業の概要及び位置づけ			
<p>歯髄、根尖歯周組織疾患の対処法として抜髄、感染根管処置などが実施されているが、本実習では、講義で学ぶ理論を基礎として、実際に行われている処置法の技術的な項目について、抜去歯及び髓腔歯牙模型を用いて学び、理解することにある。</p>			
授業到達目標			
<p>「歯髄・根尖歯周組織疾患の症状、診断及び治療法を説明できる。根管充填の目的、時期及び方法を説明できる。」ことを到達目標とする。</p>			
授業方法(学習指導法)			
<p>実習に先立って、視聴覚機材を利用して詳細なデモを行った後、抜去歯及び髓腔歯牙模型を用いた模型実習を行う。さらに歯内治療において不可欠なラバーダム防湿法や歯髄診断法に関しては、相互実習を行う。</p>			
授業内容			
<ol style="list-style-type: none"> 1 回目 オリエンテーション, 器具整備, 植立模型作製 2 回目 髓腔開拓(上顎前歯・小白歯), ラバーダム防湿法 3 回目 髓腔開拓(上下顎大白歯), ラバーダム防湿法 4 回目 抜髄法Ⅰ(上顎前歯), 根管長測定 5 回目 抜髄法Ⅱ(上顎大白歯) 6 回目 抜髄法Ⅲ(髓腔模型歯), ラバーダム防湿法 7 回目 根管充填Ⅰ(髓腔模型歯), 歯髄診断法 8 回目 根管充填Ⅱ(上顎前歯・大白歯), 歯髄診断法 9 回目 感染根管治療Ⅰ(髓腔模型歯) 10 回目 感染根管治療Ⅱ(下顎大白歯), 歯髄診断法 11 回目 根管充填Ⅲ(髓腔模型歯), 細菌検査 12 回目 根管充填Ⅳ(下顎大白歯) 13 回目 実技試験 14 回目 エックス線写真の読影、根管充填材の除去, 隔壁法 15 回目 器具整備 <p style="text-align: center;">*授業の日程及び順番が変更する可能性があります, その場合は事前に連絡します。</p>			
キーワード	抜髄, 感染根管治療, 根管充填		
教科書・教材・参考書	当教室で作成した「歯内治療学実習帳」を配布 参考書:エンドドンティクス21(永松書店)		
成績評価の方法・基準等	実習の課題に対する積極的な取組状況 20%, 実技試験 50%, 一般ケース(根管充填の結果) 30%		
受講要件(履修条件)	実習の3/4以上出席している者		
備考(学生へのメッセージ)	<p>植立模型用(上顎前歯・大白歯, 下顎大白歯 各 1 本), 及び髓腔開拓練習用として天然歯を準備しておく。</p> <p>実習の内容と講義とが同調しない場合があるので, 実習帳をよく読んで内容を理解しておく。</p> <p>実際の診療を想定して, 清潔な白衣, マスクを着用して実習に望む。</p> <p>ゴム手袋及び実習試験に用いる髓腔歯牙模型(上顎小白歯)は事前に購入しておく。</p>		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	3	月	Ⅲ～Ⅳ	オリエンテーション・器具整備・植立模型作製 歯内実習用器具の貸し出し・点検 髓腔歯牙模型を顎模型に固定 天然歯の点検後、アクリルチューブによる植立模型の作製	教員5名	臨床実習室4B
2回	10	17	月	Ⅲ～Ⅳ	髓室開拓Ⅰ・ブローチ綿花・相互実習 髓腔歯牙模型を用いた上顎前歯・小臼歯の髓室開拓 ブローチ綿花の作製 ラバーダム防湿法	教員5名	臨床実習室4B
3回	10	24	月	Ⅲ～Ⅳ	髓室開拓Ⅱ・相互実習 髓腔歯牙模型を用いた上・下顎大白歯の髓室開拓 ラバーダム防湿法	教員5名	臨床実習室4B
4回	10	31	月	Ⅲ～Ⅳ	抜髄法Ⅰ・根管長測定 植立模型を用いた上顎前歯の根管拡大・形成 電氣的根管長測定法	教員5名	臨床実習室4B
5回	11	7	月	Ⅲ～Ⅳ	抜髄法Ⅱ 植立模型を用いた上顎大白歯の根管拡大・形成	教員5名	臨床実習室4B
6回	11	14	月	Ⅲ～Ⅳ	抜髄法Ⅲ・相互実習 髓腔模型歯を用いた上顎大白歯の根管拡大・形成 ラバーダム防湿法	教員5名	臨床実習室4B
7回	11	21	月	Ⅲ～Ⅳ	根管充填Ⅰ・相互実習 髓腔模型歯を用いた上顎大白歯の根管充填 歯髄診断法	教員5名	臨床実習室4B
8回	11	28	月	Ⅲ～Ⅳ	根管充填Ⅱ・相互実習 植立模型を用いた上顎前歯・大白歯の根管充填 歯髄診断法	教員5名	臨床実習室4B
9回	12	5	月	Ⅲ～Ⅳ	感染根管治療Ⅰ 髓腔模型歯を用いた下顎大白歯の根管拡大・形成	教員5名	臨床実習室4B
10回	12	12	月	Ⅲ～Ⅳ	感染根管治療Ⅱ・相互実習 植立模型を用いた下顎大白歯の根管拡大・形成 歯髄診断法	教員5名	臨床実習室4B
11回	12	19	月	Ⅲ～Ⅳ	根管充填Ⅲ・細菌検査 髓腔模型歯を用いた下顎大白歯の根管充填 細菌検査(デモのみ)	教員5名	臨床実習室4B
12回	12	26	月	Ⅲ～Ⅳ	根管充填Ⅳ 植立模型を用いた下顎大白歯の根管充填	教員5名	臨床実習室4B
13回	1	16	月	Ⅲ～Ⅳ	実技試験 上顎小臼歯(髓腔模型歯)の根管形成・根管充填	教員5名	臨床実習室4B
14回	1	23	月	Ⅲ～Ⅳ	エックス線写真の読影・根管充填材の除去・隔壁法 GPソルベントを用いた根管充填材の除去 ベースセメントを用いた隔壁法	教員5名	臨床実習室4B
15回	1	24	火	Ⅲ～Ⅳ	器具整備 歯内実習用器具の点検・回収 顎模型の清掃と回収	教員5名	臨床実習室4B

年度 2016 学期 後期	曜日・校時 水・I～II(一部水・III～IV)	必修選択 必修	単位数 1
科目番号	25034321		
科目ナンバリング・コード	DNGD33091989		
授業科目名/(英語名)	歯周病学/(Lecture of Periodontology)		
対象年次 4年次	講義形態 講義形式	教室 第1講義室	
対象学生(クラス等)	科目分類	口腔生命科学各論II	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスパワー 原 宜興/harasen@nagasaki-u.ac.jp/長崎大学病院 8階歯周病学分野教授室/095-819-7681(内7681)/17:00～19:00			
担当教員(オムニバス科目等)	原 宜興、吉村篤利、鶴飼 孝、中村弘隆、金子高士(非常勤講師)、永田俊彦(非常勤講師)、吉永泰周(非常勤講師)		
授業の概要及び位置づけ			
歯周病学と歯周治療学の理解を高める。歯周疾患の特徴を知り、その治療法について学ぶ。歯周組織の正常と異常、歯周疾患の分類、歯周疾患の原因、歯周基本治療、歯周外科、歯周再生治療、メンテナンスについての講義を行う。			
授業到達目標			
1.歯周組織の正常と異常の相違を説明できる。 2.臨床において歯周疾患を診断できる。 3.歯周疾患の原因を説明でき、またそれを講義担当者として議論できる。 4.歯周疾患の治療法を説明できる。 5.歯周疾患の予防法を説明できる。			
授業方法(学習指導法)			
授業内容			
1回目 総説・歯周組織の正常と異常 2回目 歯周病の原因 3回目 歯周組織検査(1) 4回目 歯周組織検査(2)・スケーリング・ルートプレーニング(1) 5回目 ブラークコントロール(1) 6回目 ブラークコントロール(2) 7回目 スケーリング・ルートプレーニング(2) 8回目 歯周病と全身疾患・リスクファクター 9回目 咬合調整・固定 10回目 歯周外科(1) 11回目 糖尿病と歯周病 12回目 歯周外科(2) 13回目 歯内歯周病変・根分岐部の処置 14回目 歯周疾患の分類・特殊な歯周疾患 15回目 MTM・歯周補綴・メンテナンス			
キーワード	歯周病、歯周疾患、歯周治療		
教科書・教材・参考書	教科書:特に使用しない。 参考書:授業開始時に適当なものを紹介する。		
成績評価の方法・基準等	学期末に選択または記述式の試験を行い評価する。		
受講要件(履修条件)	開講された講義の3分の2以上に出席している者		
備考(学生へのメッセージ)	歯周病学は歯科医療の根幹をなし、また歯科における再生医療の中核ともいえる分野である。また近年の学問領域の発展は目覚ましい。生物学に基づいた最新の歯周病学を修得するためにも基礎科目(口腔領域)の知識は必須であるので、復習しておくこと。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	6	水	I～II	総説・歯周組織の正常と異常	原	第1講義室
2回	4	6	水	III～IV	歯周病の原因	鶴飼	第1講義室
3回	4	13	水	I～II	歯周組織検査(1)	吉村	第1講義室
4回	4	20	水	I～II	歯周組織検査(2)・スケーリング・ルートプレーニング(1)	吉村	第1講義室
5回	4	27	水	I～II	プラークコントロール(1)	鶴飼	第1講義室
6回	5	11	水	I～II	プラークコントロール(2)	鶴飼	第1講義室
7回	5	18	水	I～II	スケーリング・ルートプレーニング(2)	吉村	第1講義室
8回	5	25	水	I～II	歯周病と全身疾患・リスクファクター	中村	第1講義室
9回	6	1	水	I～II	咬合調整・固定	金子	第1講義室
10回	6	8	水	I～II	歯周外科(1)	吉村	第1講義室
11回	6	15	水	I～II	糖尿病と歯周病	永田	第1講義室
12回	6	22	水	III～IV	歯周外科(2)	吉村	第1講義室
13回	6	29	水	III～IV	歯内歯周病変・根分岐部の処置	吉永	第1講義室
14回	7	6	水	III～IV	歯周疾患の分類・特殊な歯周疾患	中村	第1講義室
15回	7	13	水	I～II	MTM・歯周補綴・メンテナンス	鶴飼	第1講義室

年度 2016 学期 前期	曜日・校時 水・Ⅲ～Ⅳ(一部水・Ⅰ～Ⅱ)	必修選択 必修	単位数 1
科目番号	25034322		
科目ナンバリング・コード	DNGD33101989		
授業科目名/(英語名)	歯周病学実習/(Basic Training of Periodontology)		
対象年次 4年次	講義形態 実習形式	教室 第1講義室・臨床実習室 4B	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学各論Ⅱ		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 原 宜興/harasen@nagasaki-u.ac.jp/長崎大学病院 8階歯周病学分野教授室/095-819-7681(内7681)/17:00～19:00			
担当教員(オムニバス科目等)	原 宜興、吉村篤利、鶴飼 孝、中村弘隆、尾崎幸生、白石千秋、藏本明子		
授業の概要及び位置づけ 歯周病学の知識に基づいて、病因の解析、歯周疾患の診断・治療・予防に関する手技を修得する。			
授業到達目標 1.軽度の歯周疾患の治療方針を立案できる。 2.歯周組織診査を行い、病状を患者に説明できる。 3.適切な口腔清掃法を選択し、それを説明できる。 4.簡単なスケーリング・ルートプレーニングができる。 5.模型上で暫間固定や歯周外科を行える。			
授業方法(学習指導法) 歯周組織の診査、歯周基本治療(口腔清掃指導、スケーリング・ルートプレーニング、咬合調整)、歯周外科に関する実習を行う。			
授業内容 1回目 歯周組織検査 (1) 2回目 歯周組織検査 (2) 3回目 歯周組織検査 (3) 4回目 プラークコントロール・モチベーション (1) 5回目 プラークコントロール・モチベーション (2) 6回目 スケーリング・ルートプレーニング (1) 7回目 スケーリング・ルートプレーニング (2) 8回目 スケーリング・ルートプレーニング (3) 9回目 スケーリング・ルートプレーニング (4) 10回目 咬合診査と咬合調整 (1) 11回目 咬合診査と咬合調整 (2) 12回目 暫間固定 13回目 歯周外科 (1) 14回目 歯周外科 (2) 15回目 歯周外科 (3)			
キーワード	歯周治療学		
教科書・教材・参考書	教科書は特に使用しない。参考書は授業開始時に適当なものを紹介する。		
成績評価の方法・基準等	各実習項目の成果とレポートを参考に判定する。		
受講要件(履修条件)	開講された実習の4分の3以上出席している者。		
備考(学生へのメッセージ)	歯周治療は歯科医療の根幹をなす重要な分野であり、歯周治療の習熟なしでは歯科医療の成功はなしえない。本実習では、歯周治療の基本である口腔清掃指導、SRP などの処置法を修得する。実習に先立って行われる歯周病学の講義を復習しておくこと。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	13	水	Ⅲ～Ⅳ	歯周組織検査 (1)	複数教員	臨床実習室 4B
2回	4	20	水	Ⅲ～Ⅳ	歯周組織検査 (2)	複数教員	臨床実習室 4B
3回	4	27	水	Ⅲ～Ⅳ	歯周組織検査 (3)	複数教員	臨床実習室 4B
4回	5	11	水	Ⅲ～Ⅳ	プラークコントロール・モチベーション (1)	複数教員	臨床実習室 4B
5回	5	18	水	Ⅲ～Ⅳ	プラークコントロール・モチベーション (2)	複数教員	臨床実習室 4B
6回	5	25	水	Ⅲ～Ⅳ	スケーリング・ルートプレーニング (1)	複数教員	臨床実習室 4B
7回	6	1	水	Ⅲ～Ⅳ	スケーリング・ルートプレーニング (2)	複数教員	臨床実習室 4B
8回	6	8	水	Ⅲ～Ⅳ	スケーリング・ルートプレーニング (3)	複数教員	臨床実習室 4B
9回	6	15	水	Ⅲ～Ⅳ	スケーリング・ルートプレーニング (4)	複数教員	臨床実習室 4B
10回	6	22	水	I～II	咬合診査と咬合調整 (1)	複数教員	臨床実習室 4B
11回	6	29	水	I～II	咬合診査と咬合調整 (2)	複数教員	臨床実習室 4B
12回	7	6	水	I～II	暫間固定	複数教員	臨床実習室 4B
13回	7	13	水	Ⅲ～Ⅳ	歯周外科 (1)	複数教員	臨床実習室 4B
14回	7	20	水	I～II	歯周外科 (2)	複数教員	臨床実習室 4B
15回	7	20	水	Ⅲ～Ⅳ	歯周外科 (3)	複数教員	臨床実習室 4B

年度 2016 学期 通年	曜日・校時 木・前Ⅱ～Ⅳ 後Ⅲ～Ⅳ	必修選択 必修	単位数 4
科目番号	25034313		
科目ナンバリング・コード	DNGD33111985		
授業科目名/(英語名)	冠橋義歯学及び同実習/ (Fixed Prosthodontics)		
対象年次 4年次	講義形態 講義・実習形式	教室 前期 講義室 6A、臨床実習室 4B 後期 第2 講義室(一部講義室 6B)、臨床実習室 4B	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学各論Ⅱ		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 澤瀬 隆/sawase@nagasaki-u.ac.jp/病院 8階口腔インプラント学分野教授室/095-819-7685(内 7685)/8:00～8:50、12:10～13:00			
担当教員(オムニバス科目等)	澤瀬 隆、平 曜輔、吉田圭一、黒嶋伸一郎、尾立哲郎、佐々木宗輝、中島和慶、松本知生、非常勤講師、他 TA		
授業の概要及び位置づけ 本科目は、冠橋義歯学のイントロであり、5年、6年とその内容をより高度に、より臨床的にシフトさせながら卒業までの3年間かけてマスターしてもらう。中途にバリエーションとして設定されているCBTやOSCEにも対応できるように留意しており、国試への対策も念頭に置いている。また、必修化された1年間の卒業後研修にも、スムーズに移行できるように配慮している。 最終学年では担当した患者のクラウンとブリッジは自分で製作しなければならない。そのためには知識のみならず、基本的手技の習得も必要である。			
授業到達目標 一般目標は「実質欠損」と「歯の欠損」を中心に、歯冠修復(クラウン)及び欠損修復(ブリッジ)の臨床的意義と方法を理解するであり、到達目標はコアカリに含まれているクラウンの11項目、ブリッジの8項目である。実習では「修復法に関する模型上での基本操作ができる」、「支台装置の製作過程における基本的手技ができる」の2つを到達目標とする。			
授業方法(学習指導法) 講義と実習の進行を並行して行い、知識に基づく基本的手技をマスターする。			
授業内容			
講義 1:クラウンブリッジ補綴学の意義と目的・臨床成績 2:咬合・咀嚼障害 3:診察と診断と感染予防・治療を左右する因子 4:クラウンブリッジの要件・クラウンの種類 5:ブリッジの種類と構成・設計 6:インフォームドコンセント・前処置 7:支台歯形成、支台築造 8:印象採得・プロビジョナルレストレーション 9:咬合採得・咬合器 10:患者情報の記録・作業模型の製作 11:ワックスパターン形成 12:埋没・鋳造・ 13:熱処理・研磨 14:装着・術後管理・装着後に発生する問題とその対応 15:レジン前装冠・ハイブリッド型コンポジットレジンジャケット冠 16:陶材焼付冠 17:CAD/CAMによる製作・オールセラミック修復 18:連結法(p292)・高齢者要介護者のCrBr		実習 1:ドローイング・カービング 2:全部鋳造冠支台歯形成 3:レジン前装鋳造冠支台歯形成 4:築造窩洞形成・印象・ワックスアップ 5:クラウン精密印象、作業模型、咬合器付着 6:クラウンワックスアップ 7:クラウン埋没・鋳造・研磨 8:ブリッジ支台歯形成 9:個人トレー作製 10:ブリッジ精密印象・作業模型・咬合器付着 11:ブリッジワックスアップ 12:ブリッジ埋没・鋳造・研磨 13:ブリッジろう着 14:レジン前装、研磨 15:制作物提出・器具返却	
キーワード	クラウンブリッジ、歯冠修復、欠損補綴、固定性補綴		
教科書・教材・参考書	[講義]クラウンブリッジ補綴学(医歯薬出版) [実習]クラウンブリッジテクニック(医歯薬出版)		
成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none"> 成績評価は、年間3回の到達度確認試験の合計で可否を判定する。60点に満たない場合は、後期の再試験期間中に全範囲を対象とした再試験を行う。 実習は別に評価を行う。60点に満たない場合は、後期の再試験期間中に再試験を行う。 試験、実習いずれも60点以上獲得した者を本科目の合格者とする。 		
受講要件(履修条件)	講義と実習が並行して進行するので、授業日数の3/4以上の出席が試験の受験要件である。実習はテーマが毎回のように変わるので2回続けて休むと追いつけなくなる。		
備考(学生へのメッセージ)	授業時間だけでは、消化しきれない内容が含まれているので予め教科書を読んでおき、1年間、欠かさず出席してほしい。そのためには規則正しい生活を送り、体調を常に整えて置くことが必要である。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	7	木	Ⅱ～Ⅳ	Ⅱ講義:クラウンブリッジ補綴学の意義と目的・臨床成績 Ⅲ講義:咬合・咀嚼障害 Ⅳ講義:診察と診断と感染予防・治療を左右する因子	澤瀬 黒嶋 平	講義室6A
2回	4	14	木	Ⅱ～Ⅳ	Ⅱ講義:クラウンブリッジの要件・クラウンの種類 Ⅲ講義:ブリッジの種類と構成・設計 Ⅳ講義:インフォームドコンセント・前処置	澤瀬 澤瀬 平	講義室6A
3回	4	21	木	Ⅱ～Ⅳ	Ⅱ講義:支台歯形成・支台築造 Ⅲ,Ⅳ実習:ドローイング・カービング	平 吉田他	講義室6A 臨床実習室4B
4回	4	28	木	Ⅱ～Ⅳ	Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ実習:全部鑄造冠支台歯形成	吉田他	臨床実習室4B
5回	5	12	木	Ⅱ～Ⅳ	Ⅱ講義:印象採得・プロビジョナルレストレーション Ⅲ,Ⅳ実習:レジン前装冠支台歯形成	澤瀬 吉田他	講義室6A 臨床実習室4B
6回	5	19	木	Ⅱ～Ⅳ	Ⅱ講義:咬合採得・咬合器 Ⅲ,Ⅳ実習:築造窩洞形成・精密印象・作業模型	黒嶋 吉田他	講義室6A 臨床実習室4B
7回	5	26	木	Ⅱ～Ⅳ	Ⅱ:講義患者情報の記録と伝達・作業模型の製作 Ⅲ,Ⅳ実習:メタルコアワックスアップ	澤瀬 吉田他	講義室6A 臨床実習室4B
8回	6	2	木	Ⅱ～Ⅳ	Ⅱ:第1章, 2章, 3章(p187まで)確認試験 Ⅲ,Ⅳ実習:クラウン精密印象・作業模型	平 吉田他	講義室6A 臨床実習室4B
9回	6	9	木	Ⅱ～Ⅳ	Ⅱ講義:ワックスパターン形成 Ⅲ,Ⅳ実習:クラウン咬合器付着	平 吉田他	講義室6A 臨床実習室4B
10回	6	16	木	Ⅱ～Ⅳ	Ⅱ講義:埋没・鑄造 Ⅲ,Ⅳ実習:クラウンワックスアップ1	澤瀬 吉田他	講義室6A 臨床実習室4B
11回	6	23	木	Ⅱ～Ⅳ	Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ実習:クラウンワックスアップ2	吉田他	臨床実習室4B
12回	6	30	木	Ⅱ～Ⅳ	Ⅱ講義:・熱処理・研磨 Ⅲ,Ⅳ実習:クラウン埋没	平 吉田他	講義室6A 臨床実習室4B
13回	7	7	木	Ⅱ～Ⅳ	Ⅱ講義:装着 Ⅲ,Ⅳ実習:クラウン鑄造	澤瀬 吉田他	講義室6A 臨床実習室4B
14回	7	14	木	Ⅱ～Ⅳ	Ⅱ講義:術後管理・装着後に発生する問題とその対応 Ⅲ,Ⅳ実習:クラウン鑄造・研磨	平 吉田他	講義室6A 臨床実習室4B
15回	7	21	木	Ⅱ～Ⅳ	Ⅱ:第3章, 5章確認試験 Ⅲ,Ⅳ実習:クラウン研磨	黒嶋 吉田他	講義室6A 臨床実習室4B

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
16回	10	6	木	Ⅲ～Ⅳ	Ⅲ講義:レジン前装冠・ハイブリッド型コンポジットレジンジャケット冠 Ⅳ講義: 陶材焼付冠	平澤瀬	第2講義室
17回	10	13	木	Ⅲ～Ⅳ	Ⅲ講義:CAD/CAMによる製作 Ⅳ講義:オールセラミックス修復	澤瀬佐藤 (非常勤)	講義室6B
18回	10	20	木	Ⅲ～Ⅳ	Ⅲ講義:ブリッジ(連結法)・高齢者・要介護者におけるクラウンブリッジ補綴 Ⅳ講義:包括歯科治療	黒嶋佐々木 (非常勤)	第2講義室
19回	10	27	木	Ⅲ～Ⅳ	Ⅲ:第4章,6章確認試験 Ⅳ実習:ブリッジ支台歯形成1	澤瀬吉田他	第2講義室 臨床実習室4B
20回	11	10	木	Ⅲ～Ⅳ	Ⅲ,Ⅳ実習:ブリッジ支台歯形成2	吉田他	臨床実習室4B
21回	11	17	木	Ⅲ～Ⅳ	Ⅲ,Ⅳ実習:個人トレー作製	吉田他	臨床実習室4B
22回	11	24	木	Ⅲ～Ⅳ	Ⅲ,Ⅳ実習:ブリッジ精密印象・作業模型	吉田他	臨床実習室4B
23回	12	1	木	Ⅲ～Ⅳ	Ⅲ,Ⅳ実習:ブリッジ咬合器付着	吉田他	臨床実習室4B
24回	12	8	木	Ⅲ～Ⅳ	Ⅲ,Ⅳ実習:ブリッジワックスアップ1	吉田他	臨床実習室4B
25回	12	15	木	Ⅲ～Ⅳ	Ⅲ,Ⅳ実習:ブリッジワックスアップ2	吉田他	臨床実習室4B
26回	12	22	木	Ⅲ～Ⅳ	Ⅲ,Ⅳ実習:ブリッジワックスアップ3	吉田他	臨床実習室4B
27回	1	5	木	Ⅲ～Ⅳ	Ⅲ,Ⅳ実習:ブリッジ埋没	吉田他	臨床実習室4B
28回	1	12	木	Ⅲ～Ⅳ	Ⅲ,Ⅳ実習:ブリッジ鋳造・研磨	吉田他	臨床実習室4B
29回	1	25	水	Ⅲ～Ⅳ	Ⅲ,Ⅳ実習:ブリッジろう着・レジン前装・研磨1	吉田他	臨床実習室4B
30回	1	26	木	Ⅲ～Ⅳ	Ⅲ,Ⅳ実習:レジン前装・研磨2 製作物提出・器具返却	吉田他	臨床実習室4B

年度 2016 学期 通年	曜日・校時 金・Ⅲ～Ⅳ	必修選択 必修	単位数 4																														
科目番号	25034325																																
科目ナンバリング・コード	DNGD33121985																																
授業科目名/(英語名)	有床義歯補綴学及び同実習/(Plate Denture Prosthodontics)																																
対象年次 4年次	講義形態 講義・実習形式	教室 第2講義室、臨床実習室 4B																															
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学各論Ⅱ																																
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 村田比呂司/hmurata@nagasaki-u.ac.jp/病院8階歯科補綴学分野教授室/095-819-7690(内7690)/金曜 17:00～18:00																																	
担当教員(オムニバス科目等)	講義:村田比呂司, 鳥巢哲朗, 黒木唯文, 西村正宏(非常勤講師), 二川浩樹(非常勤講師), 皆木省吾(非常勤講師), 鱒見進一(非常勤講師) 実習:鳥巢哲朗, 田中美保子, 吉田和弘, 江越貴文																																
授業の概要及び位置づけ																																	
歯科医師として有床義歯の臨床に必要な基礎的知識と技術を習得する。そのため授業では部分床義歯補綴学および全部床義歯補綴学の理論を考究する。また実習では義歯の基本的な製作法を学び、技術を習得する。																																	
授業到達目標																																	
1)有床義歯の目的, 意義および具備条件, 2)有床義歯の種類, 適応症, 支持機構, 把持機構, 維持機構, 3)有床義歯の咬合様式, 4)有床義歯の構成要素, 5)咬合採得する下顎位と咬合採得法, 6)下顎運動の記録法, 7)義歯製作に必要な生体材料の特性, 8)材料の基本操作や義歯製作に関する基本的手技, 9)義歯の適切な設計, 10)義歯の調整, リライン, 修理, 11)即時義歯および治療用義歯の目的と意義, 12)定期検診・管理, これらの項目について説明と実践ができる。																																	
授業方法(学習指導法)																																	
講義は教科書の内容を中心に, パソコンと液晶プロジェクターを用いて行い, 必要に応じてプリントを配布する。実習ではステップごとにその概説があり, 主要な項目は教員がデモ示説する。非常勤講師による特別講義も計画している。																																	
授業内容																																	
全部床義歯補綴学ついで部分床義歯補綴学の講義を行う。同時に義歯製作の実習も進行する。																																	
<table border="0"> <tr> <td>1 回目 LF1:全部床義歯総論 1, LF2:総論 2</td> <td>16 回目 P11:概形印象 診断用模型調整</td> </tr> <tr> <td>2 回目 LF3:診察, 検査, 診断, 治療 1, LF4:治療 2</td> <td>17 回目 LP1:部分床義歯総論</td> </tr> <tr> <td>3 回目 P1:FD 概形印象</td> <td>18 回目 LP3:総論 3</td> </tr> <tr> <td>4 回目 LF5:治療 3, LF6:治療 4</td> <td>19 回目 LP5:総論 5</td> </tr> <tr> <td>5 回目 P2:FD 精密印象, 咬合床作製, 咬合採得, 咬合器付着</td> <td>20 回目 LP7:診察, 検査, 診断, 治療 1</td> </tr> <tr> <td>6 回目 LF7:治療 5, LF8:治療 6</td> <td>21 回目 P12:個人トレー, 補綴的前処置</td> </tr> <tr> <td>7 回目 P3:FD 人工歯排列</td> <td>22 回目 LP8:治療 2, LFP1:咬合</td> </tr> <tr> <td>8 回目 P4:FD 人工歯排列</td> <td>23 回目 P13:印象 模型の調整, サベイング</td> </tr> <tr> <td>9 回目 P5:歯肉形成, 下顎義歯埋没</td> <td>24 回目 P14:ブロックアウト, リリーフ</td> </tr> <tr> <td>10 回目 P6:上顎義歯埋没, 下顎義歯重合</td> <td>25 回目 P15:耐火模型作製</td> </tr> <tr> <td>11 回目 P7:上顎義歯重合, 割り出し</td> <td>26 回目 P16:ワックスアップ</td> </tr> <tr> <td>12 回目 P8:リマウント, 咬合調整, 研磨</td> <td>27 回目 P17:埋没, 咬合床作製</td> </tr> <tr> <td>13 回目 LF9:治療 7, 特別講義</td> <td>28 回目 P18:鋳造, 研磨, 咬合採得</td> </tr> <tr> <td>14 回目 P9:咬合調整, 研磨</td> <td>29 回目 LFP2:種々の義歯 1</td> </tr> <tr> <td>15 回目 P10:作品提出, 器具チェック, 特別講義</td> <td>30 回目 LFP3:種々の義歯 2, P19:作品提出, 器具チェック</td> </tr> </table>				1 回目 LF1:全部床義歯総論 1, LF2:総論 2	16 回目 P11:概形印象 診断用模型調整	2 回目 LF3:診察, 検査, 診断, 治療 1, LF4:治療 2	17 回目 LP1:部分床義歯総論	3 回目 P1:FD 概形印象	18 回目 LP3:総論 3	4 回目 LF5:治療 3, LF6:治療 4	19 回目 LP5:総論 5	5 回目 P2:FD 精密印象, 咬合床作製, 咬合採得, 咬合器付着	20 回目 LP7:診察, 検査, 診断, 治療 1	6 回目 LF7:治療 5, LF8:治療 6	21 回目 P12:個人トレー, 補綴的前処置	7 回目 P3:FD 人工歯排列	22 回目 LP8:治療 2, LFP1:咬合	8 回目 P4:FD 人工歯排列	23 回目 P13:印象 模型の調整, サベイング	9 回目 P5:歯肉形成, 下顎義歯埋没	24 回目 P14:ブロックアウト, リリーフ	10 回目 P6:上顎義歯埋没, 下顎義歯重合	25 回目 P15:耐火模型作製	11 回目 P7:上顎義歯重合, 割り出し	26 回目 P16:ワックスアップ	12 回目 P8:リマウント, 咬合調整, 研磨	27 回目 P17:埋没, 咬合床作製	13 回目 LF9:治療 7, 特別講義	28 回目 P18:鋳造, 研磨, 咬合採得	14 回目 P9:咬合調整, 研磨	29 回目 LFP2:種々の義歯 1	15 回目 P10:作品提出, 器具チェック, 特別講義	30 回目 LFP3:種々の義歯 2, P19:作品提出, 器具チェック
1 回目 LF1:全部床義歯総論 1, LF2:総論 2	16 回目 P11:概形印象 診断用模型調整																																
2 回目 LF3:診察, 検査, 診断, 治療 1, LF4:治療 2	17 回目 LP1:部分床義歯総論																																
3 回目 P1:FD 概形印象	18 回目 LP3:総論 3																																
4 回目 LF5:治療 3, LF6:治療 4	19 回目 LP5:総論 5																																
5 回目 P2:FD 精密印象, 咬合床作製, 咬合採得, 咬合器付着	20 回目 LP7:診察, 検査, 診断, 治療 1																																
6 回目 LF7:治療 5, LF8:治療 6	21 回目 P12:個人トレー, 補綴的前処置																																
7 回目 P3:FD 人工歯排列	22 回目 LP8:治療 2, LFP1:咬合																																
8 回目 P4:FD 人工歯排列	23 回目 P13:印象 模型の調整, サベイング																																
9 回目 P5:歯肉形成, 下顎義歯埋没	24 回目 P14:ブロックアウト, リリーフ																																
10 回目 P6:上顎義歯埋没, 下顎義歯重合	25 回目 P15:耐火模型作製																																
11 回目 P7:上顎義歯重合, 割り出し	26 回目 P16:ワックスアップ																																
12 回目 P8:リマウント, 咬合調整, 研磨	27 回目 P17:埋没, 咬合床作製																																
13 回目 LF9:治療 7, 特別講義	28 回目 P18:鋳造, 研磨, 咬合採得																																
14 回目 P9:咬合調整, 研磨	29 回目 LFP2:種々の義歯 1																																
15 回目 P10:作品提出, 器具チェック, 特別講義	30 回目 LFP3:種々の義歯 2, P19:作品提出, 器具チェック																																
[注:講義・・・LF:全部床義歯, LP:部分床義歯, LFP:全部床義歯, :部分床義歯共通] (実習・講義の進行等により授業の順番等が変更になる可能性がある。その場合は事前に連絡する。)																																	
キーワード	部分床義歯補綴学, 全部床義歯補綴学, 咀嚼機能, 咬合																																
教科書・教材・参考書	教科書: 歯学生のパーシャルデンチャー 第5版(三谷春保他 編;医歯薬出版), 無歯顎補綴治療学 第3版(細井紀雄他 編;医歯薬出版) 参考書: パーシャルデンチャーテクニック 第5版(五十嵐順正他 編;医歯薬出版), コンプリートデンチャーテクニック 第6版(細井紀雄他 編;医歯薬出版)																																
成績評価の方法・基準等	定期試験(前期1回, 後期1回)と実習の評価を合わせて, 総合的に評価する。それぞれの評価比率は, 定期試験 80%, 実習 20%とする。また授業への貢献度も評価の対象とする。																																
受講要件(履修条件)	全体を通して総授業時間の3/4以上の出席が求められる。																																
備考(学生へのメッセージ)	教科書の内容は基本となるものであるため, 最低限理解する必要がある。 実習室を使用後は整理整頓し, きれいに清掃すること。																																

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	1	金	Ⅲ～Ⅳ	[LF1:全部床義歯総論1]全部床義歯, 無歯顎の病因と病態, [LF2:総論2]補綴装置としての全部床義歯, 全部床義歯装着者にみられる主要症候等	村田・黒木	講義室6A
2回	4	8	金	Ⅲ～Ⅳ	[LF3:診察, 検査, 診断, 治療1] 医療面接とインフォームドコンセント, 診察, 検査, 診断, 治療計画の立案, 前処置, [LF4:治療2] 印象採得	村田・黒木	講義室6A
3回	4	15	金	Ⅲ～Ⅳ	[P1:FD概形印象]実習説明, 概形印象採得, 診断用模型作製, 作業用模型(ゴム枠)作製	鳥巢・田中・吉田・江越	臨床実習室4B
4回	4	22	金	Ⅲ～Ⅳ	[LF5:治療3]顎間関係の記録[LF6:治療4] 下顎運動の記録と咬合器装着, 咬合器	村田・鳥巢	講義室6A
5回	5	6	金	Ⅲ～Ⅳ	[P2:FD精密印象, 咬合床作製, 咬合採得, 咬合器付着]個人トレー作製(印象採得は説明のみ)、咬合床作製, 咬合採得, 咬合器付着	鳥巢・田中・吉田・江越	臨床実習室4B
6回	5	13	金	Ⅲ～Ⅳ	[LF7:治療5] 人工歯, 人工歯排列, フレンジ, [LF8:治療6] ろう義歯, 埋没, 重合, 咬合器再装着, 咬合調整等, 研磨	鳥巢	講義室6A
7回	5	20	金	Ⅲ～Ⅳ	[P3:FD人工歯排列]人工歯排列(上顎前歯部, 下顎前歯部)	鳥巢・田中・吉田・江越	臨床実習室4B
8回	5	27	金	Ⅲ～Ⅳ	[P4:FD人工歯排列]人工歯排列(下顎臼歯部, 上顎臼歯部)	鳥巢・田中・吉田・江越	臨床実習室4B
9回	6	3	金	Ⅲ～Ⅳ	[P5:歯肉形成, 下顎義歯埋没]人工歯排列(上顎臼歯部), 下顎歯肉形成, 下部埋没;金属フラスク使用(加熱重合レジン)	鳥巢・田中・吉田・江越	臨床実習室4B
10回	6	10	金	Ⅲ～Ⅳ	[P6:上顎義歯埋没, 下顎義歯重合]上顎歯肉形成, 上顎スプルーイング, 上部埋没;ゴムフラスク使用(流し込み重合レジン), 下顎流蠟, 分離剤の塗布, 下顎加熱重合, 徐冷	鳥巢・田中・吉田・江越	臨床実習室4B
11回	6	17	金	Ⅲ～Ⅳ	[P7:上顎義歯重合, 割り出し]上顎流蠟, リーフ, ポストダム, 分離材の塗布, 流し込みレジン重合, 上下顎義歯割り出し	鳥巢・田中・吉田・江越	臨床実習室4B
12回	6	24	金	Ⅲ～Ⅳ	[P8:リマウント, 咬合調整, 研磨]リマウント, 選択削合(中心咬合位・偏心位), 自動削合, 研磨	鳥巢・田中・吉田・江越	臨床実習室4B
13回	7	1	金	Ⅲ～Ⅳ	[LF9:治療7]義歯の装着, 患者指導, 義歯装着後の経過観察等(特別講義)補綴領域からの顎骨再生医療の基礎と未来	村田・西村	講義室6A
14回	7	8	金	Ⅲ～Ⅳ	[P9:咬合調整, 研磨]自動削合, 研磨	鳥巢・田中・吉田・江越	臨床実習室4B
15回	7	15	金	Ⅲ～Ⅳ	[P10:作品提出, 器具チェック]作品提出, 器具チェック(特別講義)バイオフィルム研究	鳥巢・田中・吉田・江越・二川	臨床実習室4B 講義室6A

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
16回	9	30	金	Ⅲ～Ⅳ	[P11:概形印象 診断用模型調整]診断用模型作製, サベイング(予備測定), ガイドプレーンとレストシートの形成練習, 義歯床・トレーの外形線記入, 人工歯の植え換え	鳥巢・田中・吉田・江越	臨床実習室4B
17回	10	7	金	Ⅲ～Ⅳ	[LP1:部分床義歯総論1] 部分床義歯, 咀嚼系の構造, 機能運動, 咬合の不調和, 歯の欠損による継発する症状等, [LP2:総論2] 部分床義歯の構成要素, 症型分類	村田・黒木	第2講義室
18回	10	14	金	Ⅲ～Ⅳ	[LP3:総論3.4] 支持, 把持の考え方, 維持の考え方, [LP4:総論4.5] 材料, 大連結子	鳥巢・村田	講義室6B
19回	10	21	金	Ⅲ～Ⅳ	[LP5:総論6] 支台装置(クラスプ等), [LP6:診察, 検査, 診断, 治療1] 診察と治療計画, (設計), 臨床ステップ, 前処置, 印象採得, (サベイング等)	黒木・黒木	第2講義室
20回	10	28	金	Ⅲ～Ⅳ	[LP7:診察, 検査, 診断, 治療1] 設計の考え方, サベイング(特別講義)顎機能と補綴 - 機能研究が臨床を変える -	鳥巢・皆木	第2講義室
21回	11	4	金	Ⅲ～Ⅳ	[P12:個人トレー, 補綴的前処置]個人トレー製作, 模型咬合位の確認, ガイドプレーン・レストシート形成	鳥巢・田中・吉田・江越	臨床実習室4B
22回	11	11	金	Ⅲ～Ⅳ	[LP8:治療2] 咬合採得, 人工歯排列, ろう義歯, 埋没, 完成, 義歯の装着, 患者指導, 経過観察等 [LFP1:咬合] 咬合	村田・鳥巢	第2講義室
23回	11	18	金	Ⅲ～Ⅳ	[P13:印象 模型の調整, サベイング]印象採得, 作業模型・対合模型調整, サベイング(本測定)	鳥巢・田中・吉田・江越	臨床実習室4B
24回	11	25	金	Ⅲ～Ⅳ	[P14:ブロックアウト, リリーフ]メタルフレーム(鉤・連結子)の外形線記入, ブロックアウト, リリーフ, 複印象と埋没材注入(耐火模型作製)	鳥巢・田中・吉田・江越	臨床実習室4B
25回	12	2	金	Ⅲ～Ⅳ	[P15:耐火模型作製]埋没材注入(耐火模型作製), 耐火模型への外形線記入, メタルフレームワックスアップ	鳥巢・田中・吉田・江越	臨床実習室4B
26回	12	9	金	Ⅲ～Ⅳ	[P16:ワックスアップ]メタルフレームワックスアップ	鳥巢・田中・吉田・江越	臨床実習室4B
27回	12	16	金	Ⅲ～Ⅳ	[P17:埋没, 咬合床作製]スブルーイング, 埋没, 咬合床作製	鳥巢・田中・吉田・江越	臨床実習室4B
28回	1	6	金	Ⅲ～Ⅳ	[P18:鑄造, 研磨, 咬合採得]鑄造, 研磨(デモ), 咬合採得	鳥巢・田中・吉田・江越	臨床実習室4B
29回	1	13	金	Ⅲ～Ⅳ	[LFP2:種々の義歯1] 複製義歯, 金属床義歯, オーバーデンチャー, 顎義歯(特別講義)マグネットデンチャーについて	鳥巢・鱒見	第2講義室
30回	1	27	金	Ⅲ～Ⅳ	[LFP3:種々の義歯2] 暫間義歯, 即時義歯, 移行義歯, 診断用義歯, 治療用義歯, インプラント義歯, 訪問 [P19:作品提出, 器具チェック]作品提出, 器具チェック	村田・鳥巢・田中・吉田・江越	第2講義室 臨床実習室4B

年度 2016 学期 後期	曜日・校時 火・Ⅲ～Ⅳ	必修選択 必修	単位数 2
科目番号	25034326		
科目ナンバリング・コード	DNGD33131987		
授業科目名/(英語名)	口腔外科学Ⅰ及び同実習/ (Oral and Maxillofacial Surgery I and Practice)		
対象年次 4年次	講義形態 講義・実習形式	教室 第2講義室、臨床実習室 4B	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学各論Ⅱ		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 梅田正博/mumeda@nagasaki-u.ac.jp/病院8階口腔腫瘍治療学分野教授室/095-819-7695(内7695)/随時			
担当教員(オムニバス科目等)	梅田正博、川崎五郎、柳本惣市、六反田 賢、鳴瀬智史、坂本由紀		
授業の概要及び位置づけ			
<p>口腔外科では、口腔、顎、顔面ならびにその隣接組織に生じる疾患のうち、う蝕や歯周病、義歯、ブリッジ、歯列不正などの歯科疾患を除くすべての疾患を取り扱う。具体的には智歯周囲炎、顎炎、顎骨周囲の蜂窩織炎などの炎症性疾患、顎の骨折や歯・軟組織の外傷、顎変形症、顎関節疾患、口腔粘膜疾患、嚢胞性疾患、神経性疾患、耳下腺を除く唾液腺疾患、口腔腫瘍などである。さらに、歯科インプラントに関連する埋入手術や骨増量手術、さまざまな全身疾患を有する患者の抜歯を始めとする侵襲的歯科治療なども口腔外科で行っている。口腔やその周囲に病気が発生すると、審美的な異常だけではなく、食事や発音・会話がうまくできないなどの機能的な障害も生じうるが、治療により口腔・顎・顔面の形態や機能を回復させ、健康的な美しさを取り戻すことができる。その知識、技術を紹介しこれからの歯科医療を先端で担う歯科医師を育成することを目的とする。</p>			
授業到達目標			
各疾患の病因、病態、治療、予想される経過について、基本的な説明ができるようになる。			
授業方法(学習指導法)			
基礎的知識、臨床的知識、症例の実際を実践的に講義する。			
授業内容			
<ul style="list-style-type: none"> 1 回目 口腔外科総論 2 回目 先天異常と後天異常 3 回目 嚢胞性疾患 4 回目 炎症性疾患 5 回目 口腔粘膜疾患 6 回目 良性腫瘍と腫瘍類似疾患 7 回目 口腔癌の統括的治療、顎変形症の手術法 8 回目 悪性腫瘍 9 回目 悪性腫瘍 10 回目 中間試験 11 回目 血液疾患 12 回目 全身管理と歯科治療 13 回目 顎口腔に症状を呈する疾患 14 回目 採血・静脈路確保 実習 15 回目 切開と縫合 実習 			
キーワード	口腔外科学、口腔がん		
教科書・教材・参考書	特に指定せず。		
成績評価の方法・基準等	期末定期試験および実習の到達度を鑑み総合的に評価する。		
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセージ)	口腔外科は臨床歯科医学の根幹をなし、一番ダイナミックな分野であると考えている。学生諸君にはその一端を示し、将来に役立ててもらいたい。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	4	火	Ⅲ～Ⅳ	口腔外科総論	梅田正博	第2講義室・ 臨床実習室4B
2回	10	11	火	Ⅲ～Ⅳ	先天異常と後天異常	梅田正博	第2講義室・ 臨床実習室4B
3回	10	18	火	Ⅲ～Ⅳ	嚢胞性疾患	梅田正博	第2講義室・ 臨床実習室4B
4回	10	25	火	Ⅲ～Ⅳ	炎症性疾患	梅田正博	第2講義室・ 臨床実習室4B
5回	11	1	火	Ⅲ～Ⅳ	口腔粘膜疾患	梅田正博	第2講義室・ 臨床実習室4B
6回	11	8	火	Ⅲ～Ⅳ	良性腫瘍と腫瘍類似疾患	梅田正博	第2講義室・ 臨床実習室4B
7回	11	15	火	Ⅲ～Ⅳ	口腔癌の統括的治療、顎変形症の手術法	梅田正博	第2講義室・ 臨床実習室4B
8回	11	22	火	Ⅲ～Ⅳ	悪性腫瘍	梅田正博	第2講義室・ 臨床実習室4B
9回	11	29	火	Ⅲ～Ⅳ	悪性腫瘍	梅田正博	第2講義室・ 臨床実習室4B
10回	12	6	火	Ⅲ～Ⅳ	中間試験	梅田正博	第2講義室・ 臨床実習室4B
11回	12	13	火	Ⅲ～Ⅳ	血液疾患	梅田正博	第2講義室・ 臨床実習室4B
12回	12	20	火	Ⅲ～Ⅳ	全身管理と歯科治療	梅田正博	第2講義室・ 臨床実習室4B
13回	12	27	火	Ⅲ～Ⅳ	顎口腔に症状を呈する疾患	梅田正博	第2講義室・ 臨床実習室4B
14回	1	10	火	Ⅲ～Ⅳ	採血・静脈路確保 実習	梅田正博	第2講義室・ 臨床実習室4B
15回	1	17	火	Ⅲ～Ⅳ	切開と縫合 実習	梅田正博	第2講義室・ 臨床実習室4B

年度 2016 学期 後期	曜日・校時 金・I～II	必修選択 必修	単位数 2
科目番号	25034319		
科目ナンバリング・コード	DNGD33141987		
授業科目名/(英語名)	口腔外科学Ⅱ及び同実習/ (Oral and Maxillofacial Surgery II and Practice)		
対象年次 4年次	講義形態 講義・実習形式	教室 第2講義室(一部講義室6B)、臨床実習室4B	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学各論Ⅱ		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 朝比奈 泉/asahina@nagasaki-u.ac.jp/病院8階顎口腔再生外科学分野教授室/095-819-7701(内7701)/随時			
担当教員(オムニバス科目等)	朝比奈 泉・池田久住・大場誠悟・河井洋祐・三浦桂一郎・川崎貴子・井 隆司・梅林真由美 中村誠司(非常勤講師)・依田哲也(非常勤講師)・中村典史(非常勤講師)		
授業の概要及び位置づけ			
<p>歯科医師として臨床現場において前人的治療を行うための基礎として、顎顔面口腔領域に発生する疾患を理解し診断を導く思考力および判断力を養い、前心疾患をも含めた治療方針を決定する能力を身につける。口腔癌領域に生じる先天性あるいは後天性疾患に関してその原因、症状、診断および予後を学習し、これからの疾患の診断と、全身状態を考慮しながら治療方針を策定できる要素、及びこれからの疾患の予防に関する知識を学習する。</p>			
授業到達目標			
<p>授業内容に示した顎顔面口腔領域に発生する疾患に関し、その原因、症状、判断法および予後を説明できる。それによって、正しい診断を導く思考力を養い、適切な治療法を選択する能力を身につける。</p>			
授業方法(学習指導法)			
<p>スライド・ビデオを中心にすすめ、小テスト、学生による発表を取り入れ理解を深める。</p>			
授業内容			
<p>1回目 口腔外科診療法と治療の基本 2回目 先天異常と後天異常 3回目 顎顔面の外傷 4回目 口腔感染症 5回目 口腔粘膜疾患 6回目 悪性腫瘍 7回目 顎骨良性腫瘍と嚙胞性疾患 8回目 顎関節疾患 9回目 唾液腺疾患 10回目 手術基本手技 11回目 歯と歯槽の手術 12回目 神経疾患と心因性疾患 13回目 血液疾患 14回目 症例検討 15回目 症例検討</p>			
キーワード	口腔外科、診断、治療		
教科書・教材・参考書	<p>口腔外科学 宮崎正監修 医歯薬出版 標準口腔外科学 内山健志 他 医学書院 口腔科学 抜歯手技 堀之内康文 クインテッセンス出版 歯科における薬の使い方 デンタルダイヤモンド社 ハーバードの医師づくり 田中まゆみ 医学書院</p>		
成績評価の方法・基準等	<p>定期考査(筆記試験)により判断する(100点満点中60点以上を合格とする)。 再試験は筆記試験によって可否を判断する。 授業中の小テストは可否の判断材料とはしない。 発表形式も授業を行うが、発表内容を採点し、定期考査に加点する。</p>		
受講要件(履修条件)	なし		
備考(学生へのメッセージ)	<p>教科書等で予習をしておくとう理解が深まる。 非常勤講師都合によりシラバス内容が変更になることもあるが、第一回講義の際に最終決定のシラバスを配布する。</p>		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	9	30	金	I～II	口腔外科診療法と治療の基本	朝比奈 他	第2講義室・ 臨床実習室4B
2回	10	7	金	I～II	先天異常と後天異常	朝比奈 他	第2講義室・ 臨床実習室4B
3回	10	14	金	I～II	顎顔面の外傷	朝比奈 他	講義室6B・ 臨床実習室4B
4回	10	21	金	I～II	口腔感染症	朝比奈 他	第2講義室・ 臨床実習室4B
5回	10	28	金	I～II	口腔粘膜疾患	朝比奈 他	第2講義室・ 臨床実習室4B
6回	11	4	金	I～II	悪性腫瘍	朝比奈 他	第2講義室・ 臨床実習室4B
7回	11	11	金	I～II	顎骨良性腫瘍とのう胞性疾患	朝比奈 他	第2講義室・ 臨床実習室4B
8回	11	18	金	I～II	顎関節疾患	朝比奈 他	第2講義室・ 臨床実習室4B
9回	11	25	金	I～II	唾液腺疾患	朝比奈 他	第2講義室・ 臨床実習室4B
10回	12	2	金	I～II	手術基本手技	朝比奈 他	第2講義室・ 臨床実習室4B
11回	12	9	金	I～II	歯と歯槽の手術	朝比奈 他	第2講義室・ 臨床実習室4B
12回	12	16	金	I～II	神経疾患と心因性疾患	朝比奈 他	第2講義室・ 臨床実習室4B
13回	1	6	金	I～II	血液疾患	朝比奈 他	第2講義室・ 臨床実習室4B
14回	1	13	金	I～II	症例検討	朝比奈 他	第2講義室・ 臨床実習室4B
15回	1	27	金	I～II	症例検討	朝比奈 他	第2講義室・ 臨床実習室4B

年度 2016 学期 後期	曜日・校時 火・I～II	必修選択 必修	単位数 2
科目番号	25034319		
科目ナンバリング・コード	DNGD33151983		
授業科目名/(英語名)	歯科放射線学及び同実習/ (Head and Neck Radiology)		
対象年次 4年次	講義形態 講義・実習形式	教室 第2講義室	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学各論II		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 中村 卓/taku@nagasaki-u.ac.jp/病院8階頭頸部放射線学分野教授室/095-819-7707(内7707)/9:00～17:00まで随時			
担当教員(オムニバス科目等)	中村 卓、角 美佐、佛坂由可、片山郁夫、佐々木美穂、高木幸則、有地榮一郎(非常勤講師)、大喜雅文(非常勤講師)		
授業の概要及び位置づけ 放射線その他の方法を用いた画像診断ならびに放射線治療の基礎的知識とその応用を学ぶ。			
授業到達目標 1. 歯科放射線学において基礎となる放射線物理学ならびに放射線生物学を理解するとともに歯科X線撮影のための技術的知識を説明できる。 2. 顎顔面領域で行われる画像診断の基礎的な内容を説明できる。			
授業方法(学習指導法) スライド・ビデオを中心にすすめ、小テスト、学生による発表を取り入れ理解を深める。			
授業内容 1回目 CTによる画像診断のための正常解剖および病変診断 2回目 歯科用X線撮影法 3回目 CT造影検査による画像診断 4回目 口腔領域悪性腫瘍の放射線治療の基礎 5回目 MRI(磁気共鳴画像)を利用した画像診断学の基礎と応用 6回目 MRI(磁気共鳴画像)を利用した画像診断学の基礎と応用 7回目 自己免疫性疾患の画像診断学 8回目 顎骨内病変の画像診断 9回目 超音波を用いた軟部組織の画像診断の基礎と応用 10回目 RI診断 11回目 放射能・放射線に関する単位について放射線のリスクならびに放射線防護の意義と方法について 12回目 放射線の種類と性質、物質との相互作用についてX線の発生のしくみと性質について 13回目 放射線の生物学的効果について 14回目 DNA障害とその修復 15回目 全身疾患・自己免疫疾患			
キーワード	Radiology, Imaging, Radiation		
教科書・教材・参考書	特になし		
成績評価の方法・基準等	出席ならびに定期試験により評価する。試験にて60点以上を合格とする。		
受講要件(履修条件)	3/4の出席		
備考(学生へのメッセージ)	特になし		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	4	火	I～II	CT診断学 CTによる画像診断のための正常解剖および病変診断	中村	第2講義室
2回	10	11	火	I～II	歯科用X線撮影法 歯科用X線撮影法	片山	第2講義室
3回	10	18	火	I～II	CT造影診断学 CT造影検査による画像診断	角	第2講義室
4回	10	25	火	I～II	放射線治療 口腔領域悪性腫瘍の放射線治療の基礎	有地	第2講義室
5回	11	1	火	I～II	MRI診断学(1) MRI(磁気共鳴画像)を利用した画像診断学の基礎と応用	角	第2講義室
6回	11	8	火	I～II	MRI診断学(2) MRI(磁気共鳴画像)を利用した画像診断学の基礎と応用	角	第2講義室
7回	11	15	火	I～II	自己免疫性疾患(1)(2) 自己免疫性疾患の画像診断学	中村	第2講義室
8回	11	22	火	I～II	顎骨のX線診断(1)(2) 顎骨内病変の画像診断	中村	第2講義室
9回	11	29	火	I～II	超音波診断学 超音波を用いた軟部組織の画像診断の基礎と応用	高木	第2講義室
10回	12	6	火	I～II	RI診断	佐々木	第2講義室
11回	12	13	火	I～II	放射線の単位と防護 放射能・放射線に関する単位について放射線のリスクならびに放射線防護の意義と方法について	片山	第2講義室
12回	12	20	火	I～II	X線の発生と性質 放射線の種類と性質、物質との相互作用について、X線の発生のしくみと性質について	大喜	第2講義室
13回	12	27	火	I～II	放射線生物学(1)(2) 放射線の生物学的効果について	佛坂	第2講義室
14回	1	10	火	I～II	放射線生物学(3)(4) DNA障害とその修復	佛坂	第2講義室
15回	1	17	火	I～II	全身疾患・自己免疫疾患	角/中村	第2講義室

年度 2016 学期 前期	曜日・校時 金・I～II	必修選択 必修	単位数 1.5
科目番号	25034320		
科目ナンバリング・コード	DNGD33161987		
授業科目名/(英語名)	歯科麻酔学及び同実習/(Dental Anesthesiology)		
対象年次 4年次	講義形態 講義・実習形式	教室 講義室6A	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学各論II		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 鮎瀬卓郎/ayuse@nagasaki-u.ac.jp/歯科麻酔教授室/095-819-7713(内 7713)/月～金曜日 17:00～18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	鮎瀬卓郎、讃岐拓郎、倉田眞治、岡安一郎 (学外非常勤講師)出口 繁、(学内非常勤講師)境 徹也、山下和範、関野元裕		
授業の概要及び位置づけ 全身麻酔、局所麻酔、鎮静法、心肺蘇生法、疼痛治療を通して安全で痛くない歯科治療の原則と救急時の対処法を学ぶ。			
授業到達目標 (1) 全身状態を観察する目を養う。 (2) 歯科治療に欠かせない局所麻酔について十分な知識をもつ。 (3) 歯科治療時の全身的偶発症の対処法、予防法を学ぶ。			
授業方法(学習指導法)			
授業内容 1 回目 歯科麻酔学概論 2 回目 呼吸・循環の生理 3 回目 代謝・神経の生理 4 回目 麻酔管理に関連する口腔咽頭部の解剖を学ぶ 5 回目 麻酔管理に用いる装置・器具等について学ぶ 6 回目 麻酔管理に用いる麻酔薬の薬理学的作用を学ぶ 7 回目 歯科麻酔学の知識・技術を歯科医療の現場でどう活用するか 8 回目 麻酔中および周術期管理に必要なモニタリングの考え方・方法を学ぶ 9 回目 麻酔中、周術期の代謝管理と疼痛管理について学ぶ 10 回目 高度な全身管理の方法について学ぶ 11 回目 疼痛の発生機序と治療法を学ぶ 12 回目 局所麻酔薬および局所麻酔法について学ぶ 13 回目 鎮静法がなぜ有効かを学ぶ 14 回目 歯科治療時に起こる合併症について学ぶ 15 回目 歯科治療時の心肺蘇生法を学ぶ			
キーワード	全身管理 局所麻酔 全身偶発症の予防		
教科書・教材・参考書	歯科麻酔学 (第7版 医歯薬出版)		
成績評価の方法・基準等	定期考査100%		
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセージ)	生理学、薬理学の復習をしておくこと。必ず翌週の講義内容について予習をすること。講義では、質疑応答を通して、講義を進めていく。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	1	金	I～II	歯科麻酔学概論(歯科麻酔学の歴史、学ぶ意義) 歯科麻酔学のが歴史を通して歯科医学の中の位置づけを考える (教材) 歯科麻酔学	鮎瀬卓郎	講義室6A
2回	4	8	金	I～II	呼吸、循環の生理 麻酔管理、全身評価に必要な呼吸と循環の臨床生理学を学ぶ (教材) 歯科麻酔学、DVDなどを用いた呼吸音、心音の体感	讃岐拓郎	講義室6A
3回	4	15	金	I～II	代謝・神経の生理 麻酔管理、全身評価に必要な代謝・神経の臨床生理学を学ぶ (教材) 歯科麻酔学、プリント	鮎瀬卓郎	講義室6A
4回	4	22	金	I～II	麻酔管理に関連する口腔咽頭部の解剖を学ぶ 歯科治療と領域を共有する歯科麻酔管理の特殊性を学ぶ (教材) 歯科麻酔学	鮎瀬卓郎	講義室6A
5回	5	6	金	I～II	麻酔管理に用いる装置・器具等について学ぶ 全身麻酔および静脈麻酔に用いる装置・器具等について学ぶ (教材) 歯科麻酔学	倉田眞治	講義室6A
6回	5	13	金	I～II	麻酔管理に用いる麻酔薬の薬理学的作用を学ぶ 全身麻酔、静脈麻酔等に使用する麻酔薬の薬理作用を学ぶ (教材) 歯科麻酔学	讃岐拓郎	講義室6A
7回	5	20	金	I～II	歯科麻酔学の知識・技術を現場でどう活用するか 開業医の立場から考えた歯科麻酔学の社会貢献について学ぶ (教材) 歯科麻酔学	出口繁、 未定	講義室6A
8回	5	27	金	I～II	麻酔中および周術期管理に必要なモニタリングの考え方・方法を学ぶ バイタルサインの評価およびモニタリング機器について学ぶ (教材) 歯科麻酔学、実際の生体モニターの取り扱いについて学ぶ	讃岐拓郎	講義室6A
9回	6	3	金	I～II	麻酔中、周術期の代謝管理(輸液)と疼痛管理について学ぶ 創傷治癒まで考慮した全身管理方法について学ぶ (教材) 歯科麻酔学	鮎瀬卓郎	講義室6A
10回	6	10	金	I～II	高度な全身管理の方法について学ぶ 救急部およびICUでの呼吸・循環管理について学ぶ (教材) プリント	山下和範、 関野元裕	講義室6A
11回	6	17	金	I～II	疼痛の発生機序と治療法を学ぶ 歯科における急性痛および難治性疼痛の発症機序と治療法を学ぶ (教材) 歯科麻酔学	境 徹也、 岡安一郎	講義室6A
12回	6	24	金	I～II	局所麻酔薬および局所麻酔法について学ぶ 局所麻酔の作用機序、麻酔薬の薬理作用と解剖、血管収縮薬について学ぶ (教材) 歯科麻酔学、注射器などを用いて実際の局所麻酔法を学ぶ	讃岐拓郎	講義室6A
13回	7	1	金	I～II	鎮静法がなぜ有効かを学ぶ(吸入鎮静法と静脈内鎮静法について学ぶ) 鎮静法に用いる装置、薬剤、それぞれの鎮静法の利点、欠点 (教材) 歯科麻酔学	鮎瀬卓郎	講義室6A
14回	7	8	金	I～II	歯科治療中に起こる合併症について学ぶ 歯科治療中に起こりうる全身的、局所的合併症について学ぶ (教材) 歯科麻酔学	倉田眞治	講義室6A
15回	7	15	金	I～II	歯科治療時の心肺蘇生(歯科医師に必要な基本的救急蘇生:BLS)を学ぶ 歯科治療時に起こる全身的偶発症とその対処法を学ぶ (教材) 歯科麻酔学、マネキンを用いて実際的心肺蘇生を学ぶ	倉田眞治	講義室6A

関連臨床医学 (3 年次生)

(1) 内科学総論	・・・・・・・・・・・・・・・・	119
(薬学部共修)		
(2) 外科学総論	・・・・・・・・・・・・・・・・	121
(薬学部共修)		
(3) 内科学各論	内科学 1	123
(薬学部共修)	内科学 3	125
	血液学	127
	感染症学	129
(4) 外科学各論	外科学 1	131
	外科学 2	133
(5) 隣接医学 I	皮膚科学	135
(薬学部共修)	眼科学	137
	耳鼻咽喉科学	139
	整形外科学	141
	形成外科学	143
(6) 隣接医学 II	小児科学	145
(薬学部共修)	産科婦人科学	147
	泌尿器科学	149
	精神神経科学	151
	脳神経外科学	153
(7) 隣接医学 III	人類遺伝学	155
	法医学	157

年度 2016 学期 前期	曜日・校時 木・I	必修選択 必修	単位数 1
科目番号	25084501		
科目ナンバリング・コード	DNGD33171992		
授業科目名/(英語名)	内科学総論/ (Internal Medicine)		
対象年次 3年次	講義形態 講義形式	教室 第1講義室	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類	関連臨床医学
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 中尾一彦/kazuhiko@nagasaki-u.ac.jp/病院8階消化器内科教授室/095-819-7482(内7482)/10:00~16:00 (実務担当:松島加代子/kmatsu@nagasaki-u.ac.jp/病院8階消化器内科医局/095-819-7481(内7481))			
担当教員(オムニバス科目等)	尾長谷 靖、中富 克己、宮崎 泰可、角川 智之、牟田 久美子、松島 加代子、柴田 英貴、三馬 聡、小澤 栄介、橋口 慶一		
授業の概要及び位置づけ 歯科医・薬剤師として必要な内科学総論(呼吸器、消化器、腎臓分野)			
授業到達目標 歯科医・薬剤師として最低限必要な内科疾患(呼吸器疾患、消化器疾患、腎臓疾患)に関する知識を習得する。			
授業方法(学習指導法) プリント、スライドを使った講義が主体。黒板を十分に使用する。時にレントゲンフィルム、内視鏡写真を供覧する。			
授業内容 1回目 呼吸器内科総論・アレルギー性疾患 2回目 肺癌 3回目 呼吸器感染症 4回目 間質性肺疾患 5回目 腎臓の解剖と機能 6回目 腎炎、ネフローゼ症候群、腎不全 7回目 上部消化管疾患 8回目 肝硬変と肝癌 9回目 ウイルス性肝疾患 10回目 胆膵疾患 11回目 下部消化管疾患			
キーワード			
教科書・教材・参考書	教科書 わかりやすい内科学(第4版) 井村裕夫編集 ¥9,450(文光堂) 参考書 内科学書(改訂第8版):全6冊+別巻(中山書店)		
成績評価の方法・基準等	筆記試験にて評価する。出題範囲は基本的に講義とプリントの範囲。 レポートによる評価はない。 再試は1回行う。		
受講要件(履修条件)	なし		
備考(学生へのメッセージ)			

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	7	木	I	呼吸器病学 呼吸器内科総論・アレルギー性疾患	尾長谷 靖	第1講義室
2回	4	14	木	I	呼吸器病学 肺癌	中富 克己	第1講義室
3回	4	21	木	I	呼吸器病学 呼吸器感染症	宮崎 泰可	第1講義室
4回	4	28	木	I	呼吸器病学 間質性肺疾患	角川 智之	第1講義室
5回	5	12	木	I	腎臓病学 腎臓の解剖と機能	牟田久美子	第1講義室
6回	5	19	木	I	腎臓病学 腎炎、ネフローゼ症候群、腎不全	牟田久美子	第1講義室
7回	5	26	木	I	消化器病学 上部消化管疾患	松島加代子	第1講義室
8回	6	2	木	I	消化器病学 肝硬変と肝癌	柴田 英貴	第1講義室
9回	6	9	木	I	消化器病学 ウイルス性肝疾患	三馬 聡	第1講義室
10回	6	16	木	I	消化器病学 胆膵疾患	小澤 栄介	第1講義室
11回	6	23	木	I	消化器病学 下部消化管疾患	橋口 慶一	第1講義室

年度 2016 学期 前期	曜日・校時 金・I	必修選択 必修	単位数 0.5
科目番号	25084502		
科目ナンバリング・コード	DNGD33181992		
授業科目名/(英語名)	外科学総論/(Surgery)		
対象年次 3年次	講義形態 講義形式	教室 第1講義室	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類 関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 日高重和/hidaka-s@nagasaki-u.ac.jp/病院 11階第一外科/095-819-7304(内 7304)/7:00～18:00 またはメールにて			
担当教員(オムニバス科目等)	永安 武、安武 亨、山崎直哉、土谷智史、角田順久、矢野 洋、宮崎拓郎、野中 隆、田浦康明		
授業の概要及び位置づけ			
外科学総論としての外科診断学、腫瘍学、創傷治癒、免疫学、感染学、栄養学の系統的講義を通じて、外科患者の診断、治療に対する理解を深める。			
授業到達目標			
外科の歴史、損傷と創傷治療、炎症と感染、腫瘍、外科栄養、免疫、体液変動、老人外科、小児外科の各分野について、基本的知識を習得し、理解する。			
授業方法(学習指導法)			
講義が中心になるが、理解を深めるため、PCによるプレゼンテーションを使用することもある。また、必要に応じてプリントの配布も行う予定である。			
授業内容			
1 回目 外科の歴史と外科医の立場:(1)外科の歴史 (2)外科医と法 (3)専門医制度 (4)病歴 (5)理学的所見			
2 回目 損傷と創傷治療:(1)機械的損傷 (2)非機械的損傷 (3)創傷の治癒過程 (4)創傷治癒を左右する因子 (5)創傷管理の実際			
3 回目 外科と栄養:(1)外科における栄養管理の意義 (2)栄養アセスメント (3)経腸栄養 (4)経静脈栄養 血液凝固異常と輸血:血液製剤の種類と特徴 外科的侵襲と生体反応:(1)免疫系の反応 (2)血液凝固系の反応 (3)術後の生体反応と回復過程			
4 回目 臓器移植・人工臓器:呼吸器系の移植と人工臓器			
5 回目 炎症と感染:(1)炎症の概念と病態生理 (2)臨床症状と所見 (3)外科的感染症の起因为菌 (4)全身感染症と敗血症 (5)外科的特殊感染症 (6)治療			
6 回目 体液と変動の輸液:(1)正常体液分布 (2)侵襲と体液変動 (3)水・電解質異常 (4)酸塩基平衡障害 (5)輸液療法			
7 回目 腫瘍:(1)良性腫瘍と悪性腫瘍 (2)発癌メカニズム (3)悪性腫瘍の病態 (4)臨床診断と特殊検査 (5)悪性腫瘍の治療 (6)悪性腫瘍の疫学			
8 回目 外科と免疫:(1)免疫機構と調節 (2)腫瘍免疫 (3)移植免疫 (4)免疫不全と日和見感染			
9 回目 老人外科・小児外科の特徴:(1)小児外科の特徴 (2)新生児・未熟児の特徴 (3)術前・術後の栄養管理 (4)老人外科の特徴 (5)手術適応 (6)周術期管理の特徴			
キーワード	外科、腫瘍学、免疫学、炎症、感染、栄養、創傷治癒		
教科書・教材・参考書	教科書 なし 参考書 標準外科学(医学書院) 必要に応じてプリントを配布する。		
成績評価の方法・基準等	筆記試験による評価を行う。再試は1回行う。 出席率も考慮する。		
受講要件(履修条件)	なし		
備考(学生へのメッセージ)			

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	1	金	I	外科の歴史と外科医の立場 問診と外科的診察法 (1)外科の歴史 (2)外科医と法 (3)専門医制度 (4)病歴 (5)理学的所見	永安 武	第1講義室
2回	4	8	金	I	損傷と創傷治療 (1)機械的損傷 (2)非機械的損傷 (3)創傷の治癒過程 (4)創傷治癒を左右する因子 (5)創傷管理の実際	安武 亨	第1講義室
3回	4	15	金	I	外科と栄養 (1)外科における栄養管理の意義 (2)栄養アセスメント (3)経腸栄養 (4)経静脈栄養 血液凝固異常と輸血 (1)血液製剤の種類と特徴	角田順久	第1講義室
4回	4	22	金	I	臓器移植・人工臓器 呼吸器系の移植と人工臓器	宮崎拓郎	第1講義室
5回	5	6	金	I	炎症と感染 (1)炎症の概念と病態生理 (2)臨床症状と所見 (3)外科的感染症の起因菌 (4)全身感染症と敗血症 (5)外科的特殊感染症 (6)治療 外科的侵襲と生体反応 (1)免疫系の反応 (2)血液凝固系の反応 (3)術後の生体反応と回復過程	山崎直哉	第1講義室
6回	5	13	金	I	体液の変動と輸液 (1)正常体液分布 (2)侵襲と体液変動 (3)水・電解質異常 (4)酸塩基平衡障害 (5)輸液療法	矢野 洋	第1講義室
7回	5	20	金	I	腫瘍 (1)良性腫瘍と悪性腫瘍 (2)発癌メカニズム (3)悪性腫瘍の病態 (4)臨床診断と特殊検査 (5)悪性腫瘍の治療 (6)悪性腫瘍の疫学	野中 隆	第1講義室
8回	5	27	金	I	外科と免疫 (1)免疫機構と調節 (2)腫瘍免疫 (3)移植免疫 (4)免疫不全と日和見感染	土谷智史	第1講義室
9回	6	3	金	I	老人外科・小児外科の特徴 (1)小児外科の特徴 (2)新生児・未熟児の特徴 (3)術前・術後の栄養管理 (4)老人外科の特徴 (5)手術適応 (6)周術期管理の特徴	田浦康明	第1講義室

年度 2016 学期 後期	曜日・校時 月・I (一部木・V)	必修選択 必修	単位数 (1)
科目番号	25084511		
科目ナンバリング・コード	DNGD33191992		
授業科目名/(英語名)	内科学各論(内科学1)/(Internal medicine, Special Lecture)		
対象年次 3年次	講義形態 講義形式	教室 第1講義室	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類 関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 川上 純/atsushik@nagasaki-u.ac.jp/病院9階第一内科教授室/095-819-7260(内7260)/金曜 午後			
担当教員(オムニバス科目等)	一瀬邦弘、岩本直樹、堀江一郎、白石裕一、辻野 彰、山崎浩則(非常勤講師)		
授業の概要及び位置づけ			
内科学の基礎知識を理解することを目標とする。特に、以下のテーマに基づいて、歯科口腔症状所見との関連にも重点をおいて講義する。内科学について、代表的な疾患の理解や歯科口腔症状所見との関連に重点をおいて講義する。			
授業到達目標			
受講生がリウマチ性疾患、神経疾患、内分泌代謝疾患の概念を理解し、その病態を説明できるようにする。また内科学の基礎知識を理解する。将来、実際の臨床の場で役立つような知識・判断力を身に付けさせる。			
授業方法(学習指導法)			
講義形式にて行う。プリントの配布、スライド及び液晶プロジェクターを使用して講義する。			
授業内容			
<p>1回目 リウマチ性疾患の内科的基礎知識を講義し口腔内病変を理解させる-1。</p> <p>2回目 リウマチ性疾患の内科的基礎知識を講義し口腔内病変を理解させる-2。</p> <p>3回目 内分泌疾患の基礎と臨床について、バセドウ病などの内分泌疾患の内科的知識を講義して、歯科領域の注意点などを理解させる。</p> <p>4回目 糖尿病の成因・治療について、糖尿病の内科的知識を講義して歯科領域の注意点などを理解させる。</p> <p>5回目 臨床神経学概説1: 歯科領域を中心に、脳神経の解剖・生理学をどうして、神経内科学の基礎知識を講義する。</p> <p>6回目 臨床神経学概説2: 脳血管障害で使用される抗凝固剤、抗血小板剤の知識を深く理解させる。</p>			
キーワード	リウマチ性疾患、臨床神経学、糖尿病、内分泌疾患		
教科書・教材・参考書	なし		
成績評価の方法・基準等	定期試験時に筆記試験(講義担当者が各々試験問題を作成)を実施する。出席率、追試験、再試験は学部規則の沿って厳格に行う。		
受講要件(履修条件)	特になし		
備考(学生へのメッセージ)	将来、実際の臨床の場で役立つような内科学の基礎知識が身につくことを心がけて講義します。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	3	月	I	リウマチ性疾患 リウマチ性疾患-1	岩本直樹	第1講義室
2回	10	17	月	I	リウマチ性疾患 リウマチ性疾患-2	一瀬邦弘	第1講義室
3回	10	24	月	I	内分泌疾患 主な内分泌疾患の診断・治療について	堀江一郎	第1講義室
4回	10	31	月	I	糖尿病 糖尿病の成因・治療について	山崎浩則 (非常勤講師)	第1講義室
5回	11	7	月	I	神経疾患 臨床神経学概説1: 歯科領域の神経解剖	白石裕一	第1講義室
6回	11	10	木	V	神経疾患 臨床神経学概説2: 脳血管障害について	辻野 彰	第1講義室

年度 2016 学期 後期	曜日・校時 月・I	必修選択 必修	単位数 (1)
科目番号	25084512		
科目ナンバリング・コード	DNGD33191992		
授業科目名/(英語名)	内科学各論(内科学3)/(Internal medicine, Cardiovascular disease)		
対象年次 3年次	講義形態 講義形式	教室 第1講義室	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類	関連臨床医学
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 河野浩章/hkawano@nagasaki-u.ac.jp/循環器内科医局/095-819-7288(内7288)/9:00~17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	恒任 章、小出優史、土居寿志、河野浩章、池田聡司		
授業の概要及び位置づけ			
<p>歯学部学生にあつては、循環器疾患を理解し、循環器疾患を有する患者に歯科治療を行うとどのような影響があるのか、歯科診療に際して注意すべき点など、実際の歯科診療に必要な知識を学習して欲しい。薬学部にあつては、循環器疾患を理解し、治療薬として使われる薬剤の作用機序を理解し薬剤に対する理解を深めて欲しい。</p>			
授業到達目標			
<p>循環器内科学の医療従事者としての一般的な知識を習得することが第一の目標となる。循環器疾患を有する患者への歯科治療や投薬治療を行う際に、歯科医師・薬剤師として知っておくべき知識、注意が必要な点、治療薬物の薬効について習得する。</p>			
授業方法(学習指導法)			
<p>基本的には板書およびパソコンにて講義するが、話し尽くせない分はプリントを活用する。</p>			
授業内容			
<p>1回目 弁膜疾患・先天性心疾患:僧帽弁狭窄・閉鎖不全症、大動脈弁狭窄・閉鎖不全症、心房中隔欠損症、心室中隔欠損症、動脈管開存症、ファロー四徴症、感染性心内膜炎</p> <p>2回目 虚血性心疾患:狭心症、心筋梗塞</p> <p>3回目 心電図・不整脈:左室肥大、右室肥大、期外収縮、頻脈性不整脈、徐脈性不整脈、人工ペースメーカー、ICD</p> <p>4回目 心臓の炎症性疾患・心筋症・心不全:心筋炎、肥大型心筋症、拡張型心筋症、心不全</p> <p>5回目 高血圧・大動脈疾患・末梢動脈疾患:本態性高血圧症、肺高血圧症、大動脈瘤、大動脈解離、高安病、閉塞性動脈硬化症、Buerger病</p>			
キーワード			
教科書・教材・参考書	<p>参考書 ハーバード大学テキスト 心臓病の病態生理 第2版 (Leonard S. Lilly、川名正敏他翻訳、メディカルサイエンスインターナショナル) 内科学 第9版(杉本恒明、矢崎義雄編、朝倉書店)</p>		
成績評価の方法・基準等	<p>筆記試験にて行う。内容は講義した内容で客観問題(五肢択一または複択形式)。 60点以上を合格とする。再試験は1回行う。</p>		
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセージ)			

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	11	21	月	I	弁膜疾患・先天性心疾患:僧帽弁狭窄・閉鎖不全症、 大動脈弁狭窄・閉鎖不全症、心房中隔欠損症 心室中隔欠損症、動脈管開存症、ファロー四徴症、感染性心内膜炎	恒任 章	第1講義室
2回	11	28	月	I	虚血性心疾患:狭心症、心筋梗塞	小出優史	第1講義室
3回	12	5	月	I	心電図・不整脈:左室肥大、右室肥大、期外収縮、頻脈性不整脈、 徐脈性不整脈、人工ペースメーカー、ICD	土居寿志	第1講義室
4回	12	12	月	I	心臓の炎症性疾患・心筋症・心不全:心筋炎、肥大型心筋症、 拡張型心筋症、心不全	河野浩章	第1講義室
5回	12	19	月	I	高血圧・大動脈疾患・末梢動脈疾患:本態性高血圧症、肺高血圧症、 大動脈瘤、大動脈解離、高安病、閉塞性動脈硬化症、Buerger病	池田聡司	第1講義室

年度 2016 学期 後期	曜日・校時 月・I	必修選択 必修	単位数 (1)
科目番号	25084513		
科目ナンバリング・コード	DNGD33191992		
授業科目名/(英語名)	内科学各論(血液学)/(Internal medicine,Hematology)		
対象年次 3年次	講義形態 講義形式	教室 第1講義室	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類	関連臨床医学
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 波多智子/hatatmk@nagasaki-u.ac.jp/原爆後障害医療研究所・原研内科/直通 095-819-7111、大学病院・血液内科/直通 095-819-7380/木曜日 13:00～16:00			
担当教員(オムニバス科目等)	波多智子		
授業の概要及び位置づけ			
<p>1.血液の構成成分およびその機能、さらに骨髄における造血について理解する。</p> <p>2.止血機構について理解する。</p> <p>3.赤血球の異常、種々の白血球の異常、出血性素因について解説し、血液疾患の中心である、貧血、白血病、リンパ腫、出血性疾患の病態や治療について理解する。</p>			
授業到達目標			
<p>1.歯科医(薬剤師)にとって診療上必要と考えられる血液学について理解する。</p> <p>2.血液の構成成分とその機能について説明できる。止血機構について説明できる。</p> <p>3.代表的血液疾患の病態について理解する。</p>			
授業方法(学習指導法)			
講義形式にて行う。プリントを配布し、スライドを用いて講義する。可能であれば、ビデオも供覧する。			
授業内容			
<p>1回目 造血幹細胞の自己複製能と各血球系への分化能／ 貧血の分類、病態及び治療について最新の知見を含め講義する。</p> <p>2回目 悪性リンパ腫・白血病の生物学的・臨床的概念／ 止血の機序とその破綻について最新の知見を含め講義する。</p>			
キーワード	造血幹細胞、貧血、白血病、悪性リンパ腫、止血凝固異常、化学療法、造血幹細胞移植		
教科書・教材・参考書	<p>教科書 なし</p> <p>参考書 1. 講義録 血液・造血器疾患学(小澤敬也ほか、メディカルレビュー社)</p> <p>2. カラーテキスト血液病学(木崎 昌弘ほか、中外医学社)</p> <p>3. 血液学(三輪史朗ほか、文光堂)</p> <p>プリントを講義の前に配布する。</p>		
成績評価の方法・基準等	筆記試験による定期試験で評価する。 再試験は、提出されたレポートの評価による(1回行う)。		
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセージ)	正常血球の種類とその機能について確認しておく、理解が深まると思われる。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	12	26	月	I	造血のしくみ・貧血 造血幹細胞の自己複製能と各血球系への分化能/貧血の分類、病態及び治療	波多智子	第1講義室
2回	1	16	月	I	造血器悪性腫瘍・出血傾向 悪性リンパ腫・白血病の生物学的・臨床的概念/止血の機序とその破綻	波多智子	第1講義室

年度 2016 学期 後期	曜日・校時 日程表のとおり	必修選択 必修	単位数 (1)
科目番号	25084514		
科目ナンバリング・コード	DNGD33191992		
授業科目名/(英語名)	内科学各論(感染症学)/(Internal medicine, Infectious Diseases)		
対象年次 3年次	講義形態 講義形式	教室 第1講義室	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類	関連臨床医学
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 泉川公一/koizumik@nagasaki-u.ac.jp/臨床感染症学/095-819-7730(内 7730)/9:00~17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	泉川公一		
授業の概要及び位置づけ			
<p>1.感染症が成立するための3要素について学び、基本的な診断、治療、感染予防策について学ぶ。</p> <p>2.感染経路別に特に重要な感染症について、その診断、治療、感染予防策について学ぶ。</p> <p>3.薬剤耐性微生物による感染症について学ぶ。</p>			
授業到達目標			
歯科医、薬剤師が知っておくべき内科感染症の重要性を理解し、その治療の実際、ならびに、感染予防策を習得する。			
授業方法(学習指導法)			
プロジェクター及びプリントを使用。一部、実習あり。			
授業内容			
<p>1回目 感染症の病態の基本、接触感染する感染症の診断、治療、感染予防策 世界的な脅威となっている感染症を紹介し、抗微生物薬の開発の状況なども解説する。また、感染症の成り立ちに重要な基本3要素を学び、早期診断から早期治療が重要であることを解説する。さらに、接触感染する微生物で特に重要なものについて、診断、治療、感染予防の方法について講義を行う。</p> <p>2回目 飛沫、空気感染にて発症する感染症の診断、治療、感染予防、薬剤耐性微生物の現状と将来 くしゃみなどの飛沫や、咳嗽後に空气中を漂う微生物による罹患する感染症の感染メカニズム、診断、治療について解説し、有効な感染予防策を示す。また、抗菌薬使用と耐性菌産生の関係性について解説する。</p>			
キーワード	感染症、接触感染、飛沫感染、空気感染、薬剤耐性微生物、抗微生物薬、感染制御		
教科書・教材・参考書	なし		
成績評価の方法・基準等	レポート(授業内容の理解度を評価する)		
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセージ)	絶えず変化する感染症の現状と、歯科医、薬剤師として知っておくべき感染症のエッセンスについて講義を行います。将来、仕事に応用できる内容ですので、しっかり学習して下さい。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	1	23	月	IV	感染症の病態の基本、接触感染する感染症の診断、治療、感染予防策	泉川公一	第1講義室
2回	1	24	火	III	飛沫、空気感染にて発症する感染症の診断、治療、感染予防、薬剤耐性微生物の現状と将来	泉川公一	第1講義室

年度 2016 学期 後期	曜日・校時 月・Ⅲ	必修選択 必修	単位数 (1)
科目番号	25084521		
科目ナンバリング・コード	DNGD33201992		
授業科目名/(英語名)	外科学各論(外科学1)/(Surgery detailed explanations, Surgical Oncology)		
対象年次 3年次	講義形態 講義形式	教室 第1講義室	
対象学生(クラス等)	歯学部	科目分類 関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 日高重和/mobatake@nagasaki-u.ac.jp/病院11階第一外科医局/095-819-7304(内7304)/17:00~18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	永安 武、江石清行、安武 亨、三浦 崇、谷川和好、山崎直哉、矢野 洋、田浦康明		
授業の概要及び位置づけ 外科学各論としての食道外科、心臓外科、血管外科、呼吸器外科、乳腺外科、小児外科について、その基本的な事項を学ぶ。			
授業到達目標 外科学の各分野の基本事項について理解すること			
授業方法(学習指導法) 講義が中心になるが、理解を深めるため、PCによるプレゼンテーションを使用することもある。また、必要に応じてプリントの配布も行う予定である。			
授業内容 1回目 心臓外科:先天性心疾患・弁疾患・冠動脈疾患に対する外科治療 2回目 血管外科:急性および慢性閉塞性動脈疾患と静脈疾患の外科治療 3回目 食道外科:食道通過障害・食道狭窄の診断と治療 4回目 呼吸器外科(1):肺・胸膜の外科 5回目 呼吸器外科(2):縦隔・胸壁の外科 6回目 小児外科:先天性疾患ならびに救急治療を要する小児疾患の外科治療 7回目 乳腺外科:乳癌の診断と治療			
キーワード	食道外科、心臓外科、血管外科、呼吸器外科、乳腺外科、小児外科		
教科書・教材・参考書	教科書 なし 参考書 標準外科学(医学書院) 必要に応じてプリントを配布する。		
成績評価の方法・基準等	筆記試験による評価を行う。 再試験は1回行う。 出席率も考慮する。		
受講要件(履修条件)	特になし		
備考(学生へのメッセージ)			

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	3	月	Ⅲ	心臓外科 先天性心疾患・弁疾患・冠動脈疾患に対する外科治療	三浦 崇	第1講義室
2回	10	17	月	Ⅲ	血管外科 急性および慢性閉塞性動脈疾患と静脈疾患の外科治療	谷川和好	第1講義室
3回	10	24	月	Ⅲ	食道外科 食道通過障害・食道狭窄の診断と治療	安武 亨	第1講義室
4回	10	31	月	Ⅲ	呼吸器外科 肺・胸膜の外科	永安 武	第1講義室
5回	11	7	月	Ⅲ	呼吸器外科 縦隔・胸壁の外科	山崎直哉	第1講義室
6回	11	14	月	Ⅲ	小児外科 先天性疾患ならびに救急治療を要する小児疾患の外科治療	田浦康明	第1講義室
7回	11	21	月	Ⅲ	乳腺外科 乳癌の診断と治療	矢野 洋	第1講義室

年度 2016 学期 後期	曜日・校時 月・Ⅲ	必修選択 必修	単位数 (1)
科目番号	25084522		
科目ナンバリング・コード	DNGD33201992		
授業科目名/(英語名)	外科学各論(外科学2)/(Surgery detailed explanations, Gastrointestinal Surgery)		
対象年次 3年次	講義形態 講義形式	教室 第1講義室	
対象学生(クラス等)	歯学部	科目分類	関連臨床医学
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 江口 晋/ sueguchi@nagasaki-u.ac.jp/病院移植・消化器外科医局/095-819-7316(内 7316)/17:00～18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	金高賢悟、小林和真、山之内孝彰、日高匡章、小林慎一郎、その他		
授業の概要及び位置づけ			
<p>外科治療の対象となる代表的な消化器疾患について講義する。外科治療の対象となる代表的な消化器疾患を学習し、臨床歯科医として診療行為を行ううえで必要となる一般的知識を習得させる。臨床歯科医として診療行為を行ううえで必要となる代表的な消化器系外科的疾患について、基本的な診断法と治療法に関する理解と知識を深めるよう講義を行う。消化器悪性腫瘍、特に食道、胃、大腸などの管腔臓器、ならびに肝臓、胆道、膵臓、甲状腺などの実質臓器に発生する腫瘍の病態を理解し、その診断・治療過程を学ぶ。</p>			
授業到達目標			
<p>消化器系悪性腫瘍、特に胃癌、大腸癌、肝癌、胆道癌、膵癌の診断と治療について理解し、説明できる。 臨床的に頻度の高い疾患である胆石症、消化性潰瘍、良性食道疾患の診断と治療について理解し、説明できる。</p>			
授業方法(学習指導法)			
各疾患についてプリント資料、スライド、および術式についてはビデオも用いながら総括的な講義を行う。			
授業内容			
<p>1回目 胆嚢・胆道疾患 2回目 膵疾患 3回目 食道疾患 4回目 胃疾患 5回目 大腸・小腸疾患 6回目 肝疾患 7回目 甲状腺疾患</p>			
キーワード	胆石症、胆道癌、膵炎、膵癌、食道癌、胃癌、大腸癌、肝癌、肝移植、甲状腺		
教科書・教材・参考書	教科書 なし 参考書 標準外科学(12版、医学書院) 監修:北島政樹		
成績評価の方法・基準等	講義終了後に筆記試験を行い評価する。60点以上を合格とする。 再試験は1回行う。		
受講要件(履修条件)	特になし		
備考(学生へのメッセージ)	特になし		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	11	28	月	Ⅲ	胆嚢・胆道疾患： 胆石と胆道癌の基本的な診断法と治療法に関する理解と知識を深めるよう講義を行う。	未定	第1講義室
2回	12	5	月	Ⅲ	膵疾患： 膵炎と膵癌の基本的な診断法と治療法に関する理解と知識を深めるよう講義を行う。	未定	第1講義室
3回	12	12	月	Ⅲ	食道疾患： 食道疾患、特に食道癌の基本的な診断法と治療法に関する理解と知識を深めるよう講義を行う。	金高賢悟	第1講義室
4回	12	19	月	Ⅲ	胃疾患： 胃疾患、特に胃癌の基本的な診断法と治療法に関する理解と知識を深めるよう講義を行う。	小林慎一郎	第1講義室
5回	12	26	月	Ⅲ	大腸・小腸疾患： 大腸癌および小腸疾患の基本的な診断法と治療法に関する理解と知識を深めるよう講義を行う。	小林和真	第1講義室
6回	1	16	月	Ⅲ	肝疾患： 肝癌や肝移植の適応となる疾患の基本的な診断法と治療法に関する理解と知識を深めるよう講義を行う。	日高匡章	第1講義室
7回	1	23	月	Ⅲ	甲状腺疾患： 外科治療の対象となる甲状腺疾患の基本的な診断法と治療法に関する理解と知識を深めるよう講義を行う。	山之内孝彰	第1講義室

年度 2016 学期 後期	曜日・校時 水・I	必修選択 必修	単位数 (1)
科目番号	25084531		
科目ナンバリング・コード	DNGD33211992		
授業科目名/(英語名)	隣接医学 I (皮膚科学)/(Relational medicine I, Dermatology)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 第1 講義室	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類 関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 竹中 基/ m-take@nagasaki-u.ac.jp/病院皮膚科医局/095-819-7333(内 7333)/17:00~19:00 ※訪問の際は事前連絡すること。			
担当教員(オムニバス科目等)	竹中 基、富村沙織、鋤塚 大		
授業の概要及び位置づけ 歯科医師として必要な皮膚科疾患の知識の習得。			
授業到達目標			
授業方法(学習指導法) スライドによる講義。			
授業内容 1 回目 歯科金属アレルギーと皮膚疾患 2 回目 歯科医師が知っておくべき薬物アレルギー 3 回目 日常的によくみる皮膚腫瘍			
キーワード			
教科書・教材・参考書	なし		
成績評価の方法・基準等	筆記試験 再試験 有		
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセージ)			

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	5	水	I	皮膚病と口腔粘膜 歯科金属アレルギーと皮膚疾患	富村 沙織	第1講義室
2回	10	12	水	I	アレルギー 歯科医師が知っておくべき薬物アレルギー	竹中 基	第1講義室
3回	10	19	水	I	皮膚腫瘍 日常的によくみる皮膚腫瘍	鋤塚 大	第1講義室

年度 2016 学期 後期	曜日・校時 木・V	必修選択 必修	単位数 (1)
科目番号	25084532		
科目ナンバリング・コード	DNGD33211992		
授業科目名/(英語名)	隣接医学 I (眼科学)/(Relational medicine I, Ophthalmology)		
対象年次 3年次	講義形態 講義形式	教室 第1講義室	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類 関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 藤川 亜月茶/fujikawa@nagasaki-u.ac.jp/病院 10階眼科医局/095-819-7345(内 7345)/木曜 15:00~18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	藤川 亜月茶		
授業の概要及び位置づけ 代表的な眼疾患について理解する。眼科救急疾患を理解する。医療従事者として知っておくべき眼疾患を習得する。			
授業到達目標 眼科学の概要を身につける。 概要: 始めに視覚に関する器官の解剖と生理を解説する。その上で、眼科領域の代表的な疾患を紹介する。			
授業方法(学習指導法) スライドによる講義。			
授業内容 1 回目 眼球及び視覚伝達路の構造とその機能について修得する。眼科検査法一般について修得する。 2 回目 眼科領域の感染症。角膜疾患、白内障、緑内障などの前眼部疾患。 3 回目 網膜剥離、糖尿病網膜症、高血圧眼底、循環障害などの後眼部・眼底疾患。			
キーワード	眼、視覚、視路		
教科書・教材・参考書	教科書 なし 参考書1. 標準眼科学 第11版 医学書院 2. 現代の眼科学 第12版 金原出版		
成績評価の方法・基準等	レポート評価の6割以上をもって合格とする。出席率、追試験、再試験は学部規則に沿って厳格に行う。		
受講要件(履修条件)	特になし		
備考(学生へのメッセージ)	ぜひ興味をもって受講して頂きたいと思います。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	12	1	木	V	眼球及び視覚伝達路の構造とその機能について修得する。眼科検査法一般について修得する。	藤川亜月茶	第1講義室
2回	12	8	木	V	眼科領域の感染症。角膜疾患、白内障、緑内障などの前眼部疾患。	藤川亜月茶	第1講義室
3回	12	15	木	V	網膜剥離、糖尿病網膜症、高血圧眼底、循環障害などの後眼部・眼底疾患。	藤川亜月茶	第1講義室

年度 2016 学期 後期	曜日・校時 水・I	必修選択 必修	単位数 (1)
科目番号	25084534		
科目ナンバリング・コード	DNGD33211992		
授業科目名/(英語名)	隣接医学 I (耳鼻咽喉科学)/(Relational medicine I, Otorhinolaryngology)		
対象年次 3年次	講義形態 講義形式	教室 第1講義室	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類 関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 高橋晴雄/htak08310831@nagasaki-u.ac.jp/病院耳鼻咽喉科医局/095-819-7349(内7349)/火曜 19:30			
担当教員(オムニバス科目等)	高橋晴雄、金子賢一、吉田晴郎		
授業の概要及び位置づけ 耳、鼻、口腔、咽頭、喉頭、頸部の解剖、生理、疾患に対する理解を深める。			
授業到達目標 1.耳、鼻、口腔、咽頭、喉頭、頸部の解剖、生理、疾患について説明することができる。 2.耳鼻咽喉科医に対し、適切な症例に関するコンサルテーションを行うことができる。			
授業方法(学習指導法) 資料はプリントの配布。講義はスライド、ビデオなどを供覧し行う。			
授業内容 1回目 鼻、副鼻腔の構造と疾患 2回目 耳の構造と聞こえのしくみ 3回目 頭頸部がんの診断と治療			
キーワード			
教科書・教材・参考書	教科書 なし 参考書 新耳鼻咽喉科学(南山堂)		
成績評価の方法・基準等	授業中の課題に対する積極的な取組状況30点、レポート70点		
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセージ)			

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	26	水	I	鼻、副鼻腔の構造と疾患	吉田晴郎	第1講義室
2回	11	2	水	I	耳の構造と聞こえのしくみ	高橋晴雄	第1講義室
3回	11	9	水	I	頭頸部がんの診断と治療	金子賢一	第1講義室

年度 2016 学期 後期	曜日・校時 水・I	必修選択 必修	単位数 (1)
科目番号	25084534		
科目ナンバリング・コード	DNGD33211992		
授業科目名/(英語名)	隣接医学 I (整形外科科学)/(Relational medicine I, Orthopedics)		
対象年次 3年次	講義形態 講義形式	教室 第1講義室	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類 関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 松林昌平/bayazarov@gmail.com/病院整形外科医局/095-819-7321(内 7321)/16:00~18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	富田 雅人、松尾 洋昭、松林 昌平		
授業の概要及び位置づけ 主要整形外科疾患の病態の把握。骨・関節の疾患の病態の把握。			
授業到達目標 運動器疾患の正確な診断と理解を深める。			
授業方法(学習指導法) スライドまたはプリントを使って行う。			
授業内容 1 回目 運動器疾患の総論 (富田) 2 回目 上肢の主要な外傷と疾患の解説 (松尾) 3 回目 下肢の主要な外傷と疾患の解説 (松林) *担当教員は平成 28 年 6 月以降に変更の可能性あり			
キーワード			
教科書・教材・参考書	教科書 なし 参考書 1. 整形外科サブノート:南江堂 東宏彦他著 2. 標準整形外科科学:医学書院 中村利孝他監修		
成績評価の方法・基準等	筆記試験 再試験は1回行う。		
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセージ)			

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	11	16	水	I	整形外科総論 運動器疾患の総論	富田	第1講義室
2回	11	30	水	I	上肢の障害 上肢の主要な外傷と疾患の解説	松尾	第1講義室
3回	12	7	水	I	下肢の障害 下肢の主要な外傷と疾患の解説	松林	第1講義室

年度 2016 学期 後期	曜日・校時 水・I	必修選択 必修	単位数 (1)
科目番号	25084534		
科目ナンバリング・コード	DNGD33211992		
授業科目名/(英語名)	隣接医学 I (形成外科学)/(Relational medicine I, Plastic and Reconstructive Surgery)		
対象年次 3年次	講義形態 講義形式	教室 第1講義室	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類	関連臨床医学
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 田中克己/ katsumit@nagasaki-u.ac.jp /病院形成外科教授室/095-819-7325(内 7325)/17:00~19:00			
担当教員(オムニバス科目等)	田中克己、矢野浩規		
授業の概要及び位置づけ			
<p>身体外表の異常を機能的・形態的に再建し、患者の社会復帰を促すという形成外科治療についての理解を深めさせる。第1回目では形成外科概論、創傷治癒、組織移植総論および組織移植各論について講義する。第2回目では皮膚および軟部組織修復に関する講義を行い、併せて人工医用材料を含めた様々な再建術式を紹介する。</p>			
授業到達目標			
<p>形態異常のハンディキャップとしての特殊性をよく理解し、どのようなものが形態異常の原因となりうるのか。また、皮膚形成術や組織移植術に対する基礎的知識の理解とその応用、特に、頭頸部再建術を中心に習得することを目的とする。</p>			
授業方法(学習指導法)			
レジュメを配布し、パワーポイントを用いた講義を行う。			
授業内容			
<p>1 回目 形態異常と形成外科の発生、形成外科概論、組織移植の基礎、各種組織移植 2 回目 皮膚形成術、植皮と皮弁作成術、頭頸部再建術、人工医用材料</p>			
キーワード			
教科書・教材・参考書	標準形成外科学 第6版:平林慎一・鈴木茂彦 編集、医学書院 6090 円 TEST 形成外科学 第2版:藤原豊美 編集、南山堂 9064 円		
成績評価の方法・基準等	出席率及びレポートによる評価を行う。60 点以上を合格とする。		
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセージ)			

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	12	14	水	I	態異常と形成外科の発生、形成外科概論、組織移植の基礎、各種組織移植	矢野	第1講義室
2回	12	21	水	I	皮膚形成術、植皮と皮弁作成術、頭頸部再建術、人工材料	田中	第1講義室

年度 2016 学期 後期	曜日・校時 月・IV	必修選択 必修	単位数 (1)
科目番号	25084541		
科目ナンバリング・コード	DNGD33221992		
授業科目名/(英語名)	隣接医学Ⅱ(小児科学)/(Relational medicine Ⅱ, Pediatrics)		
対象年次 3年次	講義形態 講義形式	教室 第1講義室	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類 関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 伊達木澄人/ sdatekil@nagasaki-u.ac.jp /病院小児科医局/095-819-7398(内 7398) /			
担当教員(オムニバス科目等)	伊達木澄人・本村秀樹(非常勤講師)		
授業の概要及び位置づけ			
<p>小児は身体が単に小さいだけでなく、様々な生理的な特徴を持っています。その小児の特殊性について理解できるようにします。また、小児の救急についての基本的な知識を身につけ、状態の把握とその対処ができるようになることを目標とします。こどもにとって重要なからだの成長についても考えていくようにします。こどもと接する機会は必ずあるのでこどもの特性は理解できるようにする。</p>			
授業到達目標			
<p>小児の特徴がわかり、救急処置について理解する。 小児の成長のメカニズムと成長障害について理解できる。 小児によく診られる感染症、染色体異常(ダウン症など)などの疾患について理解できる。</p>			
授業方法(学習指導法)			
プリントとPC プロジェクターを用いて解説を行う。			
授業内容			
<p>1 回目 小児の身体的特徴を理解する。呼吸、循環の特徴と小児の救急処置について理解する。 2 回目 小児の成長と発達、肥満症について理解する。 3 回目 小児の疾患とくに、感染症、染色体異常症について理解する。</p>			
キーワード	小児の特徴、救急処置、成長、肥満、ダウン症、感染症		
教科書・教材・参考書	教科書 なし 参考書 標準小児科学(医学書院)		
成績評価の方法・基準等	3回の講義について筆記試験もしくはレポートで評価する。再試験は1回のみ行う。 出席率、追試験、は学部規則に沿って行う。 再試験は1回のみ行う。		
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセージ)	小児を診るうえで重要な項目であるので復習をしっかりとすることが望ましい。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	3	月	IV	こどもの特徴・小児救急 小児の身体的特徴を理解し、小児の循環、呼吸について確認する。こどもの救急処置について学ぶ。	本村 秀樹	第1講義室
2回	10	17	月	IV	こどもの成長、発達 こどもの新生児からの成長と発達について理解を深める。	伊達木澄人	第1講義室
3回	10	24	月	IV	こどもの疾患 こどもの疾患について理解を深める。とくに骨系統疾患、染色体異常症について学ぶ。	伊達木澄人	第1講義室

年度 2016 学期 後期	曜日・校時 月・IV	必修選択 必修	単位数 (1)
科目番号	25084542		
科目ナンバリング・コード	DNGD33221992		
授業科目名/(英語名)	隣接医学Ⅱ(産科婦人科学)/(Relational medicine Ⅱ, Obstetrics and Gynecology)		
対象年次 3年次	講義形態 講義形式	教室 第1講義室	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類 関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 長谷川ゆり/y.hase0901@gmail.com/病院産婦人科医局/095-819-7363(内7363)/17:00~18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	原田亜由美、村上優子		
授業の概要及び位置づけ			
<p>産科婦人科学は婦人科腫瘍学、周産期医学、および生殖医学を三本柱とする。これらに関する「常識」を身につける。</p> <p>○生殖医学／周産期医学 生殖とは生物が自分の分身を作って種族の保存をはかることである。ヒトにとっても生物的側面をささえる基本的な営みといえよう。妊娠が成立するためには、実にたくさんの要素が複雑かつ巧妙に調節される必要がある。逆にたくさんの要素がひとつひとつうまくかみ合わないと妊娠は成立しない。最終的に新しい生命が誕生するまでの長く神秘的な妊娠のプロセスの中にも、幾多の困難が待ち受けている。以上のようなことについて学習する。</p> <p>○婦人科腫瘍医学 婦人科で扱う腫瘍は、範囲が狭い臓器でありながら多彩な組織像を呈する。正常組織であっても女性の性周期や妊娠に伴った変化が加わるためその組織像は複雑である。 腫瘍が発生する過程を理解するために、まずは女性性器の発生に関する基本的知識を修得し、さらに各腫瘍における疫学、組織像について最近の話題を含めて学習する。</p>			
授業到達目標			
生殖医学、周産期医学、婦人科腫瘍医学についての基本的知識を修得する。			
授業方法(学習指導法)			
講義形式で行う。スライドを中心に講義し、適宜プリントの配布等を行う。			
授業内容			
<p>1回目 生殖医学／周産期医学(1) 受精、着床から分娩までのプロセスとその異常1</p> <p>2回目 生殖医学／周産期医学(2) 受精、着床から分娩までのプロセスとその異常2</p> <p>3回目 婦人科腫瘍医学(1) 女性性器の発生学、卵巣腫瘍、卵巣癌</p> <p>4回目 婦人科腫瘍医学(2) 子宮頸癌、子宮体癌</p>			
キーワード	腫瘍、HPV、病理像、妊娠、分娩、胎児、受精、不妊症		
教科書・教材・参考書	特に指定しない。		
成績評価の方法・基準等	筆記試験を実施する。 100点満点で60点未満を不合格とする。 再試験は1回のみ行う。		
受講要件(履修条件)	特になし。		
備考(学生へのメッセージ)	生命の誕生からその終焉までを診る学問である。生殖や妊娠には倫理的問題が関わる場合も少なくない。新聞などのニュースでこれらの問題について触れ、そのことについて自分なりに考えることが重要である。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	31	月	IV	生殖医学／周産期医学(1) 受精、着床から分娩までのプロセスとその異常1	長谷川ゆり	第1講義室
2回	11	7	月	IV	生殖医学／周産期医学(2) 受精、着床から分娩までのプロセスとその異常2	長谷川ゆり	第1講義室
3回	11	14	月	IV	婦人科腫瘍医学(1) 女性性器の発生学、卵巣腫瘍、卵巣癌	村上優子	第1講義室
4回	11	21	月	IV	婦人科腫瘍医学(2) 子宮頸癌、子宮体癌	原田亜由美	第1講義室

年度 2016 学期 後期	曜日・校時 木・I	必修選択 必修	単位数 (1)
科目番号	25084543		
科目ナンバリング・コード	DNGD33221992		
授業科目名/(英語名)	隣接医学Ⅱ(泌尿器科学)/(Relational medicine II, Urology)		
対象年次 3年次	講義形態 講義形式	教室 第1講義室	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類 関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 宮田康好/yasu-myt@nagasaki-u.ac.jp/病院泌尿器科医局/095-819-7340(内7340)/17:00~18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	宮田康好、大庭康司郎、松尾朋博		
授業の概要及び位置づけ			
腎・尿路系疾患の病態、診断および治療を理解し、泌尿器科学の概要を把握する。まず、1回目は総論として腎・泌尿器の解剖と機能および症候と検査法について講義する。2回目は泌尿器科で特に主要な疾患である泌尿器腫瘍の診断と治療について講義する。3回目はその他の疾患として、頻度の高いものを講義する。これらを通じて、泌尿器科診療の概要と実際を学び、最終的に泌尿器科学の重要性を理解し、説明できるようになることをめざす。			
授業到達目標			
1.腎・泌尿器の構造と機能を理解し、異常所見を識別できる。 2.腎・泌尿器系疾患の主要症候を理解し、鑑別疾患を挙げることができる。 3.腎・泌尿器系の検査法を理解し、診断へ応用できる。 4.主要疾患の治療法を概説できる。			
授業方法(学習指導法)			
スライドとプリントを使った講義。			
授業内容			
1回目 泌尿器科学総論(腎・尿路・男性生殖器の解剖と機能、おもな症候と検査法) ・泌尿器科領域で扱う臓器の構造と機能を説明できるようになる			
2回目 泌尿器腫瘍の診断および治療 ・特に重要である腎癌、尿路上皮癌、前立腺癌については治療までのフローが説明できるようになる			
3回目 腫瘍以外の主な泌尿器科疾患(尿路感染症、尿路結石、排尿機能障害など) ・増加傾向にあるこれらの疾患の予防も含めたマネージメントについて説明できるようになる。			
キーワード	泌尿器科学、泌尿器科腫瘍、腎・尿路		
教科書・教材・参考書	教科書 なし 参考書 1. 講義録 泌尿器科学(メジカルビュー社) 2. 標準泌尿器科学(医学書院)		
成績評価の方法・基準等	レポートによる評価を行う。60点以上を合格とする。 評価で不可の場合は再度のレポート提出または口頭試問とする。		
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセージ)	できるだけ歯学や薬学の領域でも役に立つ講義内容にします。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	12	1	木	I	泌尿器科学総論(腎・尿路・男性生殖器の解剖と機能、おもな症候と検査法) ・泌尿器科領域で扱う臓器の構造と機能を説明できるようになる	松尾朋博	第1講義室
2回	12	8	木	I	泌尿器腫瘍の診断および治療 ・特に重要である腎癌、尿路上皮癌、前立腺癌については治療までのフローが説明できるようになる	大庭康司郎	第1講義室
3回	12	15	木	I	腫瘍以外の主な泌尿器科疾患(尿路感染症、尿路結石、排尿機能障害など) ・増加傾向にあるこれらの疾患の予防も含めたマネージメントについて説明できるようになる。	宮田康好	第1講義室

年度 2016 学期 後期	曜日・校時 木・I	必修選択 必修	単位数 (1)
科目番号	25084543		
科目ナンバリング・コード	DNGD33221992		
授業科目名/(英語名)	隣接医学Ⅱ(精神神経科学)/(Relational medicine Ⅱ, Neuropsychiatry)		
対象年次 3年次	講義形態 講義形式	教室 第1講義室	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類 関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 小澤寛樹/ozawa07@nagasaki-u.ac.jp/大学病院 12階精神神経科教授室/095-819-7293(内7293)/水曜 12:00~13:00			
担当教員(オムニバス科目等)	小澤寛樹、今村 明		
授業の概要及び位置づけ			
<ul style="list-style-type: none"> ・プライマリケアでも重要で歯科領域において認められやすい精神と行動の障害に関する症候、病態生理、成因とそれに対応する治療とケアについて学ぶ。(不安、うつ、統合失調症、認知症、小児・思春期における精神障害など) ・精神現象の複雑さを知り、患者との十分な心のふれあいの大事さを理解する。 ・プライマリケアにおける精神医学的症状の把握に必要な情報を知り、精神障害への理解を深め、偏見・差別の軽減に努める。 			
授業到達目標			
歯科領域にとって必要な精神科疾患の概要を紹介し、疾患及び罹患した患者への理解を深める。			
授業方法(学習指導法)			
スライドやVTRなどを利用しながら講義を行うが、受講学生の授業への積極的参加を期待して討論を行う。			
授業内容			
<p>1回目 「プライマリケアで見られる精神障害と精神医学的症状」</p> <p>メンタルヘルス概論、ストレス・不安・抑うつなどの症候に関する概説</p> <p>統合失調症、うつ病、身体表現性障害などプライマリケアで認められる精神障害の症候、診断と治療</p> <p>2回目 「子どもに見られる精神障害」</p> <p>小児・思春期における精神障害を中心に、症候や診断、治療について解説する</p>			
キーワード			
教科書・教材・参考書	教科書 なし 参考書 1. ICD-10「精神・行動の障害」マニュアル(中根充文、岡崎祐士著、医学書院、1994) 2. 標準精神医学(野村総一郎、樋口輝彦著、医学書院)		
成績評価の方法・基準等	筆記試験(主にレポート評価100%)		
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセージ)	具体的な症例を挙げながら、精神科と歯科、薬科がどのように結びついてくるのか考察を深めていきます。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	12	22	木	I	「プライマリケアで見られる精神障害と精神医学的症状」 メンタルヘルス概論、ストレス・不安・抑うつなどの症候に関する概説 統合失調症、うつ病、身体表現性障害などプライマリケアで認められる精神障害の症候、診断と治療	小澤寛樹	第1講義室
2回	1	5	木	I	「子どもに見られる精神障害」 小児・思春期における精神障害を中心に症候や診断、治療について解説する	今村 明	第1講義室

年度 2016 学期 後期	曜日・校時 水・V	必修選択 必修	単位数 (1)
科目番号	25084545		
科目ナンバリング・コード	DNGD33221992		
授業科目名/(英語名)	隣接医学Ⅱ(脳神経外科学)/(Relational medicine Ⅱ, Neurosurgery)		
対象年次 3年次	講義形態 講義形式	教室 第1講義室	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類 関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 松尾 孝之/takayuki@nagasaki-u.ac.jp/病院 10階脳神経外科医局 095-819-7375(内線 7375、3101)/17:30~18:30			
担当教員(オムニバス科目等)	吉田光一、氏福健太		
授業の概要及び位置づけ			
<p>歯科診療に関連が深いと考えられる脳神経外科疾患に関して概説し、歯科、口腔外科領域に隣接する頭頸部の外傷、脳卒中、腫瘍、疼痛性疾患の病態、診断、治療法を学び、鑑別診断ができる能力を養う。</p>			
授業到達目標			
<p>頭部外傷、脳卒中などの脳神経外科的救急疾患についての基本的知識を得る。頭頸部の腫瘍につき理解する。三叉神経痛に対する脳外科治療について理解する。</p>			
授業方法(学習指導法)			
主としてPCプレゼンテーションにて行う。			
授業内容			
<p>1回目 頭部外傷、脳卒中など脳神経救急疾患について概説する。 2回目 三叉神経痛に対する脳外科治療について概説する。</p>			
キーワード			
教科書・教材・参考書	なし		
成績評価の方法・基準等	出席率、レポート等により行う。		
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセージ)	急患等の対応のため、講義担当者が変更になることがある。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	1	11	水	V	頭部外傷 頭部外傷、脳卒中など脳神経外科救急疾患について概要する。	吉田光一	第1講義室
2回	1	18	水	V	三叉神経痛 三叉神経痛に対する脳神経外科治療について概説する。	氏福健太	第1講義室

年度 2016 学期 後期	曜日・校時 木・I	必修選択 必修	単位数 (1)
科目番号	25084551		
科目ナンバリング・コード	DNGD33231992		
授業科目名/(英語名)	隣接医学Ⅲ(人類遺伝学)/(Relational medicine Ⅲ, Human Genetics)		
対象年次 3年次	講義形態 講義形式	教室 第1講義室	
対象学生(クラス等)	歯学部	科目分類	関連臨床医学
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 近藤新二/kondos@nagasaki-u.ac.jp/歯学部C棟7階・薬物治療学/095-819-8574(内8574)/火・水曜 9:00~17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	近藤新二		
授業の概要及び位置づけ			
<p>歯科医師および生物系研究者に必要な遺伝学の基本的知識と概念の修得をめざす。</p> <p>(分子)遺伝学は、メンデルにより導入された抽象的な概念としての遺伝子(メンデルのいう要素)に、その具体的物質的基盤である分子の正体(DNA など)が判明することにより爆発的に発展した。遺伝学は、遺伝情報の違いや変化(多様性、変異、進化)、遺伝情報の伝え方(伝達、形式)、遺伝情報の働き方(現象)などを扱うが、これはまさに生命現象の基本であるため、遺伝学の素養を身につけることは生物学やその応用としての医学や歯学を学ぶためには必須となろう。ゲノム、遺伝子の構造から遺伝の仕組み、遺伝形式、遺伝子変異と疾患、多因子疾患の特徴およびゲノム医学について学ぶ。</p>			
授業到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 遺伝子の概念やゲノムの概念について理解し、説明できる。 2. 遺伝学がどのような学問であるのかについて理解し、説明できる。 3. 遺伝学的疾患分類について理解し、説明できる。 4. 遺伝子の構造と遺伝子発現システムについて説明できる。 5. 遺伝の原理について説明できる。 6. 遺伝子変異や多型についての概略やそれらを説明できる。 7. 多因子疾患について概略を説明できる。 8. ミトコンドリア遺伝やエピジェネティクスについて理解し、説明できる。 9. 薬剤応答性遺伝子多型と薬物血中濃度や治療効果との関連について概略を説明できる。 10. 遺伝子診断や個別化医療について概略を説明できる。 			
授業方法(学習指導法)			
教科書は指定せず、授業計画に沿った説明やプリント、スライドで授業を進める。			
授業内容			
<ol style="list-style-type: none"> 1回目 遺伝の原理と遺伝形式(1) 2回目 遺伝の原理と遺伝形式(2) 3回目 遺伝子と遺伝子変異、分子病理 4回目 ゲノムの多様性 5回目 多因子疾患における分子遺伝学 6回目 遺伝の原理と遺伝形式(3) 7回目 ゲノム医学 薬理遺伝 個別化医療 進化医学 			
キーワード	ゲノム, ミトコンドリア, 遺伝形式, 遺伝子変異, 多因子疾患, 多様性, 遺伝子診断		
教科書・教材・参考書	教科書の指定はない。但し、参考書に以下の2冊を推薦する。 1. ヒトの分子遺伝学 第4版(MEDSi) 2. 遺伝医学やさしい系統講義 18講(MEDSi)		
成績評価の方法・基準等	筆記試験で評価する。点数が60点以上を合格とする。再試あり		
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセージ)	基本的知識は必要だが、その背景にある論理を理解してほしい。 授業で説明した内容は、その都度復習しておくこと。 高校生物未履修者は、該当分野を自習しておくこと。 授業の進行具合に応じては、授業内容が変更されることもあるが、その都度指示する。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	6	木	I	遺伝の原理と遺伝形式(1) メンデルの法則 単一遺伝子疾患 常染色体優性遺伝	近藤新二	第1講義室
2回	10	13	木	I	遺伝の原理と遺伝形式(2) 常染色体劣性遺伝 X連鎖劣性遺伝	近藤新二	第1講義室
3回	10	20	木	I	遺伝子と遺伝子変異、分子病理 変異と多型 SNP	近藤新二	第1講義室
4回	10	27	木	I	ゲノムの多様性	近藤新二	第1講義室
5回	11	10	木	I	多因子疾患における分子遺伝学	近藤新二	第1講義室
6回	11	17	木	I	遺伝の原理と遺伝形式(3) ミトコンドリア遺伝 後成的疾患 染色体異常	近藤新二	第1講義室
7回	11	24	木	I	ゲノム医学 薬理遺伝 個別化医療 進化医学	近藤新二	第1講義室

年度 2016 学期 後期	曜日・校時 月・IV(一部火・IV)	必修選択 必修	単位数 (1)
科目番号	25084552		
科目ナンバリング・コード	DNGD33231992		
授業科目名/(英語名)	隣接医学Ⅲ(法医学)/(Relational medicine Ⅲ, Forensics Medicine)		
対象年次 3年次	講義形態 講義形式	教室 第1講義室	
対象学生(クラス等)	歯学部	科目分類	関連臨床医学
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィシアワー 中留真人/nakatome@nagasaki-u.ac.jp/歯科法医学分野准教授室/095-819-8597(内 8597)/12:00~13:00			
担当教員(オムニバス科目等)	中留真人、櫻田宏一(非常勤講師)		
授業の概要及び位置づけ			
<p>社会生活において歯科法医学の役立つ場面が多々あることを知り、卒後必要となる歯科法医学的知識に関する講義とその応用例を学び、実際に対応できる能力を身につける。歯科医師として必要な法医学的知識を習得し、過去の様々な歯科法医学的個人識別事例を参考に、歯科所見による身元確認作業の方法を学ぶ。</p>			
授業到達目標			
口腔内所見による身元確認(個人識別)に関する歯科法医学的知識及び方法を修得する。			
授業方法(学習指導法)			
講座テキスト(プリント・小冊子)をもとに講義を進め、症例についてはスライドを使用し視覚的に理解を求める。講義項目ごとに学習課題を与え、その都度個人でその課題に取り組んでもらう。この課題については講義の中で解説する。			
授業内容			
<p>1回目 法医学(1):死体解剖と死因究明制度について講義する。 2回目 法医学(2):死体現象について講義する。 3回目 法医学(3):損傷、窒息、虐待等、歯科医師に必要な法医学的知識を習得する。 4回目 物体検査:最新の犯罪捜査における物体検査法について講義する。 5回目 歯科法医学的個人識別:骨形態や歯科所見からの個人識別について講義する。 6回目 遺伝標識による個人識別:DNA多型を利用した個人識別について講義する。 7回目 歯科所見による身元確認作業の実際について学ぶ。</p>			
キーワード	法医学、歯科法医学、死体現象、個人識別、物体検査		
教科書・教材・参考書	教科書: なし 参考書: 1.学生のための法医学 2.歯科検視マニュアル		
成績評価の方法・基準等	筆記試験により判断する。 再試験は1回のみ行う。 採点には出席状況を参考にする場合がある。		
受講要件(履修条件)	特になし		
備考(学生へのメッセージ)	歯科医師として必要な法医学及び歯科法医学の知識を習得し、その社会的役割について理解を深めてほしい。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	11	28	月	IV	法医学(1)死体解剖と死因究明制度 歯科医師として必要な法医学について説明する。 歯科法医学の社会的必要性について説明する。	中留真人	第1講義室
2回	12	5	月	IV	法医学(2)死体現象 早期死体現象、晩期死体現象及び異常死体現象について説明する。 死後経過時間の推定について説明する。	中留真人	第1講義室
3回	12	12	月	IV	法医学(3)損傷、窒息、異常環境下での死、虐待等 歯科医師として必要な法医学的知識を習得する。	中留真人	第1講義室
4回	12	19	月	IV	捜査のための法科学 法医学における物体検査法について学習する。	櫻田宏一	第1講義室
5回	12	26	月	IV	歯科法医学的個人識別 骨形態や歯科所見からの個人識別について説明する。	中留真人	第1講義室
6回	1	16	月	IV	遺伝標識による個人識別 ABO式血液型やDNA多型について説明する。 DNA型を利用した個人識別や親子鑑定について説明する。	中留真人	第1講義室
7回	1	24	火	IV	歯科所見による身元確認作業の実際 口腔内所見の検査、歯科記録用紙への記入、死後記録と生前記録の照合 作業などを体験し、鑑定書の作成方法を習得する。	中留真人	第1講義室

統合科目（4年次生、5年次生）

(1) 臨床解剖学	(4年)	159
(2) 臨床歯科器材・薬剤学	(5年)	161
(3) 齲蝕・菌周病学	(4年)	163
(4) 接着歯学	(5年)	165
(5) 顎口腔機能・解析学	(5年)	167
(6) 口腔腫瘍学	(5年)	169
(7) 口腔感染症及び免疫学	(5年)	171
(8) 硬組織科学	(5年)	173
(9) 成育歯学	(5年)	175
(10) 臨床薬理学	(5年)	177
(11) 口腔顔面疼痛学	(5年)	179
(12) 臨床検査学	(5年)	181
(13) 医療面接	(5年)	183
(14) 歯科臨床東洋医学	(5年)	185
(15) 摂食嚥下リハビリテーション学	(5年)	187
(16) 口腔インプラント学	(5年)	189
(17) 睡眠障害と疾患	(5年)	191
(18) 高齢者歯科学	(5年)	193
(19) 障害者歯科学	(5年)	195
(20) 離島歯科医学	(5年)	197

年度 2016 学期 後期	曜日・校時 月・I～II	必修選択 必修	単位数 (20)
科目番号	25054601		
科目ナンバリング・コード	DNGD33241901		
授業科目名/(英語名)	臨床解剖学/(Applied Anatomy)		
対象年次 4年次	講義形態 講義・実習形式	教室 歯学部解剖実習室・医学部解剖実習室・講義室 6A	
対象学生(クラス等)	科目分類 統合科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスパワー 真鍋義孝/manabe@nagasaki-u.ac.jp/ A棟6階顎顔面解剖学教授室/095-819-7625(内7625)/月、火、金曜16:30～18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	中村 卓 taku@、木村泰男 kimyasu@、吉田教明 nori@、梅田正博 mumeda@、柳本惣市 syana@、六反田賢 satoshi6@、鳴瀬智史 naruse12@、朝比奈 泉 asahina@、鳥巢哲朗 torisu@、鮎瀬卓郎 ayuse@、久松徳子 norinori@、真鍋義孝 manabe@、北川賀一 kitagawa@、小山田常一 oyamada@		
授業の概要及び位置づけ 臨床に必要な局所解剖学的知識について、御遺体を用いて形態・構造および機能を理解し、臨床手技を解剖学的に理論化して把握することにより、臨床の現場における種々の問題に適切に対応できる能力を育成することを目的とする。			
授業到達目標 1.頭蓋骨の観察及び計測ができる。 2.神経ブロックの手技について解剖学的知識をもとに説明できる。 3.気道確保、気管内挿管、および心臓マッサージの手技について解剖学的知識をもとに説明できる。 4.頸部郭清、唾液腺切除、顎切除の手技について解剖学的知識をもとに説明できる。 5.顎関節疾患について、解剖学的知識をもとに説明できる。 6.摂食・嚥下障害のリハビリテーションについて説明できる。			
授業方法(学習指導法) オムニバス方式で講義、実習を行う。実習は学生6人に御遺体1体を用いる。またパソコンを用いた実習についても同様に行う。教室作成の冊子を配付する。適宜、プリント、スライド等を使用する。			
授業内容 1 回目 概説:授業の目的、方法、解剖学的姿勢、頭頸部区分、皮膚、頭蓋骨のサイズ、孔等の確認 2 回目 頭頸部の解剖(1):頭蓋骨標本、ADAM等を用いての頭頸部の解剖及び生体計測 3 回目 X線診断:頭頸部領域の画像診断とその方法の講義 4 回目 顎の成長:顎の成長と顎切り術の適応の講義 5 回目 頭頸部の解剖(2):頭蓋骨標本、ADAM等を用いての頭頸部の解剖及び生体計測 6 回目 神経ブロック:三叉神経、顔面神経等の神経ブロックの頭蓋骨実習 7 回目 全身管理:循環器の確保、気道確保の講義 8 回目 唾液腺等の切除:唾液腺の切除の適応と方法の講義 9 回目 頸部郭清の講義 10 回目 顎関節の運動:顎関節、顎骨、筋の形態、構造、機能の講義及び実習 11-12 回目 神経ブロック:三叉神経、顔面神経等の神経ブロックの遺体実習(※1) 13-14 回目 唾液腺(顎下腺・耳下腺)の切除の遺体実習(※1) 15-16 回目 頸部郭清の遺体実習(※1) 17-18 回目 側頭下窩・顎関節周辺の遺体実習(※1) 19-20 回目 摂食・嚥下障害の理解に必要な解剖学と遺体実習(※2) ※1 医学部解剖実習室にて遺体実習を行うので、帽子・マスク・白衣・手袋・専用の上履きを準備すること。 ※2 歯学部解剖実習室にて遺体実習を行うので、帽子・マスク・白衣・手袋・専用の上履きを準備すること。			
キーワード	マルチンの骨計測、神経ブロック、術式、緊急時の蘇生術、顎関節		
教科書・教材・参考書	歯科学生のための臨床解剖学ノート(教室作成編)、口腔解剖学全5巻(上條雍彦)等、及び担当教員による配付資料		
成績評価の方法・基準等	課題レポートの評価に加えて、骨学実習や遺体実習への取り組みと理解度について総合的に評価を行い、成績が100点満点中60点以上の者を合格とする。		
受講要件(履修条件)	講義・実習には毎回出席し、ノートや記録を取ること。2年次の解剖学で修得した知識について復習して、遺体実習に望むこと。質問は講義実習中に随時受け付けるがオフィスパワーでも受け付ける。面談の際はあらかじめメールで時間調整を行うこと。		
備考(学生へのメッセージ)	教科書、参考書などで充分に予習を行っておくこと。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	3	月	I	概説 授業の目的、方法、解剖学的姿勢、頭頸部区分、皮膚、頭蓋骨のサイズ、筋の附着部・管・孔・裂などの確認	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(歯)
2回	10	3	月	II	頭頸部の解剖(1) 頭蓋骨標本、ADAM等を用いての頭頸部の解剖及び頭蓋骨計測	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(歯)
3回	10	17	月	I	X線診断 頭頸部領域の画像診断とその方法の講義、実習	中村 卓 木村泰男	講義室6A
4回	10	17	月	II	顎の成長 顎の成長と顎切り術の適応の講義及び実習	吉田教明	講義室6A
5回	10	24	月	I	頭頸部の解剖(2) 頭蓋骨標本、ADAM等を用いての頭頸部の解剖及び頭蓋骨計測	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(歯)
6回	10	24	月	II	神経ブロック 三叉神経、顔面神経等の神経ブロックの頭蓋骨実習	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(歯)
7回	10	31	月	I	全身管理 循環器の確保、気道確保の講義及び実習	六反田賢	講義室6A
8回	10	31	月	II	唾液腺の切除 唾液腺(顎下腺・耳下腺)の切除の適応と方法の講義	柳本惣市	講義室6A
9回	11	7	月	I	頸部郭清の講義	朝比奈 泉	講義室6A
10回	11	7	月	II	顎関節の運動 顎関節、顎骨、筋の形態、構造、機能の講義及び実習	鳥巢哲朗	講義室6A
11回	11	14	月	I	神経ブロック 三叉神経等の神経ブロックの遗体実習	鮎瀬卓郎 真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
12回	11	14	月	II	神経ブロック 三叉神経等の神経ブロックの遗体実習	鮎瀬卓郎 真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
13回	11	21	月	I	唾液腺(顎下腺・耳下腺)の切除の遗体実習	梅田正博 柳本惣市 六反田賢 鳴瀬智史 真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
14回	11	21	月	II	唾液腺(顎下腺・耳下腺)の切除の遗体実習	梅田正博 柳本惣市 六反田賢 鳴瀬智史 真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
15回	11	28	月	I	頸部郭清の遗体実習	朝比奈泉 真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
16回	11	28	月	II	頸部郭清の遗体実習	朝比奈泉 真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
17回	12	5	月	I	側頭下窩・顎関節周辺の遗体実習 (顎動脈の枝、下顎神経の枝、舌骨上筋群)	鳥巢哲朗 真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
18回	12	5	月	II	側頭下窩・顎関節周辺の遗体実習 (顎動脈の枝、下顎神経の枝、舌骨上筋群)	鳥巢哲朗 真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
19回	12	12	月	I	摂食・嚥下障害の理解に必要な解剖学と遗体実習 (舌・咽頭・喉頭の剖査)	久松徳子 真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(歯)
20回	12	12	月	II	摂食・嚥下障害の理解に必要な解剖学と遗体実習 (舌・咽頭・喉頭の剖査)	久松徳子 真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(歯)

年度 2016 学期 前期	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (20)
科目番号	25054602		
科目ナンバリング・コード	DNGD33251985		
授業科目名/(英語名)	臨床歯科器材・薬剤学/(Clinical Dental Apparatus & Pharmacy)		
対象年次 5年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 6B	
対象学生(クラス等)	科目分類 統合科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 村田比呂司 /hmurata@nagasaki-u.ac.jp/ 歯科補綴学分野教授室/095-819-7690(内 7690)/火曜 17:00~18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	朝比奈泉, 古堅麗子, 池田久住, 林 善彦, 小山善哉, 西下一久, 中村弘隆, 白石孝信, 吉田圭一, 久保至誠, 山田志津香, 田上直美, 渡邊郁哉, 村田比呂司		
授業の概要及び位置づけ			
<p>歯科臨床において歯科器材と薬剤の占める比重は大きく、市場には新製品や改良品が輩出している。多種多様な製品の中から個々の症例に有用なものを選択するためには、正確な知識の蓄積と冷静な判断力が必要となる。</p>			
授業到達目標			
<p>歯科治療に必要な歯科器材と薬剤について、その選択法や最適な使用方法を治療別に解説し、臨床実習直前の学生に最新の知識と今後の変化・発展に対して柔軟に対応できる判断力を身に付けさせる。</p>			
授業方法(学習指導法)			
<p>パソコンと液晶プロジェクターを用いて行い、必要に応じてプリントを配布する。</p>			
授業内容			
<p>1 回目 感染予防用 (1) 診療室での感染対策 2 回目 歯周・歯内・修復・補綴 歯科用レーザー 3 回目 感染予防用 (2) 術者の感染予防, 手術野の消毒 4 回目 修復・補綴用 (1) 印象材の特徴, 印象採得法 5 回目 歯内療法用 根管長測定器, 根管充填剤, 覆髄剤, 根管消毒薬 6 回目 感染予防用 (3) 衛生的な環境作り, トレー消毒 7 回目 修復・補綴用 (1) エアータービン, 研磨材 8 回目 歯周治療用 (1) 外科処置用器材, 処理後のパック 9 回目 歯周治療用 (2) 局所的治療薬, 全身の治療薬 10 回目 歯周治療用 (3) 手用スケーラー, 器械的スケーラー 11 回目 自習 12 回目 修復・補綴用 (3) 合着用セメント, 仮封材 13 回目 修復・補綴用 (4) 接着性修復材料 14 回目 修復・補綴用 (5) 硬質レジン, 床用レジン 15 回目 在宅歯科診療用ポータブルユニット, 器材 16 回目 修復・補綴用 (6) 咬合・適合診査材, リライン材 17 回目 修復・補綴用 (7) 義歯安定剤, 義歯洗浄剤</p>			
キーワード	歯科器材 歯科薬剤 臨床術式		
教科書・教材・参考書	特に指定しない。		
成績評価の方法・基準等	成績評価は定期試験により行う。また授業への貢献度も評価の対象とする。		
受講要件(履修条件)	全体を通して総授業時間の 2/3 以上の出席が求められる。		
備考(学生へのメッセージ)	今まで、まとまった形では聞くことのできなかつた話を、オムニバス形式で専門家によって分りやすく講義するので、まずは出席することを心がけて欲しい。数年前に聞いて忘れかけているかもしれない細菌学, 薬理学, 歯科理工学などの知識も頭の中で再構築され、目前に迫った臨床実習に必ず役に立つはずである。なお講義の順番等が変更になる可能性がある。その場合は事前に連絡する。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	5	火	I	感染予防用 (1) 診療室での感染対策:滅菌器と消毒薬、防護用具が感染対策として使用される。それらの対象物、対象菌、特性、用法、安全性などを概説する。	朝比奈泉	講義室6B
2回	4	5	火	II	歯周・歯内・修復・補綴 歯科用レーザー:歯科用レーザーの用途は多種類あり、主に歯周治療や歯内治療、保存修復、外科治療、補綴技工に使用されるレーザーの種類やレーザー機器の原理・使用法を理解することは重要である。	渡邊郁哉	講義室6B
3回	4	12	火	I	感染予防用 (2) 術者の感染予防, 手術野の消毒:術者の予防として感染源と感染経路に配慮する。手術野の消毒には組織刺激性、殺菌力、効果の持続性を目安に薬剤を選ぶ。	池田久住	講義室6B
4回	4	12	火	II	修復・補綴用 (1) 印象材の特徴, 印象採得法: 鑄造修復物を製作するためには各種印象材の特性を理解した上での精度の良い印象採得法が必須である。印象方法により注意すべき点が異なるので熟知すること。	山田志津香	講義室6B
5回	5	24	火	I	歯内療法用 覆髄剤, 根管消毒薬, 根管長測定器: 根管充填剤は術前、術中の臨床症状、根管の形態・状態に応じて適切に選択/適応する必要がある。アレルギーや薬剤過敏症の患者も増加傾向にあるので注意。	林 善彦	講義室6B
6回	5	27	金	III	感染予防用 (3) 衛生的な環境作り, トレー消毒: 診療室をクリーンに保つためにはスタッフ全員が院内感染に対する正しい知識を持つ事が大切である。印象と模型の精度を落さない消毒法や医療機器関連法律(薬機法)についても話す。	西下一久	講義室6B
7回	5	31	火	I	修復・補綴用 (2) エアータービン, 研磨材: 歯科臨床においては、窩洞形成や支台歯形成, 修復物の作製工程などで切削や研磨の機会が多い。エアータービンの構造, 切削・研磨の理論, 各種の切削材や研磨材の特徴について話す。	白石孝信	講義室6B
8回	6	7	火	I	歯周治療用 (1) 外科処置用器材, 処理後のバック: 外科用器材には正確に目的を達成できるものを選ぶ。使い易く消毒に耐えることも必要である。バックは成分や貼用方法、除去時期を知って使う。	中村弘隆	講義室6B
9回	6	14	火	I	歯周治療用 (2) 局所的治療薬, 全身的治疗薬: 局所治療薬はポケット内細菌叢の変化を目的とするのか、あるいは消炎を目的とするのか、その目的に応じた薬剤を選択する。	中村弘隆	講義室6B
10回	6	20	月	II	歯周治療用 (3) 手用スケーラー, 器械的スケーラー: ハンドスケーラーは形態、硬さが適切で滅菌に耐えるものがよい。基本セットの使用法に習熟すること。超音波スケーラー等の機器を併用すれば能率が上がる。	古堅麗子	講義室6B
11回	6	27	月	I	自習	村田比呂司	講義室6B
12回	6	27	月	II	修復・補綴用 (3) 合着用セメント, 仮封材: 歯髄保護のためには辺縁封鎖性の優れた接着性レジンが望ましいが、操作性は従来型セメントとはやや異なる。仮封材はカルボン酸系のものが扱い易い。	吉田圭一	講義室6B
13回	7	4	月	I	修復・補綴用 (4) 接着性修復材料: MIの実践および歯髄保護のためには接着性修復材料が不可欠である。接着性修復材料は多種類あり、症例や用途に応じて選択することが重要である。	久保至誠	講義室6B
14回	7	4	月	II	修復・補綴用 (5) 硬質レジン, 床用レジン: 硬質レジンの種類は多く、それぞれの特徴を知って使うことが大切である。床用レジンにも常温重合型など多種類があり、目的に応じて使い分ける。	田上直美	講義室6B
15回	7	11	月	I	在宅歯科診療用ポータブルユニット, 器材: 要介護高齢者に潜在する歯科治療ニーズは高く、臨床現場では軽量でコンパクトなパッケージの開発が求められる。最新の往診用機器・器材を解説し、医工連携の機器開発事業を紹介する。	小山善哉	講義室6B
16回	7	11	月	II	修復・補綴用 (6) 咬合・適合診査材, リライン材: 補綴物装着時の咬合や適合チェックの診査材は正しい選択が必要である。リライン材、ティッシュコンディショナーは各材料の特徴を把握することが重要である。	村田比呂司	講義室6B
17回	7	12	火	I	修復・補綴用 (7) 義歯安定剤, 義歯洗浄剤: 義歯安定剤、義歯洗浄剤についての患者への適切な指導が重要である。	村田比呂司	講義室6B

年度 2016 学期 後期	曜日・校時 木・I～II	必修選択 必修	単位数 (20)
科目番号	25054603		
科目ナンバリング・コード	DNGD33261989		
授業科目名/(英語名)	齲蝕・歯周病学/(cariology, periodontology)		
対象年次 4年次	講義形態 講義・演習形式	教室 第2講義室・臨床実習室 4B	
対象学生(クラス等)	科目分類 統合科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 中村弘隆/hmoryama@nagasaki-u.ac.jp/歯周病学分野研究室 803/095-819-7682(内 7682)/各教員により異なるため要確認。			
担当教員(オムニバス科目等)	林 善彦、原 宜興、藤原 卓、内藤真理子、柳口嘉治郎、中村弘隆 他数名		
授業の概要及び位置づけ			
歯及び歯周組織の健康を生涯にわたって維持・増進することによって患者様のクオリティ・オブ・ライフ(QOL)の向上に貢献できる歯科医師になるために、4年次までに学んだ個々の知識を基盤にして、これらを齲蝕・歯周病学として再構築し、個々の症例に対し細かく分析していくことで問題発見・解決能力を深めることを目標としている。			
授業到達目標			
1.歯の硬組織の疾患の病因と病態を説明できる。齲蝕の予防と治療の方法を説明できる。 2.乳歯と幼若永久歯の齲蝕の特徴を説明できる。 3.歯周疾患の病因と病態を説明できる。 4.歯周疾患の診断と治療方針を説明できる。 5.口腔細菌、歯垢及び歯石について説明できる。			
授業方法(学習指導法)			
(1)講義形式(1、4回目) (2)グループ討議(2、3、5～15回目)小グループごとに症例が提示される。学生は症例分析・治療計画の立案を行い、グループ間で討議後、全体発表を行う。			
授業内容			
1回目:歯周病原性細菌(講義) 2回目:歯周治療学1(グループ討議) 3回目:歯周治療学2(グループ討議) 4回目:小児の齲蝕(講義) 5回目:歯周治療学3(グループ討議) 6回目:歯周治療学4(グループ討議) 7回目:歯周治療学5(グループ討議) 8回目:歯周治療学6(グループ討議) 9回目:歯周治療学7(グループ討議) 10回目:齲蝕学1(グループ討議) 11回目:齲蝕学2(グループ討議) 12回目:齲蝕学3(グループ討議) 13回目:齲蝕学4(グループ討議) 14回目:齲蝕学5(グループ討議) 15回目:齲蝕学6(グループ討議) 16回目:総括			
キーワード			
教科書・教材・参考書	保存修復学、歯内治療学、歯周治療学、口腔微生物学、小児歯科学の教科書・参考書を用いる。		
成績評価の方法・基準等	(1)論述試験 (2)観察記録とレポートの総合点で判定される。		
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセージ)	(1)4年次までに学習した知識を基盤とする基礎～臨床縦断型の科目である。従って、疑問や不明な点を感じた場合は、該当科目の復習が必要となる。 (2)問題発見・解決能力を深めることがねらいなので、学生には主体的、積極的姿勢で取り組むことが求められる。 都合により講義の内容及び順番等が変更になる場合は事前に連絡する。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	11	17	木	I	歯周病原菌の種類、歯周病原菌の病原因子、歯周病原菌の特性と歯周病態との関係 キーワード: 歯周病原性細菌、歯周病	内藤	第2講義室
2回	11	17	木	II	歯周治療学概論及び実習ガイダンス キーワード: 歯周病、歯周治療、治療計画	中村	臨床実習室 4B
3回	11	24	木	I	歯周疾患の症例分析と治療計画の立案 キーワード: 歯周検査、咬合診査、エックス線検査、歯周外科、メンテナンス	中村	臨床実習室 4B
4回	11	24	木	II	小児における齲蝕細菌の感染と齲蝕発生 キーワード: 母子感染、ミュータンスレンサ球菌、プラークバイオフィルム	藤原	第2講義室
5回	12	1	木	I	歯周疾患の症例分析と治療計画の立案	中村	臨床実習室 4B
6回	12	1	木	II	歯周疾患の症例分析と治療計画の立案	中村	臨床実習室 4B
7回	12	8	木	I	治療計画の発表と討論	中村	臨床実習室 4B
8回	12	8	木	II	治療計画の発表と討論、レポート作成	中村	臨床実習室 4B
9回	12	15	木	I	メンテナンス治療 キーワード: 歯周検査、咬合診査、エックス線検査	中村	臨床実習室 4B
10回	12	15	木	II	齲蝕学概論及び実習ガイダンス キーワード: 保存修復学、歯内治療学、治療計画	柳口	臨床実習室 4B
11回	12	22	木	I	症例分析と治療計画の立案	柳口	臨床実習室 4B
12回	12	22	木	II	症例分析と治療計画の立案	柳口	臨床実習室 4B
13回	1	5	木	I	治療計画の発表と討論	柳口	臨床実習室 4B
14回	1	5	木	II	治療計画の発表と討論	柳口	臨床実習室 4B
15回	1	12	木	I	レポート作成	柳口	臨床実習室 4B
16回	1	12	木	II	齲蝕・歯周病学について総括する	未定	臨床実習室 4B

年度 2016 学期 前期	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (20)
科目番号	25054604		
科目ナンバリング・コード	DNGD33271986		
授業科目名/(英語名)	接着歯学/(Adhesive Dentistry)		
対象年次 5年次	講義形態 講義・演習形式	教室	講義室 6B・臨床実習室 4B・各教室
対象学生(クラス等)	科目分類 統合科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスパワー 吉田圭一/keiichi@nagasaki-u.ac.jp/口腔インプラント学教員室 8-1/095-819-7687(内 7687)/12:00~13:00			
担当教員(オムニバス科目等)	釜崎陽子, 久保至誠, 白石孝信, 平 曜輔, 西口美由紀, 吉田圭一 (50音順)		
授業の概要及び位置づけ			
<p>包括的な歯科医療を実施できる歯科医師になるため、接着歯学に基づく修復法の基本的な知識と技能を修得する。種々の歯冠修復用材料と歯質間の接着や被着材間の接着、材料表面への細胞の接着など、歯科領域における接着現象に焦点を当てる。接着の基本的メカニズムを学習した後、小児歯科学、保存学、補綴学の各領域における接着の具体的事例や各種のテクニックを学ぶとともに、実習およびPBL(Problem-based Learning)によって接着歯学に基づく修復法の基本的な知識と技能を修得する。さらに、歯科生体材料表面への細胞の接着についても概説する。</p>			
授業到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1.接着のメカニズムを説明できる。 2.症例に適した修復法を説明できる。 3.接着法の臨床的手順を実施できる。 			
授業方法(学習指導法)			
<ol style="list-style-type: none"> 1.講義は板書やプリント配布によるほか、スライド、液晶プロジェクターなどを用いて行う。 2.実習は接着ブリッジの設計、形成と接着操作を模型上で行う。 3.PBL では7~8人程度の少人数グループに分かれ、提示されたシナリオを分析して問題点を抽出するとともに、問題解決のための資料収集や討論などを通して自己主導型の学習を行う。 			
授業内容			
<ol style="list-style-type: none"> 1回目: 歯科材料における接着(1) 2回目: 保存領域における接着(1) 3回目: 小児歯科領域における接着(1) 4回目: 小児歯科領域における接着(2) 5回目: 保存領域における接着(2) 6回目: 歯科材料における接着(2) 7回目: 補綴領域における接着(1) 8回目: 補綴領域における接着(2) 9回目: 接着ブリッジ実習関連講義 10回目: 接着ブリッジ実習(1) 11回目: 接着ブリッジ実習(2) 12回目: 接着歯学 PBL(1) 13回目: 接着歯学 PBL(2) 14回目: 接着歯学 PBL(3) 15回目: 接着歯学 PBL(4) 16回目: 接着歯学 PBL(5) 17回目: 接着歯学 PBL(6) 18回目: まとめ 			
キーワード	接着, 機械的嵌合力, プライマー, ボンディング材, エナメル質, 象牙質, 接着ブリッジ		
教科書・教材・参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 榎本貞三ほか編集:スタンダード歯科理工学, 学建書院 2. 日本接着歯学会編:接着歯学第2版, 医歯薬出版, 2015年 <p>※教材として授業中にプリントを配付することがある。</p>		
成績評価の方法・基準等	筆記試験(80%), 実習(20%)の総合評価とする。 それぞれの評価点の中には授業中の課題に対する積極的な取り組み状況も含まれている。		
受講要件(履修条件)	特になし		
備考(学生へのメッセージ)	接着歯学が基礎系および臨床系の諸科学に立脚した学問分野であることを認識し、講義、PBL、実習を通じて上記の到達目標が達成できるよう、自覚と積極的な勉学を期待する。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	12	火	IV	歯科材料における接着(1) 固体表面の液滴の挙動, 接着のメカニズム, 接着性モノマーなどを解説する。	白石	講義室6B
2回	4	15	金	V	保存領域における接着(1) 接着の利点, 接着性修復材料に対する窩洞および取扱い方を解説する。	久保	講義室6B
3回	4	26	火	I	小児歯科領域における接着(1) 小児歯科領域でのレジンの接着性およびシーラントを解説する。 1.形態的考察	釜崎	講義室6B
4回	4	26	火	II	小児歯科領域における接着(2) 小児歯科領域でのレジンの接着性およびシーラントを解説する。 2.総論	西口	講義室6B
5回	4	26	火	III	保存領域における接着(2) 保存領域における接着術式の変遷と接着機構を解説する。	久保	講義室6B
6回	4	26	火	IV	歯科材料における接着(2) 被着材の表面処理法, プライマー, レジンセメントなどを解説する。	白石	講義室6B
7回	5	9	月	I	補綴領域における接着(1) 補綴領域における接着性材料, 金属およびセラミックスの接着, 接着性レジンを解説する。	吉田	講義室6B
8回	5	9	月	II	補綴領域における接着(2) 補綴領域における接着を活かした臨床術式を紹介する。	吉田	講義室6B
9回	5	13	金	III	接着ブリッジ実習関連講義 接着ブリッジによる補綴の歴史, 特徴などを実習に関連づけて解説する。	平	講義室6B
10回	5	13	金	IV	接着ブリッジ実習(1) 接着ブリッジの設計, 形成の実習を行う。	教員5名	臨床実習室 4B
11回	5	13	金	V	接着ブリッジ実習(2) 接着操作の実習を行う。	教員5名	臨床実習室 4B
12,13回	5	23	月	II~III	接着歯学PBL(1), (2) 補綴学領域に関連したシナリオを提示し, 小人数グループで事実や疑問点などを抽出する。	教員7名	7教室
14,15回	5	23	月	IV~V	接着歯学PBL(3), (4) 自習	教員7名	7教室
16,17回	5	25	水	I~II	接着歯学PBL(5), (6) セッション, 自己評価と相互評価	教員7名	7教室
18回	5	26	木	V	まとめ PBLのシナリオを含め, 接着歯学の総括を行う。	吉田	講義室6B

年度 2016 学期 前期	曜日・校時 水・I. II. III. IV	必修選択 必修	単位数 (20)
科目番号	25054605		
科目ナンバリング・コード	DNGD33281985		
授業科目名/(英語名)	顎口腔機能・解析学/(Functional Analysis of Stomatognathic System)		
対象年次 5年次	講義形態 講義・実習形式	教室	講義室 6B・臨床実習室 4B
対象学生(クラス等)	科目分類 統合科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 鳥巢哲朗/torisu@nagasaki-u.ac.jp/歯科補綴学分野教員室/095-819-7693(内 7693)/16:00~17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	鳥巢哲朗、田中美保子、黒木唯文、吉田和弘、他 3名		
授業の概要及び位置づけ			
顎口腔機能を生命・生体现象として捉え基礎科目と臨床科目との関連を考慮しつつ総合的に学習を進める。顎口腔系の正常機能を理解し、その構成要素である咬合の診査・診断・治療に関する知識を習得することを目指す。はじめに顎口腔系の構造および機能に関する講義を行い、基礎・臨床科目で学習した知識を再確認する。次に相互実習で下顎運動や咬合の診査と咬合器上での再現を体験しグループ討論を行う。最後に咬合と顎機能障害の関連性について解説する。			
授業到達目標			
1. 顎口腔系の構造と機能について説明できる。 2. 咬合状態と顎機能の診査法を説明できる。 3. 下顎運動の記録法を説明できる。 4. 平均値咬合器及び調節性咬合器の種類と特徴を説明できる。			
授業方法(学習指導法)			
講義と実習を組み合わせで行う。講義では顎口腔機能と咬合との関連、咬合理論や顎機能障害に関する考え方の変遷等について解説する。実習では、顎機能および咬合の診査、ゴシックアーチ描記、咬合器の調節を体験し、グループ討議を通して知識の定着をはかる。			
授業内容			
1・2回目 L1:かむということ/かむとは動作学的に/咀嚼系の構成/顎運動の調節/下顎の基本位と性質 /下顎基本運動/下顎限界運動/下顎機能運動/歯の接触/咀嚼系に調和した咬合 3・4回目 P1:咬合診査/下顎運動時の顎関節および顎筋の働き/印象採得/石膏注入/模型調整(1) 5・6回目 P2:印象採得/石膏注入/模型調整(2)/フェイスポートランスファー/(咬合採得)/咬合器付着 7・8回目 P3:チェックバイト記録/顎路計測/(ゴシックアーチ描記装置の製作) 9・10回目 P4:ゴシックアーチ描記装置の製作/ゴシックアーチとタッピングポイントの記録 11・12回目 P5:症例提示/グループディスカッション(顎運動の再現性, 咬合採得, 症例) /発表(顎運動の再現性, 咬合採得) 13・14・15回目 L2:各班プレゼンテーション(提示症例)/顎機能障害の病態/咬合との関わり/古典的咬合論 /ナソロジーと中心位/生理学的咬合論/まとめ (L:講義 P:実習)			
キーワード	咬合, 顎位調節, ゴシックアーチ, 調節性咬合器, 顎機能障害, 口腔顔面痛		
教科書・教材・参考書	教科書: 無歯顎補綴治療学(細井紀雄ら編 医歯薬) 歯学生のパーシャルデンチャー(三谷春保編 医歯薬), 基礎歯科生理学(中村嘉男, 森本俊文編 医歯薬) 参考書: 入門咬合学(古谷野潔ら著 医歯薬) 目で見る咬合の基礎知識(古谷野潔ら編 医歯薬), 新編 顎関節症(日本顎関節学会編集 永末書店) OFPを知る-痛み患者で困ったときに-(井川雅子ら著 クインテッセンス)		
成績評価の方法・基準等	定期試験時の筆記試験(60点), 実習に対する取り組み方(20点), 随時出題レポート(20点)		
受講要件(履修条件)	総授業時間の2/3以上の出席が求められる。		
備考(学生へのメッセージ)	これまでに基礎・臨床科目で系統的に教授されてきた内容を関連づけて復習し, 咬合・顎機能への理解を深めること, 将来の臨床における補綴/咬合治療の指標となることを期待する。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	5	11	水	I	講義1:顎口腔系の機能と構成 かむということ/かむとは動作学的に/咀嚼系の構成/顎運動の調節/ 下顎の基本位と性質	鳥巢	講義室6B
2回	5	11	水	II	講義1:顎口腔系の機能と構成 下顎基本運動/下顎限界運動/下顎機能運動/歯の接触/ 咀嚼系に調和した咬合	鳥巢	講義室6B
3回	6	1	水	I	実習1:咬合・顎機能診査, 印象採得 咬合診査/下顎運動時の顎関節および顎筋の働き 印象採得(上下顎)/石膏注入/模型調整	教員8名	臨床実習室4B
4回	6	1	水	II	実習1:咬合・顎機能診査, 印象採得 咬合診査/下顎運動時の顎関節および顎筋の働き 印象採得(上下顎)/石膏注入/模型調整	教員8名	臨床実習室4B
5回	6	8	水	I	実習2:, フェイスポートランスファー, 咬合器付着 フェイスポートランスファー/咬合採得/咬合器付着	教員8名	臨床実習室4B
6回	6	8	水	II	実習2:, フェイスポートランスファー, 咬合器付着 フェイスポートランスファー/咬合採得/咬合器付着	教員8名	臨床実習室4B
7回	6	15	水	I	実習3:チェックバイト/咬合器調節 チェックバイト記録/顎路計測	教員8名	臨床実習室4B
8回	6	15	水	II	実習3:チェックバイト/咬合器調節 チェックバイト記録/顎路計測/(ゴシックアーチ描記装置の製作)	教員8名	臨床実習室4B
9回	6	22	水	III	実習4:ゴシックアーチ製作 ゴシックアーチ描記装置の製作	教員8名	臨床実習室4B
10回	6	22	水	IV	実習4:ゴシックアーチ記録, 顎運動の再現性 ゴシックアーチとタッピングポイントの記録	教員8名	臨床実習室4B
11回	6	29	水	III	実習5:症例提示/グループディスカッション (顎運動の再現性, 咬合採得, 症例)	教員8名	臨床実習室4B
12回	6	29	水	IV	実習5:各班発表 (顎運動の再現性, 咬合採得)	教員8名	臨床実習室4B
13回	7	13	水	I	講義2:各班発表 (提示症例)	鳥巢	講義室6B
14回	7	13	水	II	講義2:咬合理論の変遷/症例検討/総括 顎機能障害の病態/咬合との関わり/古典的咬合論	鳥巢	講義室6B
15回	7	13	水	III	講義2:咬合理論の変遷/症例検討/総括 ナソロジーと中心位/生理学的咬合論/まとめ	鳥巢	講義室6B

年度 2016 学期 前期	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (20)
科目番号	25054606		
科目ナンバリング・コード	DNGD33291987		
授業科目名/(英語名)	口腔腫瘍学/(Oral Oncology)		
対象年次 5年次	講義形態 PBL・講義形式	教室	各部屋・講義室 6B
対象学生(クラス等)	科目分類 統合科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 六反田賢/satoshi6@nagasaki-u.ac.jp/口腔腫瘍治療学分野教員室/095-819-7697(内 7697)/17:00 頃まで			
担当教員(オムニバス科目等)	梅田正博、川崎五郎、柳本惣市、六反田賢、鳴瀬智史、坂本由紀		
授業の概要及び位置づけ 口腔顎顔面部領域に発生する腫瘍の概要を理解し、診断・治療の進め方を理解する。			
授業到達目標 1. 歯源性腫瘍および非歯源性良性腫瘍の種類と特徴を説明できる。 2. 歯源性腫瘍および非歯源性良性腫瘍の診断と治療法を説明できる。 3. 非歯源性悪性腫瘍の種類と特徴を説明できる。 4. 非歯源性悪性腫瘍の診断と治療法を説明できる。			
授業方法(学習指導法) PBL および講義を行う。PBL では、口腔顎顔面部領域に発生する腫瘍の症例に関して、臨床像をより具体的に供覧し、コミュニケーションおよびプレゼンテーション能力を高めるようにする。講義では、口腔腫瘍学における最新の知見及び PBL で得られた知識の確認が行えるようにする。			
授業内容 1 回目 PBL 症例 part1 シナリオの提示、事実の抽出および仮説の設定(担当:各ファシリテータ) 2 回目 PBL 症例 part1 仮説に基づいた学習課題の設定および分担(担当:各ファシリテータ) 3 回目 PBL 症例 part1 学習課題についてのレポート作成(自学自習)(担当:各ファシリテータ) 4 回目 PBL 症例 part1 学習課題についてのレポート作成(自学自習)(担当:各ファシリテータ) 5 回目 PBL 症例 part1 学習課題についてのレポート作成(自学自習)(担当:各ファシリテータ) 6 回目 PBL 症例 part1 セッション(担当:各ファシリテータ) 7 回目 PBL 症例 part2 シナリオの提示、事実の抽出、仮説、学習課題の設定および分担(担当:各ファシリテータ) 8 回目 PBL 症例 part2 学習課題についてのレポート作成(自学自習)(担当:各ファシリテータ) 9 回目 PBL 症例 part2 学習課題についてのレポート作成(自学自習)(担当:各ファシリテータ) 10 回目 PBL 症例 part2 学習課題についてのレポート作成(自学自習)(担当:各ファシリテータ) 11 回目 PBL 症例 part2 セッション(担当:各ファシリテータ) 12 回目 PBL 自己評価および相互評価(担当:各ファシリテータ) 13 回目 プレゼンテーション資料作成(自学自習)(担当:各ファシリテータ) 14 回目 プレゼンテーション(担当:六反田) 15 回目 プレゼンテーション(担当:六反田) 16 回目 講義(担当:未定) 17 回目 講義(担当:未定) 18 回目 講義(担当:未定) 19 回目 講義(担当:未定) 20 回目 講義(担当:未定)			
キーワード	口腔癌, 歯源性腫瘍, 非歯源性腫瘍, 非歯源性悪性腫瘍,		
教科書・教材・参考書	特に指定せず		
成績評価の方法・基準等	PBL での討議および発表を評価 60%, テスト(客観試験) 40%		
受講要件(履修条件)	規定の通り		
備考(学生へのメッセージ)	口腔腫瘍の診断・治療は大変重要な分野です。十分な学習をされることを期待します。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	14	木	I	PBL症例part1 シナリオの提示, 事実の抽出および仮説の設定	各ファシリテータ	各部屋
2回	4	14	木	II	PBL症例part1 仮説に基づいた学習課題の設定および分担	各ファシリテータ	各部屋
3回	4	14	木	III	PBL症例part1 学習課題についてのレポート作成(自学自習)	各ファシリテータ	各部屋
4回	4	14	木	IV	PBL症例part1 学習課題についてのレポート作成(自学自習)	各ファシリテータ	各部屋
5回	4	14	木	V	PBL症例part1 学習課題についてのレポート作成(自学自習)	各ファシリテータ	各部屋
6回	4	28	木	I	PBL症例part1 セッション	各ファシリテータ	各部屋
7回	4	28	木	II	PBL症例part2 シナリオの提示, 事実の抽出, 仮説, 学習課題の設定および分担	各ファシリテータ	各部屋
8回	4	28	木	III	PBL症例part2 学習課題についてのレポート作成(自学自習)	各ファシリテータ	各部屋
9回	4	28	木	IV	PBL症例part2 学習課題についてのレポート作成(自学自習)	各ファシリテータ	各部屋
10回	4	28	木	V	PBL症例part2 学習課題についてのレポート作成(自学自習)	各ファシリテータ	各部屋
11回	5	19	木	I	PBL症例part2 セッション	各ファシリテータ	各部屋
12回	5	19	木	II	PBL自己評価および相互評価	各ファシリテータ	各部屋
13回	5	19	木	III	プレゼンテーション資料作成(自学自習)	各ファシリテータ	各部屋
14回	5	19	木	IV	プレゼンテーション	六反田	各部屋
15回	5	19	木	V	プレゼンテーション	六反田	各部屋
16回	5	20	金	V	講義	未定	講義室6B
17回	6	23	木	V	講義	未定	講義室6B
18回	6	30	木	III	講義	未定	講義室6B
19回	7	13	水	IV	講義	未定	講義室6B
20回	7	14	木	I	講義	未定	講義室6B

年度 2016 学期 前期	曜日・校時 火・I . II . III . IV	必修選択 必修	単位数 (20)
科目番号	25054607		
科目ナンバリング・コード	DNGD33301983		
授業科目名/(英語名)	口腔感染症及び免疫学/(Infected and Immune Disease in the Oral Region)		
対象年次 5年次	講義形態 PBL・講義形式	教室	各部屋・講義室 6B
対象学生(クラス等)	科目分類 統合科目		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 井 隆司/i-takashi@nagasaki-u.ac.jp/顎口腔再生外科学分野教員室/095-819-7704(内 7704)/月曜 13:00~14:00			
担当教員(オムニバス科目等)	井 隆司 他		
授業の概要及び位置づけ			
口腔領域に発生する感染症の概要、感染に対する生体の免疫システムの基本知識を理解し、習得する。口腔感染症の診断・治療の進め方を考え、感染防御に対する判断力を習得する。PBL 方式を導入し、実際の症例を基に必要な検査・診断・治療法を学生自ら提示し、それを解決する意欲・態度を養い、知識・自主性を身につける。			
授業到達目標			
1:細菌、真菌、ウイルスのヒトに対する感染の成立機序と病原性を説明できる。 2:口腔領域の特異性炎の種類をあげ、説明できる。 3:院内感染、日和見感染を説明できる。 4:歯性感染の原因菌と感染経路を説明できる。 5:診断に必要な検査法を説明できる。 6:感染症に対する治療法を提示できる。			
授業方法(学習指導法)			
主に PBL形式を採用し、一部講義形式で行う。シナリオに基づきグループごとに学生自らが問題を発見し、解釈、解決する自学・自習を基本とした学習形態を整える。学生が自学自習で得た知識を自ら確認できるように、シナリオに対しての解説を行う。			
授業内容			
1 回目 シナリオ提示、シナリオ把握、班内での各人の役割分担 2 回目 問題点抽出、調査項目決定 3 回目 各自調査、自習 4 回目 各自調査、自習 5 回目 まとめ、レポート提出 6 回目 まとめ、レポート提出 7 回目 シナリオ提示(症例 1~7)、シナリオ把握、班内での各人の役割分担 8 回目 問題点抽出、調査項目決定 9 回目 症例 1 の検討・解説 10 回目 症例 2 の検討・解説 11 回目 症例 3 の検討・解説 12 回目 症例 4 の検討・解説 13 回目 症例 5 の検討・解説 14 回目 症例 6 の検討・解説 15 回目 症例 7 の検討・解説			
キーワード	歯性感染症、抗菌薬、口腔粘膜疾患、ウイルス性疾患		
教科書・教材・参考書	口腔外科学 白砂兼光 他 医歯薬出版/標準口腔外科学 瀬戸皖一 他 医学書院/ 歯科における薬の使い方 デンタルダイヤモンド社		
成績評価の方法・基準等	発表、討論態度 50% レポート 50% 到達目標の理解度の評価		
受講要件(履修条件)	2/3 以上の出席、授業中の態度、積極性		
備考(学生へのメッセージ)	これまでの講義で培った知識のアウトプットをすることで感染・免疫を主とした知識のブラッシュアップを図ります。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	5	10	火	I	シナリオ提示、シナリオ把握、班内での各人の役割分担	井	各部屋
2回	5	10	火	II	問題抽出、調査項目決定	井	各部屋
3回	5	10	火	III	各自調査、自習	井	各部屋
4回	5	10	火	IV	各自調査、自習	井	各部屋
5回	5	17	火	I	まとめ、レポート提出	井	各部屋
6回	5	17	火	II	まとめ、レポート提出	井	各部屋
7回	5	17	火	III	シナリオ提示、シナリオ把握、班内での各人の役割分担	井	講義室6B
8回	5	17	火	IV	問題抽出、調査項目決定	井	講義室6B
9回	5	31	火	II	症例1 検討・解説	井	講義室6B
10回	5	31	火	III	症例2 検討・解説	井	講義室6B
11回	6	7	火	II	症例3 検討・解説	井	講義室6B
12回	6	14	火	II	症例4 検討・解説	井	講義室6B
13回	6	21	火	II	症例5 検討・解説	井	講義室6B
14回	7	12	火	II	症例6 検討・解説	井	講義室6B
15回	7	12	火	III	症例7 検討・解説	井	講義室6B

年度 2016 学期 前期	曜日・校時 月・I～V	必修選択 必修	単位数 (20)			
科目番号	25054608					
科目ナンバリング・コード	DNGD33311982					
授業科目名/(英語名)	硬組織科学/(Science of Hard Tissues)					
対象年次 5年次	講義形態 PBL・講義形式	教室 各部屋・講義室 6B				
対象学生(クラス等)	科目分類 統合科目					
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 伊藤公成/itok@nagasaki-u.ac.jp/A棟7階分子硬組織生物学分野教授室/095-819-7487(内7487)/12:00～13:00						
担当教員(オムニバ ス科目等)	ファシリテーター:北川賀一, 坂井詠子, 馬場友巳, 庄子幹郎, 森石武史 講義:岡田幸雄, 岡元邦彰, 藤田修一, 増山律子					
授業の概要及び位置づけ						
臨床ケースの中で, 問題点を見出し, その解決策を見つける方法を理解すること。						
授業到達目標						
1.硬組織に関する疾病を説明できる。 2.骨と歯の形態, 発生とその機構を説明できる。 3.結合組織の有機成分の構造と機能を説明できる。 4.骨と歯の分化機構, 骨吸収機構を説明できる。 5.血清カルシウムの調節機構を説明できる。 6.ヒドロキシアパタイトの構造を説明できる。						
授業方法(学習指導法)						
前半 PBL15回(自主学習を含む)。2つのシナリオについて演習形式で学習する。 後半 4回は講義を行う。						
授業内容						
No.	内容	月日	曜日	校時	担当者	
1	自己紹介	4/11	月	I	北川賀一 坂井詠子 馬場友巳 庄子幹郎 森石武史	
2	シナリオ 1 (資料配付, グループ討論, 問題抽出)			II		
3	自主学習			III		
4	レポート作成			IV		
5				V		
6	シナリオ 1	4/18	月	I		
7	(学習結果発表, 情報の共有, グループ討論, 仮説検証, 問題抽出)			II		
8	シナリオ 2			III		
9	(資料配付, グループ討論, 問題抽出)			IV		
10	自主学習, レポート作成			V		
11	シナリオ 2	4/25	月	I		
12	(学習結果発表, 情報の共有, グループ討論, 仮説検証, 問題抽出)			II		
13	自主学習			III		
14	レポート作成			IV		
15	まとめ, 評価			V		
16	講義: 血清カルシウムの調節機構	5/2	月	I		岡田幸雄
17	講義: 骨および歯に作用する薬物と治療薬			II		岡元邦彰
18	講義: 骨と歯の病理学			III		藤田修一
19	講義: 代謝性骨疾患			IV		増山律子
キーワード	骨, 歯, コラーゲン, カルシウム, 破骨細胞, 骨芽細胞, ビタミン D					
教科書・教材・参考書	最新整形外科学体系 第21巻 骨系疾患・代謝系骨疾患 中村利孝, 吉川秀樹著 および 口腔生理学, 口腔生化学, 口腔病理学, 歯科薬理学(3-4年次専門科目)の教科書					
成績評価の方法・基準等	PBLは授業態度, 討議内容を各ファシリテーターが総合的に評価する(50点)。 講義に関しては試験を実施(50点)。これらを総合評価する。					
受講要件(履修条件)						
備考(学生へのメッセージ)	口腔生理学, 口腔生化学, 口腔病理学, 歯科薬理学(3-4年)教科書で復習しておくこと。					

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	11	月	I	自己紹介 シナリオ 1 (資料配付, グループ討論, 問題抽出)	北川賀一 坂井詠子 大学院生 4名 (馬場友巳 庄子幹郎 森石武史)	グループご とに各教室
2回	4	11	月	II			
3回	4	11	月	III	自主学習 レポート作成		
4回	4	11	月	IV			
5回	4	11	月	V			
6回	4	18	月	I	シナリオ 1 (学習結果発表, 情報の共有, グループ討論, 仮説検証, 問題抽出)		
7回	4	18	月	II			
8回	4	18	月	III	シナリオ 2 (資料配付, グループ討論, 問題抽出)		
9回	4	18	月	IV			
10回	4	18	月	V	自主学習 レポート作成		
11回	4	25	月	I	シナリオ 2 (学習結果発表, 情報の共有, グループ討論, 仮説検証, 問題抽出)		
12回	4	25	月	II			
13回	4	25	月	III	自主学習 レポート作成 まとめ 評価		
14回	4	25	月	IV			
15回	4	25	月	V			
16回	5	2	月	I	講義: 血清カルシウムの調節機構	岡田幸雄	講義室6B
17回	5	2	月	II	講義: 骨および歯に作用する薬物と治療薬	岡元邦彰	講義室6B
18回	5	2	月	III	講義: 骨と歯の病理学	藤田修一	講義室6B
19回	5	2	月	IV	講義: 代謝性骨疾患	増山律子	講義室6B

年度 2016 学期 前期	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (20)
科目番号	25054609		
科目ナンバリング・コード	DNGD33321988		
授業科目名/(英語名)	成育歯学/(Pediatric and Orthodontic Dentistry)		
対象年次 5年次	講義形態 PBL・講義	教室 PBL7 教室, 講義室 6B	
対象学生(クラス等)	科目分類 統合科目		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 吉田教明/nori@nagasaki-u.ac.jp/歯科矯正学/819-7669, 藤原 卓/takufuji@nagasaki-u.ac.jp/小児歯科学/819-7672, 口腔保健学/819-7663, 不在時をのぞき 17:00 以降			
担当教員(オムニバス科目等)	講義担当—吉田教明, 藤原 卓, 日高 聖, 北村雅保, 小森 成(非常勤講師) PBL 担当—藤村裕治, 富永淳也, 森田幸子, 星野倫範, 日高 聖, 古堅麗子		
授業の概要及び位置づけ 4年次までに既に学習した口腔保健学, 歯科矯正学, 小児歯科学などの基礎知識を学生自ら総合的に再構築し, 成育歯学としてこどものライフサイクルに応じた口腔保健管理, 咬合管理ができるように検査, 診断, 治療, メンテナンスについて総合的理解を深める。			
授業到達目標 (1) 自ら問題を発見し, その問題解決のため積極的に行動し結果を説明できる。 (2) ライフサイクルに応じた口腔保健管理, 咬合管理の重要性が理解できる。 (3) 正常な発生, 成長発育および加齢による形態的・機能的特徴が説明できる。 (4) 成長発育の異常や不正咬合の種類, 原因および予防法が列挙できる。 (5) 成長発育の異常や不正咬合の治療の必要性, 適切な治療開始時期, 予後を説明できる。 (6) 成長発育の異常や不正咬合の検査, 診断, 治療計画, 治療法が説明できる。 (7) 矯正治療による医原性障害とその処置と予防を説明できる。 (8) 唇顎口蓋裂, 先天異常, 顎変形症に対する診断, 管理, 治療の流れが説明できる。			
授業方法(学習指導法) PBL チュートリアル形式(15回)と講義形式(5回)合計 20回実施。			
授業内容 (概要) 15回は2ケースのシナリオを使つてのPBL形式の授業を行い, 5回は講義形式の授業を行う。 講義は「成育歯科」のPBL型授業を通して, 学生自らが顎顔面口腔領域におけるこどもの成長発育に関する知識を統合させ, ライフスタイルに応じた口腔保健管理, 咬合管理について学習したことをベースに, より専門性の高い知識を提供することを目的とする。 (内容) 1回目 PBL チュートリアルケース1 2回目 PBL チュートリアルケース1 3回目 ケース1自学自習 4回目 ケース1自学自習 5回目 ケース1自学自習 6回目 PBL チュートリアルケース1セッション 7回目 PBL チュートリアルケース2 8回目 ケース2自学自習 9回目 ケース2自学自習 10回目 ケース2自学自習 11回目 講義1 「ライフサイクルに応じた口腔保健管理・咬合管理」 藤原 卓 12回目 PBL チュートリアルケース2セッション 13回目 ケース1, 2学習後の自己・相互評価 14回目 プレゼンテーション資料作成自学自習 15回目 プレゼンテーション(グループごとに) 16回目 プレゼンテーション(グループごとに) 17回目 講義2 「先天異常および唇顎口蓋裂の診断, 管理, 治療」 日高 聖 18回目 講義3 「う蝕予防のためのプロフェッショナル・ケアとホーム・ケア」 北村雅保 19回目 講義4 「不正咬合の成り立ち」 吉田教明 20回目 講義5 「口唇・口蓋裂や先天異常の矯正治療」 小森 成			
キーワード	ライフサイクル, 発生, 成長発育, う蝕, 歯髄炎, 不正咬合, 原因, 予防, 診断, 治療		
教科書・教材・参考書	口腔保健学, 歯科矯正学, 小児歯科学で掲載しているもの		
成績評価の方法・基準等	PBL形式授業は出席, 態度, 討議内容, 自学自習の結果の発表などを各担当のファシリテータが総合的に評価。定期考査は, 本試験, 再試験とする。点数の配点は, 時間数に応じてPBL評価と定期試験とで総合評価し 60点以上を合格とする。		
受講要件(履修条件)	特になし		
備考(学生へのメッセージ)	ライフサイクルを考慮した口腔保健学, 歯科矯正学, 小児歯科学についての自己学習は必須。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	13	水	I	PBLチュートリアルケース1	教員7名	7教室
2回	4	13	水	II	PBLチュートリアルケース1	教員7名	7教室
3回	4	13	水	III	ケース1自学自習	教員7名	7教室
4回	4	13	水	IV	ケース1自学自習	教員7名	7教室
5回	4	13	水	V	ケース1自学自習	教員7名	7教室
6回	4	27	水	I	PBLチュートリアルケース1セッション	教員7名	7教室
7回	4	27	水	II	PBLチュートリアルケース2	教員7名	7教室
8回	4	27	水	III	ケース2自学自習	教員7名	7教室
9回	4	27	水	IV	ケース2自学自習	教員7名	7教室
10回	4	27	水	V	ケース2自学自習	教員7名	7教室
11回	5	9	月	III	講義1 リソースセッション 「ライフサイクルに応じた口腔保健管理・咬合管理」	藤原	講義室6B
12回	5	18	水	I	PBLチュートリアルケース2セッション	教員7名	講義室6B
13回	5	18	水	II	ケース1, 2学習後の自己・相互評価	教員7名	講義室6B
14回	5	18	水	III	プレゼンテーション資料作成自学自習	教員7名	7教室
15回	5	18	水	IV	プレゼンテーション(グループごとに)	教員7名	7教室
16回	5	18	水	V	プレゼンテーション(グループごとに)	教員7名	講義室6B
17回	5	24	火	II	講義2 リソースセッション 「先天異常および唇顎口蓋裂の診断, 管理, 治療」	日高	講義室6B
18回	5	24	火	IV	講義3 リソースセッション 「う蝕予防のためのプロフェッショナル・ケアとホーム・ケア」	北村	講義室6B
19回	7	6	水	V	講義4 リソースセッション 「不正咬合の成り立ち」	吉田	講義室6B
20回	7	7	木	V	講義5 リソースセッション 「口唇・口蓋裂や先天異常の矯正治療」	小森	講義室6B

年度 2016 学期 前期	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (20)
科目番号	25054610		
科目ナンバリング・コード	DNGD33331982		
授業科目名/(英語名)	臨床薬理学/(Clinical Pharmacology)		
対象年次 5年次	講義形態 PBL・講義形式	教室 指定された部屋・講義室 6B	
対象学生(クラス等)	科目分類 統合科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスパワー 岡元邦彰/k-oka@nagasaki-u.ac.jp/A棟5階歯科薬理学研修室/095-819-7653(内7653)/17:00~18:00			
担当教員(オムニバ ス科目等)	PBL: 西下一久 他 講義: 鮎瀬卓郎		
授業の概要及び位置づけ			
PBL形式により、臨床で用いる薬剤に関する題材の中で、他者とのコミュニケーションを取りながら問題点を指摘し、それに対する解決策を見つけたす方法を身につける。			
授業到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 課題シナリオから発想や連想ができる。 2. シナリオから重要な項目を抽出できる。 3. 理論的に分析し、仮説の設定・検証ができる。 4. 学習項目に応じた情報収集ができる。 5. 調べてきた内容をわかりやすく発表できる。 6. 他者の考えを尊重し理解できる。 			
授業方法(学習指導法)			
7名くらいのグループに分かれて PBL 方式をとる。シナリオを読み、それに対して討論を行いながら問題点を指摘し、仮説を設定する。その仮説に対して検証を行うための学習項目について調べ発表を行う。			
授業内容			
<ol style="list-style-type: none"> 1, 2回目 グループセッション: グループごとに課題シナリオから重要な項目を抽出し、仮説を設定する。 また、それを検証するための学習項目を設定する。 3, 4, 5回目 自主学习: 各自学習項目について調べる。 6回目 グループディスカッション: 調べてきた学習項目について発表を行い、前回たてた仮説を検証する。 また、ディスカッション中に出された曖昧なアイデアを認識し、それを解明する。 7回目 まとめ及び評価: まとめ及び自己・他者評価。 8回目 講義: 救急時の対処法及び薬物の使用法 			
キーワード	薬物, バイタルサイン, 救急治療薬, PBL		
教科書・教材・参考書	今まで用いてきた教科書およびノート		
成績評価の方法・基準等	ファシリテーターによる学生の評価(40%)と定期テスト(60%)により判定します。 定期テストは国家試験形式で薬理学全般から出題します。		
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセージ)	事前に勉強することはありませんが、進行方法等しっかりと頭に入れて臨み、積極的に発言等行ってください。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	6	水	I	グループセッション： グループごとに課題シナリオから重要な項目を抽出し、仮説を設定する。また、それを検証するための学習項目を設定する。	岡元, 他	掲 示
2回	4	6	水	II	グループセッション： グループごとに課題シナリオから重要な項目を抽出し、仮説を設定する。また、それを検証するための学習項目を設定する。	岡元, 他	掲 示
3回	4	6	水	III	自主学習： 課題に対する学習項目について各自調べる。	岡元, 他	掲 示
4回	4	6	水	IV	自主学習： 課題に対する学習項目について各自調べる。	岡元, 他	掲 示
5回	4	6	水	V	自主学習： 課題に対する学習項目について各自調べる。	岡元, 他	掲 示
6回	4	8	金	I	グループディスカッション： 調べてきた学習項目について発表を行い、前回立てた仮説を検証する。また、ディスカッション中に出された曖昧なアイデアを認識し、それを解明する。	岡元, 他	掲 示
7回	4	8	金	II	まとめおよび評価： まとめおよび自己・他者の評価	岡元, 他	掲 示
8回	4	8	金	III	緊急時の対処法： 緊急時に必要な処置、および薬物に関する知識を講義する。	鮎 瀬	講義室6B

年度 2016 学期 前期	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (20)
科目番号	25054622		
科目ナンバリング・コード	DNGD33341990		
授業科目名/(英語名)	口腔顔面疼痛学/(Orofacial Pain)		
対象年次 5年次	講義形態 PBL・講義形式	教室 各部屋・講義室 6B	
対象学生(クラス等)	科目分類 統合科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 鮎瀬卓郎/ayuse@nagasaki-u.ac.jp/病院 8 階歯科麻酔学分野/095-819-7714(内 7714)/随時			
担当教員(オムニバ ス科目等)	境 徹也(麻酔科), 小澤寛樹(精神神経科), 川口 哲(精神神経科・漢方外来), 戸田一雄(非常勤講師), 和気裕之(非常勤講師), 岡安一郎, 鮎瀬卓郎		
授業の概要及び位置づけ			
歯科医師が扱う口腔顎顔面領域における痛み(口腔顔面痛)について, 基礎から臨床まで幅広く学ぶ。			
授業到達目標			
1. 口腔顔面痛の基礎, 特に, 病態生理について理解する。 2. 口腔顔面痛の臨床, 特に, 歯科心身症に必要な心身医学, 精神医学, 東洋医学及び医療連携の知識とスキルについて理解する。			
授業方法(学習指導法)			
PBL, 講義及び自己学習とする。			
授業内容			
1 回目: 「痛みの基礎と臨床」担当 境 徹也 2 回目: 「心身歯学」担当 和気裕之 3 回目: 「痛みの生理学」担当 戸田一雄 4 回目: 口腔顔面痛の評価・診断・管理をPBL形式で学習 (ケースプレゼン) 担当 チューター 5 回目: 口腔顔面痛の評価・診断・管理をPBL形式で学習 (ケースプレゼン) 担当 チューター 6 回目: 口腔顔面痛の評価・診断・管理をPBL形式で学習 (自習) 担当 チューター 7 回目: 口腔顔面痛の評価・診断・管理をPBL形式で学習 (自習) 担当 チューター 8 回目: 口腔顔面痛の評価・診断・管理をPBL形式で学習 (自習) 担当 チューター 9 回目: 「心身症と精神医学」担当 小澤寛樹 10 回目: 口腔顔面痛の評価・診断・管理をPBL形式で学習 (ケースセッション) 担当 チューター 11 回目: 口腔顔面痛の評価・診断・管理をPBL形式で学習 (自己相互評価) 担当 チューター 12 回目: 「漢方と精神科からみた痛み」担当 川口 哲			
キーワード	口腔顔面痛, 歯科心身症, 心身医学, 精神医学, 東洋医学(漢方治療), 医療連携		
教科書・教材・参考書	1) 和気裕之, 澁谷智明, 目加田まり. デンタルスタッフのための歯科心身症ガイドブック. 医歯薬出版, 東京, 2015. 2) 和気裕之. サイコ・デンティストリー 歯科医のための心身医学・精神医学 第二版. 砂書房, 東京, 2015. 3) 和気裕之, 玉置勝司, 宮岡等. ロ・あご・顔の痛みと違和感の対処法-原因がはっきりしないケースで困ったら. ヒョーロン, 東京, 2013. 4) 木野孔司, 杉崎正志, 和気裕之. 新・顎関節症はこわくない. 砂書房, 東京, 2011. 5) 植田弘師, 戸田一雄. やさしい痛み学. プレーン出版, 東京, 2007.		
成績評価の方法・基準等	出席率, 授業中の態度, PBL への積極的取り組みを重視。		
受講要件(履修条件)	なし		
備考(学生へのメッセージ)	2012 年 3 月, 「長崎大学病院オーラルペイン・リエゾン外来」が開設されて以来, 口腔顔面痛の評価・診断・管理は, 歯科と医科との緊密な医療連携(リエゾン)の下で行われている。本講義を通して, 口腔顔面痛の考え方と対処法を学んでほしい。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	12	火	Ⅲ	「痛みの基礎と臨床」	境 徹也	講義室6B
2回	4	15	金	Ⅳ	「心身歯学」	和気裕之	講義室6B
3回	4	22	金	Ⅲ	「痛みの生理学」	戸田一雄	講義室6B
4回	5	6	金	Ⅰ	口腔顔面疼痛学PBL 口腔顔面痛の評価・診断・管理をPBL形式で学習 (PBLケースプレゼン)	チューター	未定
5回	5	6	金	Ⅱ	口腔顔面疼痛学PBL 口腔顔面痛の評価・診断・管理をPBL形式で学習 (PBLケースプレゼン)	チューター	未定
6回	5	6	金	Ⅲ	口腔顔面疼痛学PBL 口腔顔面痛の評価・診断・管理をPBL形式で学習 (自習)	チューター	未定
7回	5	6	金	Ⅳ	口腔顔面疼痛学PBL 口腔顎顔面痛の評価・診断・管理をPBL形式で学習 (自習)	チューター	未定
8回	5	6	金	Ⅴ	口腔顔面疼痛学PBL 口腔顔面痛の評価・診断・管理をPBL形式で学習 (自習)	チューター	未定
9回	5	12	木	Ⅰ	「心身症と精神医学」	小澤寛樹	講義室6B
10回	5	13	金	Ⅰ	口腔顔面疼痛学PBL 口腔顔面痛の評価・診断・管理をPBL形式で学習 (PBLケースセッション)	チューター	未定
11回	5	13	金	Ⅱ	口腔顔面疼痛学PBL 口腔顔面痛の評価・診断・管理をPBL形式で学習 (自己・相互評価)	チューター	未定
12回	5	26	木	Ⅱ	「漢方と精神科からみた痛み」	川口 哲	講義室6B

年度 2016 学期 前期	曜日・校時 月・I～V	必修選択 必修	単位数 (20)
科目番号	25054612		
科目ナンバリング・コード	DNGD33351987		
授業科目名/(英語名)	臨床検査学/(Clinical laboratory Science)		
対象年次 5年次	講義形態 PBL形式	教室 各部屋	
対象学生(クラス等)	科目分類 統合科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 井 隆司/i-takashi@nagasaki-u.ac.jp/顎口腔再生外科学分野教員室/095-819-7704(内 7704)/月曜 13:00～14:00			
担当教員(オムニバ ス科目等)	井 隆司 他		
授業の概要及び位置づけ			
<ul style="list-style-type: none"> ・4年次までに既習した個々の基礎および臨床の知識を元に、患者に即した検査学を学生自らが学んだ知識で総合的に再構築し、治療計画に応じた口腔外科的診療のための理解を深めることを目標とする。 ・PBL形式を導入し、学生自ら問題を提起し、それを解決する方法を養う。 			
授業到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 診察、検査および診断に必要な事項を列挙できる。 2. 歯科治療と全身疾患との関連を理解し説明できる。 3. 診察、検査、診断および治療に必要な器材を準備できる。 4. 各種臨床検査の基準値を知り、重要な異常値の意味を説明できる。 5. 各検査値から患者の病態を理解し、最適な治療法を自ら計画できる力を身に付ける。 			
授業方法(学習指導法)			
主に PBL形式を採用し、一部講義形式で行う。シナリオに基づきグループごとに学生自らが問題を発見、解釈、解決する自学・自習を基本とした学習形態を整える。学生が自学自習で得た知識を自ら確認できるようにシナリオに対しての解説を行う。			
授業内容			
<ol style="list-style-type: none"> 1回目:PBL ケース 1 2回目:PBL ケース 1 3回目:自主学習 4回目:自主学習 5回目:自主学習 6回目:発表・討論 7回目:レポート提出、まとめ 			
キーワード	感染・免疫、抗菌薬、臨床検査		
教科書・教材・参考書	口腔外科学 白砂兼光 他 医歯薬出版/標準口腔外科学 瀬戸皖一 他 医学書院/ 歯科における薬の使い方 デンタルダイヤモンド社		
成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート 50%、発表・討論態度 50% ・到達目標の理解度で評価する。 		
受講要件(履修条件)	2/3 以上の出席、授業中の課題に対する積極的な取り組み状況、各グループでの討論様式や解決過程での文章構成力や表現力、討論会でのオリジナリティを重視します。		
備考(学生へのメッセージ)	これまでの講義で培った知識のアウトプットをすることで感染・免疫を主とした知識のブラッシュアップを図ります。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	5	16	月	I	シナリオ提示、シナリオ把握、班内での各人の役割分担	井	各部屋
2回	5	16	月	II	問題抽出、調査項目決定	井	各部屋
3回	5	16	月	III	各自調査、自習	井	各部屋
4回	5	16	月	IV	各自調査、自習	井	各部屋
5回	5	16	月	V	各自調査、自習	井	各部屋
6回	5	30	月	I	まとめ、レポート提出	井	各部屋
7回	5	30	月	II	まとめ、レポート提出	井	各部屋

年度 2016 学期 前期	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (20)
科目番号	25054613		
科目ナンバリング・コード	DNGD33361991		
授業科目名/(英語名)	医療面接/(Medical Interview)		
対象年次 5年次	講義形態 講義・実習形式	教室	各部屋・講義室 6B
対象学生(クラス等)	科目分類 統合科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 角 忠輝/sumi@nagasaki-u.ac.jp/総合歯科臨床教育学教授室/095-819-7750(内 7750)/随時 ※来室前に確認のこと			
担当教員(オムニバス科目等)	久保至誠, 林田秀明, 鎌田幸治, 木村泰男, 他協力教員 非常勤講師: 俣木志朗(東京医科歯科大学教授), 野中愛恵(九州大学特別研究員)		
授業の概要及び位置づけ			
歯科疾患を抱える患者を全身的・全人的に捉える態度および問題解決志向に対する理解を深める。患者との良好な人間関係の構築するために必要なコミュニケーションに関する知識, 態度, 技術を身に付ける。さらに, 歯科医師としての人格を涵養する。			
授業到達目標			
信頼関係を構築するためのコミュニケーションの条件を説明できる。患者の社会的・心理的背景を考慮しつつ, 正確かつ必要十分な医療面接ができる。歯科医師として, あるべき姿を理解する。患者の権利を理解する。			
授業方法(学習指導法)			
プリントとスライドを用いた講義, SGD 形式の学習, 模擬患者に対する医療面接実習およびビデオ学習。 はじめに, 医療面接に関する基礎知識とコミュニケーションの基本的技法を講義により学習する。次いで, 小グループ実習と模擬患者を用いたロールプレイ実習を行い, 形成的評価を繰り返し受けることによって医療面接についての基本的態度, 技能および知識を修得する。さらに, 医療に携わる者としての人格の涵養に望ましい姿勢と態度を考える。			
授業内容			
1 回目: 医療面接の目的と総論 2 回目: 医療コミュニケーションをとるための技法 1 3 回目: 医療コミュニケーションをとるための技法 2 4 回目: 医療行動科学講義(医療過誤, 医療事故医療) 5 回目: プロフェッショナリズム 6 回目: プロフェッショナリズム 7 回目: 医療行動科学演習 (ビデオ学習; 診療開始) 8 回目: 医療行動科学演習 (ビデオ学習; 診療中・診療後) 9 回目: 医療行動科学演習 (ビデオ学習; 患者への説明・応対) 10 回目: 小グループ討論 医療面接実習評価シート作成 11 回目: 小グループ実習, プロダクト(医療面接実習評価シート)発表・討議 12 回目: ロールプレイ実習 1 (面接/評価トライアル) 13 回目: SP シミュレーション実習 1 (初診時医療面接) 14 回目: ロールプレイ実習 2 (面接/評価トライアル) 15 回目: SP シミュレーション実習 2 (初診時医療面接) 16 回目: グローバルコミュニケーション, 医療行動学演習(試験)			
キーワード	コミュニケーション、敬語、医療行動科学		
教科書・教材・参考書	教科書: 特に指定しない 参考書: 医療面接技法とコミュニケーションのとり方 (新・基礎臨床技能シリーズ) メジカルビュー社 医師のためのパフォーマンス学入門 日経 BP 社 話を聞かない医師 思いが言えない患者 集英社		
成績評価の方法・基準等	医療行動科学は第 16 回目の授業中に筆記試験で評価する。医療面接実習は, 学生の相互評価, 模擬患者の評価および観察記録によって評価する。これらの平均点 60 点以上を合格とする。		
受講要件(履修条件)	授業に出席した時数が授業を行った時数の 3 分の 2 に達しない場合, 成績評価の対象とならない。また, 実習は必ず出席しなければならない。		
備考(学生へのメッセージ)	他人の言葉から, 必要な情報を引き出すことを学びます。人に心を開いてもらえるよう, 言葉遣いだけでなく, 表情, 身だしなみにいたるまで, 自分を磨いてください。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	6	9	木	V	医療面接の目的と総論	角	講義室6B
2回	6	10	金	III	医療コミュニケーションをとるための技法 1	俣木	講義室6B
3回	6	10	金	IV	医療コミュニケーションをとるための技法 2	俣木	講義室6B
4回	6	16	木	V	医療行動科学講義(医療過誤, 医療事故医療)	久保	講義室6B
5回	6	17	金	III	プロフェッショナリズム	角	講義室6B
6回	6	17	金	IV	プロフェッショナリズム	角	講義室6B
7回	6	24	金	III	医療行動科学演習 (ビデオ学習; 診療開始)	角	講義室6B
8回	6	24	金	IV	医療行動科学演習 (ビデオ学習; 診療中・診療後)	久保	講義室6B
9回	6	30	木	V	医療行動科学演習 (ビデオ学習; 患者への説明・応対)	木村	講義室6B
10回	7	1	金	III	小グループ討論 医療面接実習評価シート作成	木村	講義室6B
11回	7	1	金	IV	小グループ実習, プロダクト(医療面接実習評価シート)発表・討議	木村	講義室6B
12回	7	7	木	III	ロールプレイ実習1 (面接/評価トライアル)	教員6	6教室
13回	7	7	木	IV	SPシミュレーション実習1 (初診時医療面接)	教員6	6教室
14回	7	15	金	III	ロールプレイ実習2 (面接/評価トライアル)	教員6	6教室
15回	7	15	金	IV	SPシミュレーション実習2 (初診時医療面接)	教員6	6教室
16回	7	15	金	V	グローバルコミュニケーション 医療行動学演習(試験)	野中/ 角	講義室6B

年度 2016 学期 前期	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (20)
科目番号	25054615		
科目ナンバリング・コード	DNGD33371941		
授業科目名/(英語名)	歯科臨床東洋医学/(Oriental medicine for clinical dentistry)		
対象年次 5年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 6B	
対象学生(クラス等)	科目分類 統合科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 鮎瀬卓郎/ayuse@nagasaki-u.ac.jp/歯科麻酔学医局/095-819-7714(内 7714)/随時			
担当教員(オムニバ ス科目等)	鮎瀬卓郎、戸田一雄(非常勤講師)、田頭澄人(非常勤講師)、加瀬義夫(非常勤講師)		
授業の概要及び位置づけ			
<p>東洋医学では、人は大自然(大宇宙)のなかの一つで、自然界のすべてのものと、お互いに関連し、影響しあっているとみなしている。西洋医学では、組織、器官はそれぞれ独立して異なるものとするが、東洋医学では、異なった機能を持ちながらも全体として有機的につながりをもった共有体とされている。その根底となる思想が陰陽論と五行論である。このような東洋医学の理論的背景を認識しつつ実際の東洋医学的治療法の主な方法を、体験を通して学習する。</p>			
授業到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1.東洋医学を実際の治療方法として歯科臨床に応用できる能力を養う。 2.東洋医学的診断法を理解・習得する。 3.鍼治療の臨床応用を理解・習得する。 4.灸療法の臨床応用を理解・習得する。 5.漢方処方を理解する東洋医学の歯科臨床における応用法を実践できる。 6.基礎編で得た知識を実際の臨床で応用できる。 7.東洋医学の手技・手法を説明できる。 			
授業方法(学習指導法)			
実習を併用して学習する。			
授業内容			
<ol style="list-style-type: none"> 1回目 臨床東洋医学総論、あはき法 I 戸田 2回目 古法、脈診 II 戸田 3回目 刺鍼法 田頭 4回目 灸法総論 田頭 5回目 漢方薬の処方の実際(実習) 鮎瀬 6回目 歯科灸法(実習を含む) 田頭 7回目 漢方最前線(全学公開講座) 加瀬 			
キーワード	経穴、鍼、灸、漢方		
教科書・教材・参考書	教科書 入門歯科東洋医学、口腔保健協会、日本歯科東洋医学会編 参考書 1.漢方医学 創元社 大塚敬節 著 2.漢方薬の正しい使い方と漢方療法のすべて 池田書店 丁 宗鉄 著 3.臨床経穴図 医道の日本社 木下晴都 著		
成績評価の方法・基準等	定期考査またはレポート100%		
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセージ)	講義日程が複雑なので注意すること。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	21	木	III	臨床東洋医学総論、あはき法	戸田	講義室6B
2回	4	21	木	IV	古法、脈診	戸田	講義室6B
3回	4	22	金	V	刺鍼法(実習を含む)	田頭	講義室6B
4回	5	12	木	II	灸法総論(実習を含む)	田頭	講義室6B
5回	5	20	金	IV	漢方薬の処方の実際(実習)	鮎瀬	講義室6B
6回	6	16	木	III	歯科灸法(実習を含む)	田頭	講義室6B
7回	6	23	木	III	漢方最前線(全学公開講座)	加瀬	講義室6B
8回	7	1	金	V	予備		講義室6B

年度 2016 学期 前期	曜日・校時 木・II.III.IV.V	必修選択 必修	単位数 (20)
科目番号	25054616		
科目ナンバリング・コード	DNGD33381990		
授業科目名/(英語名)	摂食嚥下リハビリテーション学/(Dysphagia Rehabilitation)		
対象年次 5年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 6B	
対象学生(クラス等)	科目分類 統合科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスパワー 久松徳子/norinori@nagasaki-u.ac.jp/特殊歯科総合治療部/095-819-7748(内 7748)/事前に連絡を			
担当教員(オムニバ ス科目等)	久松徳子, 釜崎陽子, 三串伸哉, 原 稔(長崎大学病院), 長田 豊(非常勤講師), 久保田一見(非常勤講師)		
授業の概要及び位置づけ			
<p>摂食・嚥下機能は、食物を認識し口腔に運び込み、咀嚼・嚥下動作にて食道へ食物を送り込む一連の機能であり、経口より栄養を確保するための重要な機能である。また疾患の早期回復には良好な栄養状態の維持が必要であるため、近年では経口摂取の重要性が再認識されている。このため、安全で円滑な経口摂取を行うためには多職種におけるチームアプローチが必要であり、多方面から摂食・嚥下機能を理解し、障害の改善に向けた対応について学ぶ。摂食・嚥下障害に関する知識の習得・安全で円滑な経口摂取の対応方法の習得を目指す。</p>			
授業到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 摂食・嚥下機能に関して説明できる。 2. 摂食・嚥下障害の原因、評価、診断について説明できる。 3. 摂食・嚥下リハビリテーションについて説明できる。 4. 小児の摂食・嚥下障害に関して説明できる。 			
授業方法(学習指導法)			
講義形式で行う。			
授業内容			
<ol style="list-style-type: none"> 1 回目 摂食嚥下リハビリテーション総論, 各器官の解剖・生理 2 回目 摂食嚥下障害の原因・病態 3 回目 小児の摂食嚥下障害(総論) 4 回目 小児の摂食嚥下障害(各論) 5 回目 摂食嚥下障害の診査・診断 6 回目 摂食嚥下障害に対する訓練法 I 7 回目 摂食嚥下障害に対する訓練法 II 8 回目 摂食嚥下障害における口腔ケア 9 回目 摂食嚥下障害の外科的治療 10 回目 口腔保健センターにおける摂食嚥下障害への取り組み 11 回目 摂食嚥下障害における訪問診療 12 回目 摂食嚥下障害における栄養 13 回目 摂食嚥下障害における NST の役割 14 回目 摂食嚥下障害における歯科的アプローチ 15 回目 摂食嚥下障害におけるリスクマネジメント 			
キーワード	摂食嚥下障害 リハビリテーション, 経口摂取, 口腔ケア		
教科書・教材・参考書	参考書 摂食・嚥下リハビリテーション第2版 (医歯薬出版) 嚥下障害ポケットマニュアル第3版 (医歯薬出版) 動画でわかる摂食・嚥下リハビリテーション (中山書店) 摂食・嚥下のメカニズム第2版 (医歯薬出版)		
成績評価の方法・基準等	定期試験での評価を行う。 出席, 追試験, 再試験等は学部規定に従う。		
受講要件(履修条件)	学部規定に従う。		
備考(学生へのメッセージ)	基礎的知識や医科的内容も含まれ、自身や身近な人に関する事、死に直結することでもある。これからの人生や社会構造・情勢等も念頭に置きながら受講すると身近なこととして受け止めやすいと思われます。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	7	木	Ⅲ	摂食嚥下リハビリテーション総論 各器官の解剖・生理	久松	講義室6B
2回	4	7	木	Ⅳ	摂食嚥下障害の原因・病態	久松	講義室6B
3回	4	7	木	Ⅴ	小児の摂食嚥下障害(総論)	久保田	講義室6B
4回	4	21	木	Ⅴ	小児の摂食嚥下障害(各論)	釜崎	講義室6B
5回	5	12	木	Ⅲ	摂食嚥下障害の診査・診断	久松	講義室6B
6回	5	12	木	Ⅳ	摂食嚥下障害に対する訓練法Ⅰ	久松	講義室6B
7回	5	26	木	Ⅲ	摂食嚥下障害に対する訓練法Ⅱ	久松	講義室6B
8回	5	26	木	Ⅳ	摂食嚥下障害における口腔ケア	久松	講義室6B
9回	6	9	木	Ⅳ	摂食嚥下障害の外科的治療	原	講義室6B
10回	6	16	木	Ⅳ	口腔保健センターにおける摂食嚥下障害への取り組み	長田	講義室6B
11回	6	23	木	Ⅳ	摂食嚥下障害における訪問診療	三串	講義室6B
12回	6	30	木	Ⅳ	摂食嚥下障害における栄養	久松	講義室6B
13回	7	14	木	Ⅱ	摂食嚥下障害におけるNSTの役割	久松	講義室6B
14回	7	14	木	Ⅲ	摂食嚥下障害における歯科のアプローチ	久松	講義室6B
15回	7	14	木	Ⅳ	摂食嚥下障害におけるリスクマネジメント	久松	講義室6B

年度 2016 学期 前期	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (20)
科目番号	25054617		
科目ナンバリング・コード	DNGD33391986		
授業科目名/(英語名)	口腔インプラント学/(Oral Inplantology)		
対象年次 5年次	講義形態 講義、実習	教室 講義室 6B, 臨床実習室4B	
対象学生(クラス等)	科目分類 統合科目		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 澤瀬 隆/sawase@nagasaki-u.ac.jp/口腔インプラント学教授室/095-819-7685(内 7685)/毎日 8:00～8:50, 12:10～13:00			
担当教員(オムニバス科目等)	澤瀬 隆, 朝比奈泉, 黒嶋伸一郎, 大場誠悟, 尾立哲郎, 中谷佑哉, 他教員, TA 非常勤講師: 柴原清隆, 十河基文, 今本道也, 武田孝之, 堀内克啓		
授業の概要及び位置づけ/授業到達目標/授業方法(学習指導法) (500 文字) 概要及び位置づけ: 一般目標(GIO)は、「患者に対し口腔インプラント治療について正しく説明するために、必要な基礎知識と態度を習得する」とする。実際のインプラント臨床手技の修得には卒業教育が不可欠であるが、インプラントに触れる最初の機会として、ニュートラルでかつ正しい知識の習得を到達目標とする。 行動目標(SBOs) ① インプラントの種類、特徴、目的および意義を説明できる。 E-3-4-(3) ① ② インプラント治療の基礎科学を説明する ③ インプラントの基本構造を説明できる。 E-3-4-(3) ② ④ インプラントに必要な診察と検査を説明できる。 E-3-4-(3) ③④ ⑤ インプラント治療の外科手技、補綴手技について説明できる。 ⑥ インプラント治療のメンテナンスの意義と合併症について説明できる。 E-3-4-(3) ④ 授業方法: 口腔インプラント学は歯科臨床の集学的科目といわれ、4年生までに履修するほとんど全ての科目がベースとなっている。授業形態は各科専門医からのオムニバス形式とし、講義による必要な知識の解説に加え、外科系補綴系の実習によりインプラント特有の器具やその操作法を実習し、より具体的な理解の助けとする。			
授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む) (1300 文字) 概要: 11 回のオムニバス形式の講義に加え、術前治療計画、外科、補綴のインプラント実習を行う。 モデルコアカリキュラム: E-3-4-(3) デンタルインプラント *①デンタルインプラントの種類、特徴、目的および意義を説明できる。 *②デンタルインプラントの基本構造を説明できる。 ③デンタルインプラントに必要な診察と検査を説明できる。 ④デンタルインプラントの適応症と合併症を説明できる。			
授業内容	モデルコアカリキュラム相当項目		
1 回目: インプラントの種類, 特徴, 目的, 意義, オッセオインテグレーション	E-3-4-(3) ①		
2 回目: インプラントの基本構造, 成功率, 生存率	E-3-4-(3) ②		
3 回目: インプラントのための解剖学, 組織学			
4 回目: インプラント画像検査			
5 回目: インプラントに必要な診察と検査, 治療計画…	E-3-4-(3) ③, ④		
6 回目: インプラント補綴術式1			
7 回目: インプラント補綴術式2			
8 回目: 包括歯科治療の中におけるインプラント治療の位置づけ			
9 回目: インプラント外科術式・関連外科術式1			
10 回目: インプラント外科術式・関連外科術式2			
11 回目: インプラント周囲炎, 合併症	E-3-4-(3) ④		
12 回目: インプラントシミュレーション実習			
13,14 回目: インプラント外科模型実習			
15,16 回目: インプラント補綴模型実習			
キーワード			
教科書・教材・参考書	教よくわかる口腔インプラント学(医歯薬出版) ◎エッセンシャル 口腔インプラント学(医歯薬出版) ◎インプラント治療の骨造成法(医学情報社)		
成績評価の方法・基準等	定期考査の60点以上を合格とする。		
受講要件(履修条件)	講義の2/3, 実習は3回とも出席が試験の受験要件である。		
備考(学生へのメッセージ)	授業時間だけでは、消化しきれない内容が含まれているので予め教科書を読んでおき、1年間、欠かさず出席してほしい。そのためには規則正しい生活を送り、体調を常に整えて置く必要がある。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	5	30	月	III	デンタルインプラントの種類、特徴、目的、意義 インプラント治療の歴史、オッセオインテグレーション、材料学 コアカリE -3-4)-(3)①	澤瀬	講義室6B
2回	5	30	月	IV	インプラントの基本構造、成功率、生存率 コアカリE -3-4)-(3)②	澤瀬	講義室6B
3回	5	30	月	V	インプラントのための解剖学, 組織学	柴原 (非常勤)	講義室6B
4回	5	31	火	IV	インプラント画像検査	十河 (非常勤)	講義室6B
5回	6	6	月	I	インプラントに必要な診察と検査 治療計画の立案と患者説明 コアカリE -3-4)-(3)③	尾立	講義室6B
6回	6	6	月	II	インプラント補綴術式1	今本	講義室6B
7回	6	9	木	III	インプラント補綴術式2	澤瀬	講義室6B
8回	6	13	月	I	包括歯科治療の中におけるインプラント治療の位置づけ	武田 (非常勤)	講義室6B
9回	6	13	月	II	インプラント外科術式・関連外科術式1	朝比奈	講義室6B
10回	6	13	月	V	インプラント外科術式・関連外科術式2	堀内 (非常勤)	講義室6B
11回	6	20	月	V	インプラント周囲炎、合併症 コアカリE -3-4)-(3)④	澤瀬	講義室6B
12回	6	21	火	I	インプラントシミュレーション実習	尾立	臨床実習室4B
13回	6	28	火	I	インプラント外科実習	柴原/ 中谷	臨床実習室4B
14回	6	28	火	II	インプラント外科実習	柴原/ 中谷	臨床実習室4B
15回	7	5	火	I	インプラント補綴実習	尾立	臨床実習室4B
16回	7	5	火	II	インプラント補綴実習	尾立	臨床実習室4B

年度 2016 学期 前期	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (20)
科目番号	25054618		
科目ナンバリング・コード	DNGD33401987		
授業科目名/(英語名)	睡眠障害と疾患/(Sleep related breathing Disorder)		
対象年次 5年次	講義形態 講義, PBL形式	教室 講義室 6B 他	
対象学生(クラス等)	科目分類 統合科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 鮎瀬卓郎/ayuse@nagasaki-u.ac.jp/大学院8F 歯科麻酔科医局/095-819-7714(内 7714)/随時			
担当教員(オムニバス科目等)	鮎瀬卓郎, 柳本惣市, 篠原一之(長崎大学第二生理), 内村直尚(久留米大学医学部), 加藤隆史(大阪大学), 江崎和久(久留米大学医学部)		
授業の概要及び位置づけ			
睡眠障害が引き起こす, さまざまな歯科的な疾患の病態を理解し, 歯科的な治療法を用いる場合の, 臨床的な注意点を学習する。そのために, 睡眠に関する生理学的な機能を理解する。また, 閉塞型睡眠時無呼吸症候群の歯科的な治療方法の実際を, 実習を通して勉強する。			
授業到達目標			
一般目標 ・睡眠障害に関連する歯科的疾患の病態と治療法を理解する。			
到達目標 ・睡眠に関する基礎的な事項を理解できる。 ・睡眠時無呼吸症候群の病態を理解し, 治療法を理解する。 ・睡眠時のブラキシズムの病態を理解し, 治療法を理解する。			
授業方法(学習指導法)			
スライドを中心に, プリントの配付と板書を使用する。PBL形式で病態の理解を深めた後, 5回の講義で, さらに詳しい病態と長崎大学での治療の実際を学ぶ。			
授業内容			
【PBL】			
1 回目(4/20): 睡眠障害と関連疾患に関する病態の理解・治療をPBL形式で学習(ケースプレゼン) 担当 チューター			
2 回目(4/20): 睡眠障害と関連疾患に関する病態の理解・治療をPBL形式で学習(ケースプレゼン) 担当 チューター			
3 回目(4/20): 睡眠障害と関連疾患に関する病態の理解・治療をPBL形式で学習(自習) 担当 チューター			
4 回目(4/20): 睡眠障害と関連疾患に関する病態の理解・治療をPBL形式で学習(自習) 担当 チューター			
5 回目(4/20): 睡眠障害と関連疾患に関する病態の理解・治療をPBL形式で学習(自習) 担当 チューター			
6 回目(4/22): 睡眠障害と関連疾患に関する病態の理解・治療をPBL形式で学習(ケースセッション) 担当 チューター			
7 回目(4/22): 睡眠障害と関連疾患に関する病態の理解・治療をPBL形式で学習(自己相互評価) 担当 チューター			
【講義】			
8 回目(5/2): 閉塞型睡眠時無呼吸の長崎大学での歯科的治療の診断・治療上の注意点を学ぶ 担当 柳本			
9 回目(5/12): 睡眠時ブラキシズムの病態(睡眠時ブラキシズムの病態生理について) 担当 加藤			
10 回目(5/27): 閉塞型睡眠時無呼吸症候群の治療法(歯科的な治療方法について) 担当 江崎			
11 回目(5/27): 睡眠学概論(自然睡眠の生理学的な役割と睡眠障害の病態生理について) 担当 篠原			
12 回目(6/6): 閉塞型睡眠時無呼吸症候群の治療法(医科的な治療方法について) 担当 内村			
13 回目(6/10): 予備			
キーワード	閉塞型睡眠時無呼吸症候群, 上気道, 麻酔		
教科書・教材・参考書	1. 一般医のための睡眠臨床ガイドブック 菱川泰夫 監修 医学書院 2. 図解雑学 睡眠のしくみ 鳥居鎮夫 監修 ナツメ社 3. 睡眠のメカニズム 井上昌次郎 編 朝倉書店 4. ヒトはなぜ眠るのか 井上昌次郎 編 筑摩書房 5. 危険ないびきが生活習慣病を招く! 鈴木俊介, 小学館文庫 6. 意外とこわい睡眠時無呼吸症候群 成井浩司 講談社 7. NHKスペシャル 病の起源 NHK出版		
成績評価の方法・基準等	出席率, 授業中の態度・積極的取り組みを重視。PBLへの積極的取り組み, 最終日の試験の結果により成績評価を行う。追試験、再試験は学部規則に沿って厳格に行う。		
受講要件(履修条件)	既に学習した基礎科目の知識を基盤とした臨床科目という観点から捉える必要がある。従って, 疑問を感じた場合は, 随時・適宜基礎科目の復習が必要となる。		
備考(学生へのメッセージ)			

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	20	水	I	睡眠学PBL 睡眠障害と関連疾患に関する病態の理解・治療をPBL形式で学習する (PBLケースプレゼン)	チューター	未定
2回	4	20	水	II	睡眠学PBL 睡眠障害と関連疾患に関する病態の理解・治療をPBL形式で学習する (PBLケースプレゼン)	チューター	未定
3回	4	20	水	III	睡眠学PBL 睡眠障害と関連疾患に関する病態の理解・治療をPBL形式で学習する (自習)	チューター	未定
4回	4	20	水	IV	睡眠学PBL 睡眠障害と関連疾患に関する病態の理解・治療をPBL形式で学習する (自習)	チューター	未定
5回	4	20	水	V	睡眠学PBL 睡眠障害と関連疾患に関する病態の理解・治療をPBL形式で学習する (自習)	チューター	未定
6回	4	22	金	I	睡眠学PBL 睡眠障害と関連疾患に関する病態の理解・治療をPBL形式で学習する (PBLケースセッション)	チューター	未定
7回	4	22	金	II	睡眠学PBL 睡眠障害と関連疾患に関する病態の理解・治療をPBL形式で学習する (自己・相互評価)	チューター	未定
8回	5	2	月	V	閉塞型睡眠時無呼吸症候群の治療の実際 閉塞型睡眠時無呼吸症候群の長崎大学での歯科的治療の診断・治療上の 注意点を学ぶ	柳本惣市	講義室6B
9回	5	12	木	V	睡眠時ブラキシズムの病態 睡眠時ブラキシズムの病態生理について	加藤隆史	講義室6B
10回	5	27	金	I	閉塞型睡眠時無呼吸症候群の歯科的治療法 閉塞型睡眠時無呼吸症候群の歯科的な治療法について	江崎和久	講義室6B
11回	5	27	金	II	睡眠学概論 自然睡眠の生理学的な役割(サーカディアンリズム)と睡眠障害の病態 生理について	篠原一之	講義室6B
12回	6	6	月	V	閉塞型睡眠時無呼吸症候群の医科的治療法 閉塞型睡眠時無呼吸症候群の医科的な治療法について	内村直尚	講義室6B
13回	6	10	金	I	予備	予備	講義室6B

年度 2016 学期 前期	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (20)
科目番号	25054619		
科目ナンバリング・コード	DNGD33411990		
授業科目名/(英語名)	高齢者歯科学/(Geriatric Dentistry)		
対象年次 5年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 6B	
対象学生(クラス等)	科目分類 統合科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 村田比呂司/hmurata@nagasaki-u.ac.jp/歯科補綴学分野教授室/095-819-7690(内 7690)/火曜 17:00~18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	三串伸哉、讃岐拓郎、古賀義之、林 善彦、吉田圭一、住田吉慶、吉村篤利、梅田正博、小澤寛樹(精神神経科学)、藤 宣好(学外非常勤講師)、村田比呂司		
授業の概要及び位置づけ			
<p>高齢者歯科学は、歯科医療をとおして高齢者の健康増進を図ることを目的とした臨床科目である。老化という誰も避けて通れない生理的な生命現象を理解した上で、高齢者に対する歯科的取り組みを学習する。超高齢社会となったわが国において、高齢者歯科への需要はますます増加することが予想される。高齢者の身体的、精神的及び心理的特徴と歯科治療上の留意点を理解する。</p>			
授業到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1.老化の身体的、精神的及び心理的特徴を説明できる。 2.老化に伴う口腔諸組織の構造と機能の変化を説明できる。 3.高齢者に多く見られる疾患を説明できる。 4.高齢者の歯科治療時の全身管理を説明できる。 5.高齢者に対して基本的な歯科治療の介助ができる。 6.要介護者の歯科治療を説明できる。 7.摂食・嚥下リハビリテーションを説明できる。 			
授業方法(学習指導法)			
専門の異なる学内外の教員、非常勤講師によってオムニバス方式でなされる。			
授業内容			
<ol style="list-style-type: none"> 1回目 嚥下リハ 2回目 全身合併症の要点(全身管理の要点) 3回目 高齢者歯科学について/認知症のいろは 4回目 保存(修復、歯内)診療 5回目 補綴(冠橋義歯)診療 6回目 矯正歯科診療 7回目 口腔外科診療 8回目 予防歯科診療 9回目 在宅診療① 10回目 補綴(有床義歯)診療 11回目 まとめ 12回目 保存(歯周)診療 13回目 在宅診療② 14回目 実習 			
キーワード	高齢者		
教科書・教材・参考書	教科書:なし 参考書:適宜指示あり		
成績評価の方法・基準等	成績評価は定期試験により行う。また授業への貢献度も評価の対象とする。		
受講要件(履修条件)	全体を通じて総授業数の2/3以上の出席が求められる。		
備考(学生へのメッセージ)	質問は遠慮なく各担当教員にしてください。なお講義の内容や順番等が変更になる可能性がある。その場合は事前に連絡する。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	5	火	III	嚙下リハ	三串伸哉	講義室6B
2回	4	5	火	IV	全身合併症の要点(全身管理の要点)	讃岐拓郎	講義室6B
3回	4	7	木	I	高齢者歯科学について/認知症のいろは	小澤寛樹	講義室6B
4回	4	7	木	II	保存(修復、歯内)診療	林 善彦	講義室6B
5回	4	19	火	I	補綴(冠橋義歯)診療	吉田圭一	講義室6B
6回	4	19	火	II	矯正歯科診療	古賀義之	講義室6B
7回	4	21	木	I	口腔外科診療	住田吉慶	講義室6B
8回	4	21	木	II	予防歯科診療	未定	講義室6B
9回	5	20	金	I	在宅診療①	藤 宣好 (非常勤)	講義室6B
10回	5	20	金	II	補綴(有床義歯)診療	村田 比呂司	講義室6B
11回	5	24	火	III	まとめ	梅田正博	講義室6B
12回	5	26	木	I	保存(歯周)診療	吉村篤利	講義室6B
13回	6	20	月	I	在宅診療②	藤 宣好 (非常勤)	講義室6B
14回	6	27	月	V	実習	村田 比呂司他	講義室6B

年度 2016 学期 前期	曜日・校時 水・Ⅲ.IV.V	必修選択 必修	単位数 (20)
科目番号	25054620		
科目ナンバリング・コード	DNGD33421990		
授業科目名/(英語名)	障害者歯科学/(Geriatric Dentistry)		
対象年次 5年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 6B	
対象学生(クラス等)	科目分類 統合科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 鮎瀬卓郎/ayuse@nagasaki-u.ac.jp/歯科麻酔・特歯部教員室/095-819-7717(内 7717)/月・金曜 17:00～18:00			
担当教員(オムニバ ス科目等)	田上直美、鮎瀬てるみ、釜崎陽子、野上朋幸、鮎瀬卓郎、長田 豊(非常勤講師)		
授業の概要及び位置づけ			
障害者の口腔疾患の特徴、口腔機能発達支援、歯科からの健康支援などについて理解を深める。併せて、口の健康を通じてQOLを守るという歯科医師の役割について考察する。			
授業到達目標			
1.主な障害の身体的および精神的特徴の要点を説明できる。 2.歯科治療に必要な行動調整(管理)方法を列挙できる。 3.障害者、有病者に対する歯科保健指導の要点を説明できる。			
授業方法(学習指導法)			
基本的に講義形式とする。ただし、双方向コミュニケーションを促すため質問は随時受け、学生の要望によりテーマ内容を掘り下げることがある。また、問題解決型のテーマも提示し、レポートを課す。重要なテーマについては第一線で活躍中の講師がそれぞれの専門について講義する。実地研修は臨床特別実習時において行う。			
授業内容			
1回目 障害者歯科学序論 2回目 障害の理解 I 3回目 障害の理解 II 4回目 障害者の歯科医療の理解 I 5回目 障害者の歯科医療の理解 II 6回目 特別な配慮が必要な患者の全身管理方法 I 7回目 特別な配慮が必要な患者の全身管理方法 II 8回目 特別な配慮が必要な患者の全身管理方法 III 9回目 障害者の歯科治療の実際 I 10回目 障害児の歯科治療の実際 II 11回目 障害者の歯科治療の実際 III 12回目 スペシャルニーズのある人の口腔健康支援 13回目 まとめ			
キーワード	障害者、行動管理、有病者、口腔保健管理		
教科書・教材・参考書	講義内容のプリントを配布予定 参考書: Special Needs Dentistry 障害者歯科(小笠原正 ほか 編 医歯薬出版)		
成績評価の方法・基準等	学期末に提出されるレポートにより主たる評価を行う。そのほか、授業への貢献度、小テストを加味して総合的に評価を行う。比重は、レポート:7、小テスト:2、授業への積極的な取り組み(発言等):1を目安とする。		
受講要件(履修条件)	総講義時間の2/3以上の出席が必要となる。		
備考(学生へのメッセージ)	歯学となじみのない用語が多く、障害に関する基本概念を予習するほうが、理解が容易である。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	5	11	水	Ⅲ	障害者歯科学序論 障害者歯科学の定義(障害者福祉制度の理解) 障害者のもつ心理・社会的問題、障害者歯科医療と倫理、QOL	田上直美	講義室6B
2回	5	11	水	Ⅳ	障害の理解 Ⅰ 発達障害、神経運動障害、感覚器障害、音声言語障害 各疾患の重症度分類の理解と応用	田上直美	講義室6B
3回	5	11	水	Ⅴ	障害の理解 Ⅱ 精神および行動の障害、歯科治療時に配慮すべき全身疾患・難病、症候群 高齢者に特有の障害の理解(認知症、フレイル、サルコペニア、嚥下障害)	長田 豊	講義室6B
4回	5	25	水	Ⅲ	障害者の歯科医療の理解 Ⅰ 患者評価の要点、コミュニケーションの重要性、多職種との連携チーム医療 リスク評価と医療安全確保	鮎瀬てるみ	講義室6B
5回	5	25	水	Ⅳ	障害者の歯科医療の理解 Ⅱ 行動調整法の選択基準(行動療法、体動調整法、薬物的行動調整法) 鎮静法、全身麻酔の利点と欠点	鮎瀬てるみ	講義室6B
6回	5	25	水	Ⅴ	特別な配慮が必要な患者の全身管理方法 Ⅰ 通法下での歯科治療が困難な疾患の理解 歯科治療恐怖症、異常絞扼反射、パニック障害など	野上朋幸	講義室6B
7回	6	1	水	Ⅴ	特別な配慮が必要な患者の全身管理方法 Ⅱ 重篤な合併疾患を有する患者の全身評価および治療計画立案 循環器系疾患の歯科治療におけるリスクなど	田上直美	講義室6B
8回	6	8	水	Ⅴ	特別な配慮が必要な患者の全身管理方法 Ⅲ 易感染・易出血性患者の歯科対応 血液疾患、HIV感染症など	鮎瀬てるみ	講義室6B
9回	6	15	水	Ⅴ	障害者の歯科治療の実際 Ⅰ 障害者の歯科治療の注意すべき要点(症例提示) 病診連携、離島僻地医療、長崎県の障害者歯科医療の実際	長田 豊	講義室6B
10回	6	22	水	Ⅴ	障害児の歯科治療の実際 Ⅱ 障害児の歯科治療で注意すべき要点(症例提示) 病病連携の実際、	釜崎陽子	講義室6B
11回	6	29	水	Ⅴ	障害者の歯科治療の実際 Ⅲ 障害者と歯周疾患管理の重要性 長崎県口腔保健センターにおける取組(症例提示)	長田 豊	講義室6B
12回	7	6	水	Ⅲ	スペシャルニーズのある人の口腔健康支援 入院患者の口腔保健管理、口腔ケアの意義、多職種連携 地域における障害者歯科、在宅医療の重要性	野上朋幸	講義室6B
13回	7	6	水	Ⅳ	まとめ 補講、小テスト	鮎瀬卓郎	講義室6B

年度 2016 学期 前期	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (20)
科目番号	25054621		
科目ナンバリング・コード	DNGD33431990		
授業科目名/(英語名)	離島歯科医学/(Dentistry in remote island)		
対象年次 5年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 6B	
対象学生(クラス等)	科目分類 統合科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 齋藤俊行/syto@nagasaki-u.ac.jp/口腔保健学教授室/095-819-7662(内 7662)/火曜 16:30～			
担当教員(オムニバ ス科目等)	齋藤俊行、小山善哉、前田隆浩(医学部)、溝口勝令(岐宿歯科診療所)、小牧憲明(小牧歯科医院)、 西山 毅(鹿児島大学)		
授業の概要及び位置づけ			
<p>離島歯科保健医療実習について、その意義や目的を学ぶ。 長崎県は日本一離島が多い県である。離島における歯科医療、保健、福祉について学習する。 後期から始まる実習では介護や行政の仕事を実際に体験し、歯科医院実習では訪問歯科や小離島診療所ほか、離島ならではの診療の様子、求められる歯科のあり方を識することができる。</p>			
授業到達目標			
<p>地域における保健、福祉、医療の実際を体験し、多職種の実務を理解する。医療保健福祉の様々なフィールドで求められている歯科の必要性、あり方、歯科と多職種連携の意義、取り組み方を理解する。</p>			
授業方法(学習指導法)			
講義形式			
授業内容			
<p>1 回目: 離島歯科保健医療実習について 1(小山善哉) 2 回目: 離島における巡回口腔ケアについて(溝口勝令) 3 回目: 離島における保健・福祉について(小山善哉) 4 回目: 離島の定義、特徴および離島医療について(前田隆浩) 5 回目: 鹿児島大学の実施してきた離島歯科巡回診療について(西山 毅) 6 回目: 離島における歯科医療について(小牧憲明) 7 回目: 離島歯科保健医療実習について 2(齋藤俊行)</p>			
キーワード	離島、地域医療、保健、福祉		
教科書・教材・参考書	離島・へき地医療学講座、離島医療研究所ホームページ、 [http://ritouken.net/ritouken/index.html]		
成績評価の方法・基準等	試験またはレポート		
受講要件(履修条件)	なし		
備考(学生へのメッセージ)	非常勤講師による特別講義は礼節をわきまえること。また出席を重視する。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	5	20	金	III	離島歯科医学1 離島歯科保健医療実習について1	小山	講義室6B
2回	5	23	月	I	離島歯科医学2 離島における巡回口腔ケアについて	溝口 (非常勤)	講義室6B
3回	6	10	金	V	離島歯科医学3 離島における保健・福祉について	小山	講義室6B
4回	6	17	金	V	離島歯科医学4 離島の定義、特徴および離島医療について	前田 (非常勤)	講義室6B
5回	6	24	金	V	離島歯科医学5 鹿児島大学の実施してきた離島歯科巡回診療について	西山 (非常勤)	講義室6B
6回	7	8	金	III	離島歯科医学6 離島における歯科医療について	小牧 (非常勤)	講義室6B
7回	7	8	金	IV	離島歯科医学7 離島歯科保健医療実習について2	齋藤	講義室6B

特別科目（6年次生）

- | | |
|------------|-----|
| （1）歯科医療管理学 | 199 |
| （2）基礎歯学輪講 | 201 |

年度 2016 学期 前期	曜日・校時 不定期・V	必修選択 必修	単位数 (1)
科目番号	25054701		
科目ナンバリング・コード	DNGD44011990		
授業科目名/(英語名)	歯科医療管理学/(Social Dentistry)		
対象年次 6年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 6A	
対象学生(クラス等)	科目分類 特別科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 福田英輝/fhideki@nagasaki-u.ac.jp/口腔保健学准教授室/095-819-7664(内 7664)/火曜 16:30～			
担当教員(オムニバ ス科目等)	福田英輝 非常勤講師:今里謙治、馬郡正昌、中村浩二、重政昭彦(長崎県)、川崎浩二(長崎大学病院)		
授業の概要及び位置づけ			
<p>歯科医療や歯科保健を社会的な側面から考察する。そのため必要な医療関連法規や制度とその実際の適用について、また政策としての健康づくりや予防医学の基礎について解説する。制度や法律の変化に対応するため、6年時に行う必要がある。歯科医療や歯科保健を社会的な側面から捉え理解する。そのため関連法規や制度とその実際の適用について学ぶ。歯科医師国家試験対策としても大いに役立ててもらいたい。</p>			
授業到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科医療、歯科保健に関連した法律や制度について説明できる。 2. 地域医療、地域保健を説明できる。 3. 歯科医療に関連した職種と職種間のコミュニケーションについて説明できる。 4. 医療安全について説明できる。 5. 社会保障制度、および社会福祉制度について説明できる。 			
授業方法(学習指導法)			
スライドを用いた授業形式。併せて資料を補足するが教科書も必携。理解度の確認のため定期考査を実施する。			
授業内容			
<ol style="list-style-type: none"> 1 回目: 医療機関のネットワークと情報、衛生学全般(川崎浩二) 2 回目: 医療法と歯科医師法(今里謙治)、医療安全(馬郡正昌) 3 回目: 地域医療等(中村浩二)、歯科関連の法律、制度(重政昭彦) 4 回目: 社会保障制度(福田英輝) 5 回目: 社会福祉制度(福田英輝) 			
キーワード	医療、地域、社会、法律、制度		
教科書・教材・参考書	教科書 新口腔保健学(医歯薬出版) 新予防歯科学 第4版(医歯薬出版) 国民衛生の動向(厚生労働省ホームページ)		
成績評価の方法・基準等	筆記試験を行うが、講義によってはレポートを課することがある。		
受講要件(履修条件)	非常勤講師による特別講義が多いので、礼節をわきまえること。また出席を重視する。		
備考(学生へのメッセージ)	試験は国家試験に類似した形式で実施する。 *【講師・日程に変更の可能性があるため注意すること】		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	5	13	金	V	医療機関のネットワークと情報、地域医療計画、地域医療・福祉の現状と地域医療連携の実際について、また診療ガイドラインについて学ぶ。また衛生学全般についておさらいする。	川崎	講義室6A
2回	5	19	木	V	医療法と医師・歯科医師の責務について法令や規則をもとに理解する。 医療安全について法令や規則をもとに学ぶ。 *【講師・日程に変更の可能性があるため注意】	今里 馬郡 (非常勤)	講義室6A
3回	5	20	金	V	地域医療等について学ぶ。歯科医師の倫理、医療・保健・福祉の現状と関連法規、特に歯科医療、歯科保健に関連した法律や制度について学ぶ。 *【講師・日程に変更の可能性があるため注意】	中村 重政 (非常勤)	講義室6A
4回	6	9	木	V	医療保険制度・介護保険制度について説明する。	福田	講義室6A
5回	6	10	金	V	社会福祉制度について説明する。また、歯科保健事業と関連ある法規(地域保健法、健康増進法、高齢者医療確保法、介護保険法など)についておさらいする。	福田	講義室6A

年度 2016 学期 前期	曜日・校時 不定期・V	必修選択 必修	単位数 (1)
科目番号	25054702		
科目ナンバリング・コード	DNGD44021990		
授業科目名/(英語名)	基礎歯学輪講/(Basic Dental Science)		
対象年次 6年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 6A	
対象学生(クラス等)	科目分類 特別科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 筑波隆幸/tsuta@nagasaki-u.ac.jp/歯科薬理学教室/095-819-7652(内 7652)/17:00~18:00			
担当教員(オムニバ ス科目等)	宮崎敏博 miyazaki@、根本孝幸 tnemoto@、池田 通 tohrupth@、中山浩次 knak@、筑波隆幸 tsuta@、白石孝信 siraisi@、藤山理恵 rierika@、真鍋義孝 manabe@、伊藤公成 itok@、中留真人 nakatome@		
授業の概要及び位置づけ			
最終学年での歯科の基礎学を再履修することにより、歯学全般の知識を整理・確認する。国家試験の勉強を始めるにあたり、基本的な方向付けの手助けをする授業と位置づけられる。			
授業到達目標			
1.歯学基礎領域の知識を確認しまとめることができる。 2.基礎と臨床との関連性について説明できる。 3.国家試験対策として活用できる。			
授業方法(学習指導法)			
各基礎分野から1名の担当教員による講義形式で行われ、概要または国家試験の過去問等を講義形式で解説する。			
授業内容			
1 回目(生体材料学) 歯科理工学に関する知識を整理する。過去の国家試験問題や国試に準じた問題を解きながら、歯科理工学の要点を再確認する。			
2 回目(分子硬組織生物学) 分子生物学・細胞生物学関連分野の基礎知識を整理する。国家試験の過去問を解答し、解説する。			
3 回目(口腔病理学) 過去の国家試験問題を解きながら病理学・口腔病理学を包括的に整理する。			
4 回目(口腔病原微生物学) 微生物学、口腔微生物学の知識を整理する。国家試験の既出題問題を解答し、解説する。			
5 回目(口腔分子生化学) 生化学、口腔生化学の知識を整理する。過去の国試問題を解きながら要点を理解する。			
6 回目(細胞生物学) 組織学・口腔組織学・発生学を復習する。国家試験の過去問を解答し、要点を整理する。			
7 回目(生体情報科学) 過去および今年度の国家試験問題の生理学分野に関して出題頻度の高い単元を重点的に要点の解説を行う。また過去3年分のオリジナル解説を配布し、今年の問題を中心に演習形式で生理学・口腔生理学に関する全範囲を復習する。			
8 回目(顎顔面解剖学) 解剖学・口腔解剖学の基礎的知識を整理する。過去の国家試験問題の出題傾向と対策について解説する。			
9 回目(歯科薬理学) 薬理学、歯科薬理学の基礎知識を整理する。国家試験に準じた問題を解答し、その解説およびその問題に付随する問題点を講義する。			
10 回目(歯科法医学) 法医学・歯科法医学の知識を整理する。国家試験の過去問から出題傾向を分析し、演習問題を解きながら受験に向けた対策を行う。			
キーワード	細胞, 遺伝子, 歯科材料		
教科書・教材・参考書	参考書:今まで使用してきた教科書および参考書		
成績評価の方法・基準等	各分野で試験を行い、総合的に評価する。科目合格基準は 60 点		
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセージ)	質問等は講義終了直後が望ましいが、後日でも可能なので直接担当教員の研究室を訪ねること。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	1	金	V	(生体材料学) 歯科理工学に関する知識を整理する。過去の国家試験問題や国試に準じた問題を解きながら、歯科理工学の要点を再確認する。	白石孝信	講義室6A
2回	4	4	月	V	(分子硬組織生物学) 分子生物学・細胞生物学関連分野の基礎知識を整理する。国家試験の過去問を解答し、解説する。	伊藤公成	講義室6A
3回	4	6	水	V	(口腔病理学) 過去の国家試験問題を解きながら病理学・口腔病理学を包括的に整理する。	池田 通	講義室6A
4回	4	7	木	V	(口腔病原微生物学) 微生物学、口腔微生物学の知識を整理する。国家試験の既出題問題を解答し、解説する。	内藤真理子	講義室6A
5回	4	8	金	V	(口腔分子生化学) 生化学、口腔生化学の知識を整理する。過去の国試問題を解きながら要点を理解する。	根本孝幸	講義室6A
6回	4	11	月	V	(細胞生物学) 組織学・口腔組織学・発生学を復習する。国家試験の過去問を解答しながら要点を整理する。	宮崎敏博	講義室6A
7回	4	13	水	V	(生体情報科学) 過去および本年度のオリジナル解説プリントを使いながら、生理学・口腔生理学の要点を解説する。今年の問題を中心に演習形式で生理学・口腔生理学に関する全範囲を復習する。	藤山理恵	講義室6A
8回	4	14	木	V	(顎顔面解剖学) 解剖学・口腔解剖学の基礎的知識を整理する。過去の国家試験問題の出題傾向と対策について解説する。	真鍋義孝	講義室6A
9回	4	15	金	V	(歯科薬理学) 薬理学、歯科薬理学の基礎知識を整理する。国家試験に準じた問題を解答し、その解説およびその問題に付随する問題点を講義する。	筑波隆幸	講義室6A
10回	4	18	月	V	(歯科法医学) 法医学・歯科法医学の知識を整理する。国家試験の過去問から出題傾向を分析し、演習問題を解きながら受験に向けた対策を行う。	中留真人	講義室6A

専門教養科目（4年次生）

実践臨床歯科英会話 203

年度 2016 学期 後期	曜日・校時 火・V	必修選択 必修	単位数 1
科目番号	25064405		
科目ナンバリング・コード	DNGD11062098		
授業科目名/(英語名)	実践臨床歯科英会話/(Chair-side Dental English Communication)		
対象年次 4年次	講義形態 講義形式	教室 第2講義室	
対象学生(クラス等)	科目分類 専門教養科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 渡邊郁哉/ikuyaw@nagasaki-u.ac.jp/生体材料学分野教授室/095-819-7656(内 7656)/金曜 15:00~17:00			
担当教員(オムニバ ス科目等)	渡邊郁哉、バラネザハド・アリエザ、スマゲ・ラッケル・トレチヨ(非常勤講師)、		
授業の概要及び位置づけ			
<p>基礎的な臨床歯科英会話の能力を身につける。歯科の各診療科で行われる診断や治療内容について、その専門歯科的な英語表現を習得し、シミュレーションに応じて患者にわかりやすく説明する。また、患者とのよりよいコミュニケーションを図るための日常会話を組み込み、会話を重点に置いた実践的な英会話レッスンを行う。</p>			
授業到達目標			
外国人患者に歯科に関する診査と診断、治療内容について英語で説明できるようになる。			
授業方法(学習指導法)			
各種歯科診療科のトピックスに合わせて、実践の英会話を外国人講師と行う。			
授業内容			
<p>1 回目： Orientation: Overview the class schedule, grading, goals, and objectives for the course, introduce yourself Introduction to Web class and CALL system (check your log-in/password)</p> <p>2 回目： Lesson 1. First Visit (初診)</p> <p>3 回目： Lesson 2. Endodontics and Operative Dentistry (保存処置)</p> <p>4 回目： Lesson 3. Periodontal Treatment (歯周処置)</p> <p>5 回目： Lesson 4. Prosthodontic Treatments Using Crowns and Bridges (クラウン・ブリッジによる補綴処置)</p> <p>6 回目： Lesson 5. Implant Therapy (インプラント治療について)</p> <p>7 回目： Lesson 6. Removable Prosthodontic Treatment (可撤性義歯による処置)</p> <p>8 回目： Lesson 7. Preventive Dentistry (歯科予防処置)</p> <p>9 回目： Lesson 8. Treatment for Children (小児への処置)</p> <p>10 回目： Lesson 9. Orthodontic Treatment (矯正処置)</p> <p>11 回目： Lesson 10. Esthetic Dentistry (審美歯科)</p> <p>12 回目： Lesson 11. Temporomandibular Joint Disorders (顎関節症)</p> <p>13 回目： Lesson 12. Dysphagia Rehabilitation (摂食・嚥下リハビリテーション)</p> <p>14 回目： Lesson 13. Special Dental Treatment (特殊な歯科処置)</p> <p>15 回目： Lesson 14. Oral Surgical Treatment and Dental Anesthesia (口腔外科と歯科麻酔処置)</p>			
キーワード	歯科英単語、歯科英会話		
教科書・教材・参考書	チェアーサイドの臨床歯科英会話、加藤有三監修、医歯薬出版 補助教材ハンドアウト		
成績評価の方法・基準等	筆記試験(毎回の小テスト)、英語での口頭試問、課題レポートの総合評価。定期試験時には、筆記試験ならびに各自、英語でのファイナルスピーチを行う。追試験(特別な理由がある場合のみ)と再試験を実施する。再試験の評価は本試験の結果を考慮する。		
受講要件(履修条件)	2/3以上の出席を受験資格とする。		
備考(学生へのメッセージ)	歯科英語表現の基礎知識を習得する/日常英会話と組み合わせて、外国人患者に英語で歯科診療について説明できるようになる。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	4	火	V	Orientation: Overview the class schedule, grading, goals, and objectives for the course, introduce yourself Introduction to Web class and CALL system (check your log-in/password)	ラッケル、 バラネザハド	第2講義室
2回	10	11	火	V	Lesson 1. First Visit (初診)	ラッケル、 バラネザハド	第2講義室
3回	10	18	火	V	Lesson 2. Endodontics and Operative Dentistry (保存処置)	ラッケル、 バラネザハド	第2講義室
4回	10	25	火	V	Lesson 3. Periodontal Treatment (歯周処置)	ラッケル、 バラネザハド	第2講義室
5回	11	1	火	V	Lesson 4. Prosthodontic Treatments Using Crowns and Bridges (クラウン・ブリッジによる補綴処置)	ラッケル、 バラネザハド	第2講義室
6回	11	8	火	V	Lesson 5. Implant Therapy (インプラント治療について)	ラッケル、 バラネザハド	第2講義室
7回	11	15	火	V	Lesson 6. Removable Prosthodontic Treatment (可撤性義歯による処置)	ラッケル、 バラネザハド	第2講義室
8回	11	22	火	V	Lesson 7. Preventive Dentistry (歯科予防処置)	ラッケル、 バラネザハド	第2講義室
9回	11	29	火	V	Lesson 8. Treatment for an Infant (小児への処置)	ラッケル、 バラネザハド	第2講義室
10回	12	6	火	V	Lesson 9. Orthodontic Treatment (矯正処置)	ラッケル、 バラネザハド	第2講義室
11回	12	13	火	V	Lesson 10. Esthetic Dentistry (審美歯科)	ラッケル、 バラネザハド	第2講義室
12回	12	20	火	V	Lesson 11. Temporomandibular Joint Disorders (顎関節症)	ラッケル、 バラネザハド	第2講義室
13回	12	27	火	V	Lesson 12. Dysphagia Rehabilitation (摂食・嚥下リハビリテーション)	ラッケル、 バラネザハド	第2講義室
14回	1	10	火	V	Lesson 13. Special Dental Treatment (特殊な歯科処置)	ラッケル、 バラネザハド	第2講義室
15回	1	17	火	V	Lesson 14. Oral Surgical Treatment and Dental Anesthesia (口腔外科と歯科麻酔処置)	ラッケル、 バラネザハド	第2講義室

研究科目（3年次生、4年次生、5年次生、6年次生）

※歯学研究コース履修者対象

基礎歯学研究概論	(3年)	205
基礎歯学研究	(3・4年)	207
臨床歯学研究概論	(4年)	209
歯学研究	(5・6年)	211

年度 2016 学期 前期	曜日・校時 金・IV～V	必修選択 選択	単位数 1
科目番号	25104901		
科目ナンバリング・コード	DNDR33441993		
授業科目名/(英語名)	基礎歯学研究概論/(The Outline of Basic Dentistry)		
対象年次 3年次	講義形態 講義形式	教室 第2講義室	
対象学生(クラス等)	歯学研究コース	科目分類 研究科目	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 藤原 卓(教務委員長)/takufuji@nagasaki-u.ac.jp/小児歯科学分野教授室/095-819-7672(内 7672)/当日に各担当教員に直接尋ねること			
担当教員(オムニバス科目等)	真鍋義孝、小守壽文、岡田幸雄、根本孝幸、池田 通、中山浩次、筑波隆幸、渡邊郁哉、伊藤公成、中留真人		
授業の概要及び位置づけ 各研究室における研究内容の紹介と配属後の実習内容について紹介し、今後の研究活動の動機づけとする。基礎歯学研究における配属先研究室を選択する。			
授業到達目標 本大学院の基礎歯学分野の研究内容について理解する。			
授業方法(学習指導法) 各基礎系分野担当教員のオムニバス形式で講義を行う。			
授業内容 1 回目 歯学研究コース概要(池田 通) 2 回目 顎顔面解剖学(真鍋義孝): 歯科人類学の基礎と応用 3 回目 分子硬組織学(伊藤公成): 分子腫瘍学(伊藤担当) およびカルシウム輸送(増山担当)について 4 回目 細胞生物学(小守壽文): 骨・軟骨形成、骨量維持の分子メカニズムについて 5 回目 歯科法医学(中留真人): 歯科法医学の基礎と応用について 6 回目 口腔分子生化学(根本孝幸): 細菌性プロテアーゼの病原性や分子シャペロンの機能発現機構の解明 7 回目 口腔病理学(池田 通): 病理学と病理診断について 8 回目 口腔病原微生物学(中山浩次): 歯周病細菌の病原因子(プロテアーゼなど)について 9 回目 歯科薬理学(筑波隆幸): エンドソーム・リソソームの機能と病態および歯科への応用について 10 回目 生体材料学(渡邊郁哉): 歯科用生体材料の物性(機械的性質や物理的性質、化学的性質)について 11 回目 生体情報科学(岡田幸雄): 電気生理学方法と精神物理学的方法による実地研究			
キーワード			
教科書・教材・参考書	なし		
成績評価の方法・基準等	レポートにより評価する。 レポートは、各回の授業終了後1週間以内に学務係に提出するものとする。 また、授業への貢献度も評価の対象とする。		
受講要件(履修条件)	全体を通じて総授業数の2/3以上の出席が求められる。		
備考(学生へのメッセージ)	各担当教員に遠慮なく質問してください。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	1	金	IV～V	(歯学研究コース概要) 歯学研究コース履修に関する説明と質疑応答を行います。	池田	第2講義室
2回	4	8	金	IV～V	(顎顔面解剖学) 歯科人類学の基礎と応用、およびその成果の一部について紹介すると同時に、今後の実習内容について紹介する。	真鍋	第2講義室
3回	4	15	金	IV～V	(細胞生物学) 骨・軟骨形成、骨量維持の分子メカニズムに関するこれまでの研究内容を紹介します。	小守	第2講義室
4回	4	22	金	IV～V	(歯科法医学) 歯科法医学的鑑定の概要について説明し、これまで行ってきた研究内容及び今後の実習内容について紹介します。	中留	第2講義室
5回	5	6	金	IV～V	(口腔分子生化学) 口腔生化学のこれまでのプロテアーゼや分子シャペロンに関する成果について紹介すると同時に、今後の実習内容について紹介します。	根本	第2講義室
6回	5	13	金	IV～V	(口腔病理学) 口腔病理学授業と基礎歯学研究概論との関係と口腔病理学でのコースの概要を説明します。	池田	第2講義室
7回	5	20	金	IV～V	(口腔病原微生物学) 歯周病細菌の病原性に関するこれまでの当教室の研究内容を紹介し、コースワークでの今後の実験研究内容について紹介します。	中山	第2講義室
8回	5	27	金	IV～V	(歯科薬理学) リソソームの機能とその疾患について、これまでの薬理学分野の研究内容の紹介、および今後の実習内容について紹介します。	筑波	第2講義室
9回	6	3	金	IV～V	(生体材料学) 歯科用生体材料の各種物性と臨床適応について、これまでの生体材料学分野の研究内容の紹介、および今後の実験研究について紹介します。	渡邊	第2講義室
10回	6	10	金	IV～V	(分子硬組織生物学) 分子腫瘍学(伊藤)およびカルシウム輸送(増山)に関する最新の知見を紹介し、それぞれに今後の実習内容について説明します。	伊藤	第2講義室
11回	6	17	金	IV～V	(生体情報科学) 味覚・痛覚等に関連した電気生理学的方法と精神物理学的方法を用いたこれまでの当教室の研究を紹介し、今後の実験研究内容について説明します。	岡田	第2講義室

年度 2016 学期 通年	曜日・校時 3年次/金・IV～V 4年次/(前)水・V (後)金・V	必修選択 選択	単位数 5
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25104902 DNDR33451993 基礎歯学研究/(Basic Dental Research)		
対象年次 3年次、4年次	講義形態 実験形式	教室 各基礎系研究室	
対象学生(クラス等)	歯学研究コース	科目分類 研究科目	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 藤原 卓(教務委員長)/takufuji@nagasaki-u.ac.jp/小児歯科学分野教授室/095-819-7672(内 7672)/当日に各担当教員に直接尋ねること			
担当教員(オムニバ ス科目等)	真鍋義孝、小守壽文、岡田幸雄、根本孝幸、池田 通、中山浩次、筑波隆幸、渡邊郁哉、伊藤公成、中留真人 他		
授業の概要及び位置づけ 配属先の基礎系研究室で研究を行う。 積極的に活用して、歯学の最先端の研究活動に参加する機会とすること。			
授業到達目標 本大学院の基礎歯学分野の研究内容について理解する。			
授業方法(学習指導法) 各基礎系分野担当教員の指導のもと、実験等を行う。			
授業内容 ○ 3年次と4年次で実施日が以下のとおり異なるので留意すること。 3年次:前後期の金曜日IV～V校時(180分×18回、基礎歯学研究概論受講後に開始) 4年次:前期の水曜日V校時、後期の金曜日V校時(90分×30回) ※実験など内容によっては回数や時間数に変更になる場合もある。 ○ 各コース内容に関しては次項の授業内容を参照のこと。学生との話し合いで多少の変更もありえる。 (コース) 1. 顎顔面解剖学研究(真鍋義孝):形質人類学における歯の形態学的アプローチについて学習する。 2. 細胞生物学研究(小守壽文):遺伝子改変マウスの組織学的、分子生物学的解析を行う。 3. 生体情報科学研究(岡田幸雄):電気生理学方法と精神物理学的方法による実地研究 4. 口腔分子生化学研究(根本孝幸):プロテアーゼや分子シャペロンに関して遺伝子工学実験、生化学実験を行う。 5. 口腔病理学研究(池田 通):病理標本の作製実習及び臨床病理症例の形態学的検討を行う。 6. 口腔病原微生物学研究(中山浩次):細菌を用いた遺伝生化学的実験研究などを行う予定 7. 歯科薬理学研究(筑波隆幸):実験動物、細胞培養、遺伝子工学実験、生化学実験などを行う予定 8. 生体材料学研究(渡邊郁哉):歯科用生体材料の各種物性評価試験を行う予定 9. 分子硬組織生物学研究(伊藤公成):遺伝子改変マウスを用いて、分子腫瘍学および骨代謝学の基礎的な手技について学ぶ。 10. 歯科法医学研究(中留真人):歯科法医学的鑑定及び研究手法について学ぶ。			
キーワード			
教科書・教材・参考書	各コース教員の指定する教材		
成績評価の方法・基準等	主に発表内容、レポート等。詳しくは各コース担当教員に尋ねること。		
受講要件(履修条件)	<ul style="list-style-type: none"> ・AO入試選抜者以外で歯学研究コースの履修を希望する者は、2年次後期の所定の期日までに学部長に履修希望届を提出し、許可を受けなければならない。 ・履修希望届の提出があった者に対して教務委員会が選抜のうえ学部長に推薦し、学部長が許可する。 ・基礎歯学研究概論を受講後に希望する研究室を学務係に申告すること。研究室によっては人数制限が掛かる場合も有ります。 ・全体を通じて総授業数の3/4以上の出席が求められる。 		
備考(学生へのメッセージ)			

No.	コース	授業内容	日程	担当者
1	顎顔面解剖学研究	形質人類学における人骨資料や生体資料からのデータ採取、解析、結果の解釈などについて学習する。 定員は1名の予定	3年次/金IV～V 4年次/前期 水V、後期 金V	真鍋 北川 小山田
2	細胞生物学研究	遺伝子改変マウスの組織学的、分子生物学的解析を教員の指導のもとに行う。 定員は2名の予定		小守 宮崎 森石
3	生体情報科学研究	電気生理学方法と精神物理学的方法による実地研究。 定員は1名の予定		岡田 藤山
4	口腔分子生化学研究	教員の指導のもと、遺伝子工学実験、生化学的実験について学ぶ。 定員は3名程度の予定		根本(孝) 根本(優) 馬場
5	口腔病理学研究	分子細胞生物学的な研究にも、患者の臨床病理診断にも不可欠な形態学的研究手法を学ぶ。パラフィン及び樹脂包埋標本の作製、免疫組織化学、細胞生物学の実験を行う。 定員は2名程度の予定		池田 藤田
6	口腔病原微生物学研究	微生物、特に細菌を用いた遺伝生化学的実験研究を教員の指導のもとに行う。 定員は2～3名の予定		中山 内藤 庄子 佐藤
7	歯科薬理学研究	教員の指導のもと、動物の取り扱い方、培養細胞法、遺伝子工学実験、生化学的実験について学ぶ。 定員は2～3名の予定		筑波 岡元 西下 坂井
8	生体材料学研究	教員の指導のもと、各種物性試験機器の取り扱い方、物性試験方法について学ぶ。 定員は2名の予定		渡邊 白石 バラネザハド
9	分子硬組織生物学研究	教員の指導のもと、遺伝子改変マウスを用いて、分子腫瘍学および骨代謝学の基礎的な手技について学ぶ。 定員は2名の予定		伊藤 増山
10	歯科法医学研究	歯科法医学的鑑定及び研究手法について学ぶ。 定員は1名の予定		中留

年度 2016 学期 後期	曜日・校時 水・V	必修選択 選択	単位数 1
科目番号	25104903		
科目ナンバリング・コード	DNDR44041993		
授業科目名/(英語名)	臨床歯学研究概論/(The Outline of Clinical Dentistry)		
対象年次 4年次	講義形態 講義形式	教室 第2講義室	
対象学生(クラス等)	歯学研究コース	科目分類 研究科目	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 藤原 卓(教務委員長)/takufuji@nagasaki-u.ac.jp/小児歯科学分野教授室/095-819-7672(内 7672)/当日に各担当教員に直接尋ねること			
担当教員(オムニバス科目等)	齋藤俊行、吉田教明、藤原 卓、林 善彦、吉村篤利、澤瀬 隆、村田比呂司、梅田正博、朝比奈泉、中村 卓、鮎瀬卓郎、中留真人		
授業の概要及び位置づけ 本大学院の臨床歯学分野の研究内容について理解する。 臨床歯学研究における配属先研究室を選択する。			
授業到達目標 本大学院の臨床歯学分野の研究内容について理解する。			
授業方法(学習指導法) 各臨床系分野担当教員によるオムニバス講義を行い、各研究室における研究内容の紹介と配属後の実習内容について紹介する。なお、3年次の基礎歯学研究概論の中で歯科法医学を受講していないため、基礎系分野ではあるが講義を行う。			
授業内容 1 回目 口腔保健学(齋藤俊行):口腔と全身との関連性を見だし、実験で機序を解明していく全体の流れについて 2 回目 歯科矯正学(吉田教明):歯の移動の生物学的・生体力学的メカニズムや顎口腔系の機能と形態について 3 回目 小児歯科学(藤原 卓):小児歯科における最新の研究トピックスについて 4 回目 齶蝕学(林 善彦):再生医療に必要な要因ならびに実際の歯髄再生療法について説明する。 5 回目 歯周病学(吉村篤利):歯周病の発症に関わる様々な因子について概説する。 6 回目 口腔インプラント学(澤瀬 隆):インプラントに関わる生物学的研究, 材料学的研究について概説する。 7 回目 歯科補綴学(村田比呂司):義歯用材料の開発、口腔機能に関する研究 8 回目 口腔腫瘍治療学(梅田正博):口腔領域悪性腫瘍の特徴、診断と治療法について 9 回目 顎口腔再生外科学(朝比奈泉):幹細胞、成長因子を用いた口腔領域の再生医療について概説する。 10 回目 頭頸部放射線学(中村 卓):頭頸部画像診断法の概略について述べる。 11 回目 歯科麻酔学(鮎瀬卓郎):未定 12 回目 歯科法医学(中留真人):歯科法医学の基礎と応用について			
キーワード			
教科書・教材・参考書	なし		
成績評価の方法・基準等	レポートにより評価する。 レポートは、各回の授業終了後1週間以内に学務係に提出するものとする。 また、授業への貢献度も評価の対象とする。		
受講要件(履修条件)	全体を通じて総授業数の2/3以上の出席が求められる。		
備考(学生へのメッセージ)	各担当教員に遠慮なく質問してください。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	5	水	V	(口腔保健学) 口腔と全身との関連性について、これまでどのように解明されてきたか、その研究手法について、また当教室の研究内容について概説する。	齋藤	第2講義室
2回	10	12	水	V	(歯科矯正学) 歯科矯正学:矯正力により、どのようにして歯が移動するのか?そのメカニズムに関する生物学的・生体力学的アプローチ、顎口腔における機能と形態の関連について当教室の研究を紹介し、今後の実験内容について説明します。	吉田	第2講義室
3回	10	19	水	V	(小児歯科学) 小児歯科学分野で行われている研究の最新のトピックス(う蝕細菌の進化, う蝕ワクチン, 乳歯を用いた再生医療等)について説明する。	藤原	第2講義室
4回	10	26	水	V	(齶蝕学) 再生医療について概説する。さらに、実際の歯髄再生療法について、具体的な内容と、基礎的・臨床的な研究について説明する。	林	第2講義室
5回	11	2	水	V	(歯周病学) 歯周病の発症に関わる様々な因子について概説するとともに、どのような実験を行って、発症のメカニズムを明らかにするのかを説明する。	吉村	第2講義室
6回	11	9	水	V	(口腔インプラント学) インプラントに関わる生物学的研究, 材料学的研究について概説し, 今後の実習内容について説明する。	澤瀬	第2講義室
7回	11	16	水	V	(歯科補綴学) 当教室が行っている義歯用材料の開発、口腔機能に関する研究について紹介し、実習内容を説明します。	村田	第2講義室
8回	11	30	水	V	(口腔腫瘍治療学) 口腔癌の特徴や病態などについて解説し、診断法や当科で行っている標準治療や予後などについて紹介します。	梅田	第2講義室
9回	12	7	水	V	(顎口腔再生外科学) 幹細胞、成長因子、基質を組み合わせる組織工学の手法を使い、歯槽骨、顎骨、口腔粘膜、唾液腺、歯など口腔組織の再生法を紹介する。	朝比奈	第2講義室
10回	12	14	水	V	(頭頸部放射線学) 頭頸部画像診断法の概略について述べる。	中村	第2講義室
11回	12	21	水	V	(歯科麻酔学) 未定	鮎瀬	第2講義室
12回	12	28	水	V	(歯科法医学) 歯科法医学的鑑定の概要について説明し、これまで行ってきた研究内容及び今後の実習内容について紹介します。	中留	第2講義室

年度 2016 学期 通年	曜日・校時 5 年次/(前)火・V (後)水・V 6 年次/水・V	必修選択 選択	単位数 3
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25104904 DNDR44051993 歯学研究/(Dental Research)		
対象年次 5 年次、6 年次	講義形態 実験形式	教室 各基礎系、臨床系研究室	
対象学生(クラス等)	歯学研究コース	科目分類 研究科目	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 藤原 卓(教務委員長)/takufuji@nagasaki-u.ac.jp/小児歯科学分野教授室/095-819-7672(内 7672)/当日に各担当教員に直接尋ねること			
担当教員(オムニバ ス科目等)	真鍋義孝、小守壽文、岡田幸雄、根本孝幸、池田 通、中山浩次、筑波隆幸、渡邊郁哉、伊藤公成、中留真人、齋藤俊行、吉田教明、藤原 卓、林 善彦、原 宜興、澤瀬 隆、村田比呂司、梅田正博、朝比奈泉、中村 卓、鮎瀬卓郎 他		
授業の概要及び位置づけ			
本大学院の基礎、臨床歯学分野の研究室で研究を行い、歯学の最先端の研究活動に参加する機会とする。			
授業到達目標			
本大学院の基礎、臨床歯学分野の研究活動について理解する。			
授業方法(学習指導法)			
各基礎、臨床系分野担当教員の指導のもと、実験等を行う。			
授業内容			
<ul style="list-style-type: none"> ○ 5 年次:前期火曜日 V 校時、後期の水曜日 V 校時(90 分×30 回) 6 年次:前期の水曜日 V 校時(90 分×15 回) 予定 ※実験など内容によっては回数や時間数が増える場合もある。 ○ 各コース内容に関しては次頁の授業内容を参照のこと。学生との話し合いで多少の変更もありえる。 			
(基礎系コース)			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 顎顔面解剖学(真鍋義孝):顎顔面領域形質の小進化について、解剖体や人骨資料をもとに解析を行う。 2. 細胞生物学(小守壽文):遺伝子改変マウスの組織学的、分子生物学的解析を行う。 3. 生体情報科学(岡田幸雄):電気生理学方法と精神物理学的方法による味覚感受性の研究。 4. 口腔分子生化学(根本孝幸):プロテアーゼや分子シャペロンに関して遺伝子工学実験、生化学実験を行う。 5. 口腔病理学(池田 通):病理標本の作製実習及び臨床病理症例の形態学的検討を行う。 6. 口腔病原微生物学(中山浩次):細菌を用いた遺伝生化学的実験研究などを行う予定。 7. 歯科薬理学(筑波隆幸):実験動物、細胞培養、遺伝子工学実験、生化学実験などを行う予定。 8. 生体材料学(渡邊郁哉):歯科用生体材料の各種物性評価試験を行う予定。 9. 分子硬組織生物学(伊藤公成):遺伝子改変マウスを用いて、分子腫瘍学および骨代謝学に関する解析を行う予定。 10. 歯科法医学(中留真人):歯科法医学的鑑定及び研究手法について学ぶ。 			
(臨床系コース)			
<ol style="list-style-type: none"> 11. 口腔保健学(齋藤俊行):口腔と全身との関連性を見だし、その機序を解明して行く全体の流れについて理解する。 12. 歯科矯正学(吉田教明):矯正力による歯の移動に関する基礎、臨床研究を行う。 13. 小児歯科学(藤原 卓):小児から齲蝕病原細菌の分離とその病原性についての遺伝子工学実験を行う。 14. 齲蝕学(林 善彦):歯髄再生に必要な歯髄幹細胞に関して細胞特性を学習する。 15. 歯周病学(原 宜興):歯周病の発症に関わる様々なリスク因子の評価法について学習する。 16. 口腔インプラント学(澤瀬 隆):生体材料の親和性評価ならびに歯冠修復材料の耐久性試験について学習する。 17. 歯科補綴学(村田比呂司):補綴用材料の開発、口腔機能に関する研究 18. 口腔腫瘍治療学(梅田正博):口腔癌の再発・転移に関して臨床病理学的研究を行う。 19. 顎口腔再生外科学(朝比奈泉):幹細胞、成長因子を用いた口腔領域の再生医療について概説する。 20. 頭頸部放射線学(中村 卓):細胞ストレスの研究 21. 歯科麻酔学(鮎瀬卓郎):動物での基礎研究、人での臨床研究の手法を学ぶ。 			
キーワード			
教科書・教材・参考書	各コース教員の指定する教材		
成績評価の方法・基準等	主に発表内容、レポート等。詳しくは各コース担当教員に尋ねること。		
受講要件(履修条件)	希望する研究室を学務係に申告すること。研究室によっては人数制限がかかる場合もある。全体を通じて総授業数の 3/4 以上の出席が求められる。		
備考(学生へのメッセージ)	指導教員とよくディスカッションするように。		

(基礎系コース)

No.	コース	授業内容	日程	担当者
1	顎顔面解剖学研究	顎顔面領域の形質の小進化について、解剖体資料や人骨資料からのデータ採取、解析、結果の解釈を行う。 定員は1名の予定	5年次/前期:火V 後期:水V 6年次/水V(予定)	真鍋 北川 小山田
2	細胞生物学研究	遺伝子改変マウスの組織学的、分子生物学的解析を教員の指導のもとに行う。 定員は2名の予定		小守 宮崎
3	生体情報科学研究	電気生理学方法による味細胞および味神経応答の測定または精神物理学的方法によるヒト味覚感受性の感応評価。 定員は1名の予定		岡田 藤山
4	口腔分子生化学研究	教員の指導のもと、遺伝子工学実験、生化学的実験について学ぶ。 定員は2～3名の予定		根本(孝) 根本(優) 馬場
5	口腔病理学研究	分子細胞生物学的な研究にも、患者の臨床病理診断にも不可欠な形態学的研究手法を学ぶ。パラフィン及び樹脂包埋標本の作製、免疫組織化学、細胞生物学的実験を行う。 定員は2名程度の予定		池田 藤田
6	口腔病原微生物学研究	微生物、特に細菌を用いた遺伝生化学的実験研究を教員の指導のもとに行う。 定員は2～3名の予定		中山 内藤 庄子 佐藤
7	歯科薬理学研究	教員の指導のもと、動物の取り扱い方、培養細胞法、遺伝子工学実験、生化学的実験について学ぶ。 定員は2～3名の予定		筑波 岡元 西下 坂井
8	生体材料学研究	教員の指導のもと、各種物性試験機器の取り扱い方、物性試験方法について学ぶ。 定員は2名の予定		渡邊 白石
9	分子硬組織生物学研究	教員の指導のもと、遺伝子改変マウスを用いて、分子腫瘍学および骨代謝学の実験法について学ぶ。 定員は2名の予定		伊藤 増山
10	歯科法医学研究	歯科法医学的鑑定及び研究手法について学ぶ。 定員は1名の予定		中留

(臨床系コース)

No.	コース	授業内容	日程	担当者
11	口腔保健学研究	口腔と全身との関連性を見だし、その機序を解明して行く全体の流れについて理解する。 定員は1～2名の予定	5年次/前期:火V 後期:水V 6年次/水V(予定)	齋藤 福田 北村 古堅 小山
12	歯科矯正学研究	教員の指導のもと、矯正力による歯の移動や歯根吸収のメカニズムに関する基礎、臨床研究の手法を学ぶ。 定員は2～3名の予定		吉田 古賀 佛坂 藤村 田中
13	小児歯科学研究	教員の指導のもと、小児からの齲蝕病原細菌の分離を行い、それらの細菌を用いた遺伝生化学的実験研究を行う。 定員は2～3名の予定		藤原
14	齲蝕学研究	教員の指導のもと、歯髄幹細胞を使って細胞培養系で歯髄再生に必要な安全性試験などを学ぶ。 定員は2名程度の予定		林 山田 柳口
15	歯周病学研究	歯周病の発症に関わる様々な因子について、どのような方法でそれぞれのリスクを評価するのか学習する。 定員は2～3名の予定		原 吉村
16	口腔インプラント学研究	生体材料の親和性評価ならびに歯冠修復材料の耐久性試験について学習する 定員は2～3名の予定		澤瀬 平 吉田 黒嶋
17	歯科補綴学研究	当教室が行っている補綴用材料の開発、口腔機能に関する研究について概説します。これらの中から指導教官とテーマを決め、実験を行います。 定員は2～3名程度の予定		村田 鳥巢 黒木
18	口腔腫瘍治療学研究	口腔癌切除組織を用いて再発や転移に関連する因子について組織学的・免疫組織学的に検討するとともに、予後との関連性について統計学的な解析法を学ぶ。 定員は2名程度の予定		梅田
19	顎口腔再生外科学研究	幹細胞、成長因子、基質を組み合わせる組織工学の手法を使い、歯槽骨、顎骨、口腔粘膜、唾液腺、歯など口腔組織の再生法を紹介する。 定員は2～3名の予定		朝比奈
20	頭頸部放射線学研究	細胞ストレスの研究 定員は2名の予定		中村 佛坂 片山
21	歯科麻酔学研究	教員の指導のもと、実験動物を用いた基礎研究の方法、人での臨床研究の方法、実験で得られた呼吸・循環系の測定値の評価について学ぶ。 定員は2～3名の予定		鮎瀬 倉田 岡安